



神奈川県

政策局政策部
情報公開広聴課

令和2年度 県民ニーズ調査

基本調査…………… 令和2年12月公表

県民の生活と県政についての意識調査

第1回課題調査…………… 令和3年2月公表

テーマ「食・食育」「食の安全・安心」「神奈川県の農林水産業」

「ともに生きる社会かながわ」「男女共同参画」

「神奈川県の人権」「(SDGs)持続可能な開発目標」「3R」

「プラスチックごみ削減に向けて」「職業能力開発」

「犯罪被害者等への支援」「治安対策」

「ねんりんピックかながわ」

第2回課題調査…………… 令和3年3月公表予定

テーマ「気候変動への適応」「環境に配慮した生活」「生物多様性」

「アルコール依存症に対する意識」「肝炎対策」

「『未病改善』の取組」「かながわの広報」

「地域コミュニティ」「子育てにおける体罰」

「消防団の認知度」「地震対策の取組」

「自転車損害賠償責任保険等への加入」「スポーツ」

「東京2020大会に関する取組」

目次

県民ニーズ調査の概要	1
------------	---

基本調査

第Ⅰ部 調査の概要	3
-----------	---

- 1 調査の目的
- 2 調査内容
- 3 調査設計
- 4 回収結果
- 5 標本の抽出方法について
- 6 集計・分析にあたって
- 7 調査結果の誤差
- 8 回答者の属性

第Ⅱ部 調査結果の概要	11
-------------	----

第Ⅲ部 調査結果の詳細	21
-------------	----

- 第1章 暮らし全般について
 - 1 生活総合満足度
 - 2 暮らし向きの変化
 - 3 今後の暮らし向きの見通し
 - 4 地域の住みよさ
 - 5 定住意向
- 第2章 生活意識
- 第3章 暮らしの満足度
 - 1 重要度
 - 2 満足度
- 第4章 県行政への要望

第Ⅳ部 県政への自由意見	91
--------------	----

第Ⅴ部 グラフ（暮らしの満足度、県行政への要望）	95
--------------------------	----

- 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（図表A）
- 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（図表B）
- 県行政への要望－過去との比較（図表C）

第Ⅵ部 調査票と単純集計結果	121
----------------	-----

第1回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	135
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	143
第Ⅲ部 調査結果の詳細	155
第1章 食・食育	157
1 「食育」への関心	
2 朝食を同居の方と食べる頻度	
3 夕食を同居の方と食べる頻度	
4 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
5 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
6 歯と口の健康を保つために気をつけていること	
7 食事のマナーを正しくできていることへの意識	
8 健康的な食事内容の心がけ	
9 就寝前の食事を控えているか	
10 ゆっくりよく噛んで食べているか	
11 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか	
第2章 食の安全・安心	179
1 食品を購入する際に確認している表示内容	
2 食中毒を予防する上で重要なこと	
3 食品を安全に食べるために必要な知識	
第3章 神奈川県 of 農林水産業	185
1 「地産地消」の取組みの重要度	
2 農林水産物を購入する際に重視する点	
3 「かながわブランド」の認知度	
4 県の農業に期待する役割	
5 今後の県の農業に対する考え	
第4章 とともに生きる社会かながわ	195
1 とともに生きる社会かながわ憲章の認知度	

2	ともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法	
3	身近で障がい者と接する機会	
4	障がい者に配慮した行動をとる人	
5	障がい者への差別・偏見の有無	
6	希望する手話の学習方法	
7	文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組み	
第5章	男女共同参画	209
1	共働き家庭での育休取得	
2	妻が取得した方がよい育休期間	
3	夫が取得した方がよい育休期間	
4	妻が無職の家庭での夫の育休取得	
5	夫が無職の家庭での妻の育休取得	
6	男性の育休取得が進まない原因	
7	男性が積極的に育児にかかわるために必要なこと	
第6章	神奈川県の人権	223
1	基本的人権が尊重されている社会か	
2	普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題	
3	人権課題を解消するために力を入れるべき取組み	
4	人権教育・啓発活動で力を入れるべき取組み	
第7章	SDGs（持続可能な開発目標）	231
1	「SDGs」の認知度	
2	県のSDGs関連のイベントや普及啓発の取組みを知った媒体	
3	SDGs達成に向け行いたい取組み	
第8章	3R	237
1	3Rを推進する上で、県民一人ひとりが取り組むべき行動	
2	県に期待する役割	
第9章	プラスチックごみ削減に向けて	241
1	海洋プラスチックごみ問題の認知度	
2	プラスチックごみが河川から海へ流れ込んでいることの認知度	
3	リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていること	
4	海洋プラスチックごみ問題解決に向けて必要だと思う行動	
第10章	職業能力開発	249
1	就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能	
2	職業能力開発を行うことが望ましい期間と内容	
3	備わっているとよいと思う条件	
4	県が重点的に取り組むべきこと	
5	重点的に取り組むべき世代	
6	中心に進めていくべき職業能力開発	

第11章 犯罪被害者等への支援	261
1 知っている犯罪被害者等への支援に関する相談機関・窓口	
2 「二次被害」の認知度	
3 「二次被害」を生じさせる可能性が高いと思うもの	
4 「二次被害」の防止に効果的だと思う取組み	
5 最初に相談する場所	
第12章 治安対策	271
1 不安に感じる犯罪	
2 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき	
3 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法	
4 犯罪がなく安心してくらすために最も重要だと思うもの	
5 交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの	
第13章 ねんりんピックかながわ	281
1 ねんりんピックかながわの開催の認知度	
2 「ねんりんピックかながわ」の観戦意向	
3 「ねんりんピックかながわ」のイベント参加意向	
4 ボランティア活動への興味・関心	
5 「ねんりんピックかながわ」を盛り上げていくために有効な方法	
第V部 調査票と単純集計結果	291

第1回課題調査

第I部 調査の概要

1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) 食・食育
- (2) 食の安全・安心
- (3) 神奈川県 of 農林水産業
- (4) とともに生きる社会かながわ
- (5) 男女共同参画
- (6) 神奈川県の人権
- (7) SDGs (持続可能な開発目標)
- (8) 3R
- (9) プラスチックごみ削減に向けて
- (10) 職業能力開発
- (11) 犯罪被害者等への支援
- (12) 治安対策
- (13) ねんりんピックかながわ

3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満18歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法
ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和2年9月11日(金)～10月5日(月)
- (7) 調査委託機関 株式会社CCNグループ

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	3,000標本
有効回収数	1,699標本 〔 郵送回答 : 1,157件 インターネット回答 : 542件 〕
有効回収率	56.6%

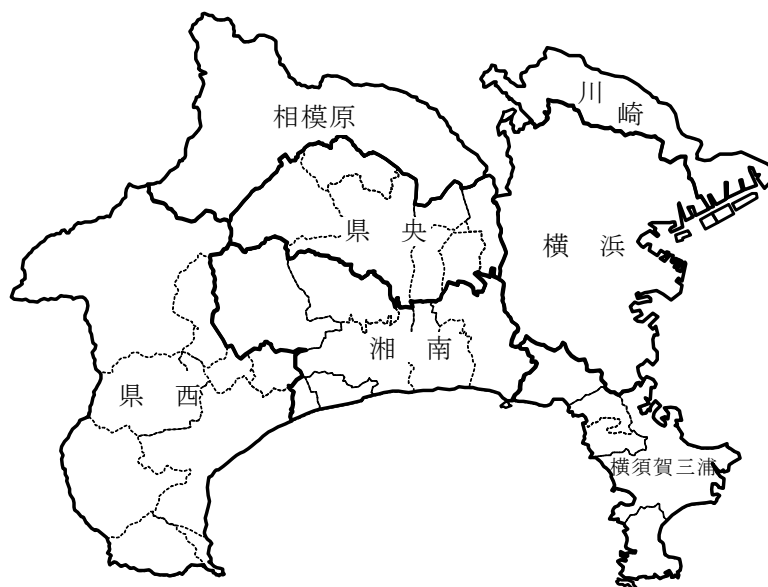
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	669	55.8%
川崎	川崎市	460	228	49.6%
相模原	相模原市	220	118	53.6%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	142	54.6%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	181	60.3%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	238	54.1%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	61	50.8%
無 回 答			62	
全 体		3,000	1,699	56.6%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（平成31年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,166,448人 60地点 1,200標本	-	-	3,166,448人 60地点 1,200標本
川 崎	1,257,176人 23地点 460標本	-	-	1,257,176人 23地点 460標本
相模原	612,764人 11地点 220標本	-	-	612,764人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	575,348人 12地点 240標本	26,162人 1地点 20標本	601,510人 13地点 260標本
県 央	-	680,966人 14地点 280標本	36,148人 1地点 20標本	717,114人 15地点 300標本
湘 南	-	1,011,601人 20地点 400標本	91,091人 2地点 40標本	1,102,692人 22地点 440標本
県 西	-	199,149人 4地点 80標本	93,221人 2地点 40標本	292,370人 6地点 120標本
人口計	5,036,388人	2,467,064人	246,622人	7,750,074人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（平成31年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している）。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 男女の18～29歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がない場合がある。
- (7) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (8) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数（ n ）、および回答比率（ P ）ごとに信頼度95%のときの標本誤差（%）を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率（ P ） 回答者数（ n ）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,699	± 2.06	± 2.74	± 3.14	± 3.36	± 3.43
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（ n ）が 1,699 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.36%以内（真の値は、63.36%～56.64%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 699) (%)

横浜	39.4
川崎	13.4
相模原	6.9
横須賀三浦	8.4
県央	10.7
湘南	14.0
県西	3.6

(無回答 3.6)

(2) 性別 (n=1, 699) (%)

男性	41.8
女性	52.9

(無回答 5.3)

(3) 年齢 (n=1, 699) (%)

18～29 歳	5.9
30～39 歳	12.5
40～49 歳	21.6
50～59 歳	22.1
60～69 歳	17.6
70～74 歳	9.4
75 歳以上	7.2

(無回答 3.6)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1, 699) (%)

小学校入学前	9.9
小学校在学中	13.1
中学校在学中	8.6
高校在学中	8.1
短大、専門学校等在学中	1.5
大学、大学院等在学中	7.3
学校教育終了[未婚]	23.3
学校教育終了[既婚]	24.1
その他	1.6
子どもはいない	28.6

(無回答 2.5)

(5) 家族形態 (n=1, 699) (%)

一人暮らし (単身世帯)	12.3
夫婦のみ (1 世代世帯)	25.7
親と子の世帯 (2 世代世帯)	49.7
祖父母と親と子の世帯 (3 世代世帯)	6.4
その他の世帯	3.6

(無回答 2.2)

(6) 職業区分 (n=1, 699) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	6.9
	家族従業者	1.3
勤め・内職	勤め (フルタイム)	41.4
	勤め (パートタイム)	18.5
	内職	0.3
主婦・主夫 (勤めについていない)	14.1	
学生	0.9	
無職	13.4	
その他	0.4	

(無回答 2.8)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=1, 163) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.8
	商工サービス業	5.4
	自由業	5.1
勤め・内職	経営・管理職	7.8
	専門・技術職	19.3
	事務職	23.3
	教育職	5.6
	技能・労務職	8.7
	販売・サービス職	20.2

(無回答 3.8)

第 1 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

例：問2で「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせたものを《関心がある》と表現している。

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

1 食・食育（問1～問9）

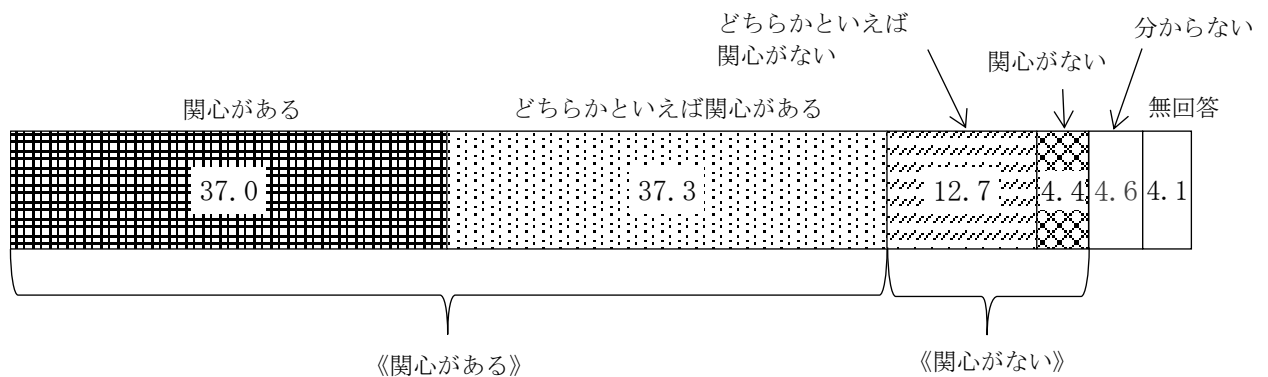
県では、未病を改善するための重要な要素である「食」について、県民一人ひとりが理解を深め、健全な食生活を実践することで、誰もが元気に笑顔で長生きできる社会の実現を目指して、「食育」を推進しています。今回、「食育」への関心などについて調査しました。

▼「食育」への関心（問1）

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（37.0%）と「どちらかといえば関心がある」（37.3%）を合わせた《関心がある》は74.3%であった。

一方、「関心がない」（4.4%）と「どちらかといえば関心がない」（12.7%）を合わせた《関心がない》は17.1%であった。〔図表1〕

図表1 「食育」への関心（n=1,699）（%）



2 食の安全・安心（問10～問12）

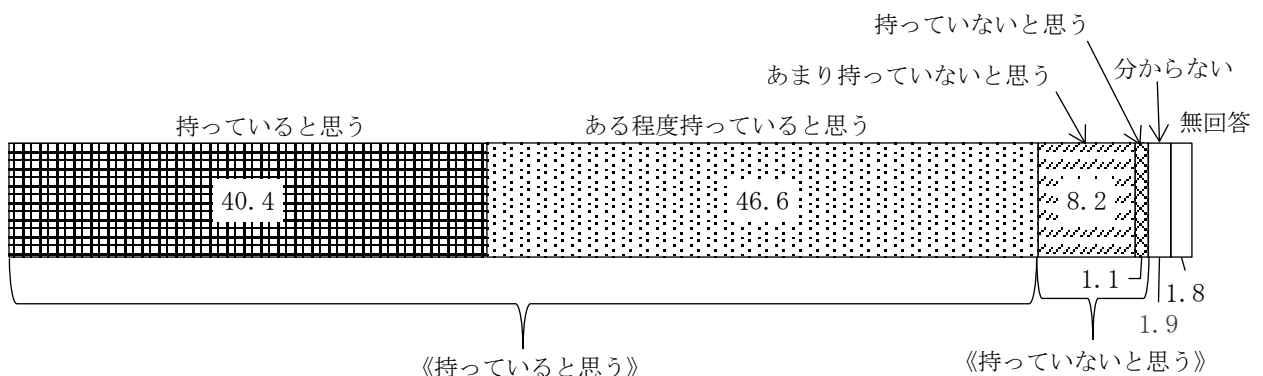
県では、県民の皆様の食の安全・安心の確保に向けた取組みを推進しています。今回、食品を安全に食べるための知識などについて調査しました。

▼食品を安全に食べるために必要な知識（問12）

食品を安全に食べるために必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（40.4%）と「ある程度持っていると思う」（46.6%）を合わせた《持っていると思う》は87.0%であった。

一方、「持っていないと思う」（1.1%）と「あまり持っていないと思う」（8.2%）を合わせた《持っていないと思う》は9.3%であった。〔図表2〕

図表2 食品を安全に食べるために必要な知識（n=1,699）（%）



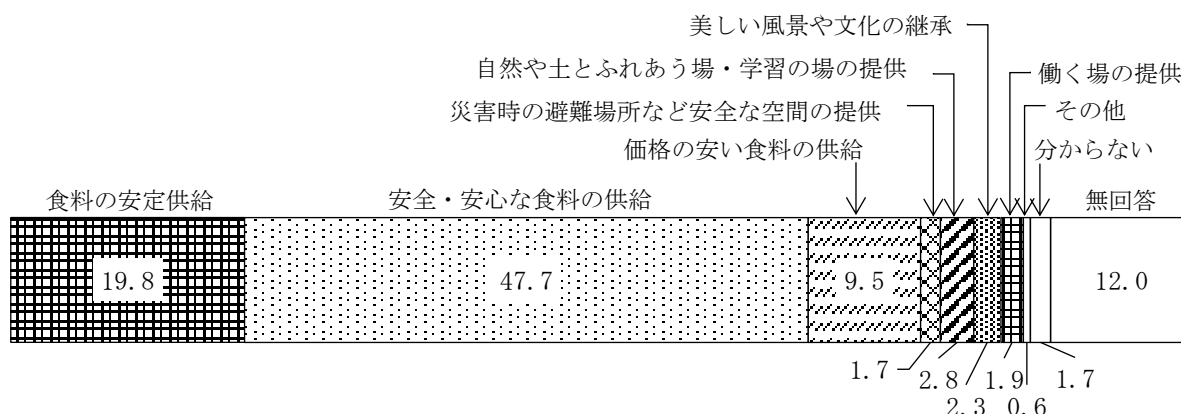
3 神奈川県農林水産業（問 13～問 17）

県では、都市農業の持続的な発展を図るため、地産地消の推進や多様な担い手の育成などの取組みを進めています。今回、神奈川県の農業に期待する役割などについて調査しました。

▼神奈川県の農業に期待する役割（問 16）

神奈川県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が 47.7%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が 19.8%であった。〔図表 3〕

図表 3 神奈川県の農業に期待する役割（n=1,699）（%）



4 とともに生きる社会かながわ（問 18～問 23）

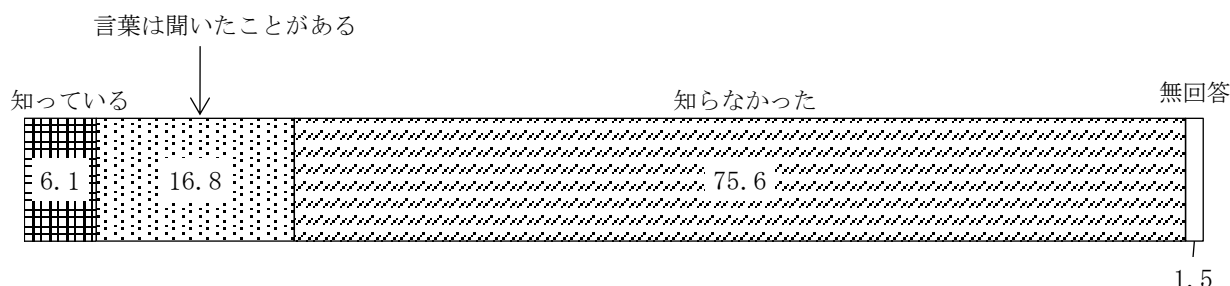
平成 28 年 7 月 26 日、障害者支援施設である県立「津久井やまゆり園」において 19 人が死亡し、27 人が負傷するという、大変痛ましい事件が発生しました。県では、このような事件が二度と繰り返されないよう、この悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、県議会とともに「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定しました。この憲章の理念を広く県民の皆様に普及する活動を行い、ともに生きる社会の実現に向けた取組みを推進していきます。今回、ともに生きる社会かながわ憲章の認知度などについて調査しました。

▼ともに生きる社会かながわ憲章の認知度（問 18）

ともに生きる社会かながわ憲章を知っているか尋ねたところ、「知っている」が 6.1%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が 16.8%であった。

一方、「知らなかった」が 75.6%であった。〔図表 4〕

図表 4 とともに生きる社会かながわ憲章の認知度（n=1,699）（%）



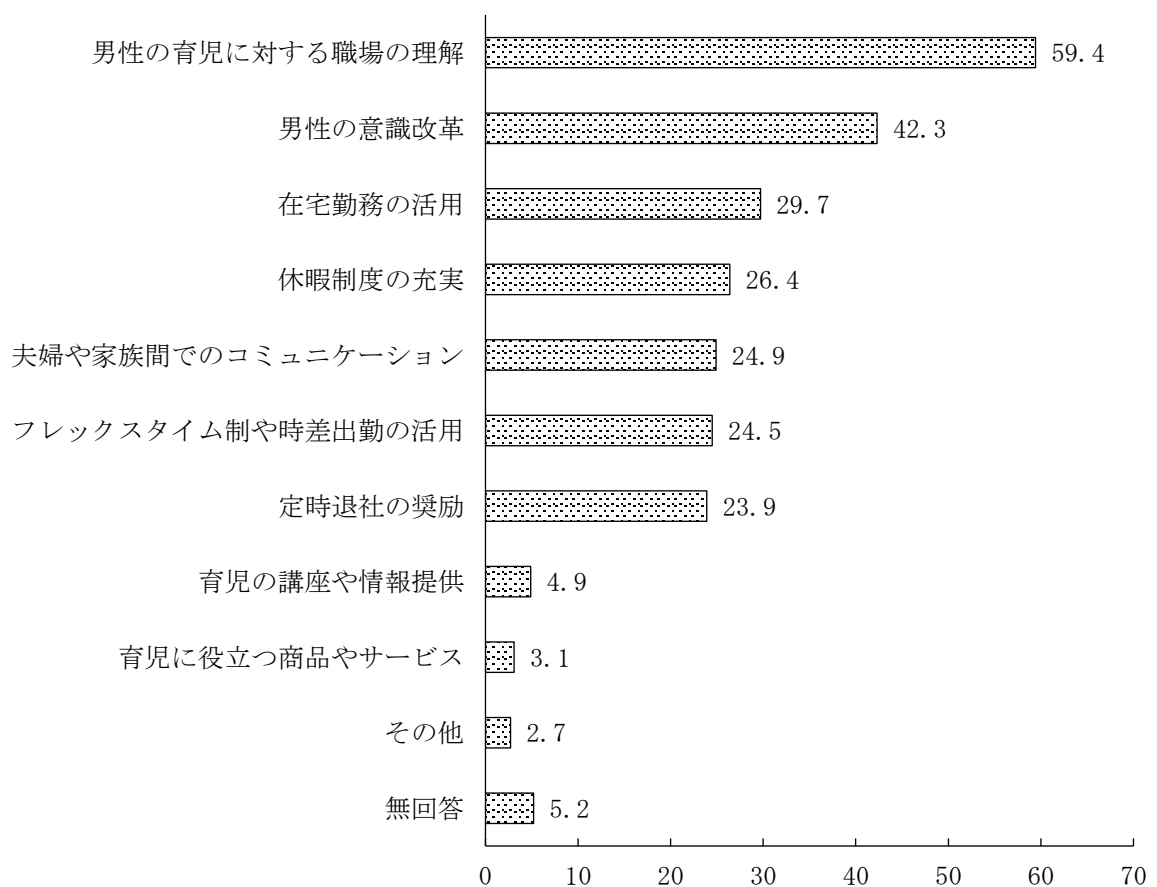
5 男女共同参画（問 24～問 27）

県では、男性の家事・育児への参画は、女性の生涯にわたっての就労継続やキャリアアップの促進等にもつながることから、性別役割分担に対する意識の変化を促す取組みだけでなく、男性の家事・育児が十分なレベルで日常的に当たり前となる社会環境を形成するための取組みを推進しています。今回、男性が積極的に育児にかかわるために必要なことなどについて調査しました。

▼男性が積極的に育児にかかわるために必要なこと（問 27）

男性が積極的に育児にかかわるために必要なことを複数回答で尋ねたところ、「男性の育児に対する職場の理解」が 59.4%で最も多く、次いで「男性の意識改革」が 42.3%であった。〔図表 5〕

図表 5 男性が積極的に育児にかかわるために必要なこと（複数回答）（n=1,699）（%）



6 神奈川県の人権（問 28～問 31）

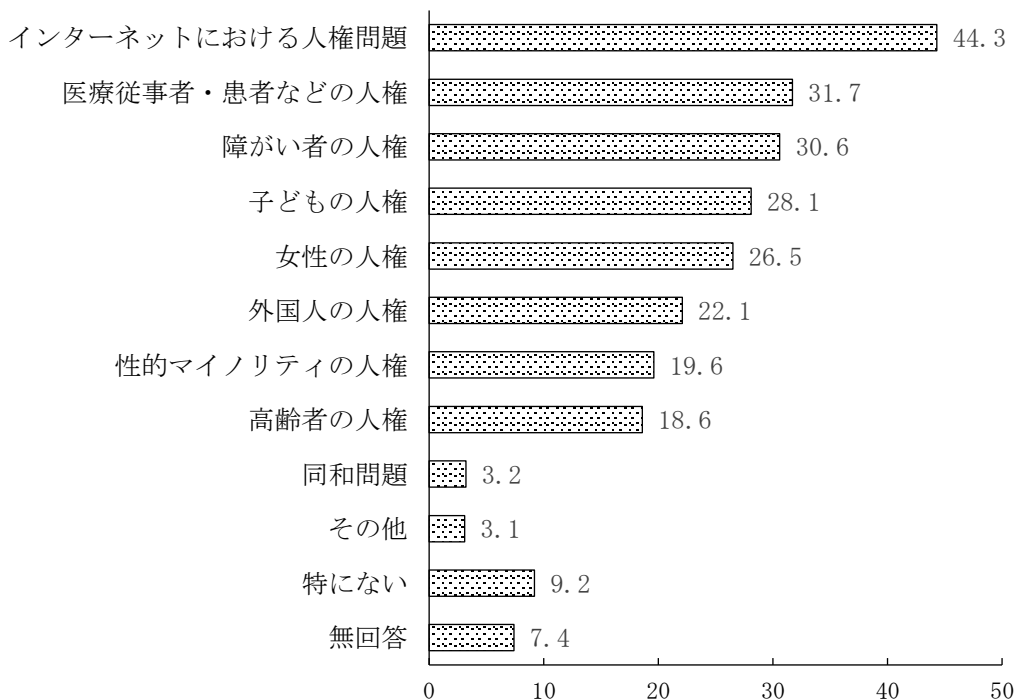
県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題などについて調査しました。

▼普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題（問 29）

普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が 44.3%で最も多く、次いで「医療従事者・患者などの人権」が 31.7%であった。

[図表 6]

図表 6 普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題（複数回答）（n=1,699）（%）



7 SDGs（持続可能な開発目標）（問 32～問 33）

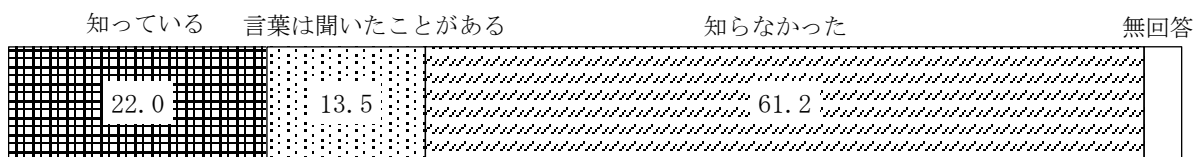
県では、「いのち輝く神奈川」の実現に向けて、持続可能な社会を目指すSDGsの推進に取り組んでいます。今回、「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度などについて調査しました。

▼「SDGs」の認知度（問 32）

「SDGs」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知っている」が 22.0%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が 13.5%であった。

一方、「知らなかった」が 61.2%であった。[図表 7]

図表 7 SDGsの認知度（n=1,699）（%）



3.2

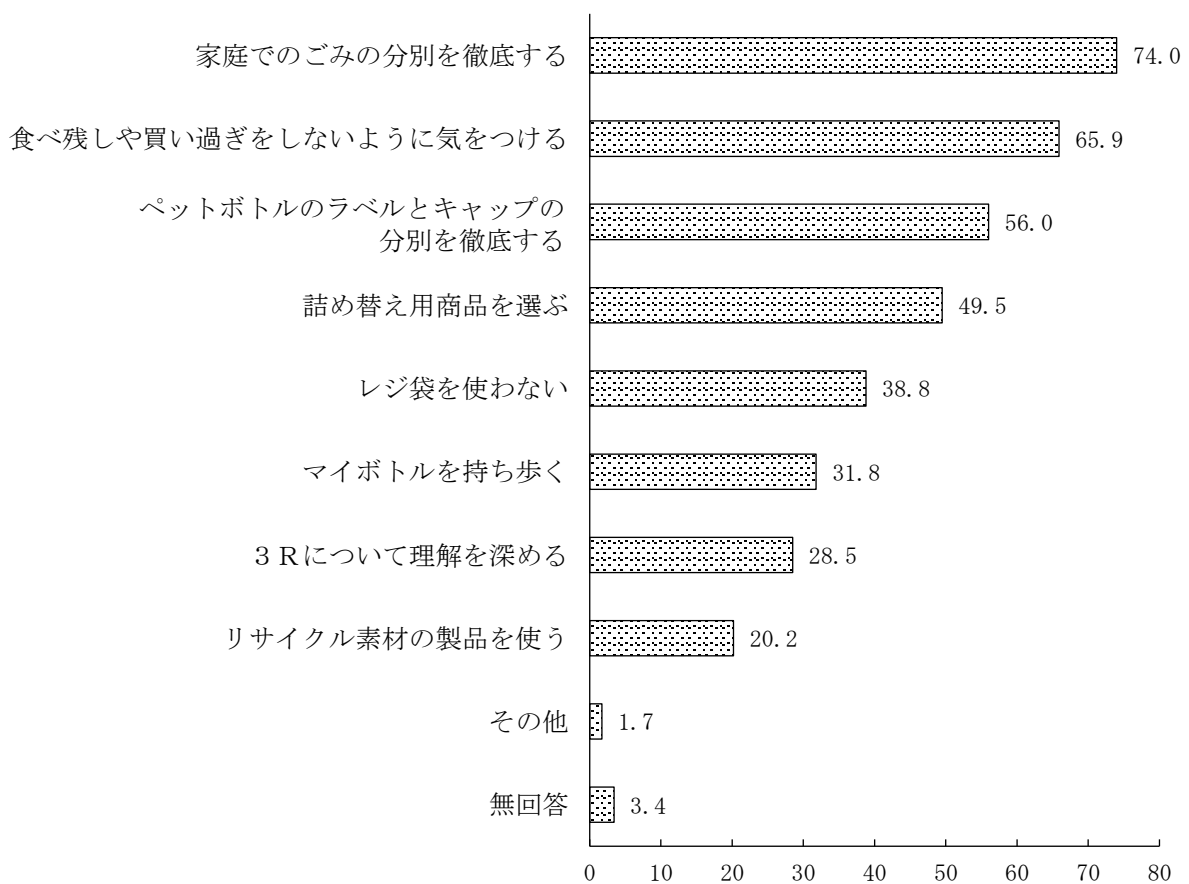
8 3R（問34～問35）

県では、循環型社会の実現に向けて、廃棄物の3R（リデュース[発生抑制]、リユース[再使用]、リサイクル[再生利用]）を推進しています。今回、3Rを推進する上で県民一人ひとりが取り組むべき行動などについて調査しました。

▼3Rを推進する上で、県民一人ひとりが取り組むべき行動（問34）

3Rを推進する上で、県民一人ひとりが取り組むべき行動を複数回答で尋ねたところ、「家庭でのごみの分別を徹底する」が74.0%で最も多く、次いで「食べ残しや買い過ぎをしないように気をつける」が65.9%であった。[図表8]

図表8 3Rを推進する上で、県民一人ひとりが取り組むべき行動（複数回答）（n=1,699）（%）



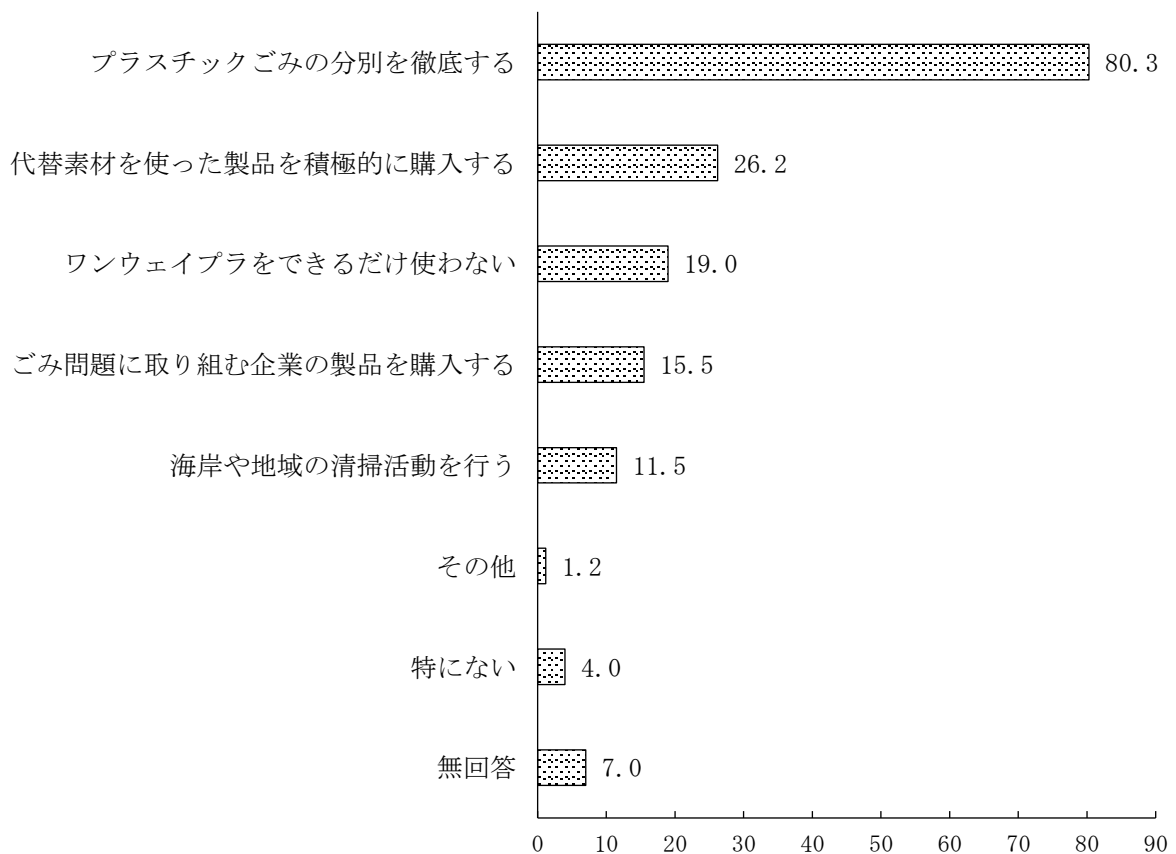
9 プラスチックごみ削減に向けて（問 36～問 38）

県では、「かながわプラごみゼロ宣言」を発表し、深刻化する海洋汚染、特にマイクロプラスチック問題に取り組むため、リサイクルされない、廃棄されるプラごみの削減を推進しています。今回、リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていることなどについて調査しました。

▼リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていること（問 37）

リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていることを複数回答で尋ねたところ、「プラスチックごみの分別を徹底する」が 80.3%で最も多く、次いで「代替素材を使った製品を積極的に購入する」が 26.2%であった。[図表 9]

図表 9 リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていること
（複数回答）（n=1,699）（%）



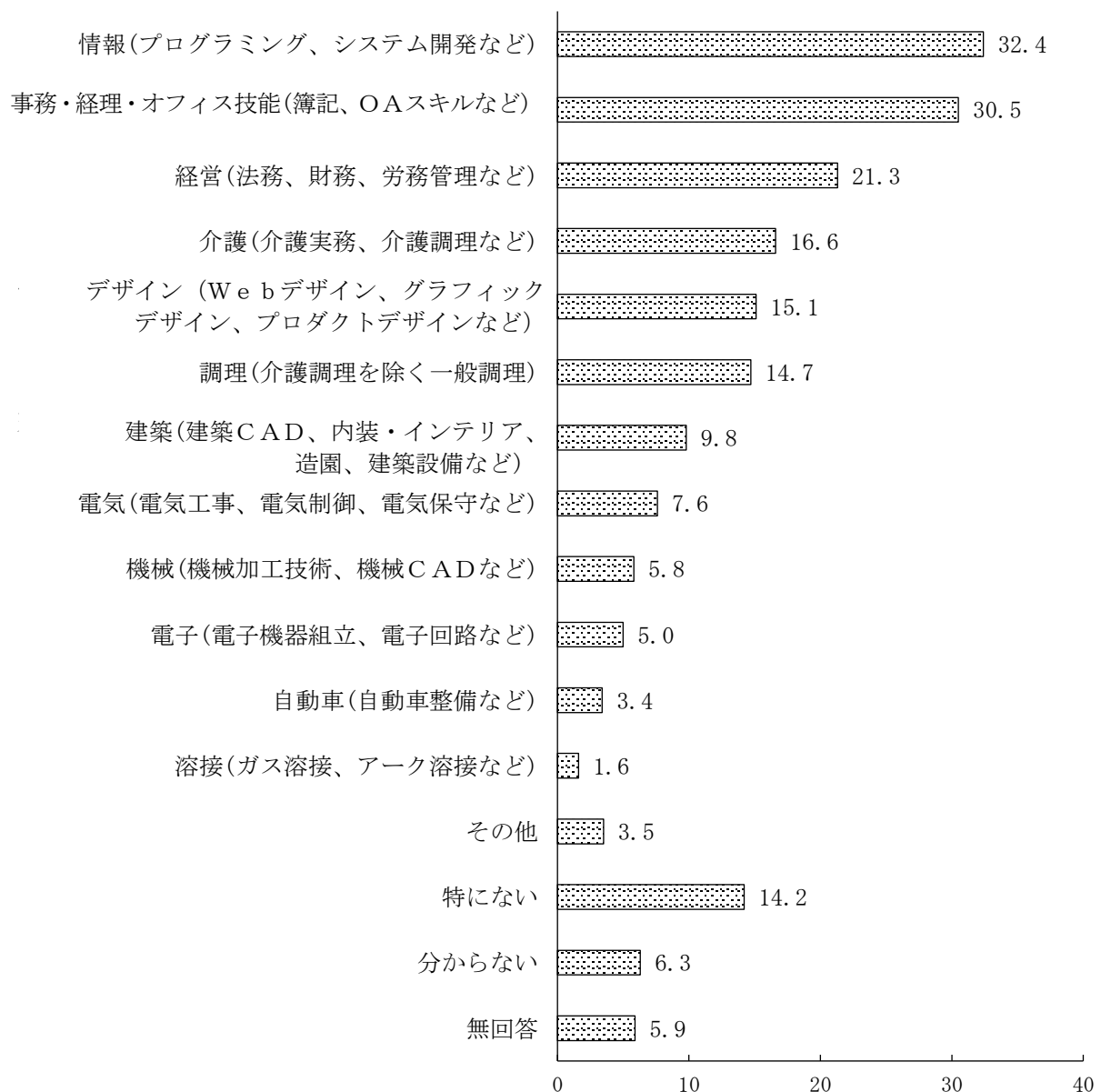
10 職業能力開発（問 39～問 44）

県では、平成 28 年に策定した第 10 次神奈川県職業能力開発計画に基づき、就職や仕事に役立つスキルを身につける職業訓練や、技術・技能の振興などに取り組んでいます。今回、就職や仕事に役立つスキルとして身につけたい知識や技術、技能などについて調査しました。

▼就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能（問 39）

就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能を複数回答で尋ねたところ、「情報（プログラミング、システム開発など）」が 32.4%で最も多く、次いで「事務・経理・オフィス技能（簿記、OAスキルなど）」が 30.5%であった。〔図表 10〕

図表 10 就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能
（複数回答）（n=1,699）（%）



11 犯罪被害者等への支援（問 45～問 49）

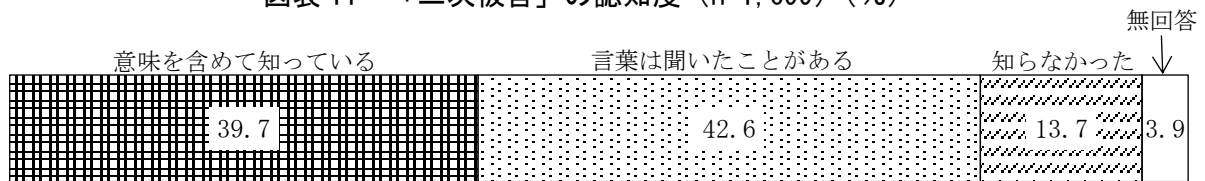
県では、犯罪被害者等を温かく支える地域社会をめざして、支援・施策の充実に取り組んでいます。犯罪被害者やその家族、遺族は、犯罪等による直接的な被害を受けた後に、理解や配慮に欠ける言動や対応、プライバシーの侵害、誹謗中傷^{ひぼうちゆうじゆう}などによって、精神的な苦痛、身体の不調等の「二次被害」を受けることも少なくありません。今回、犯罪被害者等が受ける「二次被害」の認知度などについて調査しました。

▼「二次被害」の認知度（問 46）

「二次被害」という言葉を知っているか尋ねたところ、「意味を含めて知っている」が 39.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が 42.6%であった。

一方、「知らなかった」が 13.7%であった。[図表 11]

図表 11 「二次被害」の認知度 (n=1,699) (%)



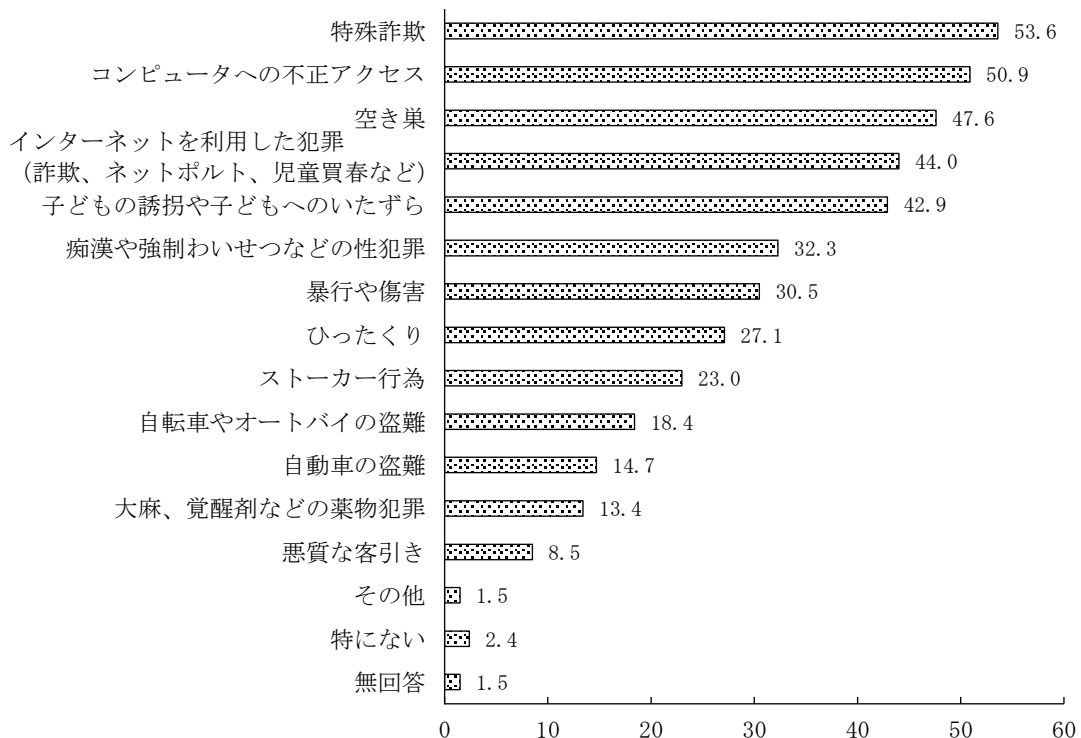
12 治安対策（問 50～問 54）

県警察では、県民が身近に不安を感じる犯罪の抑止・検挙活動を始めとした各種警察活動を推進し、県民の皆様が安全で安心して暮らせる地域社会の実現に努めています。今回、不安を感じる犯罪などについて調査しました。

▼不安を感じる犯罪（問 50）

身近で発生する可能性がある犯罪のうち、不安を感じるものを複数回答で尋ねたところ、「特殊詐欺」が 53.6%で最も多く、次いで「コンピュータへの不正アクセス」が 50.9%であった。[図表 12]

図表 12 不安を感じる犯罪（複数回答）(n=1,699) (%)



13 ねんりんピックかながわ（問 55～問 59）

県では、未病改善で笑顔あふれる人生 100 歳時代を目指し、高齢者をはじめ、誰もがスポーツや文化活動を楽しめるねんりんピックかながわを、2022 年に神奈川県内で初めて開催するため、準備を進めています。今回、ねんりんピックかながわの開催の認知度などについて調査しました。

▼ねんりんピックかながわの開催の認知度（問 55）

ねんりんピックかながわが開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が 4.6%であった。

一方、「知らなかった」が 91.0%であった。[図表 13]

図表 13 ねんりんピックかながわの開催の認知度（n=1,699）（%）



第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 男女の18～29歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がない場合がある。
- (注7) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

第1章 食・食育【問1～問9】

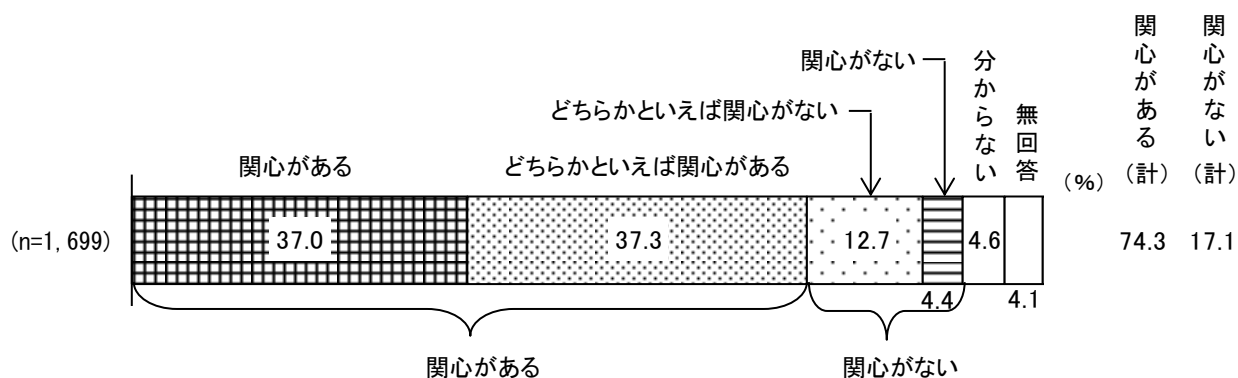
1 「食育」への関心【問1】

【全体の状況】

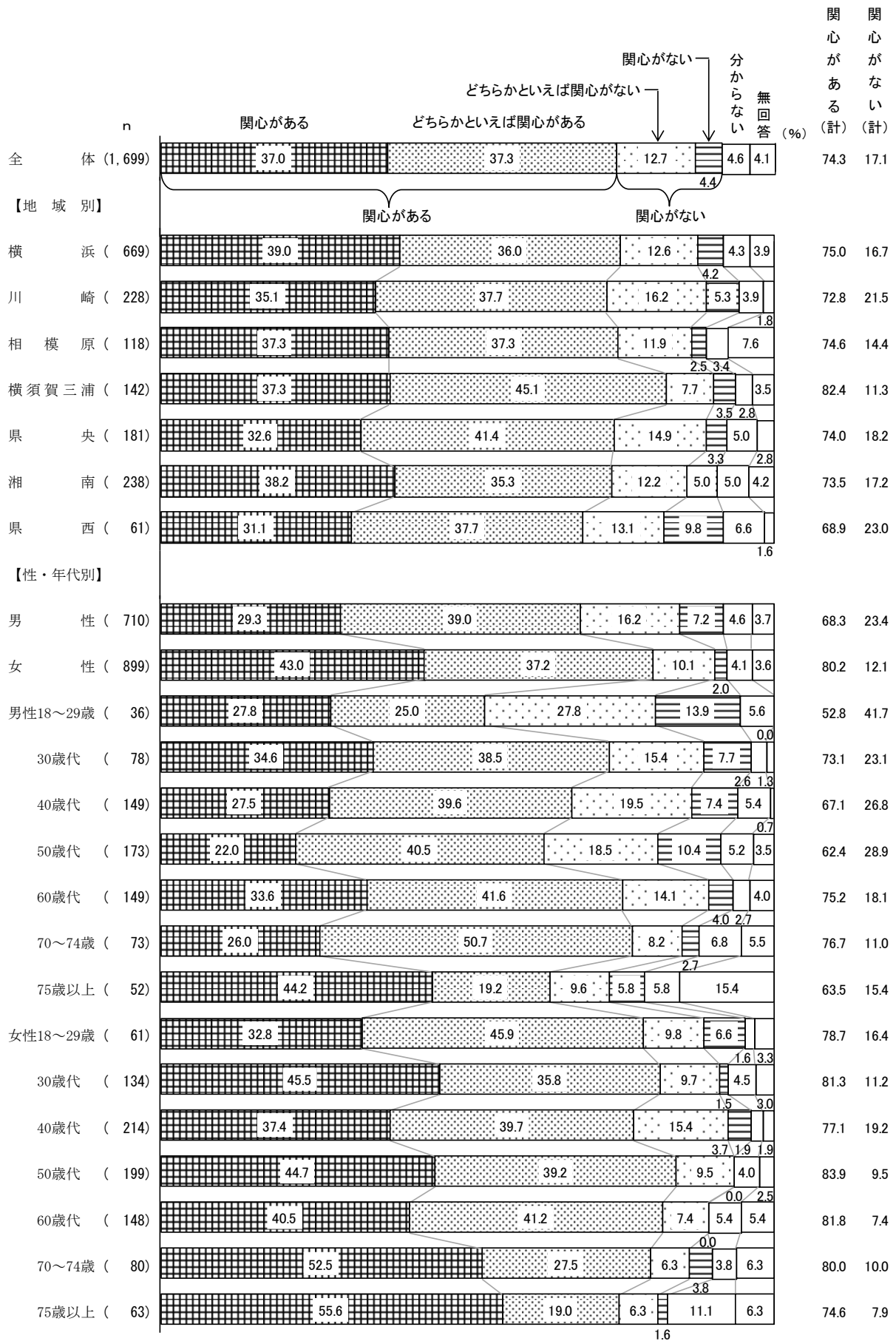
「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(37.0%)と「どちらかといえば関心がある」(37.3%)を合わせた《関心がある》は74.3%であった。

一方、「関心がない」(4.4%)と「どちらかといえば関心がない」(12.7%)を合わせた《関心がない》は17.1%であった。(図表1-1-1)

図表1-1-1 「食育」への関心



図表1-1-2 「食育」への関心—地域別、性・年代別

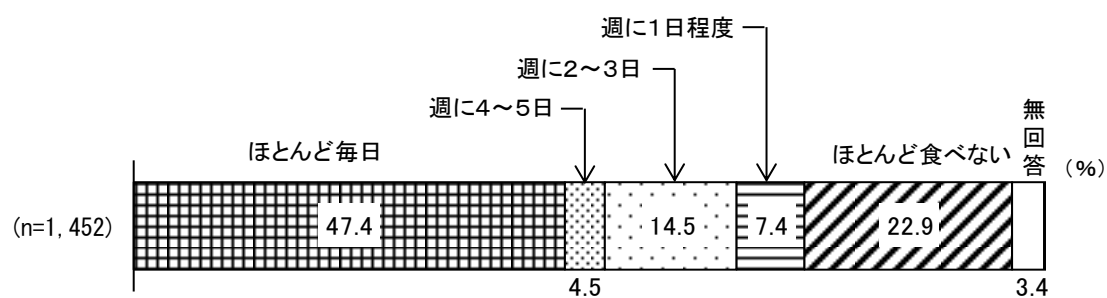


2 朝食を同居の方と食べる頻度【問2-1】

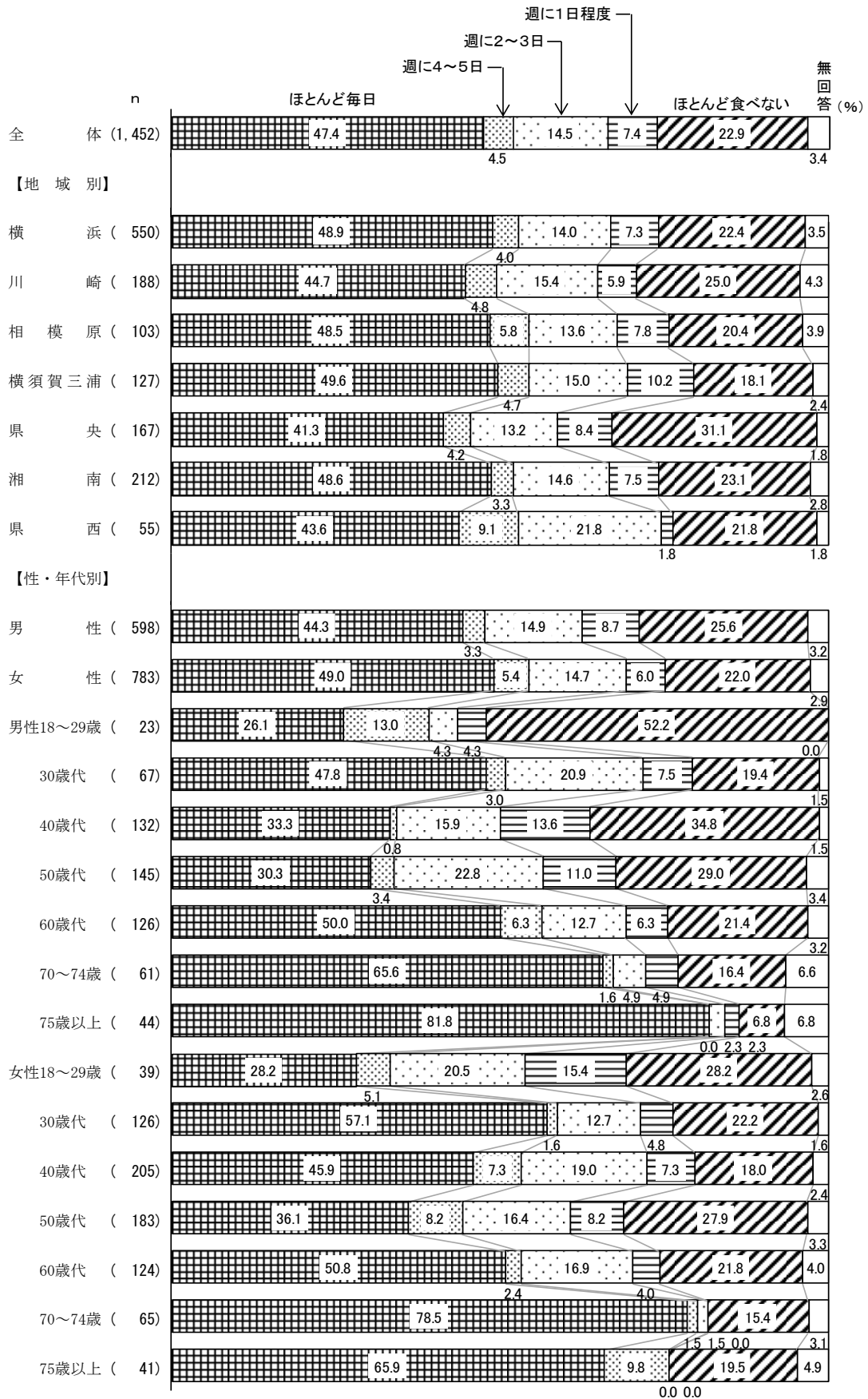
【全体の状況】

複数人でお住まいの1,452人に、朝食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日」が47.4%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が22.9%であった。(図表1-2-1)

図表1-2-1 朝食を同居の方と食べる頻度



図表1-2-2 朝食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

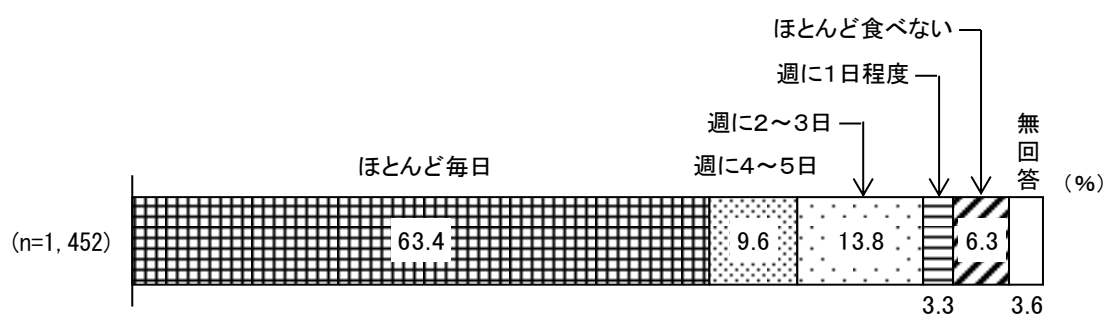


3 夕食を同居の方と食べる頻度【問2-2】

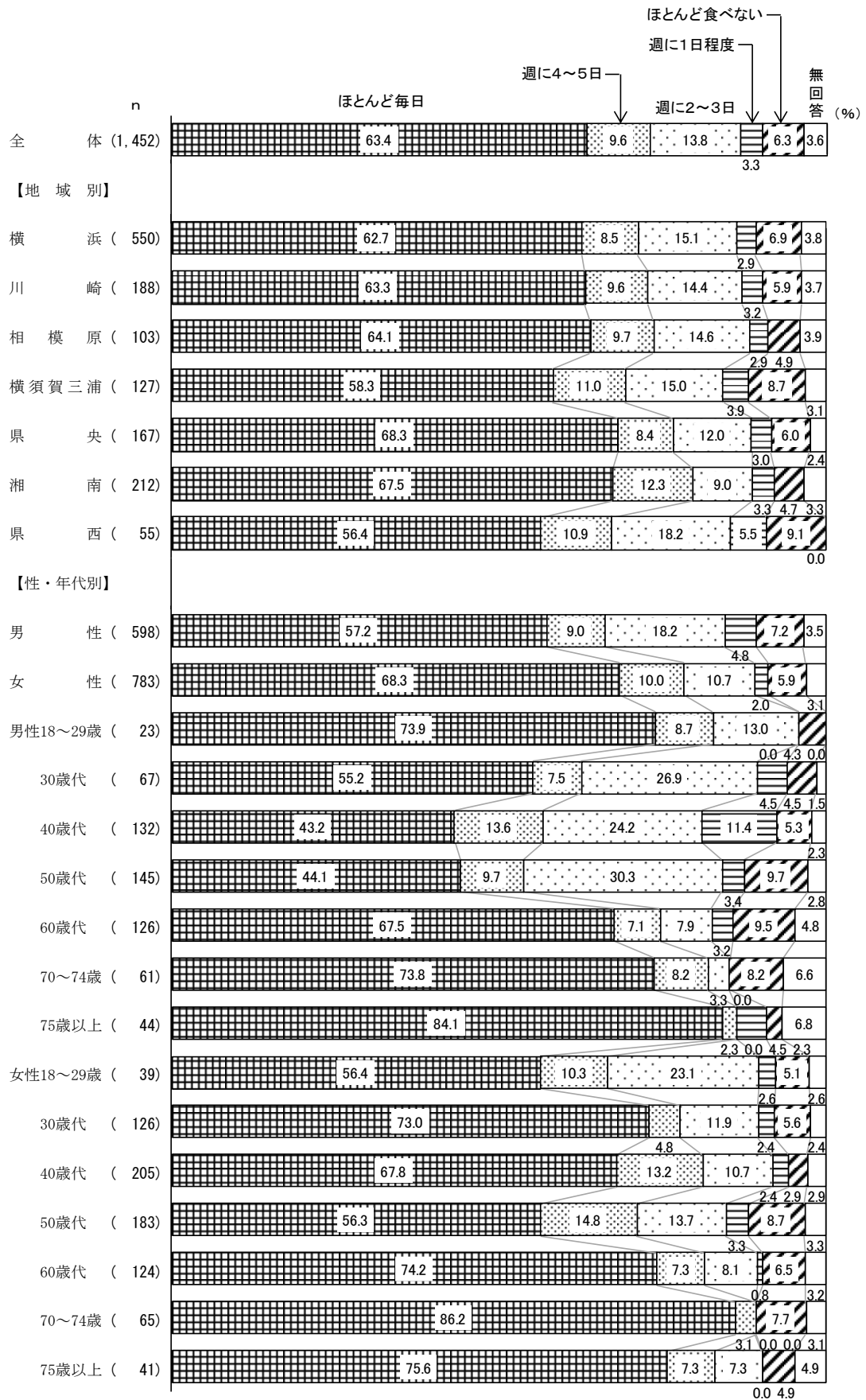
【全体の状況】

複数人でお住まいの1,452人に、夕食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日」が63.4%で最も多く、次いで「週に2～3日」が13.8%であった。(図表1-3-1)

図表1-3-1 夕食を同居の方と食べる頻度



図表1-3-2 夕食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

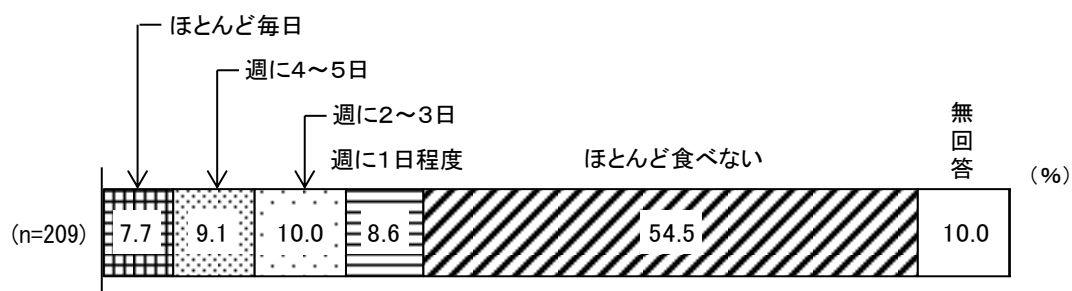


4 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問3-1】

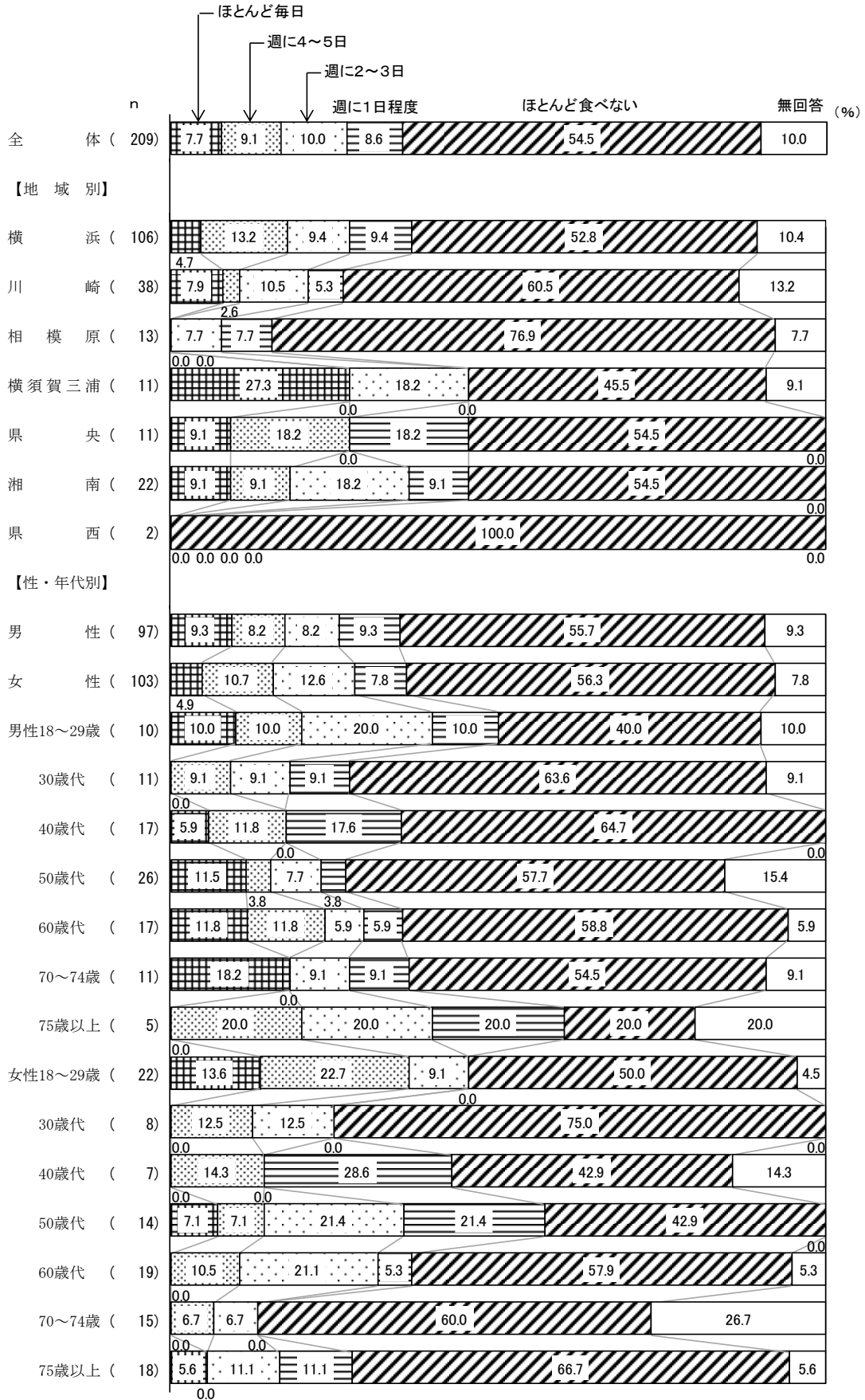
【全体の状況】

一人暮らしの209人に、昼食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が54.5%で最も多く、次いで「週に2～3日」が10.0%であった。(図表1-4-1)

図表1-4-1 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表1-4-2 屋食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別
(サンプル数が少ないため参考)

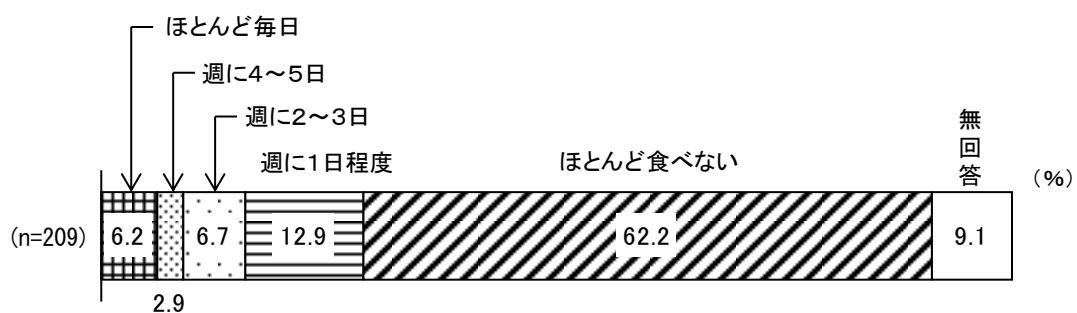


5 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問3-2】

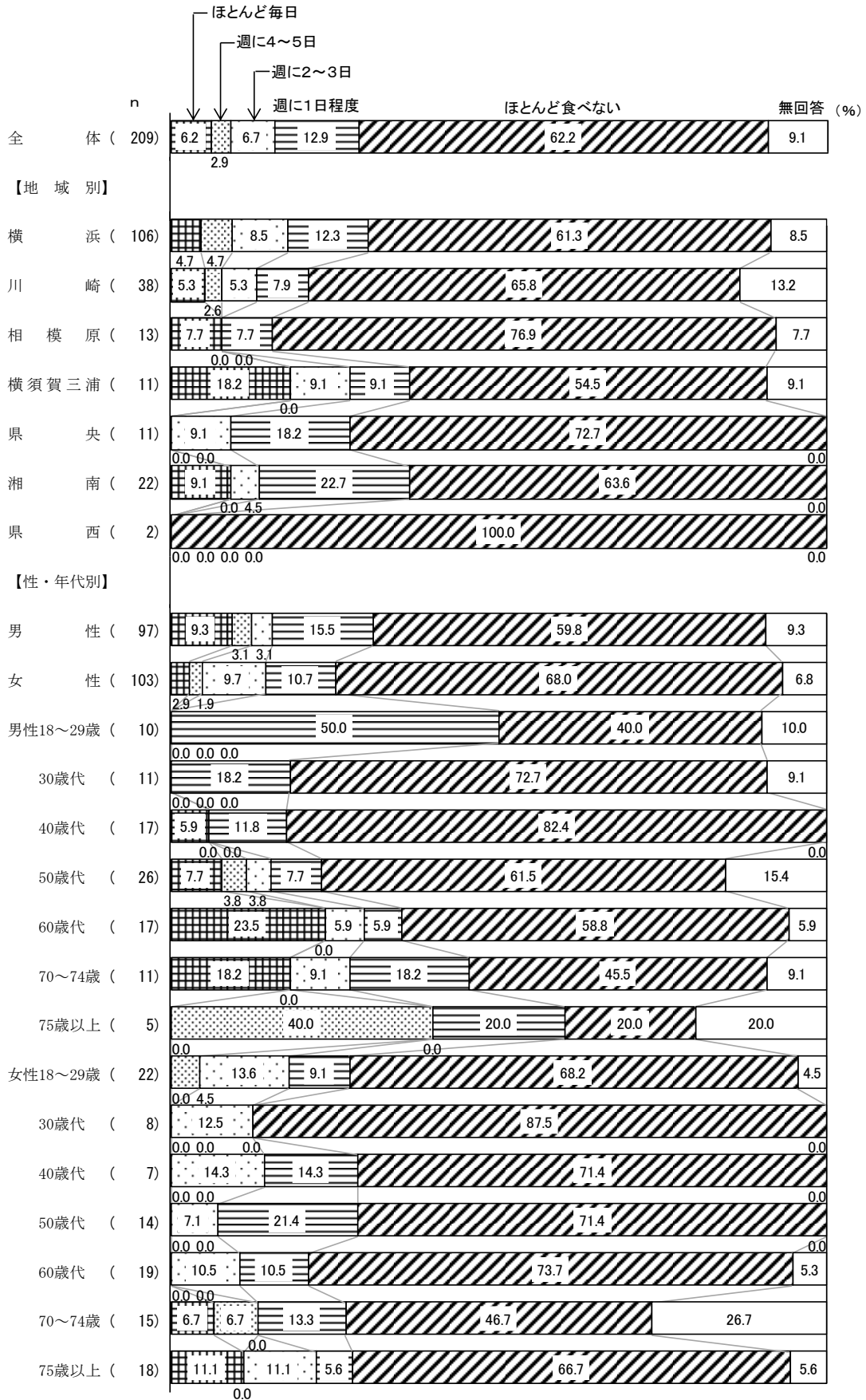
【全体の状況】

一人暮らしの209人に、夕食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が62.2%で最も多く、次いで「週に1日程度」が12.9%であった。(図表1-5-1)

図表1-5-1 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表1-5-2 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別
(サンプル数が少ないため参考)



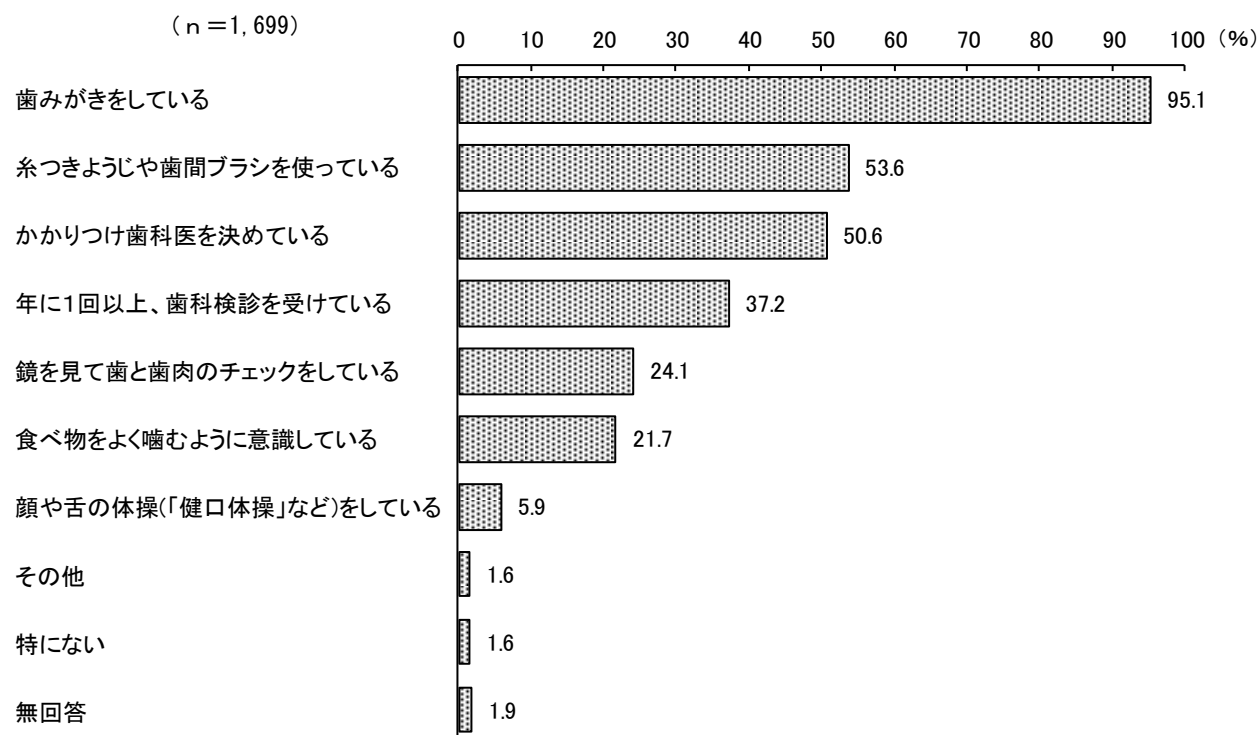
6 歯と口の健康を保つために気をつけていること【問4】

【全体の状況】

歯と口の健康を保つために気をつけていることを複数回答で尋ねたところ、「歯みがきをしている」が95.1%で最も多く、次いで「糸つきようじや歯間ブラシを使っている」が53.6%であった。

(図表1-6-1)

図表1-6-1 歯と口の健康を保つために気をつけていること（複数回答）



図表1-6-2 歯と口の健康を保つために気をつけていること（複数回答）－地域別、性・年代別

		(%)									
	n	歯みがきをしている	糸つきようじや歯間ブラシを使っている	かかりつけ歯科医を決めている	年に1回以上、歯科検診を受けている	鏡を見て歯と歯肉のチェックをしている	食べ物をよく噛むように意識している	顔や舌の体操（「健口体操」など）をしている	その他	特にない	無回答
全体	1,699	95.1	53.6	50.6	37.2	24.1	21.7	5.9	1.6	1.6	1.9
【地域別】											
横浜	669	95.2	54.6	45.9	36.5	25.6	24.1	5.4	1.3	1.0	1.8
川崎	228	95.6	49.6	52.6	36.4	20.2	20.6	4.4	2.2	1.3	1.8
相模原	118	95.8	55.9	55.1	36.4	27.1	27.1	4.2	0.8	0.0	3.4
横須賀三浦	142	92.3	59.9	52.8	31.7	26.1	16.2	7.7	2.1	1.4	2.1
県央	181	95.6	50.3	51.4	37.6	19.9	15.5	6.1	1.1	3.3	0.6
湘南	238	95.8	53.4	53.8	41.2	23.9	23.9	8.8	1.7	2.5	1.7
県西	61	100.0	52.5	57.4	41.0	29.5	14.8	9.8	4.9	0.0	0.0
【性・年代別】											
男性	710	94.1	43.5	41.4	31.7	14.8	19.7	2.7	2.0	2.4	1.5
女性	899	96.7	61.7	57.2	41.5	31.6	23.2	8.8	1.3	0.7	1.7
男性18～29歳	36	97.2	30.6	19.4	19.4	16.7	22.2	5.6	5.6	0.0	0.0
30歳代	78	97.4	50.0	26.9	29.5	20.5	20.5	2.6	2.6	2.6	0.0
40歳代	149	94.6	40.9	28.9	24.2	12.1	10.7	2.0	1.3	2.0	0.7
50歳代	173	94.2	46.8	36.4	32.4	12.7	13.3	0.6	1.7	2.3	2.9
60歳代	149	96.0	43.6	55.7	37.6	16.1	20.1	4.7	2.0	1.3	2.0
70～74歳	73	86.3	38.4	56.2	31.5	8.2	27.4	4.1	1.4	6.8	1.4
75歳以上	52	90.4	46.2	69.2	46.2	25.0	51.9	1.9	1.9	1.9	1.9
女性18～29歳	61	96.7	36.1	27.9	31.1	21.3	18.0	8.2	1.6	0.0	1.6
30歳代	134	98.5	61.9	46.3	38.8	34.3	8.2	3.7	0.7	0.0	1.5
40歳代	214	96.3	57.0	49.1	37.4	29.9	15.9	5.6	1.4	0.5	1.9
50歳代	199	97.5	68.3	61.8	38.2	34.2	28.6	8.5	1.5	0.5	2.0
60歳代	148	97.3	70.9	66.2	45.9	31.8	24.3	12.2	0.7	0.7	1.4
70～74歳	80	93.8	53.8	80.0	48.8	30.0	26.3	13.8	1.3	3.8	1.3
75歳以上	63	93.7	69.8	71.4	61.9	34.9	61.9	17.5	3.2	0.0	1.6

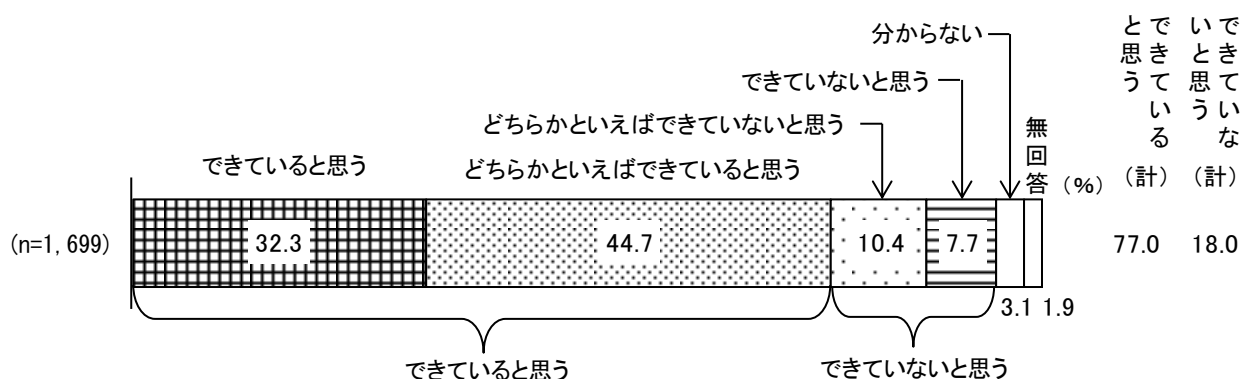
7 食事のマナーを正しくできていることへの意識【問5】

【全体の状況】

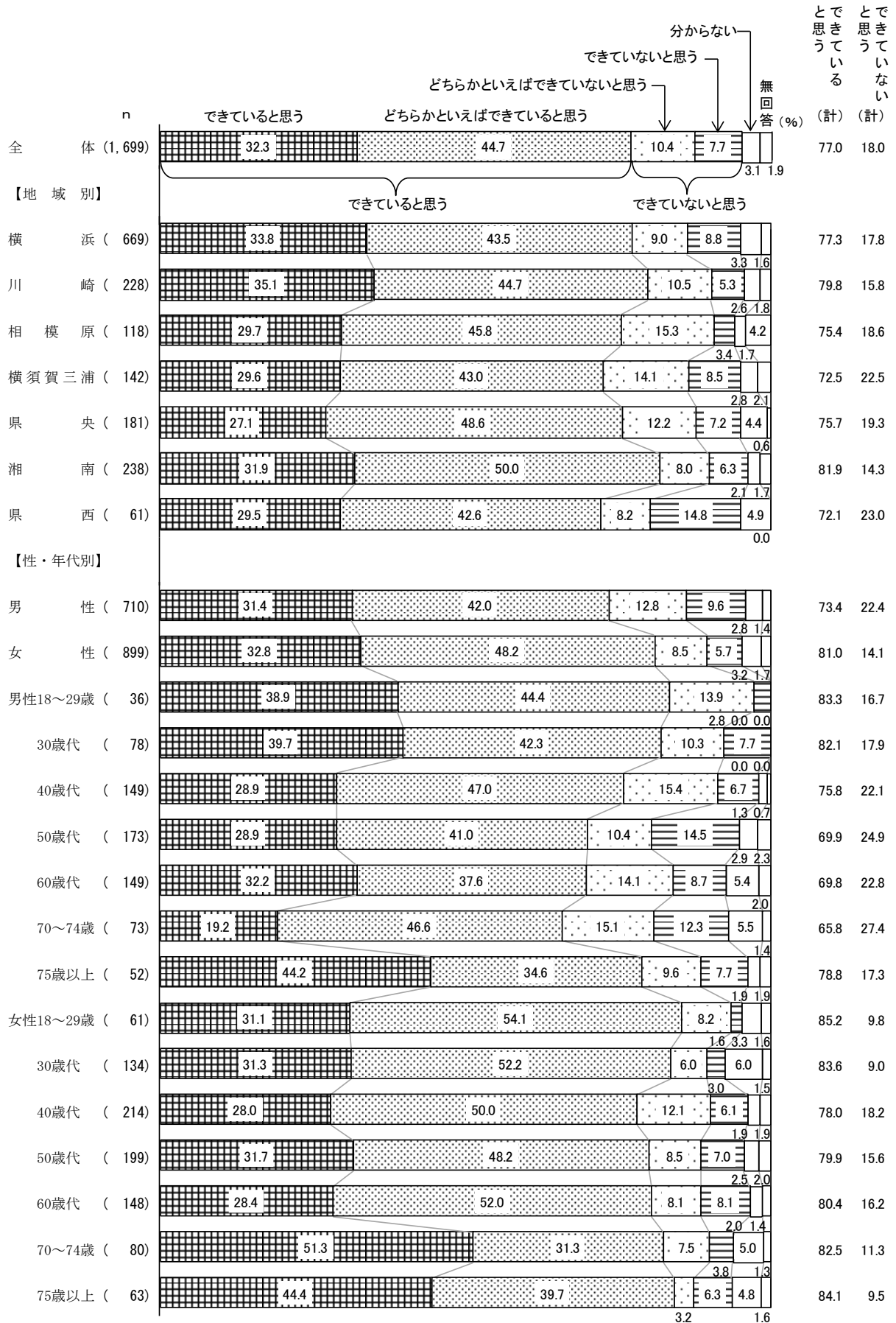
いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など食事のマナーを正しくできていると思うか尋ねたところ、「できていると思う」(32.3%)と「どちらかといえばできていると思う」(44.7%)を合わせた《できていると思う》は77.0%であった。

一方、「できていないと思う」(7.7%)と「どちらかといえばできていないと思う」(10.4%)を合わせた《できていないと思う》は18.0%であった。(図表1-7-1)

図表1-7-1 食事のマナーを正しくできていることへの意識



図表1-7-2 食事のマナーを正しくできていることへの意識—地域別、性・年代別



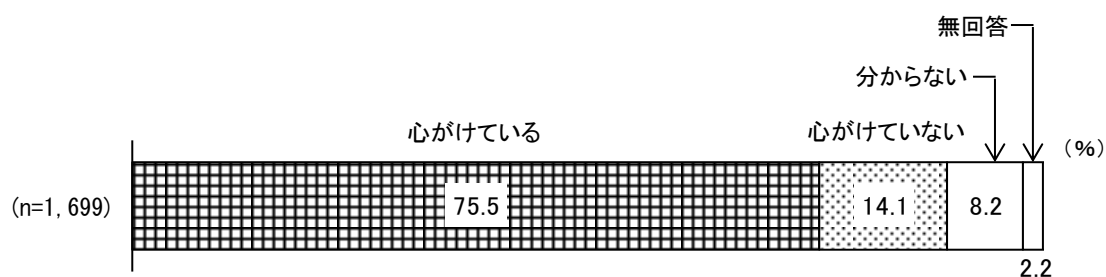
8 健康的な食事内容の心がけ【問6】

【全体の状況】

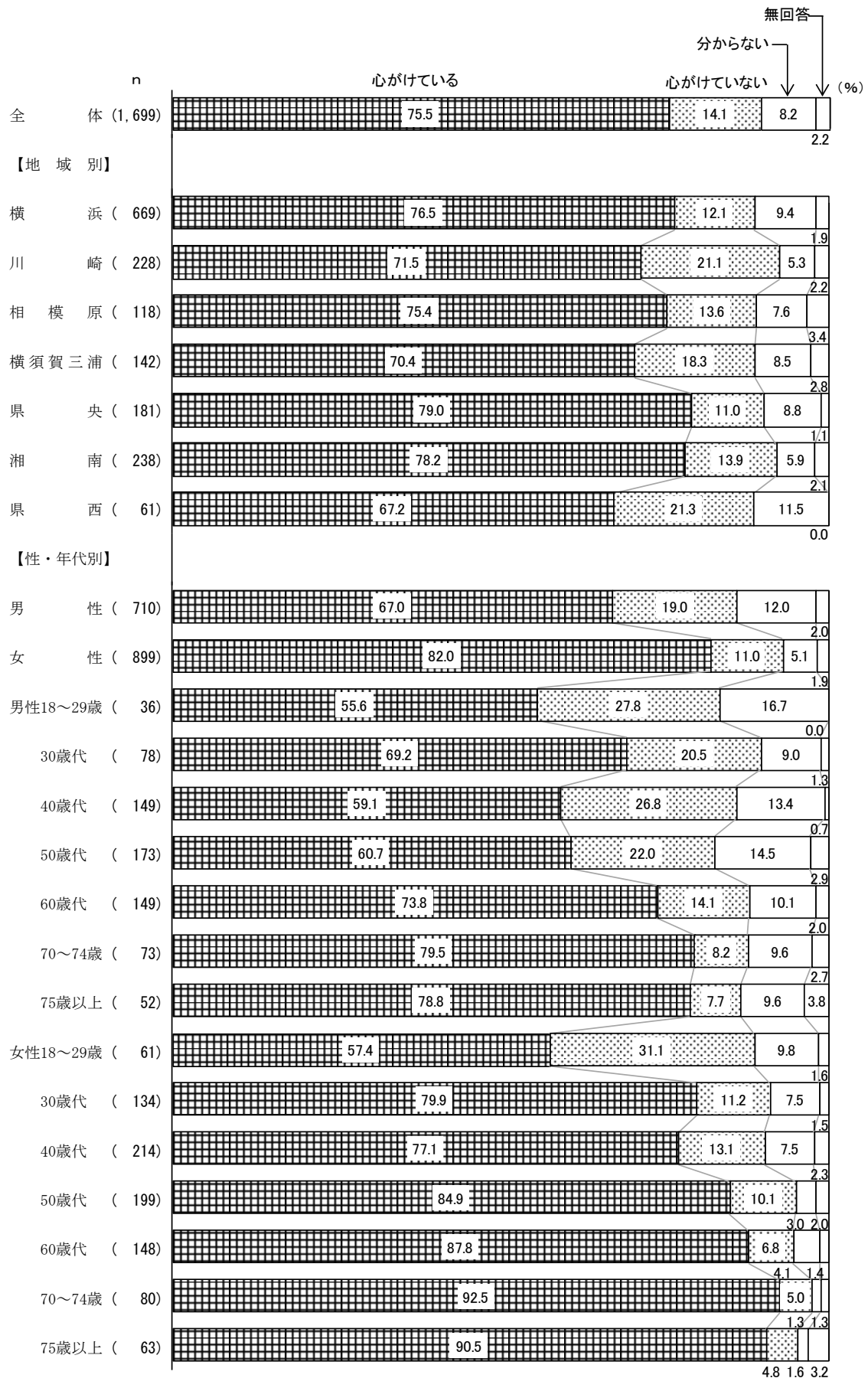
毎日の食生活で、主食・主菜・副菜を組み合わせた健康的な食事内容を心がけているか尋ねたところ、「心がけている」が75.5%であった。

一方、「心がけていない」は、14.1%であった。(図表1-8-1)

図表1-8-1 健康的な食事内容の心がけ



図表1-8-2 健康的な食事内容の心がけ—地域別、性・年代別



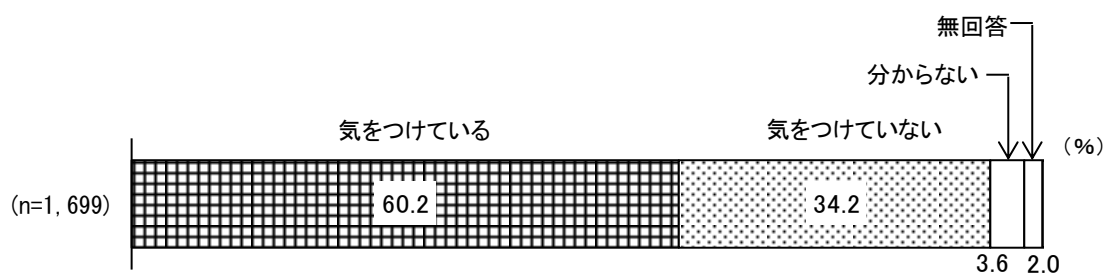
9 就寝前の食事を控えているか【問7】

【全体の状況】

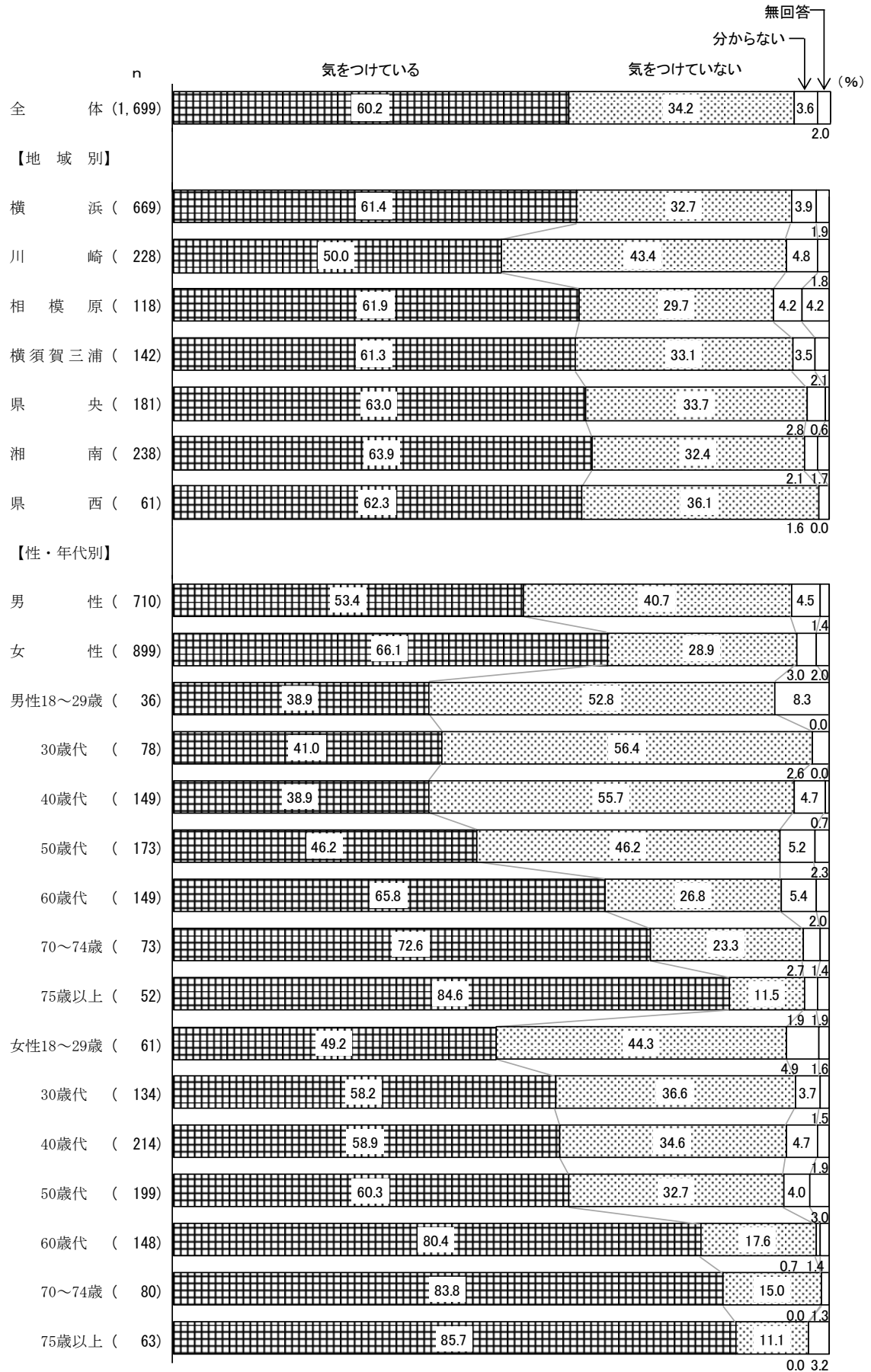
就寝前2時間以内に食事をとらないよう気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」が60.2%であった。

一方、「気をつけていない」は、34.2%であった。(図表1-9-1)

図表1-9-1 就寝前の食事を控えているか



図表1-9-2 就寝前の食事を控えているかー地域別、性・年代別



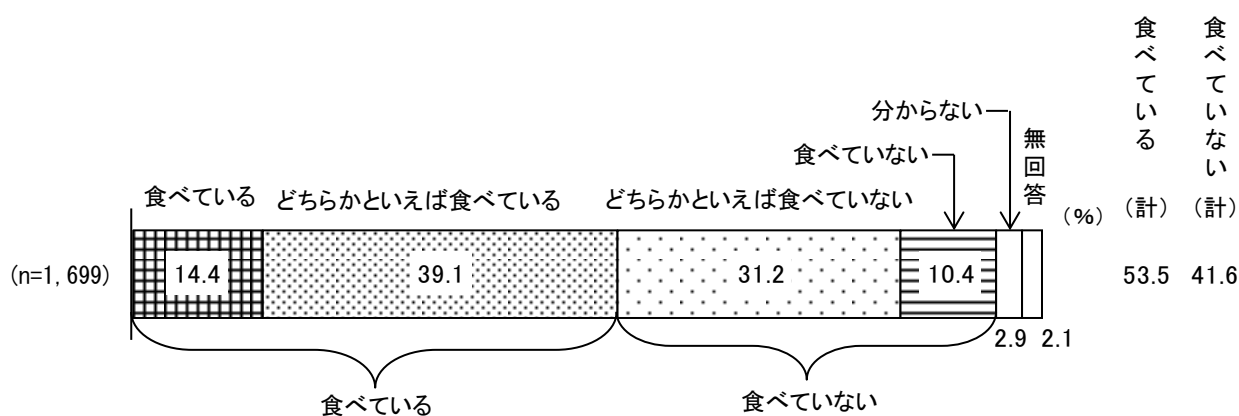
10 ゆっくりよく噛んで食べているか【問8】

【全体の状況】

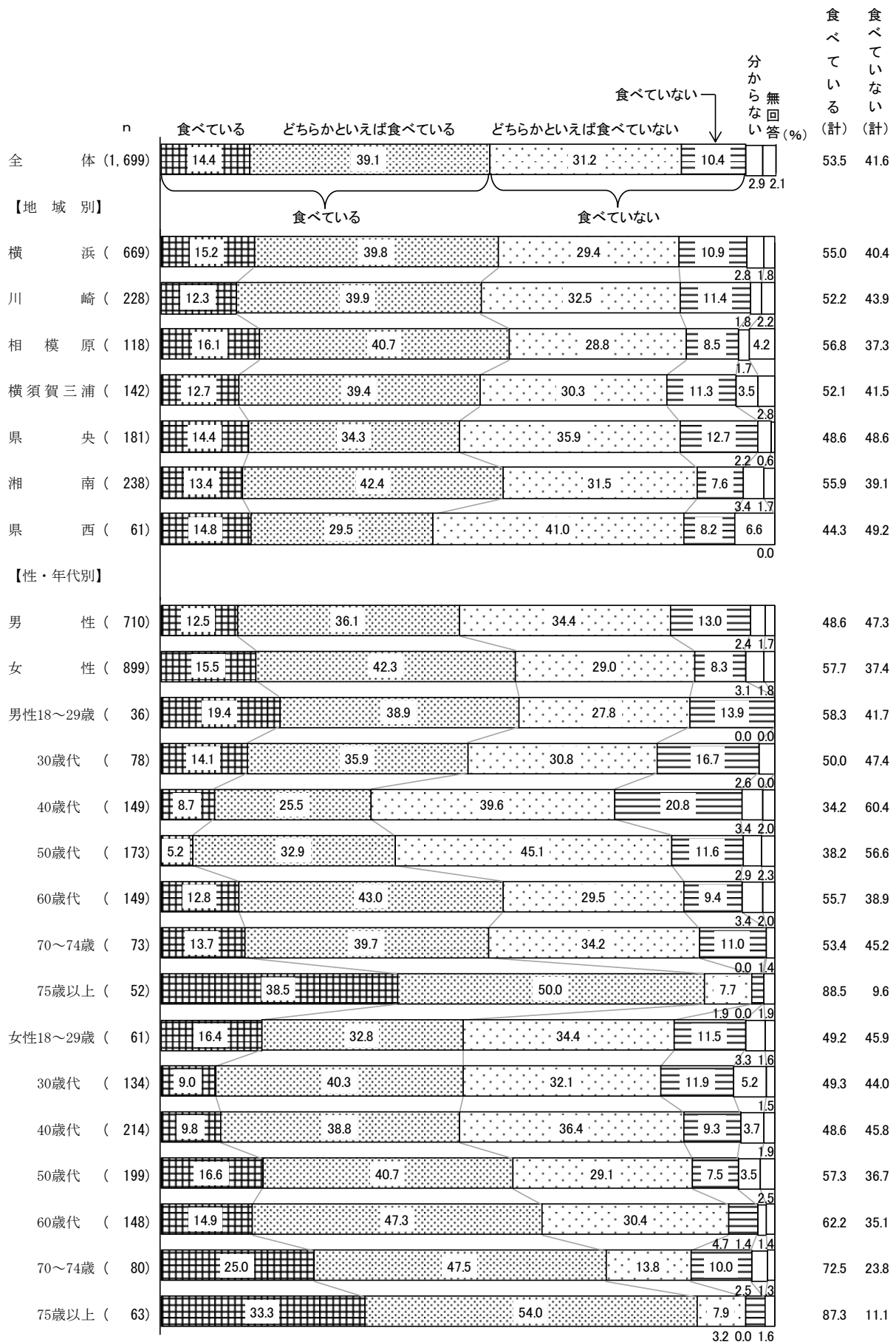
ゆっくりよく噛んで食べているか尋ねたところ、「食べている」(14.4%)と「どちらかといえば食べている」(39.1%)を合わせた《食べている》は53.5%であった。

一方、「食べていない」(10.4%)と「どちらかといえば食べていない」(31.2%)を合わせた《食べていない》は41.6%であった。(図表1-10-1)

図表1-10-1 ゆっくりよく噛んで食べているか



図表1-10-2 ゆっくりよく噛んで食べているか—地域別、性・年代別



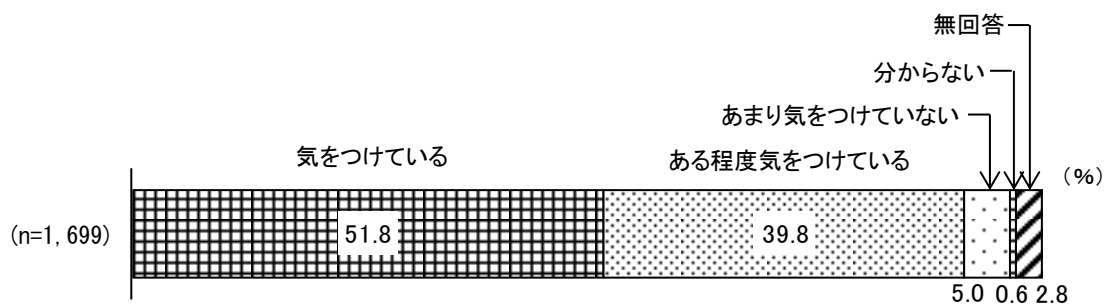
11 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか【問9】

【全体の状況】

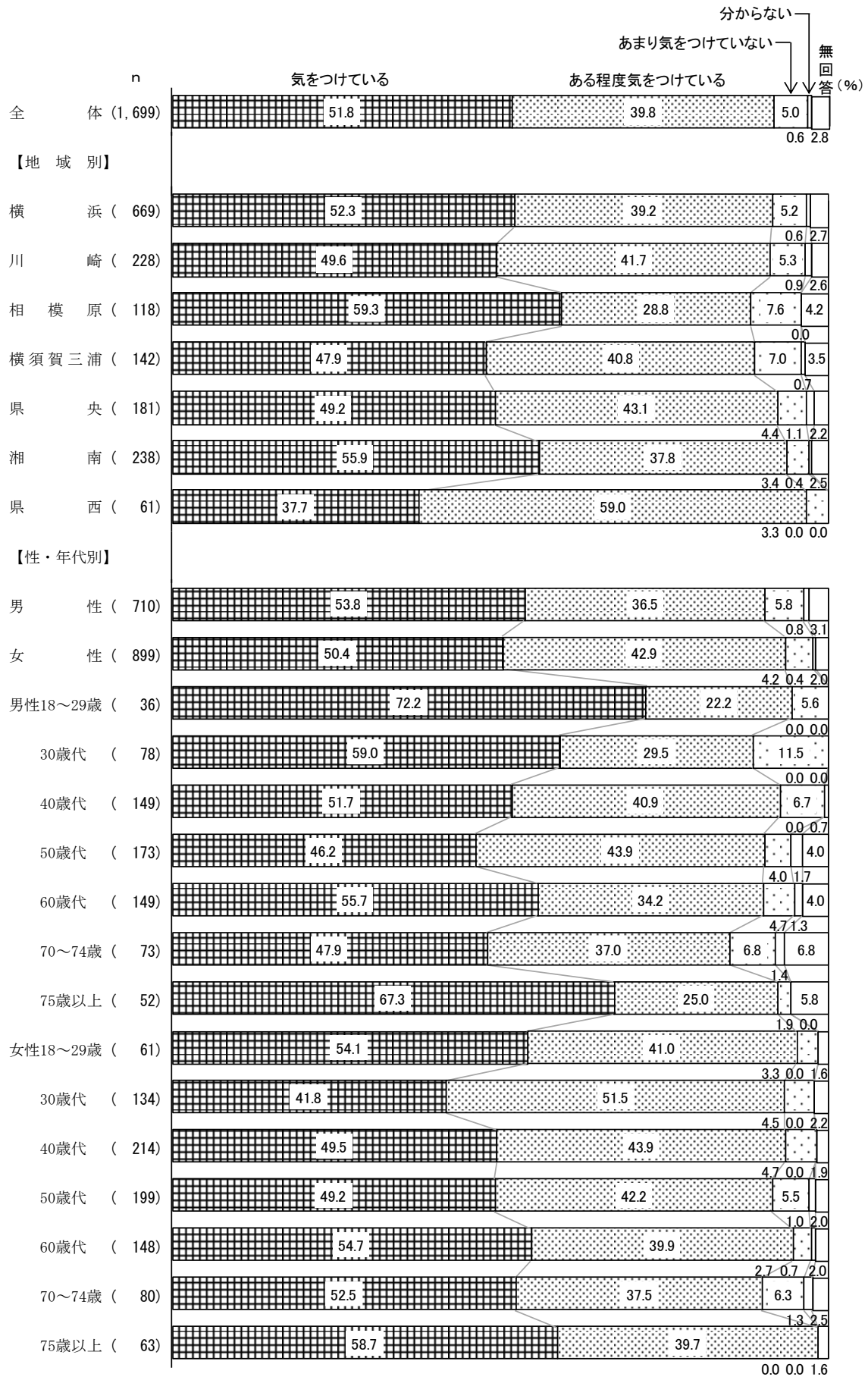
食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」が51.8%であった。

一方、「あまり気をつけていない」は、5.0%であった。(図表1-11-1)

図表1-11-1 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか



図表1-11-2 食べ残しや買いすぎなどに気を付けているかー地域別、性・年代別



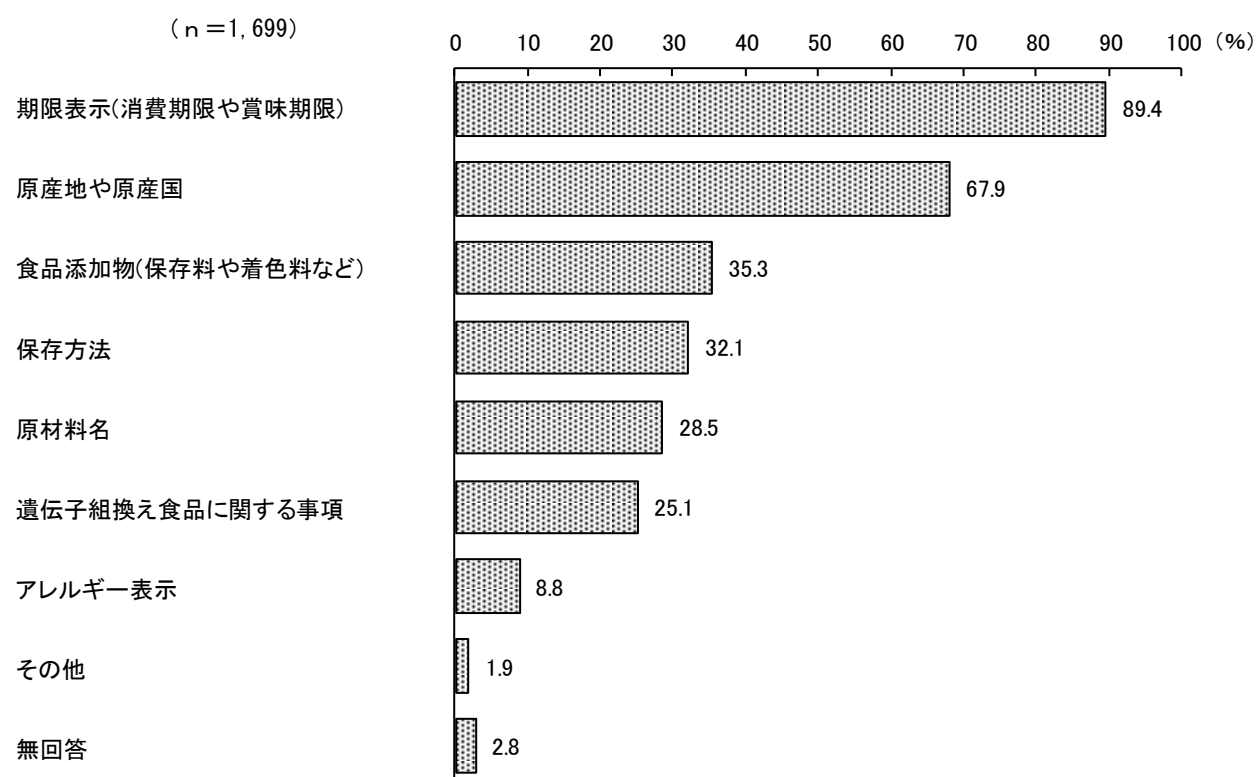
第2章 食の安全・安心【問10～問12】

1 食品を購入する際に確認している表示内容【問10】

【全体の状況】

食品を購入する際に、確認している表示内容を複数回答で尋ねたところ、「期限表示（消費期限や賞味期限）」が89.4%で最も多く、次いで「原産地や原産国」が67.9%であった。（図表2-1-1）

図表2-1-1 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）



図表2-1-2 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

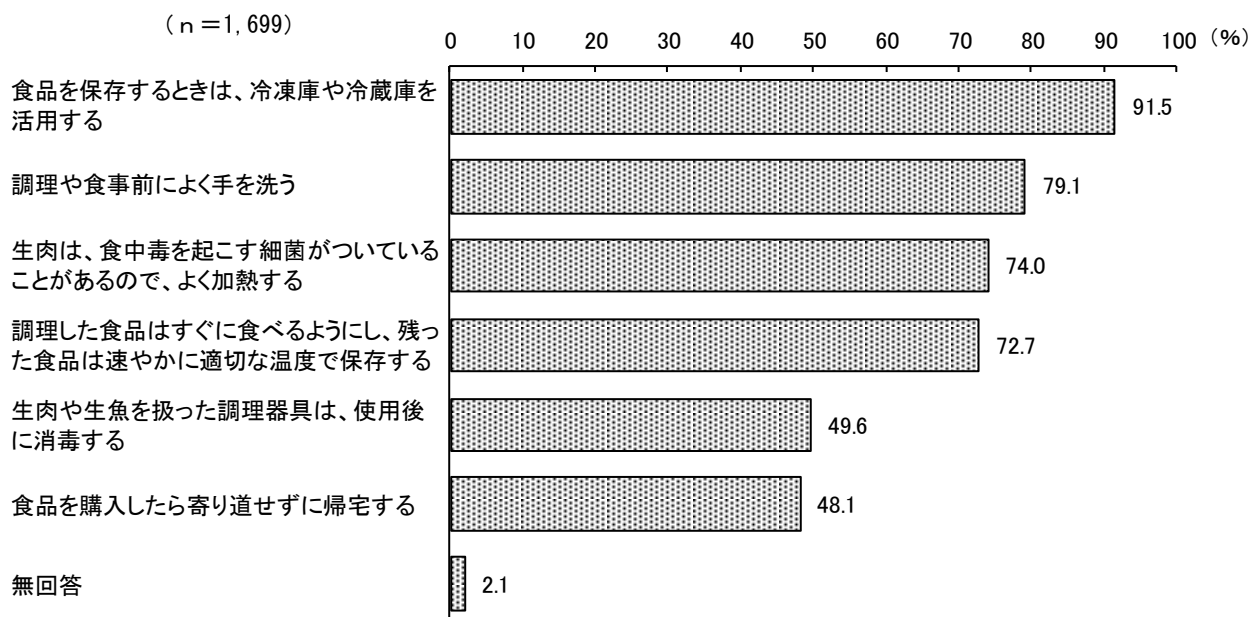
	n	期限表示 (消費期限や賞味期限)	原産地や原産国	食品添加物 (保存料や着色料など)	保存方法	原材料名	遺伝子組換え食品に関する事項	アレルギー表示	その他	無回答
全体	1,699	89.4	67.9	35.3	32.1	28.5	25.1	8.8	1.9	2.8
【地域別】										
横浜	669	89.8	68.0	34.2	32.3	29.1	22.9	10.6	2.1	2.5
川崎	228	89.0	69.7	32.0	32.5	28.9	24.1	7.0	2.6	2.2
相模原	118	89.0	64.4	36.4	38.1	27.1	32.2	6.8	1.7	5.1
横須賀三浦	142	90.8	71.1	33.1	32.4	26.1	18.3	6.3	0.7	2.8
県央	181	90.6	64.1	34.3	28.7	23.8	22.7	6.1	2.2	1.1
湘南	238	89.1	75.6	42.0	31.9	37.0	35.3	9.2	0.8	2.5
県西	61	86.9	59.0	34.4	29.5	21.3	21.3	8.2	4.9	3.3
【性・年代別】										
男性	710	87.6	61.3	27.3	28.7	21.7	17.2	7.2	3.1	2.8
女性	899	91.5	74.4	41.4	35.3	35.0	31.6	9.7	1.1	2.3
男性18～29歳	36	80.6	52.8	27.8	25.0	19.4	8.3	8.3	2.8	5.6
30歳代	78	87.2	57.7	24.4	24.4	23.1	10.3	14.1	9.0	0.0
40歳代	149	87.2	61.7	21.5	22.8	19.5	15.4	6.7	1.3	2.7
50歳代	173	87.9	57.8	23.7	28.9	23.7	17.9	9.2	3.5	2.3
60歳代	149	87.9	63.1	34.2	32.9	22.8	22.1	3.4	2.0	4.0
70～74歳	73	91.8	69.9	35.6	24.7	15.1	21.9	4.1	2.7	2.7
75歳以上	52	86.5	65.4	28.8	48.1	26.9	15.4	5.8	1.9	3.8
女性18～29歳	61	85.2	44.3	11.5	19.7	19.7	4.9	3.3	1.6	4.9
30歳代	134	91.8	73.1	37.3	20.1	28.4	26.9	10.4	0.7	1.5
40歳代	214	88.3	75.2	37.4	32.7	30.8	27.1	9.8	1.4	2.3
50歳代	199	94.0	76.9	43.7	36.7	40.7	43.2	12.6	1.5	2.5
60歳代	148	95.3	77.7	50.0	40.5	39.2	37.8	6.1	0.7	1.4
70～74歳	80	91.3	86.3	52.5	51.3	51.3	37.5	11.3	1.3	1.3
75歳以上	63	92.1	73.0	50.8	54.0	30.2	23.8	11.1	0.0	4.8

2 食中毒を予防する上で重要なこと【問11】

【全体の状況】

食中毒を予防する上で重要なことがらについて、知っていることを複数回答で尋ねたところ、「食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する」が91.5%で最も多く、次いで「調理や食事前によく手を洗う」が79.1%であった。（図表2-2-1）

図表2-2-1 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）



図表2-2-2 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	冷蔵食品を保存するときは、冷凍庫や	調理や食事前によく手を洗う	熱していることがあり、食中毒を起す細菌が加	生肉は、食中毒を起す細菌が加	調理した食品はすぐに食べるように、残った食品は速やかに適切	使用後に消毒する	生肉や生魚を扱った調理器具は、	食品を購入したら寄り道せずに帰	無回答
全 体	1,699	91.5	79.1	74.0	72.7	49.6	48.1	2.1		
【地 域 別】										
横 浜	669	92.7	80.7	74.4	73.7	49.9	44.4	1.6		
川 崎	228	92.5	78.5	74.6	73.7	46.9	50.9	1.3		
相 模 原	118	93.2	83.1	73.7	76.3	52.5	50.8	3.4		
横 須 賀 三 浦	142	90.8	77.5	73.9	71.1	50.7	49.3	2.8		
県 央	181	90.1	77.3	75.7	69.6	48.1	50.3	1.7		
湘 南	238	90.8	76.5	75.2	72.7	51.3	48.3	2.5		
県 西	61	91.8	80.3	73.8	75.4	52.5	52.5	0.0		
【性・年代別】										
男 性	710	90.6	72.5	65.6	67.9	43.1	41.8	2.1		
女 性	899	93.2	85.3	82.2	77.9	55.3	52.7	1.7		
男性18～29歳	36	88.9	69.4	66.7	63.9	50.0	36.1	0.0		
30歳代	78	92.3	75.6	71.8	65.4	51.3	43.6	0.0		
40歳代	149	89.9	74.5	71.1	69.1	49.7	40.9	2.0		
50歳代	173	91.9	72.8	60.7	67.6	41.0	44.5	2.3		
60歳代	149	88.6	67.8	67.1	67.8	43.6	40.3	3.4		
70～74歳	73	91.8	72.6	57.5	67.1	30.1	39.7	1.4		
75歳以上	52	90.4	76.9	63.5	73.1	30.8	44.2	3.8		
女性18～29歳	61	93.4	82.0	73.8	72.1	50.8	49.2	1.6		
30歳代	134	94.8	80.6	88.1	76.1	59.0	49.3	1.5		
40歳代	214	91.1	84.6	81.8	72.9	55.6	47.7	1.9		
50歳代	199	93.0	86.9	84.9	81.9	55.3	56.8	2.0		
60歳代	148	92.6	87.2	81.1	81.1	56.8	56.8	1.4		
70～74歳	80	93.8	87.5	78.8	77.5	55.0	57.5	1.3		
75歳以上	63	98.4	88.9	77.8	84.1	47.6	52.4	1.6		

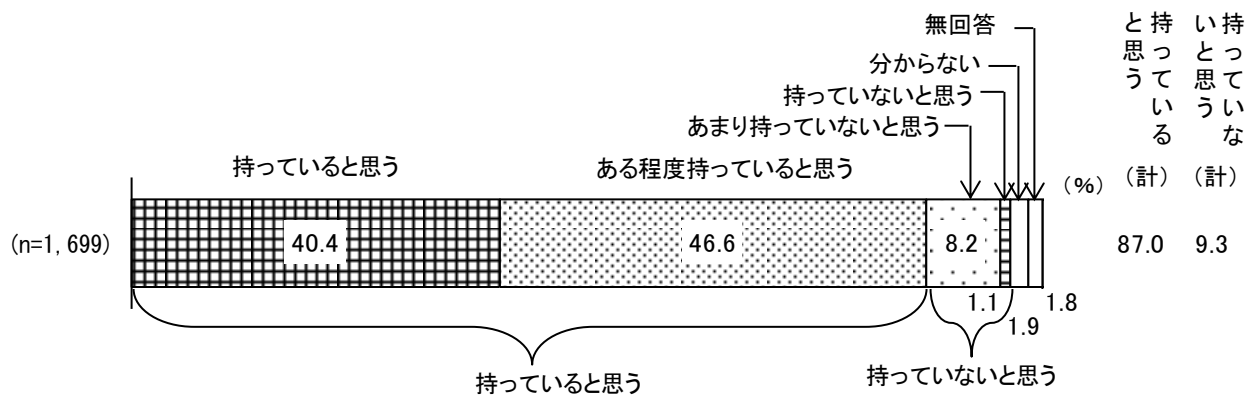
3 食品を安全に食べるために必要な知識【問12】

【全体の状況】

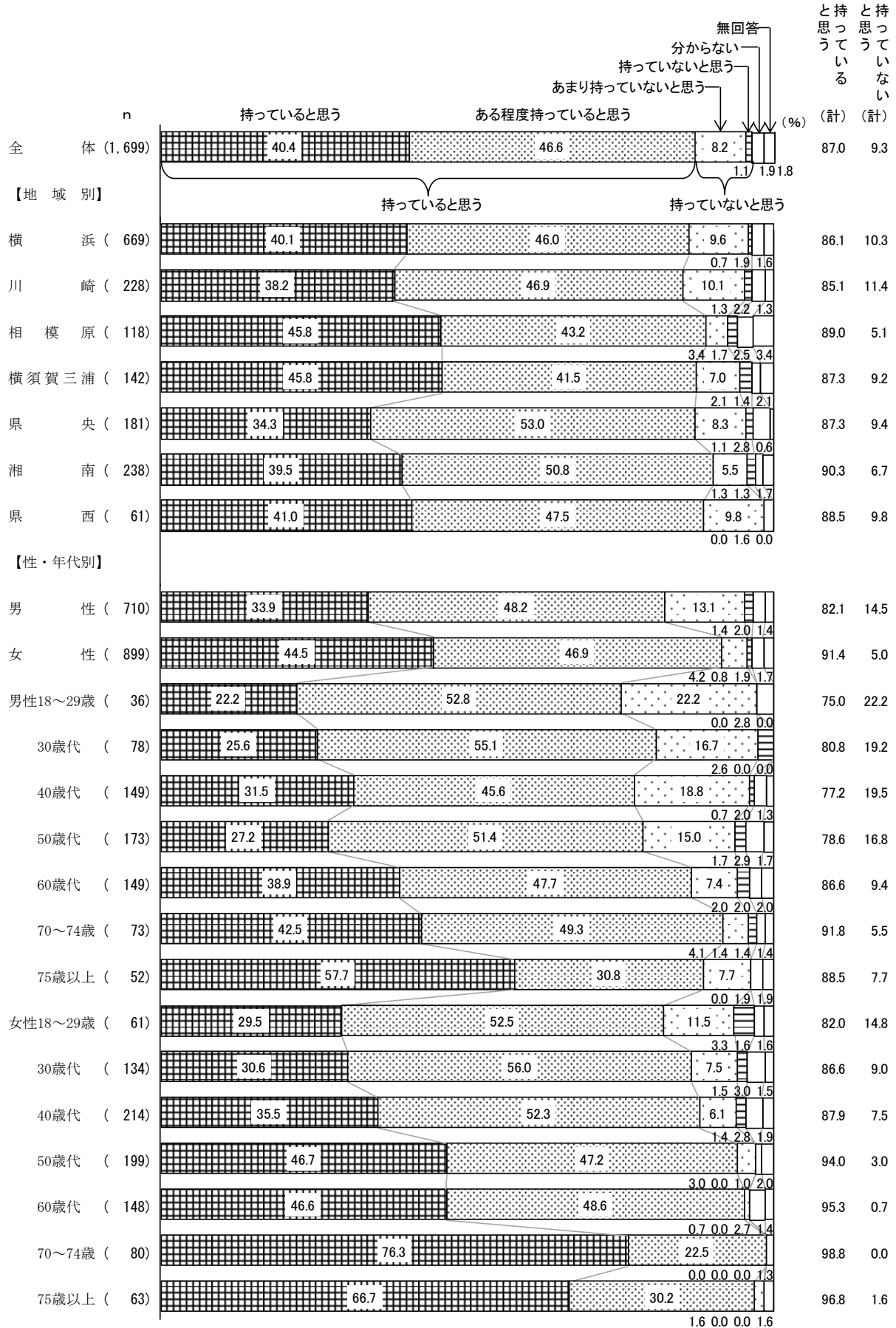
食品を安全に食べるために、必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（40.4%）と「ある程度持っていると思う」（46.6%）を合わせた《持っていると思う》は87.0%であった。

一方、「持っていないと思う」（1.1%）と「あまり持っていないと思う」（8.2%）を合わせた《持っていないと思う》は9.3%であった。（図表2-3-1）

図表2-3-1 食品を安全に食べるために必要な知識



図表2-3-2 食品を安全に食べるために必要な知識—地域別、性・年代別



第3章 神奈川県農林水産業【問13～問17】

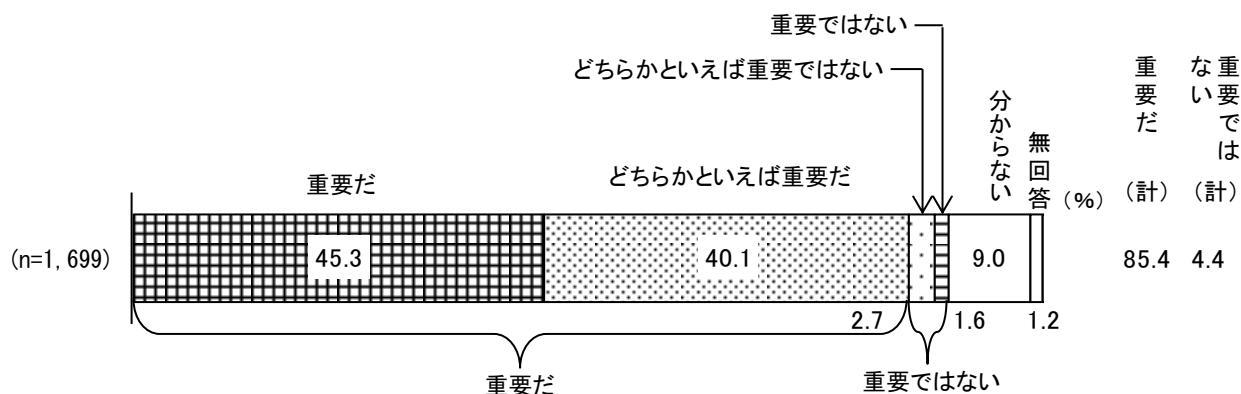
1 「地産地消」の取組みの重要度【問13】

【全体の状況】

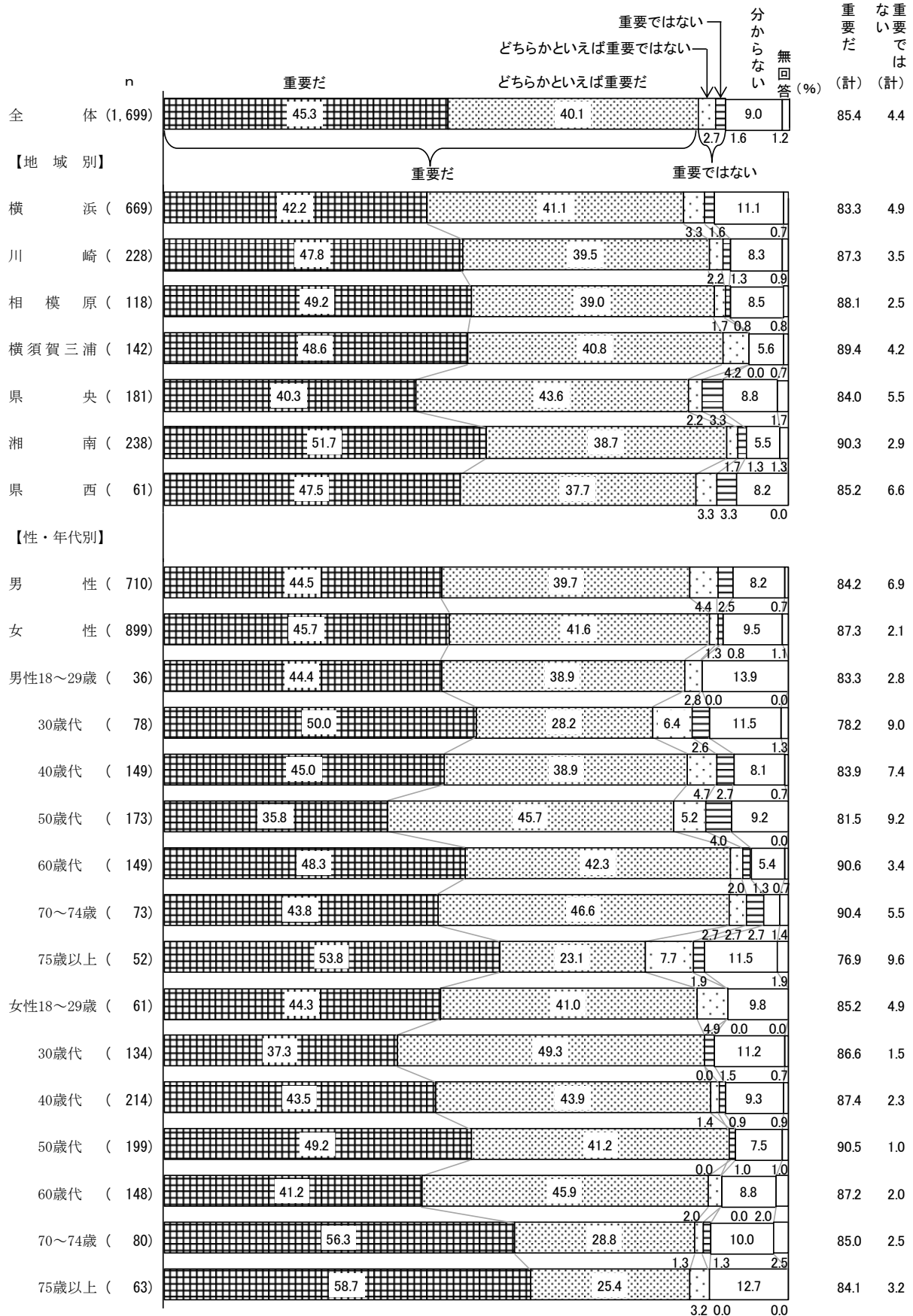
県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」の取組みを重要だと思うか尋ねたところ、「重要だ」(45.3%)と「どちらかといえば重要だ」(40.1%)を合わせた《重要だ》は85.4%であった。

一方、「重要ではない」(1.6%)と「どちらかといえば重要ではない」(2.7%)を合わせた《重要ではない》は4.4%であった。(図表3-1-1)

図表3-1-1 「地産地消」の取組みの重要度



図表3-1-2 「地産地消」の取組みの重要度—地域別、性・年代別

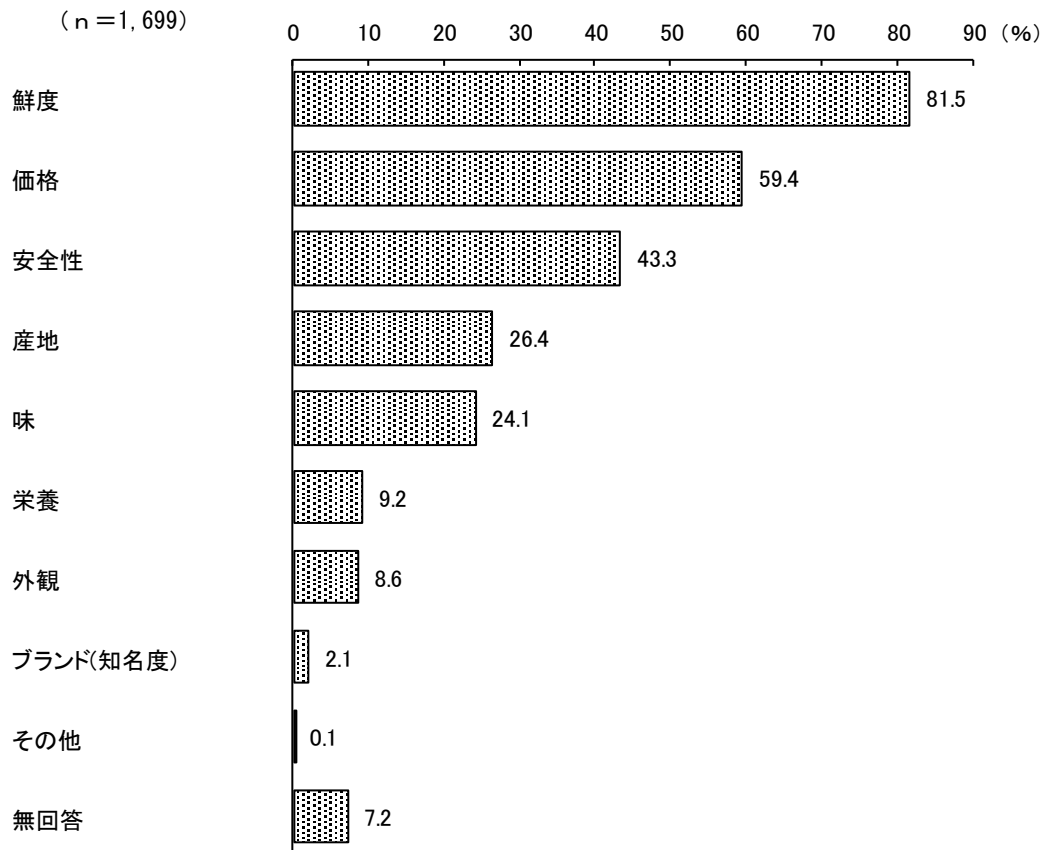


2 農林水産物を購入する際に重視する点【問14】

【全体の状況】

農林水産物を購入する際に、何を重視するか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「鮮度」が81.5%で最も多く、次いで「価格」が59.4%であった。（図表3-2-1）

図表3-2-1 農林水産物を購入する際に重視する点（複数回答）



図表3-2-2 農林水産物を購入する際に重視する点（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	鮮度	価格	安全性	産地	味	栄養	外観	ブランド (知名度)	その他	無回答
全体	1,699	81.5	59.4	43.3	26.4	24.1	9.2	8.6	2.1	0.1	7.2
【地域別】											
横浜	669	83.3	60.1	40.5	27.7	25.4	9.7	9.1	1.8	0.0	5.7
川崎	228	80.3	60.1	47.8	25.4	26.3	8.3	7.0	2.6	0.0	7.5
相模原	118	81.4	61.0	48.3	28.0	23.7	10.2	10.2	1.7	0.0	5.9
横須賀三浦	142	81.0	58.5	45.1	24.6	27.5	12.0	9.2	3.5	0.0	7.0
県央	181	77.9	63.0	44.2	21.0	18.2	7.7	11.0	1.1	0.6	9.9
湘南	238	81.1	59.7	47.1	30.7	20.6	8.4	5.5	0.8	0.0	6.7
県西	61	86.9	45.9	41.0	27.9	32.8	4.9	13.1	4.9	1.6	4.9
【性・年代別】											
男性	710	77.0	63.0	40.6	24.8	28.5	8.7	10.6	2.5	0.0	5.4
女性	899	85.4	57.6	46.4	28.4	21.5	9.6	7.1	1.6	0.2	7.7
男性18～29歳	36	61.1	69.4	41.7	11.1	38.9	13.9	8.3	0.0	0.0	5.6
30歳代	78	65.4	64.1	34.6	29.5	33.3	17.9	12.8	0.0	0.0	7.7
40歳代	149	72.5	63.1	34.9	24.8	32.2	10.1	10.7	4.0	0.0	6.0
50歳代	173	77.5	68.2	43.4	23.1	31.8	4.0	11.0	2.9	0.0	2.3
60歳代	149	85.2	59.1	47.0	28.9	24.2	8.7	8.7	2.7	0.0	2.7
70～74歳	73	90.4	60.3	42.5	27.4	20.5	4.1	8.2	2.7	0.0	6.8
75歳以上	52	75.0	53.8	34.6	17.3	15.4	9.6	15.4	1.9	0.0	15.4
女性18～29歳	61	85.2	63.9	29.5	18.0	34.4	16.4	11.5	0.0	1.6	4.9
30歳代	134	79.1	61.2	41.8	24.6	23.1	13.4	7.5	0.0	0.0	9.0
40歳代	214	79.4	60.7	42.5	28.5	18.2	7.0	9.8	0.9	0.5	11.2
50歳代	199	89.4	59.3	50.3	26.6	18.1	9.5	5.5	3.0	0.0	6.0
60歳代	148	91.2	55.4	48.0	31.8	27.0	8.1	5.4	2.0	0.0	6.1
70～74歳	80	86.3	43.8	56.3	38.8	17.5	7.5	5.0	2.5	0.0	7.5
75歳以上	63	92.1	50.8	57.1	30.2	19.0	9.5	4.8	1.6	0.0	4.8

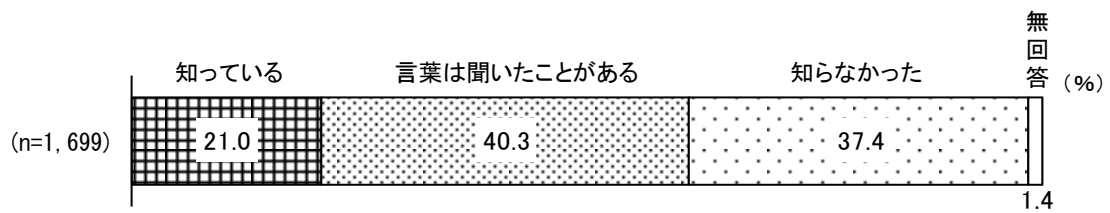
3 「かながわブランド」の認知度【問15】

【全体の状況】

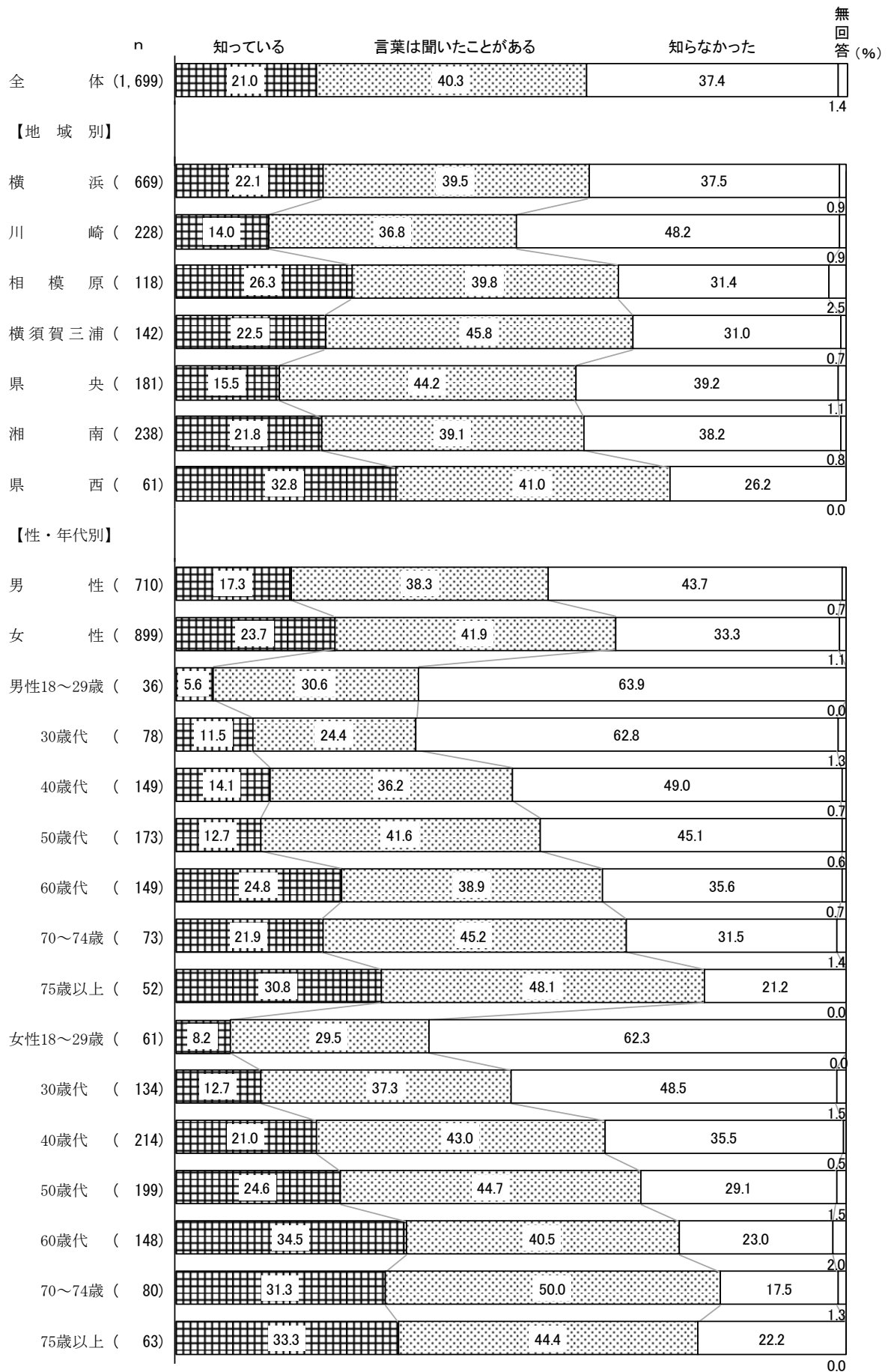
「かながわブランド」という言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が21.0%であった。

一方、「知らなかった」は、37.4%であった。(図表 3-3-1)

図表3-3-1 「かながわブランド」の認知度



図表3-3-2 「かながわブランド」の認知度—地域別、性・年代別

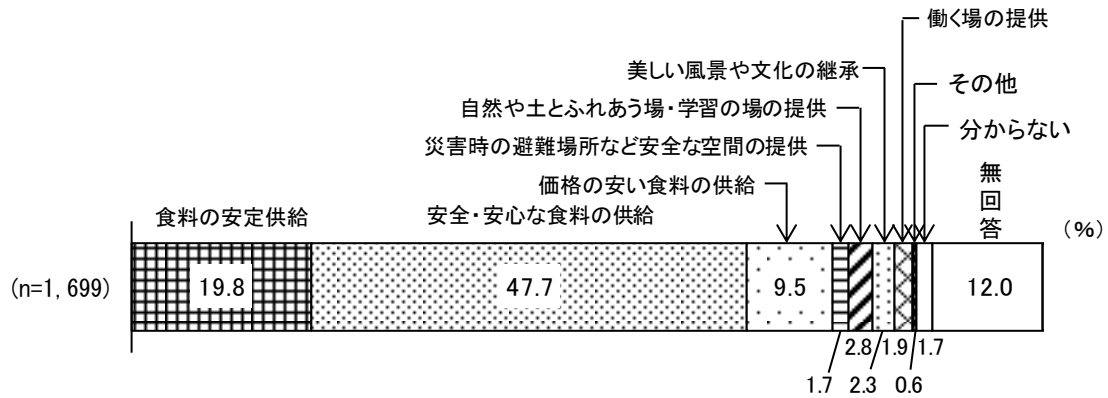


4 県の農業に期待する役割【問16】

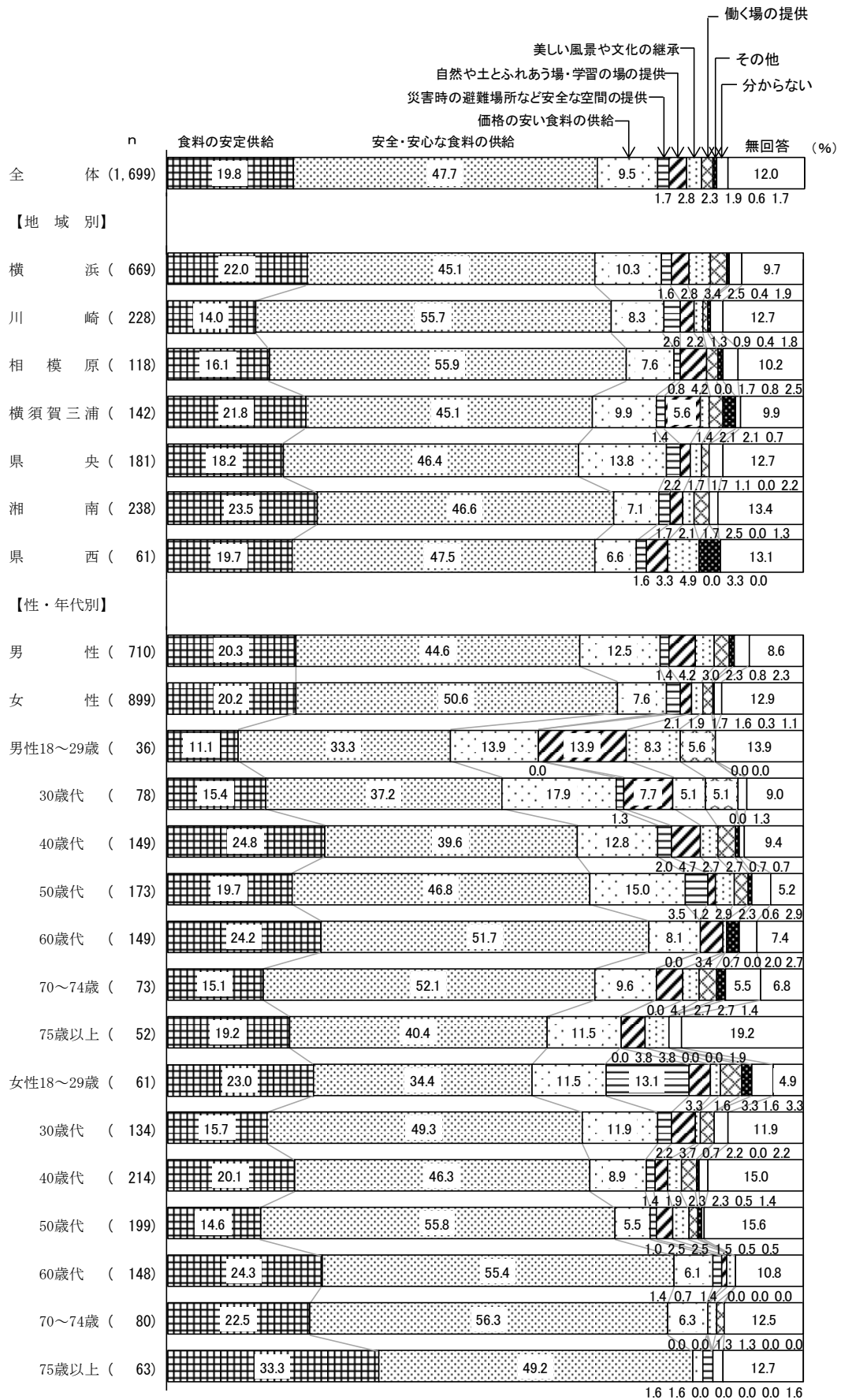
【全体の状況】

県の農業に特にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が47.7%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が19.8%であった。(図表3-4-1)

図表3-4-1 県の農業に期待する役割



図表3-4-2 県の農業に期待する役割—地域別、性・年代別

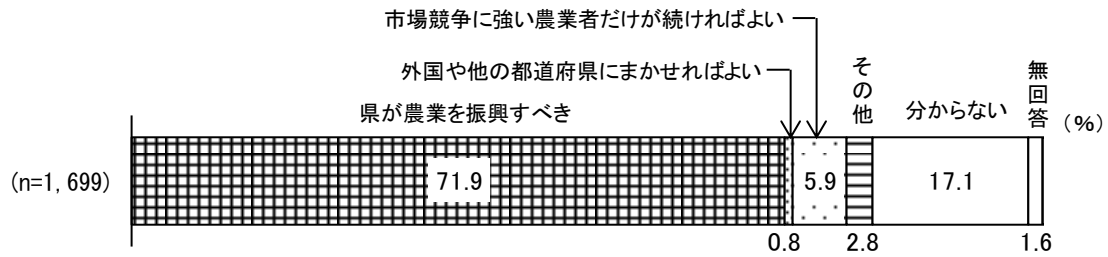


5 今後の県の農業に対する考え【問17】

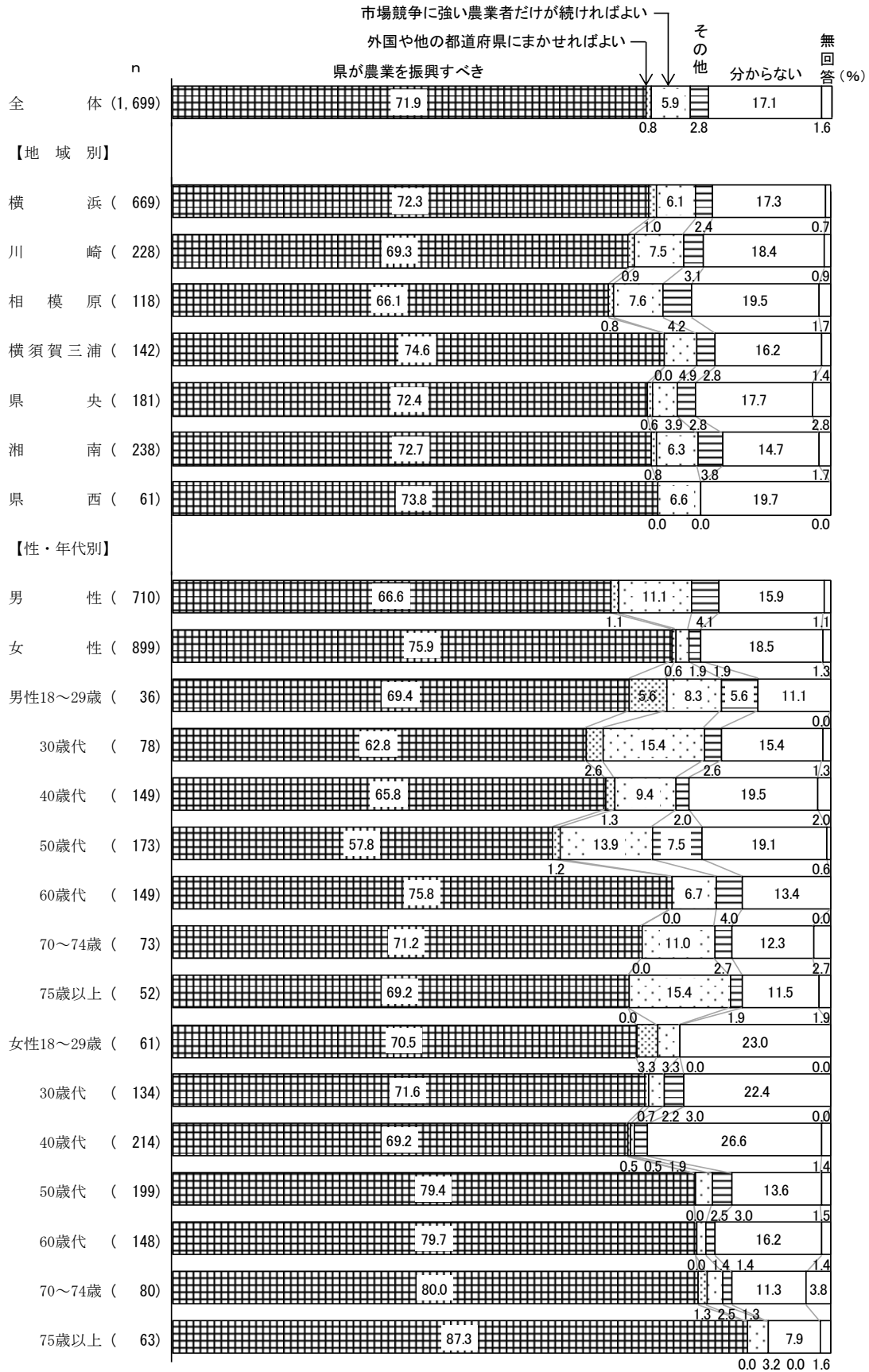
【全体の状況】

今後の県の農業をどのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「県が農業を振興すべき」が71.9%で最も多かった。(図表3-5-1)

図表3-5-1 今後の県の農業に対する考え



図表3-5-2 今後の県の農業に対する考え—地域別、性・年代別



第4章 ともに生きる社会かながわ【問18～問23】

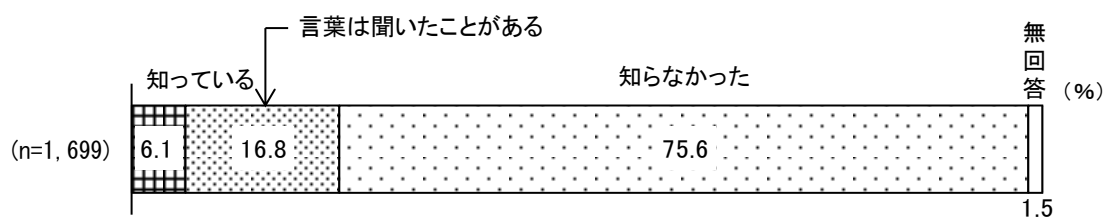
1 ともに生きる社会かながわ憲章の認知度【問18】

【全体の状況】

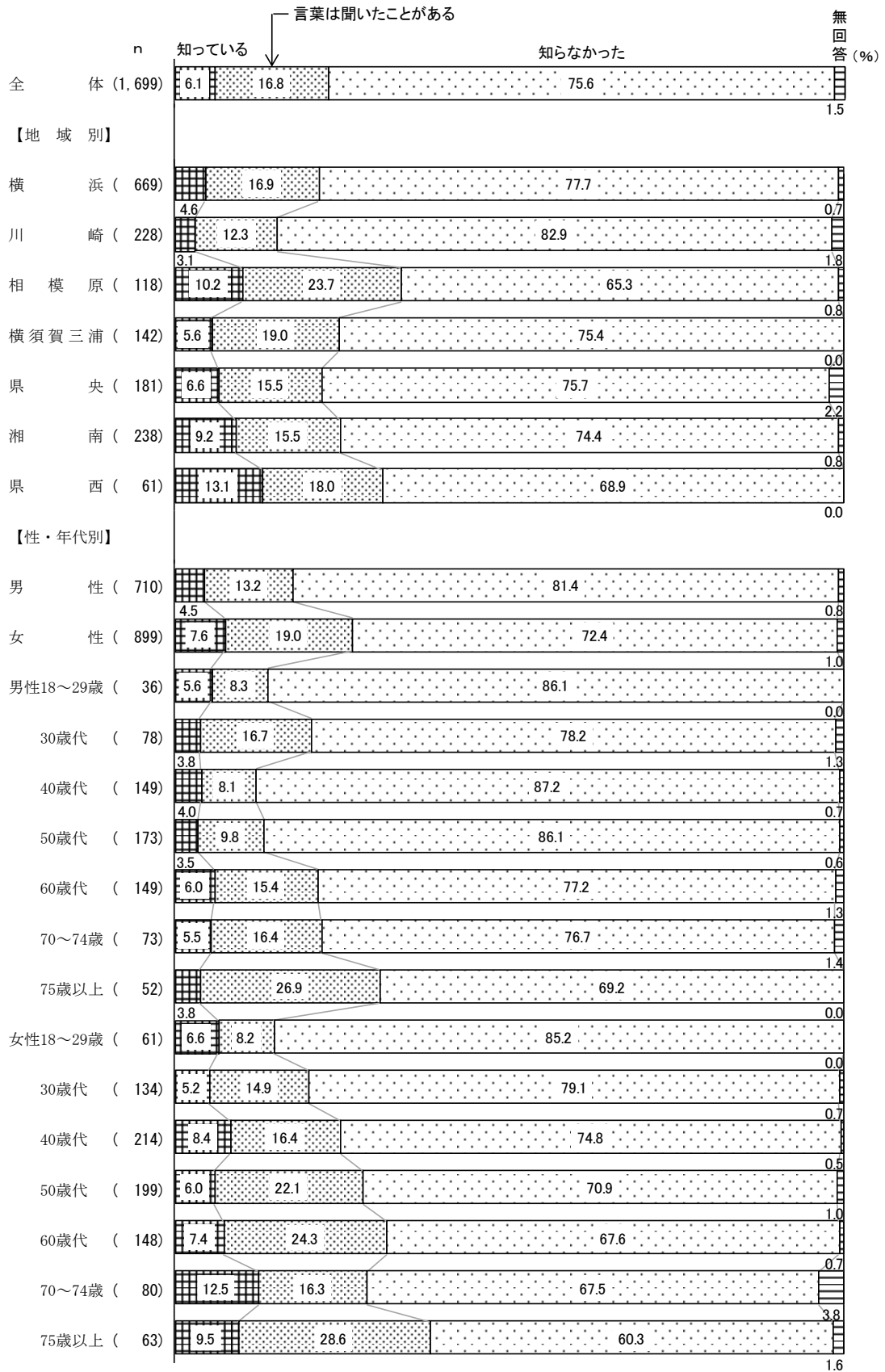
ともに生きる社会かながわ憲章を知っているか尋ねたところ、「知っている」が6.1%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が16.8%であった。

一方、「知らなかった」が75.6%であった。

図表4-1-1 ともに生きる社会かながわ憲章の認知度



図表4-1-2 ともに生きる社会かながわ憲章の認知度—地域別、性・年代別

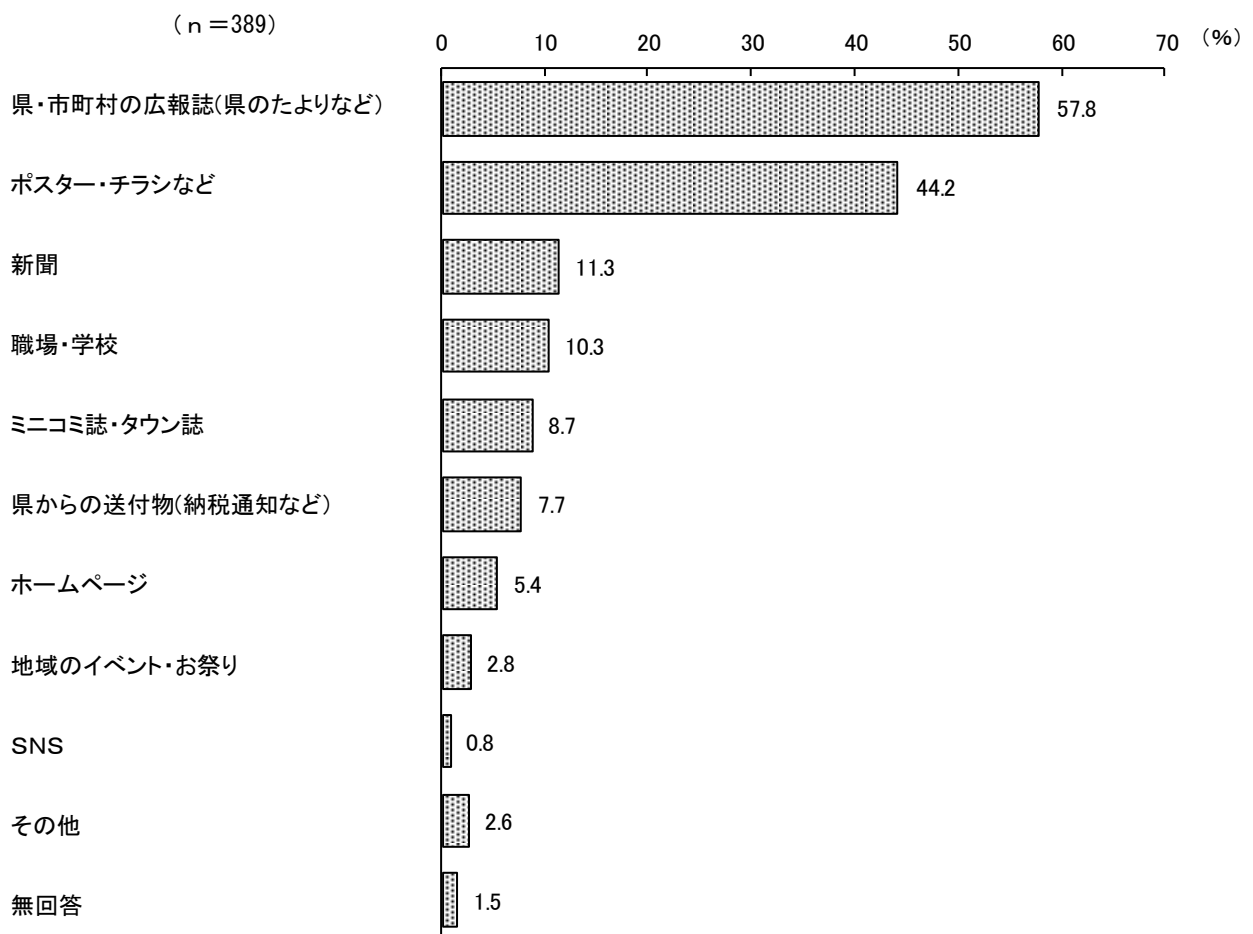


2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法【問18-1】

【全体の状況】

とともに生きる社会かながわ憲章の認知度（問18）で、とともに生きる社会かながわ憲章を「知っている」または、「言葉は聞いたことがある」と回答した389人に何で知ったかを複数回答で尋ねたところ、「県・市町村の広報誌（県のたよりなど）」が57.8%で最も多く、次いで「ポスター・チラシなど」が44.2%であった。（図表4-2-1）

図表4-2-1 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法（複数回答）



図表4-2-2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

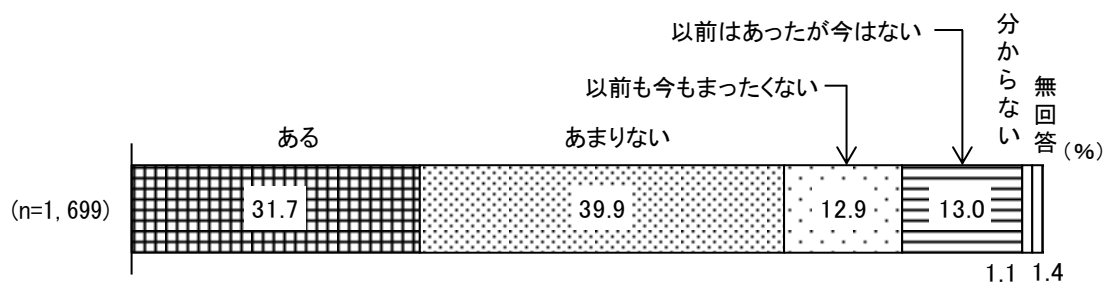
	n	県・市町村の広報誌（県のたよりなど）	ポスター・チラシなど	新聞	職場・学校	ミニコミ誌・タウン誌	県からの送付物（納税通知など）	ホームページ	地域のイベント・お祭り	SNS	その他	無回答
全体	389	57.8	44.2	11.3	10.3	8.7	7.7	5.4	2.8	0.8	2.6	1.5
【地域別】												
横浜	144	56.3	39.6	11.8	6.9	6.3	6.9	2.1	2.1	0.7	3.5	1.4
川崎	35	60.0	40.0	5.7	11.4	22.9	20.0	5.7	8.6	0.0	0.0	0.0
相模原	40	60.0	62.5	12.5	20.0	2.5	10.0	10.0	0.0	2.5	0.0	2.5
横須賀三浦	35	60.0	34.3	11.4	8.6	0.0	2.9	11.4	2.9	0.0	5.7	5.7
県央	40	65.0	45.0	7.5	10.0	10.0	5.0	5.0	0.0	0.0	5.0	2.5
湘南	59	54.2	47.5	18.6	8.5	16.9	8.5	5.1	5.1	1.7	1.7	0.0
県西	19	57.9	42.1	5.3	15.8	5.3	5.3	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0
【性・年代別】												
男性	126	56.3	39.7	15.1	10.3	10.3	12.7	6.3	3.2	1.6	1.6	2.4
女性	239	59.0	45.6	9.6	10.0	8.4	5.4	5.0	2.5	0.4	3.3	0.8
男性18～29歳	5	20.0	60.0	20.0	60.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0
30歳代	16	43.8	62.5	0.0	6.3	6.3	12.5	0.0	6.3	0.0	6.3	0.0
40歳代	18	66.7	33.3	16.7	11.1	5.6	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	23	34.8	43.5	0.0	13.0	0.0	4.3	13.0	4.3	0.0	4.3	8.7
60歳代	32	62.5	34.4	21.9	6.3	25.0	25.0	6.3	3.1	3.1	0.0	0.0
70～74歳	16	75.0	25.0	25.0	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
75歳以上	16	68.8	37.5	25.0	6.3	12.5	12.5	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3
女性18～29歳	9	33.3	66.7	0.0	11.1	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	27	44.4	48.1	11.1	14.8	7.4	0.0	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	53	41.5	50.9	11.3	17.0	3.8	5.7	5.7	1.9	0.0	3.8	0.0
50歳代	56	55.4	55.4	7.1	10.7	7.1	3.6	7.1	1.8	1.8	3.6	1.8
60歳代	47	72.3	34.0	6.4	6.4	14.9	6.4	2.1	2.1	0.0	2.1	2.1
70～74歳	23	87.0	34.8	17.4	4.3	8.7	8.7	4.3	13.0	0.0	4.3	0.0
75歳以上	24	79.2	33.3	12.5	0.0	12.5	4.2	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0

3 身近で障がい者と接する機会【問19】

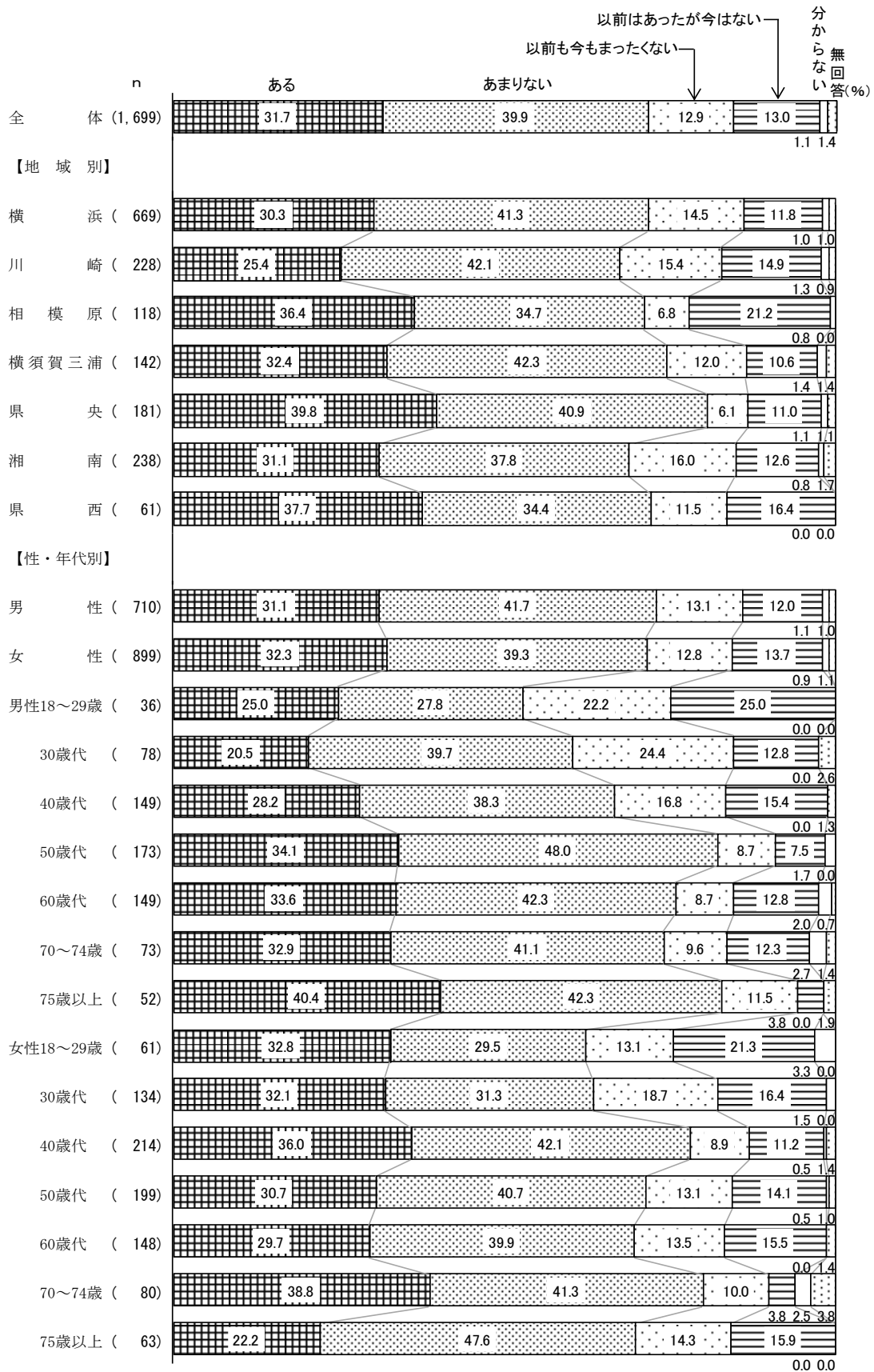
【全体の状況】

身近で障がい者と接する機会の有無について尋ねたところ、「あまりない」が39.9%で最も多く、次いで「ある」が31.7%であった。(図表4-3-1)

図表4-3-1 身近で障がい者と接する機会



図表4-3-2 身近で障がい者と接する機会—地域別、性・年代別



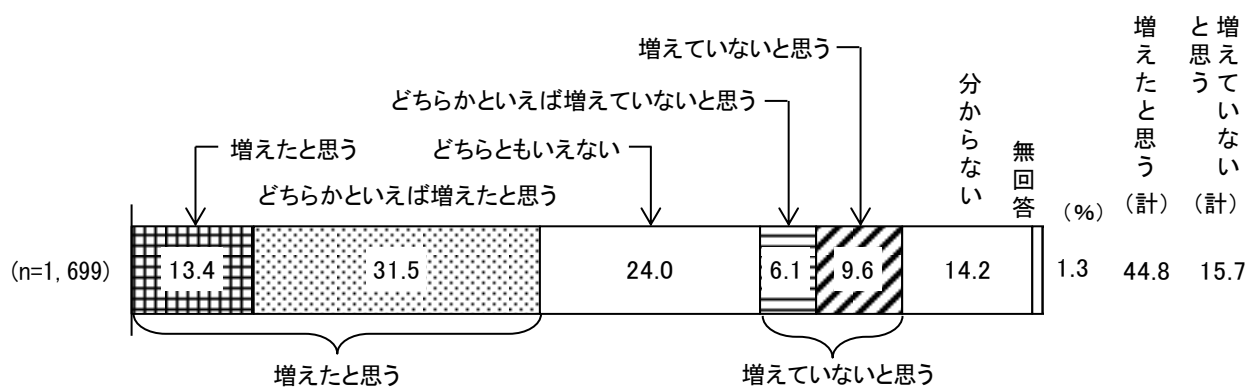
4 障がい者に配慮した行動をとる人【問20】

【全体の状況】

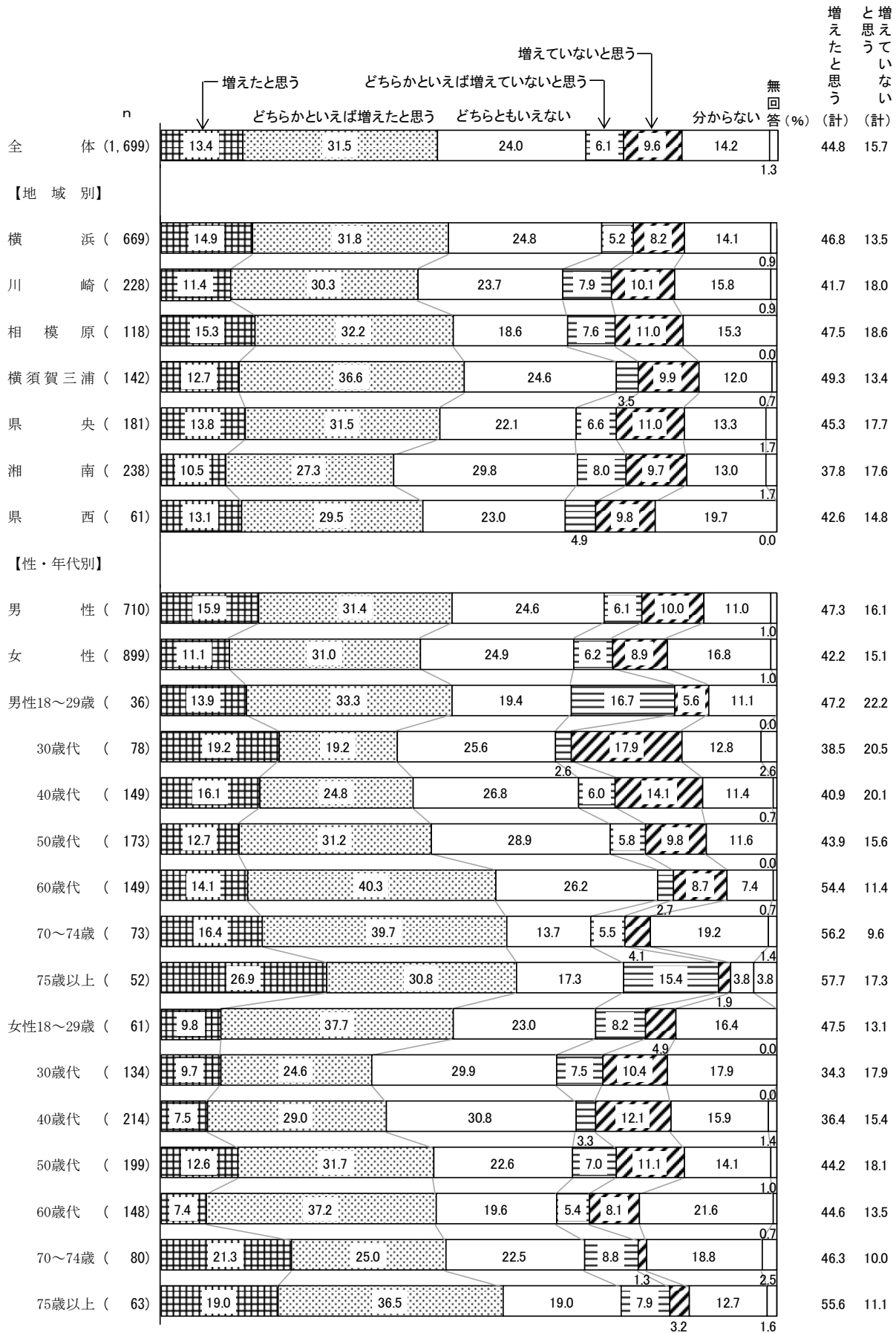
5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「増えたと思う」(13.4%)と「どちらかといえば増えたと思う」(31.5%)を合わせた《増えたと思う》は44.8%であった。

一方、「増えていないと思う」(9.6%)と「どちらかといえば増えていないと思う」(6.1%)を合わせた《増えていないと思う》は15.7%であった。(図表4-4-1)

図表4-4-1 障がい者に配慮した行動をとる人



図表4-4-2 障がい者に配慮した行動をとる人—地域別、性・年代別



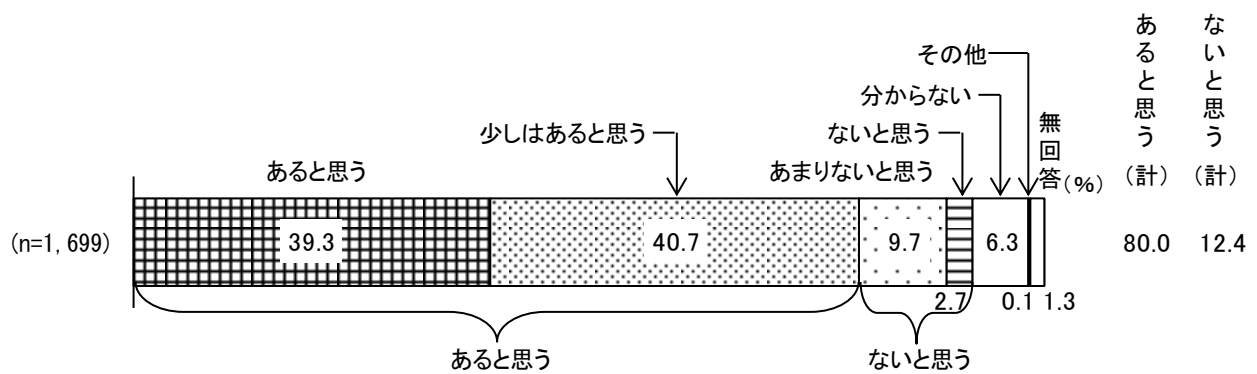
5 障がい者への差別・偏見の有無【問21】

【全体の状況】

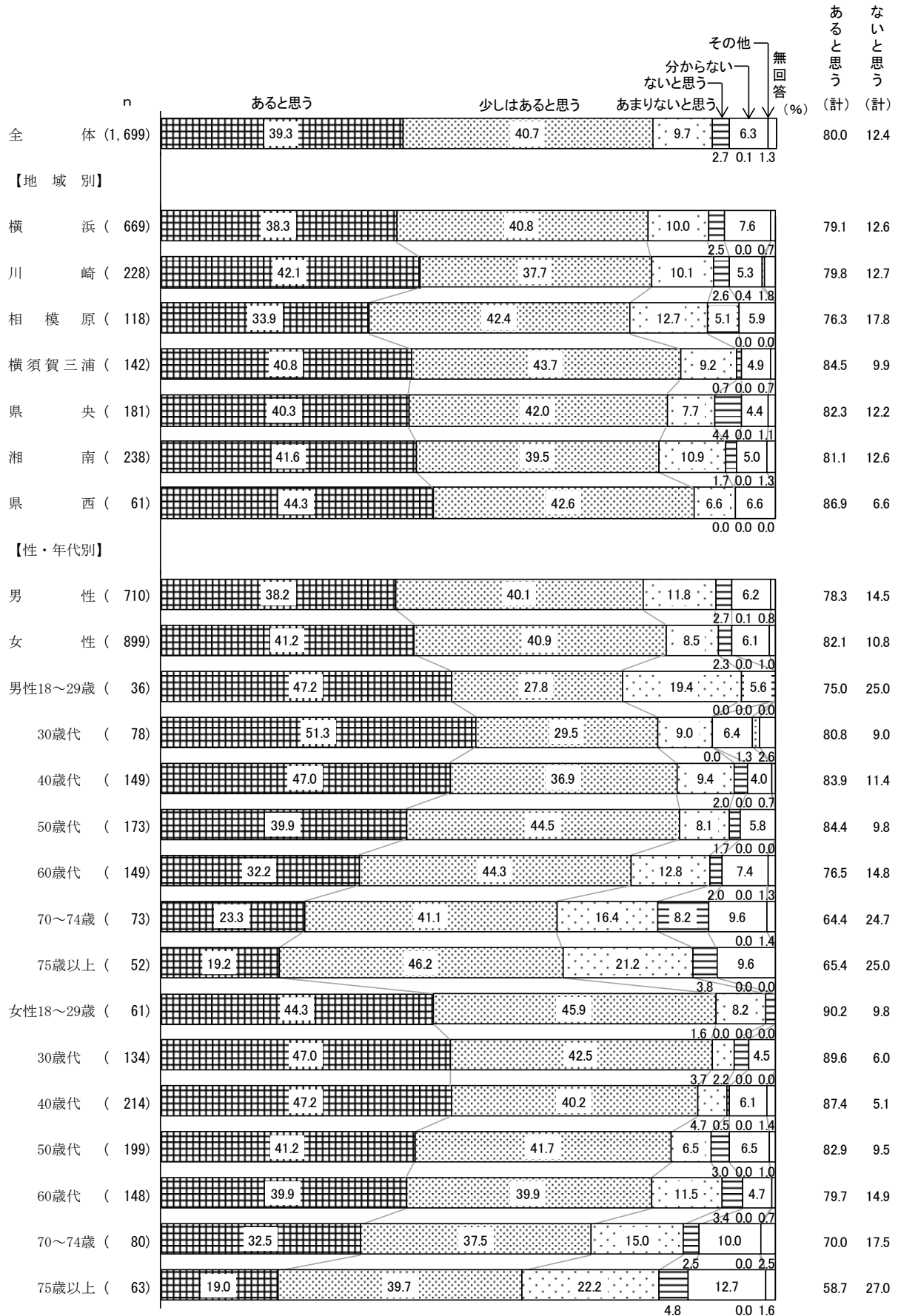
障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(39.3%)と「少しはあると思う」(40.7%)を合わせた《あると思う》は80.0%であった。

一方、「ないと思う」(2.7%)と「あまりないと思う」(9.7%)を合わせた《ないと思う》は12.4%であった。(図表4-5-1)

図表4-5-1 障がい者への差別・偏見の有無



図表4-5-2 障がい者への差別・偏見の有無—地域別、性・年代別

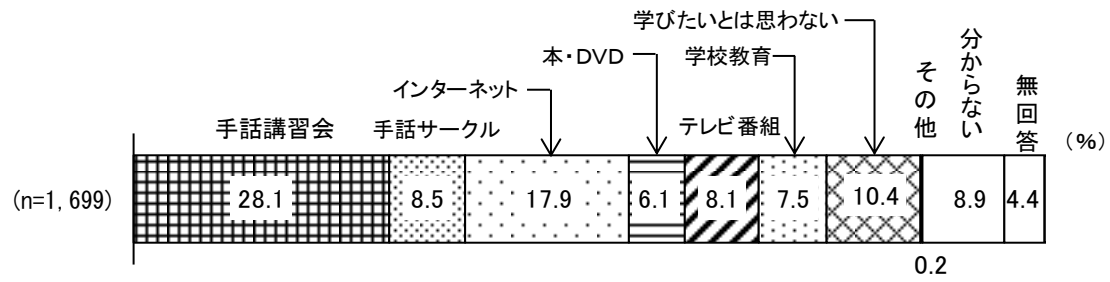


6 希望する手話の学習方法【問22】

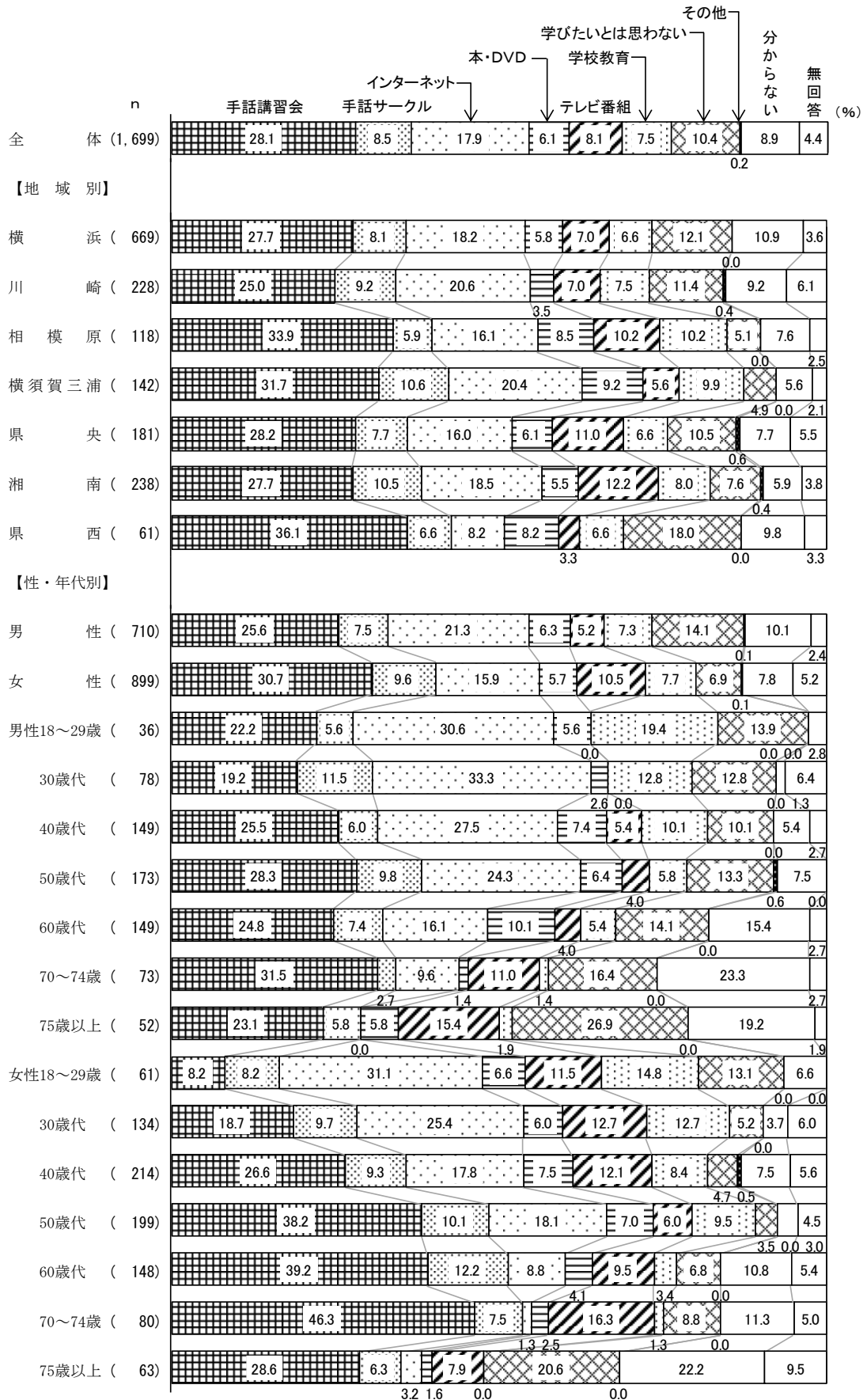
【全体の状況】

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が28.1%で最も多く、次いで「インターネット」が17.9%であった。(図表4-6-1)

図表4-6-1 希望する手話の学習方法



図表4-6-2 希望する手話の学習方法—地域別、性・年代別

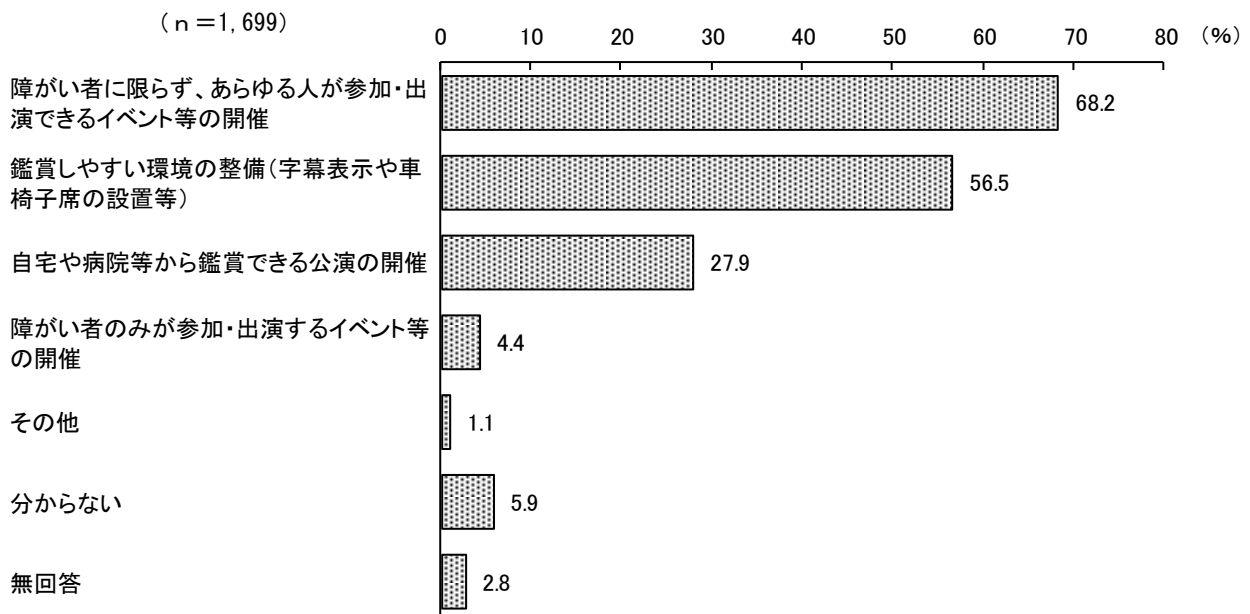


7 文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組み【問23】

【全体の状況】

障がいの程度にかかわらず、あらゆる人が文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組みについて複数回答で尋ねたところ、「障がい者に限らず、あらゆる人が参加・出演できるイベント等の開催」が68.2%で最も多く、次いで「鑑賞しやすい環境の整備（字幕表示や車椅子席の設置等）」が56.5%であった。（図表4-7-1）

図表4-7-1 文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組み（複数回答）



図表4-7-2 文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	障がい者 参加・出演 に限らず、 あらゆる人 が	鑑賞しやすい 環境の整備 （字幕表 示や車椅子 席の設置等）	自宅や病院等 から鑑賞でき る公演の開催	障がい者のみ が参加・出演 するイベント 等の開催	その他	分からない	無回答
全 体	1,699	68.2	56.5	27.9	4.4	1.1	5.9	2.8
【地 域 別】								
横 浜	669	66.5	52.9	27.4	3.4	1.2	7.5	2.8
川 崎	228	71.1	63.6	26.8	4.4	0.9	2.6	2.2
相 模 原	118	66.1	62.7	27.1	5.1	0.8	7.6	1.7
横 須 賀 三 浦	142	67.6	53.5	31.0	4.9	1.4	4.2	3.5
県 央	181	64.1	60.2	30.9	6.1	0.6	6.6	1.7
湘 南	238	73.9	58.4	28.2	3.8	1.3	3.8	2.9
県 西	61	70.5	50.8	24.6	4.9	1.6	6.6	8.2
【性・年代別】								
男 性	710	67.2	52.5	23.7	4.5	1.1	7.3	2.4
女 性	899	69.3	60.6	31.7	3.9	1.1	4.4	2.9
男性18～29歳	36	63.9	50.0	11.1	5.6	0.0	8.3	0.0
30歳代	78	57.7	41.0	35.9	7.7	2.6	10.3	3.8
40歳代	149	71.1	57.0	24.8	3.4	2.0	3.4	1.3
50歳代	173	64.7	53.2	29.5	5.8	0.6	6.9	1.2
60歳代	149	69.1	58.4	21.5	2.7	0.0	9.4	3.4
70～74歳	73	76.7	50.7	11.0	1.4	1.4	5.5	1.4
75歳以上	52	61.5	42.3	15.4	7.7	1.9	11.5	7.7
女性18～29歳	61	77.0	45.9	36.1	6.6	0.0	3.3	0.0
30歳代	134	71.6	56.7	38.1	4.5	0.0	3.0	2.2
40歳代	214	66.4	62.1	34.1	3.3	1.4	4.2	3.3
50歳代	199	69.3	69.8	39.2	1.0	2.5	3.0	1.0
60歳代	148	68.9	63.5	25.7	3.4	0.7	4.1	5.4
70～74歳	80	73.8	58.8	17.5	8.8	0.0	6.3	2.5
75歳以上	63	61.9	44.4	14.3	6.3	1.6	12.7	6.3

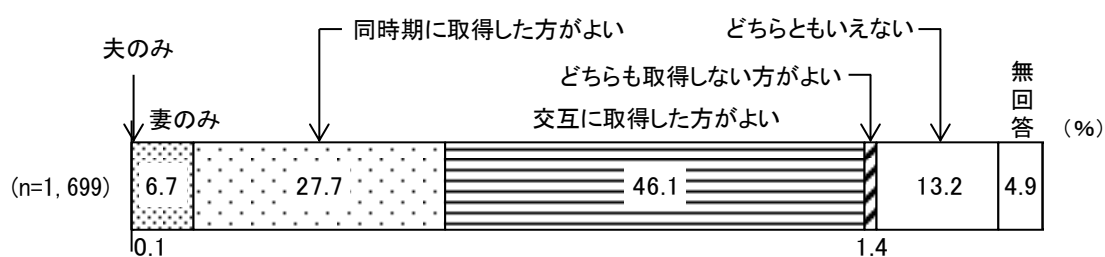
第5章 男女共同参画【問24～問27】

1 共働き家庭での育休取得【問24】

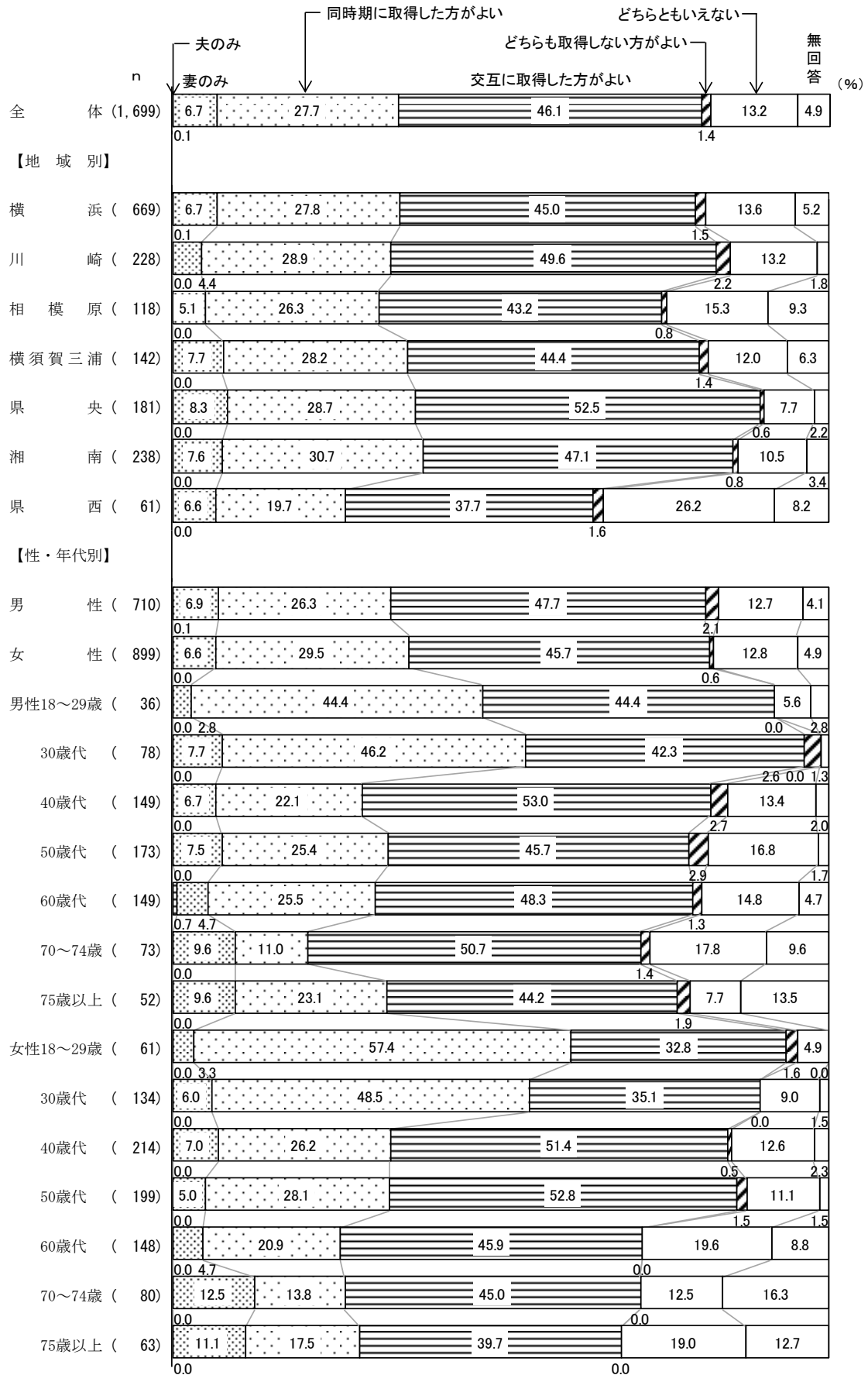
【全体の状況】

夫婦共に働く家庭では、育休はどちらが取得した方がよいか尋ねたところ、「交互に取得した方がよい」が46.1%で最も多く、次いで「同時期に取得した方がよい」が27.7%であった。(図表5-1-1)

図表5-1-1 共働き家庭での育休取得



図表5-1-2 共働き家庭での育休取得—地域別、性・年代別

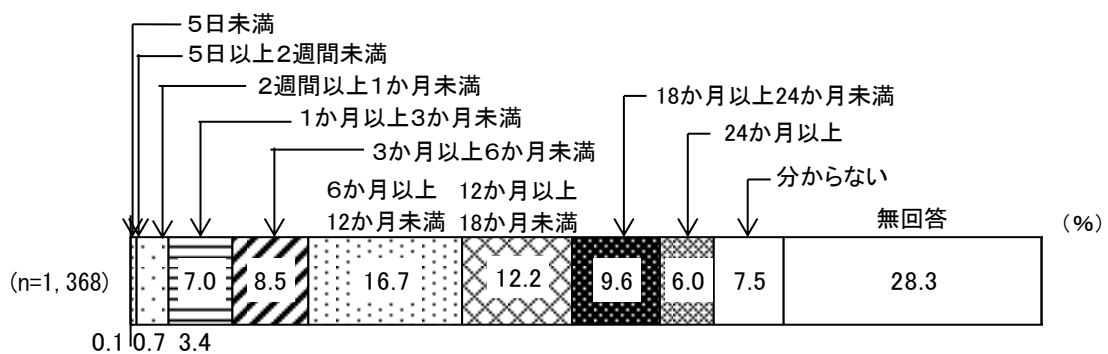


2 妻が取得した方がよい育休期間【問24-1】

【全体の状況】

共働き家庭での育休取得（問24）で、「夫のみ」、「妻のみ」、「同時期に取得した方がよい」、「交互に取得した方がよい」と回答した1,368人に、妻について育休はどのくらいの期間取得したらよいか尋ねたところ、「6か月以上12か月未満」が16.7%で最も多く、次いで「12か月以上18か月未満」が12.2%であった。（図表5-2-1）

図表5-2-1 妻が取得した方がよい育休期間



図表5-2-2 妻が取得した方がよい育休期間—地域別、性・年代別

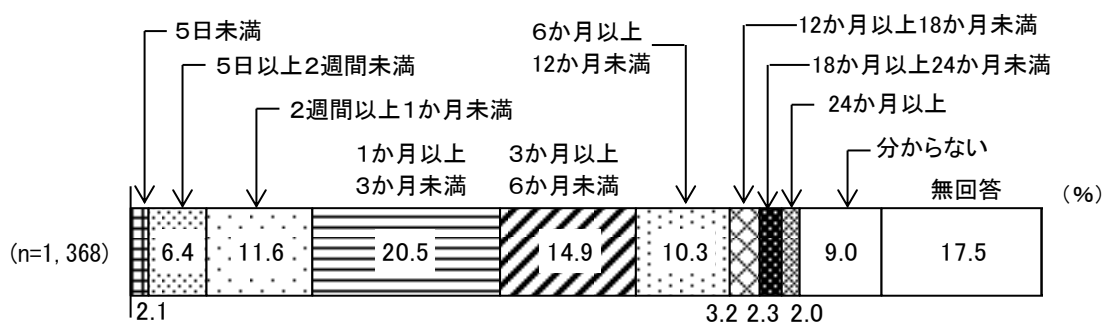


3 夫が取得した方がよい育休期間【問24-1】

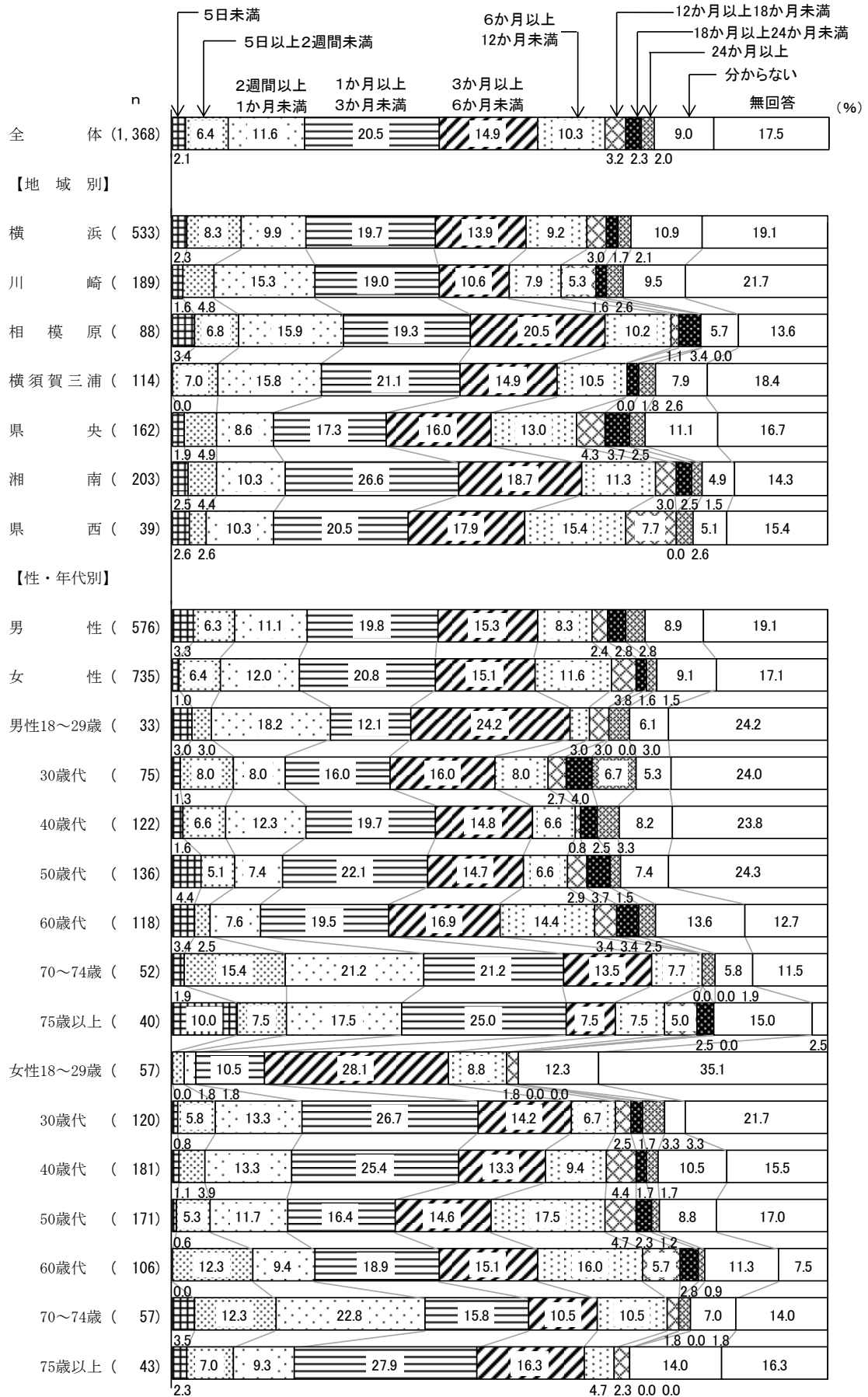
【全体の状況】

共働き家庭での育休取得（問24）で、「夫のみ」、「妻のみ」、「同時期に取得した方がよい」、「交互に取得した方がよい」と回答した1,368人に、夫について育休はどのくらいの期間取得したらよいか尋ねたところ、「1か月以上3か月未満」が20.5%で最も多く、次いで「3か月以上6か月未満」が14.9%であった。（図表5-3-1）

図表5-3-1 夫が取得した方がよい育休期間



図表5-3-2 夫が取得した方がよい育休期間—地域別、性・年代別



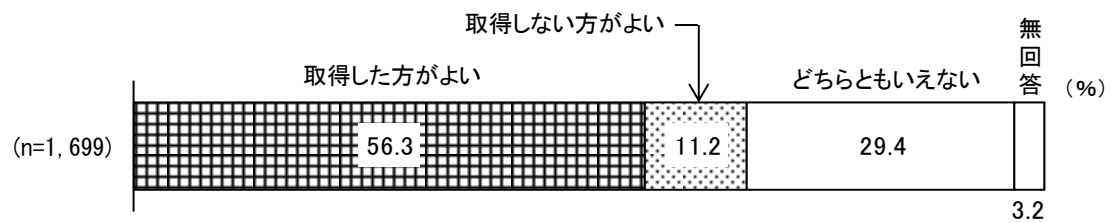
4 妻が無職の家庭での夫の育休取得【問25】

【全体の状況】

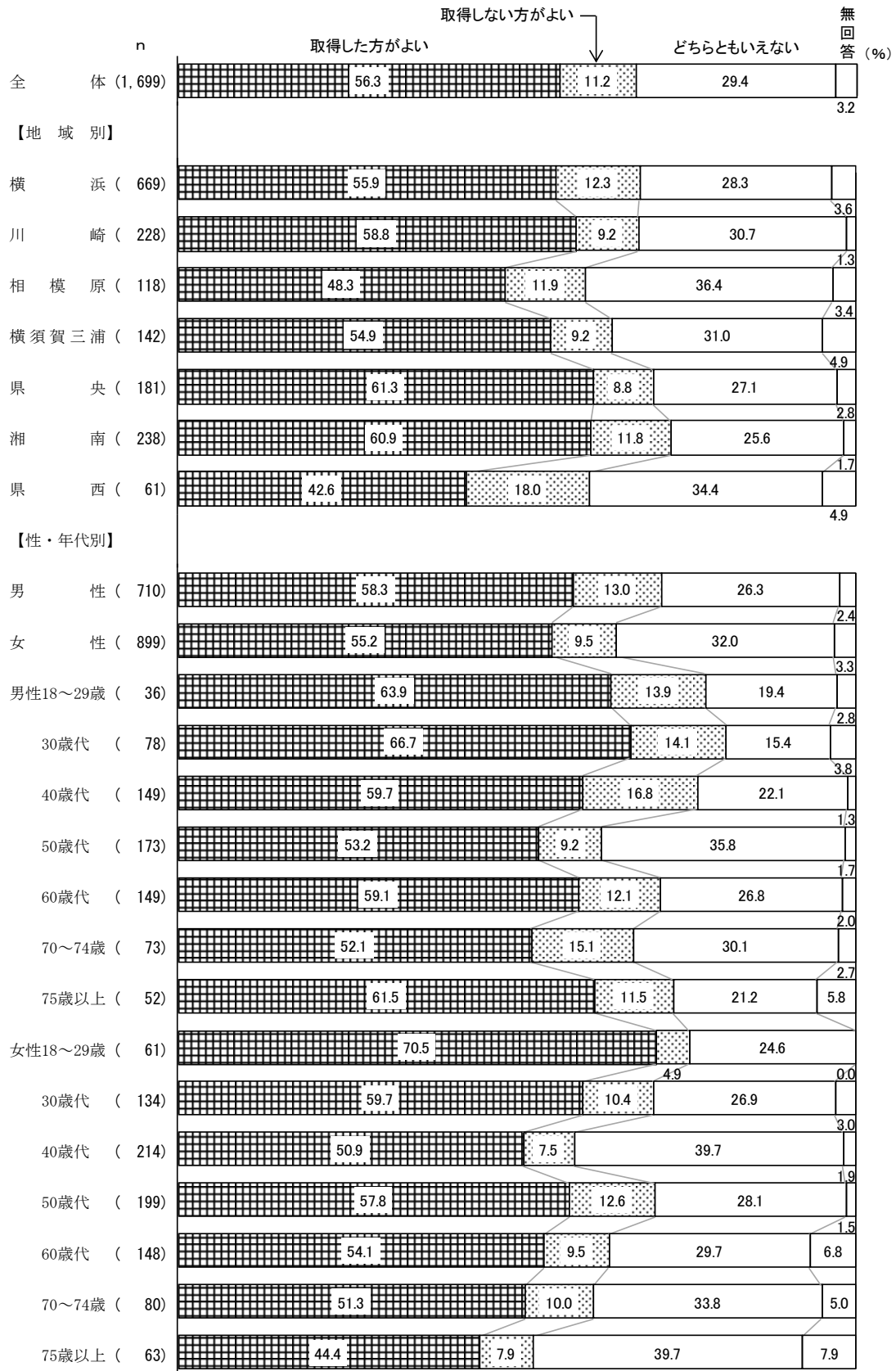
妻が無職(専業主婦)の家庭では、夫は育休を取得した方がよいか尋ねたところ、「取得した方がよい」が56.3%であった。

一方、「取得しない方がよい」が11.2%であった。(図表 5-4-1)

図表5-4-1 妻が無職の家庭での夫の育休取得



図表5-4-2 妻が無職の家庭での夫の育休取得—地域別、性・年代別



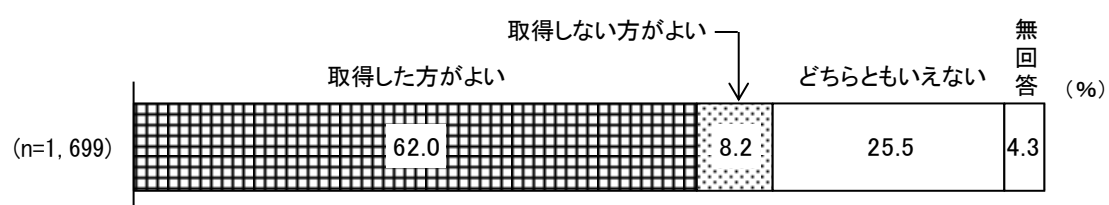
5 夫が無職の家庭での妻の育休取得【問25】

【全体の状況】

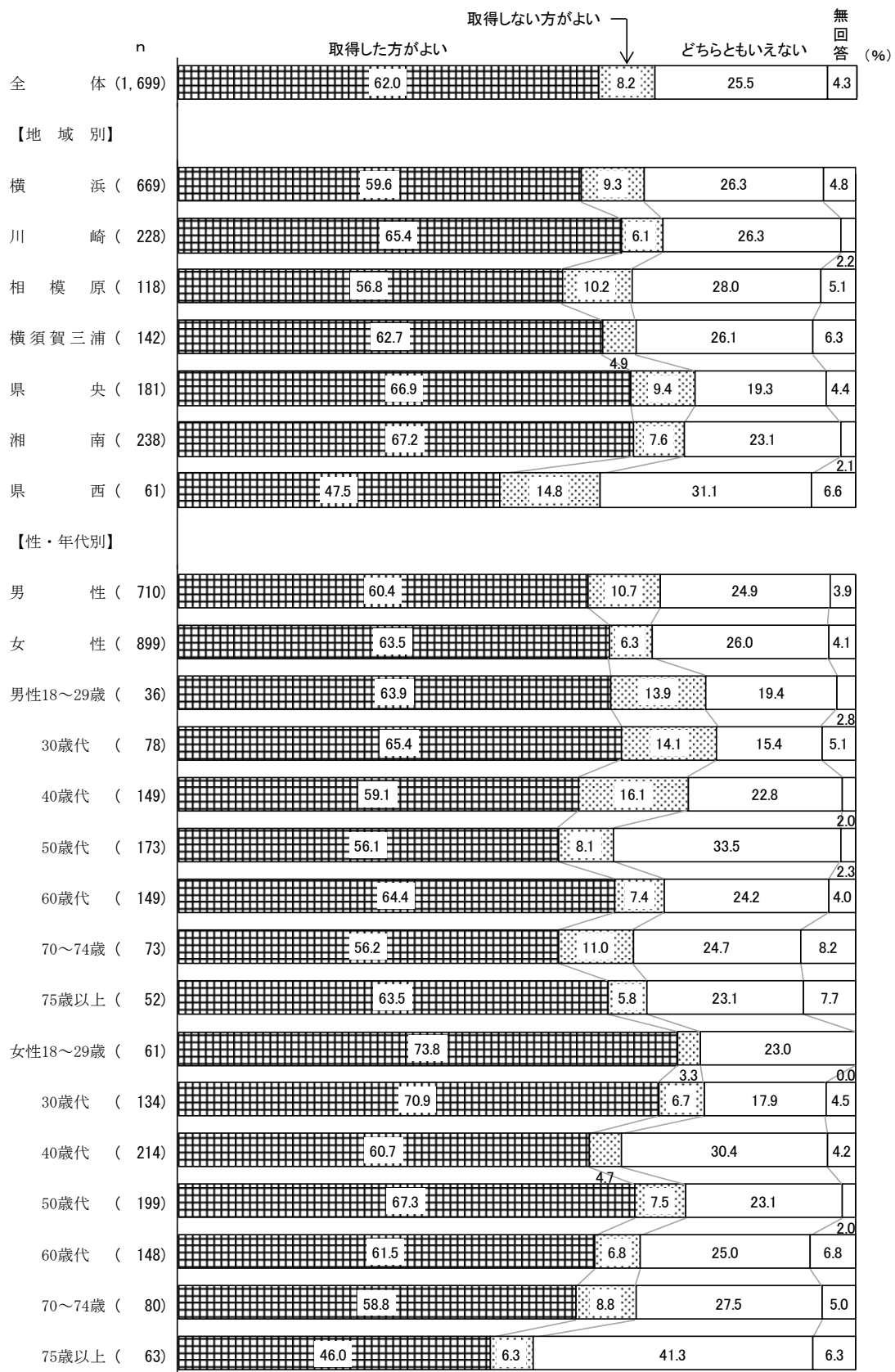
夫が無職(専業主夫)の家庭では、妻は育休を取得した方がよいか尋ねたところ、「取得した方がよい」が62.0%であった。

一方、「取得しない方がよい」が8.2%であった。(図表5-5-1)

図表5-5-1 夫が無職の家庭での妻の育休取得



図表5-5-2 夫が無職の家庭での妻の育休取得—地域別、性・年代別

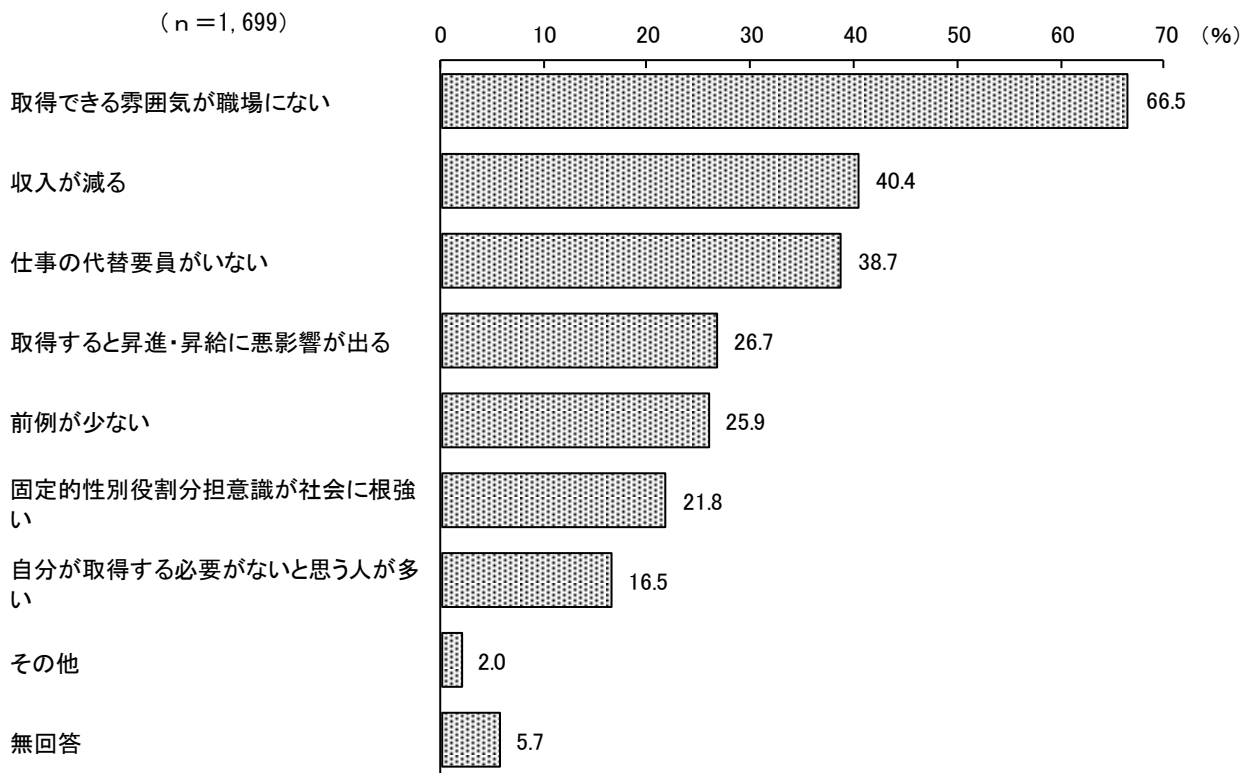


6 男性の育休取得が進まない原因【問26】

【全体の状況】

制度上は男女共に育休を取得できるにもかかわらず、男性の育休取得が進まない原因を複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「取得できる雰囲気職場にない」が66.5%で最も多く、次いで「収入が減る」が40.4%であった。（図表5-6-1）

図表5-6-1 男性の育休取得が進まない原因（複数回答）



図表5-6-2 男性の育休取得が進まない原因（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

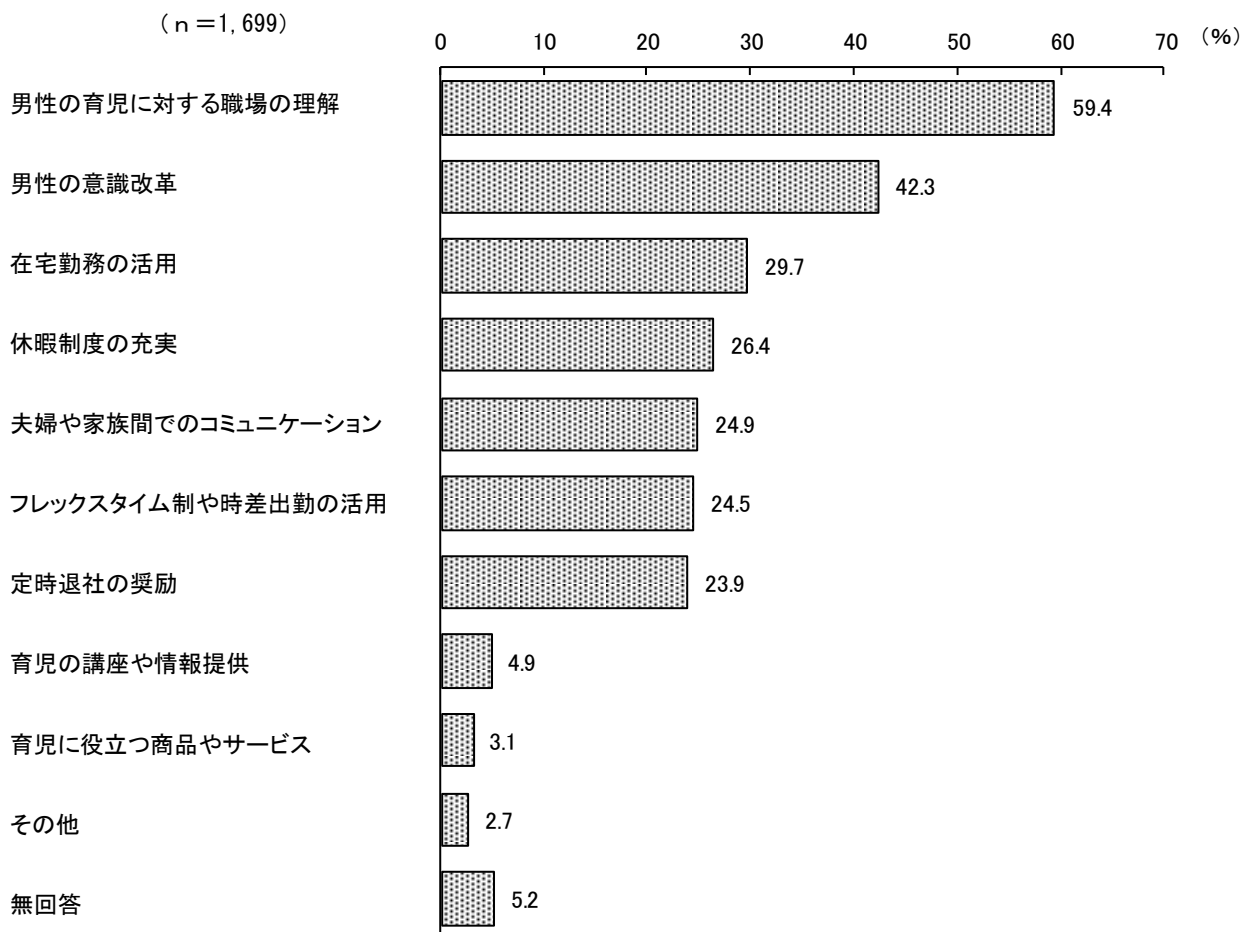
	n	取得できる雰囲気 が職場にない	収入が減る	仕事の代替要員 がない	取得すると昇進・昇給に悪影響が出る	前例が少ない	根強い固定的性別役割分担意識が社会に	自分が多い	自分が取得する必要がないと思う	その他	無回答
全 体	1,699	66.5	40.4	38.7	26.7	25.9	21.8	16.5	2.0	5.7	
【地 域 別】											
横 浜	669	65.3	38.1	38.3	26.2	24.4	19.4	16.6	1.8	5.4	
川 崎	228	68.4	40.8	34.6	28.5	26.8	21.5	19.7	1.8	5.3	
相 模 原	118	62.7	37.3	36.4	25.4	22.9	25.4	17.8	0.8	8.5	
横 須 賀 三 浦	142	61.3	42.3	35.9	32.4	28.9	22.5	18.3	4.2	6.3	
県 央	181	72.4	51.9	44.2	25.4	30.4	18.2	12.7	1.7	5.0	
湘 南	238	73.1	39.1	39.1	28.6	24.4	27.3	13.4	2.9	4.2	
県 西	61	57.4	37.7	44.3	18.0	36.1	27.9	18.0	1.6	4.9	
【性・年代別】											
男 性	710	61.8	42.1	48.5	24.5	24.9	16.8	14.1	2.5	3.8	
女 性	899	71.2	39.0	30.4	29.1	27.6	26.1	18.7	1.6	6.2	
男性18～29歳	36	63.9	44.4	41.7	36.1	36.1	13.9	11.1	0.0	2.8	
30歳代	78	59.0	48.7	52.6	28.2	21.8	14.1	14.1	3.8	5.1	
40歳代	149	63.1	49.7	57.0	32.2	23.5	8.7	8.1	1.3	1.3	
50歳代	173	53.8	49.1	42.8	24.3	26.6	11.6	17.3	5.8	1.7	
60歳代	149	72.5	33.6	47.0	16.8	29.5	26.8	18.1	0.0	3.4	
70～74歳	73	64.4	35.6	57.5	17.8	20.5	26.0	8.2	0.0	5.5	
75歳以上	52	53.8	19.2	32.7	21.2	13.5	21.2	19.2	5.8	15.4	
女性18～29歳	61	72.1	47.5	32.8	47.5	29.5	4.9	21.3	3.3	0.0	
30歳代	134	80.6	45.5	36.6	29.1	29.1	17.2	20.9	1.5	4.5	
40歳代	214	67.3	43.9	32.7	30.4	22.4	22.9	21.0	1.9	6.5	
50歳代	199	76.9	37.7	31.7	30.7	33.7	29.6	15.6	1.0	4.0	
60歳代	148	69.6	33.1	25.0	28.4	27.7	40.5	18.9	1.4	5.4	
70～74歳	80	65.0	32.5	26.3	17.5	27.5	25.0	16.3	2.5	12.5	
75歳以上	63	57.1	27.0	20.6	19.0	20.6	33.3	15.9	0.0	15.9	

7 男性が積極的に育児にかかわるために必要なこと【問27】

【全体の状況】

男性が積極的に育児にかかわるために必要なことを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「男性の育児に対する職場の理解」が59.4%で最も多く、次いで「男性の意識改革」が42.3%であった。（図表 5-7-1）

図表5-7-1 男性が積極的に育児にかかわるために必要なこと（複数回答）



図表5-7-2 男性が積極的に育児にかかわるために必要なこと（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	男性の育児に対する職場の理解	男性の意識改革	在宅勤務の活用	休暇制度の充実	夫婦や家族間でのコミュニケーション	フレックスタイム制や時差出勤の活用	定時退社の奨励	育児の講座や情報提供	育児に役立つ商品やサービス	その他	無回答
全体	1,699	59.4	42.3	29.7	26.4	24.9	24.5	23.9	4.9	3.1	2.7	5.2
【地域別】												
横浜	669	57.0	41.3	31.2	26.5	23.5	22.3	21.8	5.5	3.3	3.4	5.8
川崎	228	56.6	40.4	34.2	25.4	27.2	22.4	27.2	4.8	3.5	1.8	5.3
相模原	118	60.2	37.3	25.4	26.3	28.0	28.8	21.2	5.9	1.7	0.0	5.9
横須賀三浦	142	53.5	47.2	35.9	20.4	29.6	21.1	21.8	1.4	3.5	3.5	5.6
県央	181	62.4	43.1	29.8	26.5	23.8	29.8	28.2	6.1	2.8	2.8	3.3
湘南	238	70.6	46.6	25.2	32.8	25.2	26.1	24.4	4.2	1.7	2.5	2.5
県西	61	63.9	41.0	18.0	26.2	21.3	29.5	27.9	8.2	3.3	3.3	4.9
【性・年代別】												
男性	710	57.0	37.0	33.5	30.8	22.1	19.7	25.6	3.4	3.4	4.1	3.7
女性	899	62.2	47.2	27.9	23.8	27.5	27.7	22.4	6.3	2.7	1.7	5.3
男性18~29歳	36	69.4	25.0	30.6	38.9	27.8	11.1	38.9	0.0	2.8	2.8	5.6
30歳代	78	52.6	38.5	46.2	33.3	23.1	15.4	26.9	3.8	3.8	10.3	2.6
40歳代	149	55.0	37.6	32.9	32.2	22.1	14.1	23.5	4.0	6.0	4.0	3.4
50歳代	173	54.9	34.7	37.0	32.9	24.3	15.0	22.5	2.9	3.5	5.8	1.2
60歳代	149	64.4	40.9	28.2	22.8	17.4	31.5	28.9	4.0	2.0	1.3	3.4
70~74歳	73	60.3	39.7	30.1	38.4	23.3	24.7	19.2	2.7	1.4	0.0	5.5
75歳以上	52	42.3	34.6	26.9	23.1	21.2	23.1	30.8	3.8	1.9	3.8	11.5
女性18~29歳	61	63.9	34.4	41.0	29.5	31.1	3.3	36.1	14.8	6.6	1.6	0.0
30歳代	134	70.1	41.8	28.4	26.1	27.6	23.1	26.9	6.7	3.7	1.5	2.2
40歳代	214	60.3	52.8	29.9	23.4	28.5	23.8	24.3	4.7	2.3	1.4	4.7
50歳代	199	63.8	50.8	32.2	23.1	27.6	30.2	18.6	7.5	2.5	2.0	2.5
60歳代	148	64.2	44.6	23.6	22.3	27.7	39.2	14.9	6.1	1.4	1.4	6.8
70~74歳	80	55.0	42.5	21.3	18.8	28.8	40.0	21.3	3.8	2.5	1.3	12.5
75歳以上	63	49.2	52.4	12.7	27.0	17.5	23.8	23.8	3.2	1.6	3.2	15.9

第6章 神奈川県の人権【問28～問31】

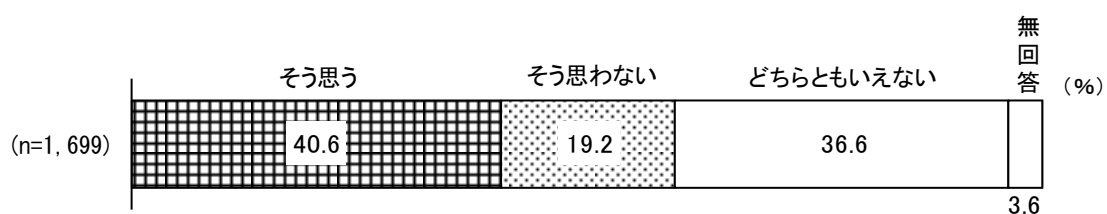
1 基本的人権が尊重されている社会か【問28】

【全体の状況】

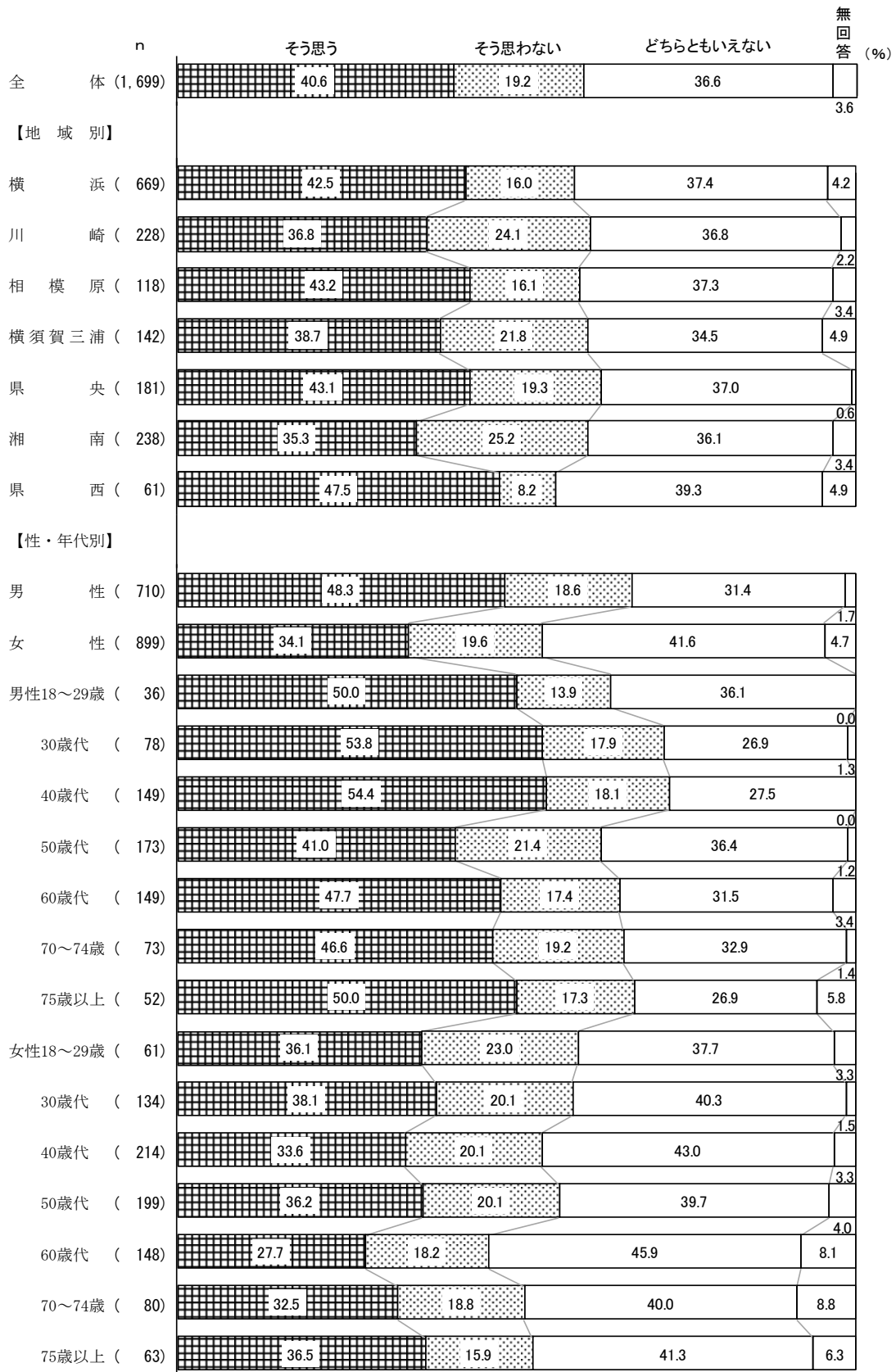
今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思うか尋ねたところ、「そう思う」が40.6%であった。

一方、「そう思わない」が19.2%であった。(図表6-1-1)

図表6-1-1 基本的人権が尊重されている社会か



図表6-1-2 基本的人権が尊重されている社会か—地域別、性・年代別

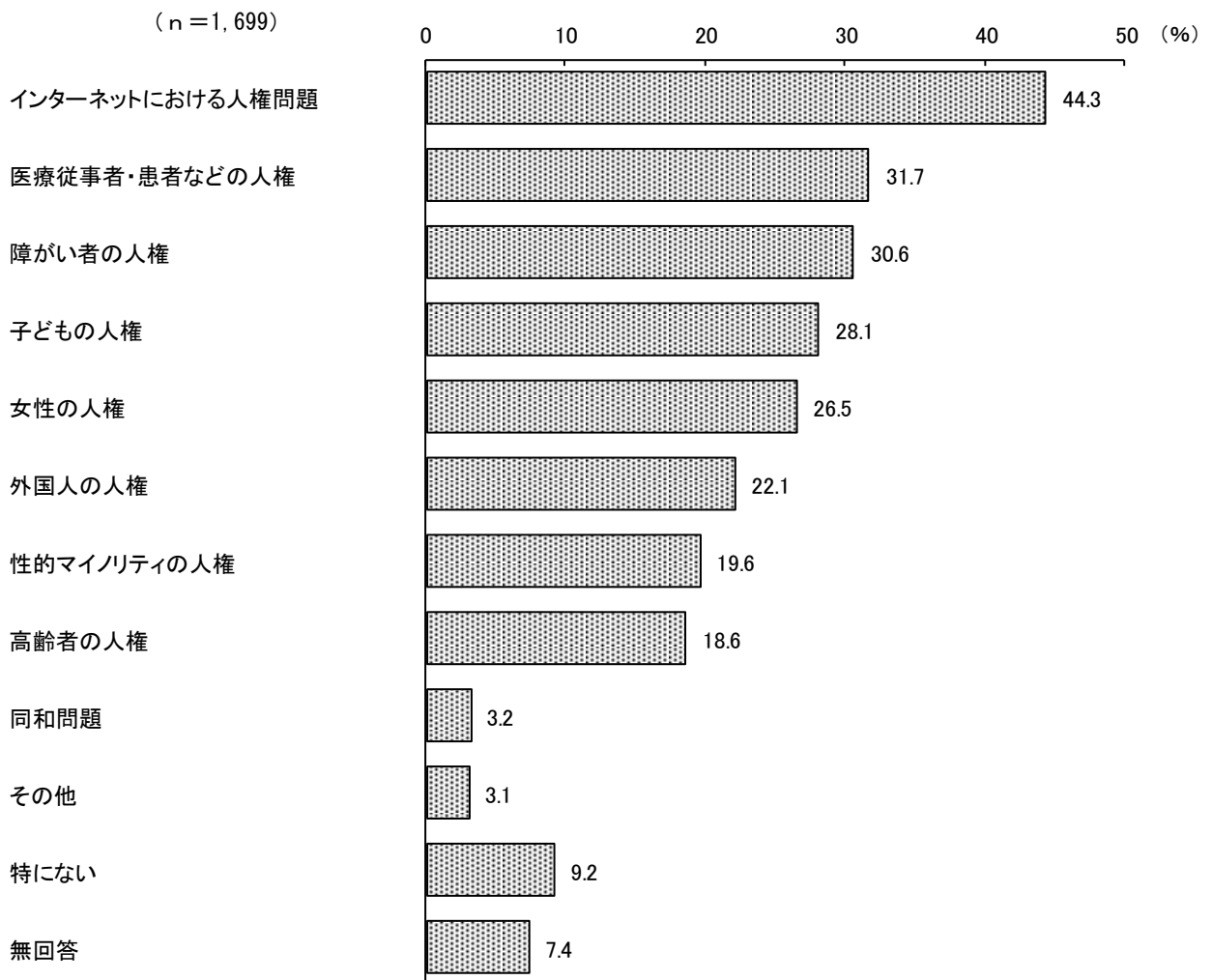


2 普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題【問29】

【全体の状況】

普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が44.3%で最も多く、次いで「医療従事者・患者などの人権」が31.7%であった。（図表6-2-1）

図表6-2-1 普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題（複数回答）



図表6-2-2 普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)													
	n	インターネットにおける人権問題	医療従事者・患者などの人権	障がい者の人権	子どもの人権	女性の人権	外国人の人権	性的マイノリティの人権	高齢者の人権	同和問題	その他	特にない	無回答
全 体	1,699	44.3	31.7	30.6	28.1	26.5	22.1	19.6	18.6	3.2	3.1	9.2	7.4
【地 域 別】													
横 浜	669	45.6	30.6	29.1	26.8	27.1	22.1	21.2	17.3	3.3	2.4	10.5	7.3
川 崎	228	40.8	25.9	32.0	24.1	28.9	24.6	22.8	22.8	4.8	2.6	11.0	6.6
相 模 原	118	49.2	32.2	32.2	33.1	25.4	17.8	15.3	20.3	1.7	5.1	7.6	7.6
横 須 賀 三 浦	142	39.4	37.3	30.3	37.3	24.6	20.4	16.2	23.2	2.1	2.8	6.3	9.2
県 央	181	43.6	37.6	28.2	29.3	30.9	23.8	16.0	19.9	2.2	4.4	7.7	5.5
湘 南	238	47.1	30.3	34.9	27.7	24.8	23.1	21.8	14.7	3.4	3.4	8.0	7.6
県 西	61	45.9	32.8	31.1	29.5	13.1	14.8	13.1	8.2	1.6	3.3	6.6	11.5
【性・年代別】													
男 性	710	44.9	28.9	30.1	25.9	20.3	25.2	18.0	18.3	3.7	4.1	9.7	6.6
女 性	899	44.8	33.9	31.0	30.1	31.9	19.9	21.6	18.4	2.7	2.2	8.7	7.9
男性18～29歳	36	44.4	27.8	38.9	22.2	13.9	19.4	22.2	19.4	2.8	5.6	8.3	8.3
30歳代	78	42.3	26.9	16.7	29.5	23.1	25.6	25.6	3.8	1.3	7.7	12.8	5.1
40歳代	149	49.0	26.8	24.2	23.5	17.4	22.1	18.1	10.7	2.0	4.0	12.1	8.1
50歳代	173	44.5	28.3	31.8	22.0	20.2	31.2	17.3	20.8	4.6	4.6	7.5	6.4
60歳代	149	48.3	34.9	36.2	29.5	18.8	24.2	16.1	20.8	5.4	2.7	5.4	5.4
70～74歳	73	49.3	23.3	37.0	28.8	26.0	26.0	16.4	24.7	5.5	2.7	15.1	5.5
75歳以上	52	23.1	30.8	28.8	28.8	25.0	19.2	13.5	36.5	1.9	1.9	11.5	9.6
女性18～29歳	61	55.7	26.2	31.1	16.4	41.0	31.1	31.1	4.9	4.9	1.6	1.6	11.5
30歳代	134	41.0	24.6	25.4	34.3	32.1	16.4	26.9	10.4	2.2	2.2	6.7	13.4
40歳代	214	47.2	36.4	26.2	27.6	33.2	19.2	22.4	13.1	1.9	1.9	7.5	7.5
50歳代	199	55.8	37.2	35.7	34.2	32.2	23.1	25.6	20.1	2.5	2.5	11.1	2.5
60歳代	148	37.2	33.1	29.7	29.1	28.4	21.6	16.2	25.0	1.4	2.0	10.1	12.2
70～74歳	80	36.3	43.8	36.3	35.0	26.3	16.3	10.0	27.5	5.0	2.5	10.0	2.5
75歳以上	63	28.6	31.7	41.3	27.0	33.3	9.5	12.7	33.3	4.8	3.2	11.1	7.9

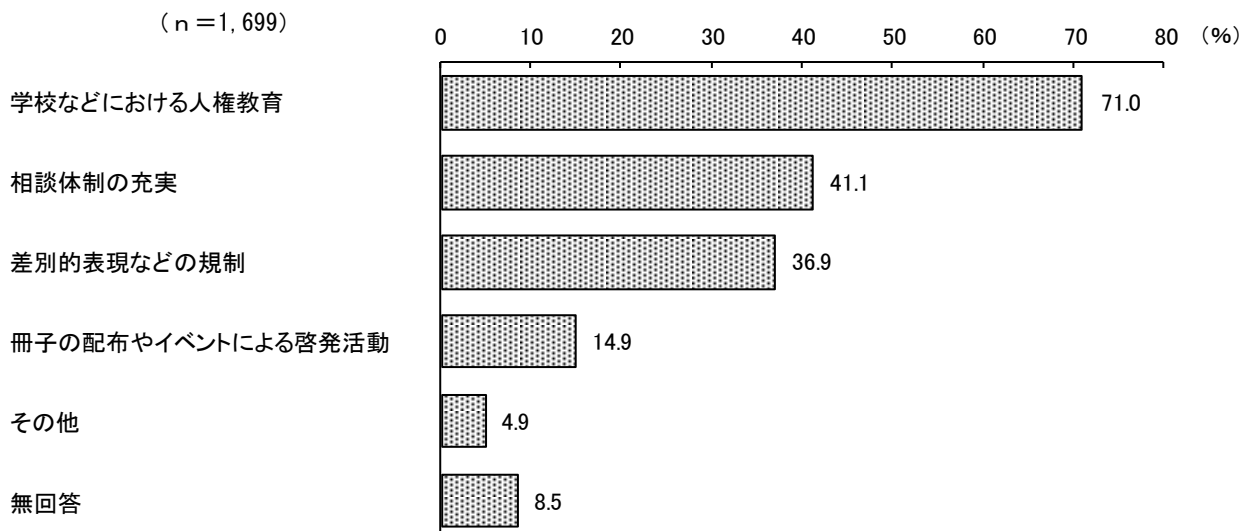
3 人権課題を解消するために力を入れるべき取り組み【問30】

【全体の状況】

人権課題を解消するために力を入れて取り組む必要があると思うことを複数回答で尋ねたところ、「学校などにおける人権教育」が71.0%で最も多く、次いで「相談体制の充実」が41.1%であった。

(図表6-3-1)

図表6-3-1 人権課題を解消するために力を入れるべき取り組み（複数回答）



図表6-3-2 人権課題を解消するために力を入れるべき取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

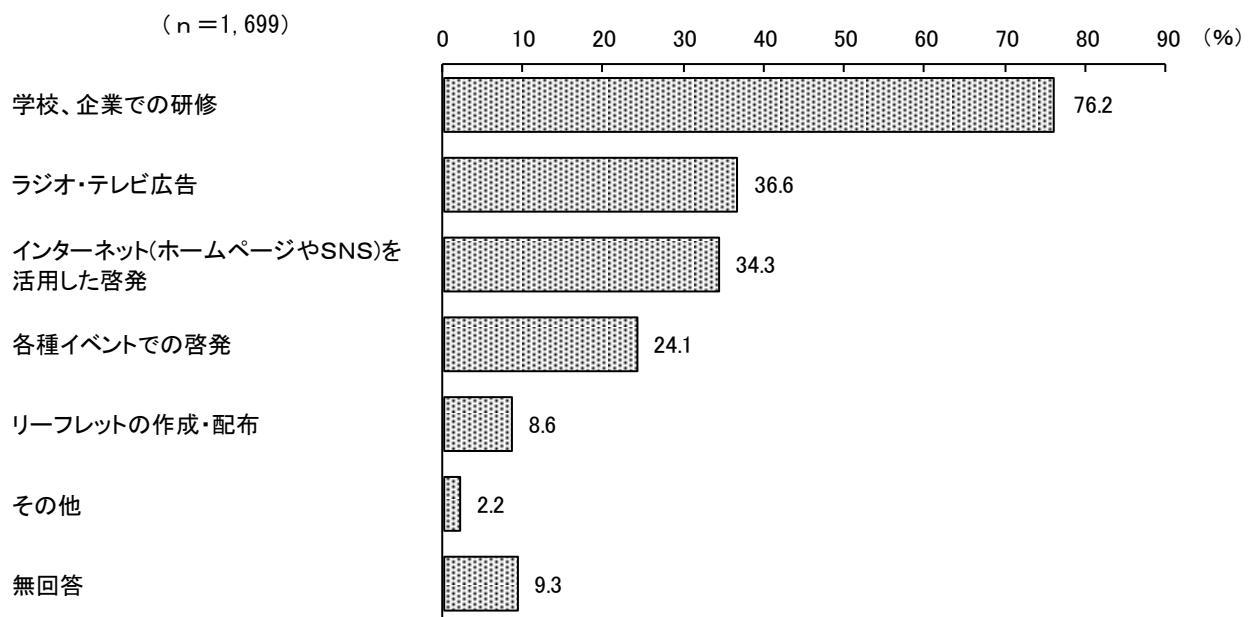
	n	学校などにおける人権教育	相談体制の充実	差別的表現などの規制	活冊子の配布やイベントによる啓発	その他	無回答
全 体	1,699	71.0	41.1	36.9	14.9	4.9	8.5
【地 域 別】							
横 浜	669	71.0	40.8	36.0	15.1	5.1	9.3
川 崎	228	69.3	44.3	39.0	11.8	2.6	7.9
相 模 原	118	69.5	39.8	30.5	17.8	5.9	8.5
横 須 賀 三 浦	142	69.0	43.0	31.7	16.2	4.9	9.2
県 央	181	71.8	40.3	39.2	18.2	6.1	5.5
湘 南	238	73.9	42.4	40.3	14.3	4.6	8.0
県 西	61	75.4	39.3	32.8	19.7	3.3	11.5
【性・年代別】							
男 性	710	70.1	36.2	37.2	15.8	5.4	7.9
女 性	899	72.3	45.8	36.3	15.0	4.2	8.7
男性18～29歳	36	66.7	38.9	19.4	11.1	2.8	8.3
30歳代	78	67.9	41.0	29.5	9.0	9.0	6.4
40歳代	149	71.1	36.2	32.2	18.1	4.0	9.4
50歳代	173	69.4	32.9	38.7	12.7	5.8	7.5
60歳代	149	72.5	40.3	47.0	18.1	2.7	8.7
70～74歳	73	72.6	32.9	46.6	16.4	6.8	5.5
75歳以上	52	65.4	30.8	28.8	25.0	9.6	7.7
女性18～29歳	61	68.9	39.3	29.5	8.2	1.6	11.5
30歳代	134	72.4	35.1	29.9	13.4	6.0	14.2
40歳代	214	73.8	43.9	38.3	12.1	4.2	7.0
50歳代	199	75.9	55.3	40.2	19.6	5.0	3.0
60歳代	148	72.3	44.6	35.1	12.8	3.4	11.5
70～74歳	80	66.3	48.8	40.0	18.8	3.8	8.8
75歳以上	63	66.7	50.8	34.9	20.6	3.2	11.1

4 人権教育・啓発活動で力を入れるべき取り組み【問31】

【全体の状況】

人権教育・啓発活動のうち、力を入れて取り組む必要があると思うことを複数回答で尋ねたところ、「学校、企業での研修」が76.2%で最も多く、次いで「ラジオ・テレビ広告」が36.6%であった。(図表6-4-1)

図表6-4-1 人権教育・啓発活動で力を入れるべき取り組み（複数回答）



図表6-4-2 人権教育・啓発活動で力を入れるべき取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	学校、 企業での 研修	ラジ オ・テ レビ 広 告	S I N T A R N E T T （ を 活 用 し た 啓 発	各 種 イ ベ ン ト で の 啓 発	リ ー フ レ ッ ト の 作 成 ・ 配 布	そ の 他	無 回 答
全 体	1,699	76.2	36.6	34.3	24.1	8.6	2.2	9.3
【地 域 別】								
横 浜	669	75.0	36.3	35.3	24.4	8.5	2.5	10.3
川 崎	228	78.5	35.1	33.3	21.9	8.3	0.9	7.5
相 模 原	118	78.0	37.3	29.7	25.4	6.8	1.7	8.5
横 須 賀 三 浦	142	71.1	35.2	35.2	22.5	9.2	1.4	10.6
県 央	181	77.9	34.8	31.5	25.4	9.4	3.9	6.1
湘 南	238	80.7	42.0	36.1	24.4	10.5	2.5	8.4
県 西	61	73.8	36.1	34.4	27.9	4.9	0.0	14.8
【性・年代別】								
男 性	710	76.9	36.8	34.6	25.1	10.1	2.1	8.3
女 性	899	76.4	37.3	34.5	23.6	7.5	2.2	9.6
男性18～29歳	36	72.2	13.9	47.2	13.9	11.1	0.0	8.3
30 歳 代	78	75.6	29.5	43.6	26.9	2.6	3.8	6.4
40 歳 代	149	77.2	34.2	34.9	20.1	9.4	2.7	10.1
50 歳 代	173	77.5	41.6	33.5	22.5	9.2	2.9	6.9
60 歳 代	149	76.5	40.9	34.2	28.2	9.4	0.7	10.1
70～74歳	73	76.7	38.4	31.5	34.2	16.4	1.4	6.8
75歳以上	52	80.8	40.4	21.2	30.8	19.2	1.9	7.7
女性18～29歳	61	68.9	32.8	41.0	18.0	1.6	0.0	13.1
30 歳 代	134	73.9	32.8	35.8	16.4	6.0	2.2	14.2
40 歳 代	214	79.4	31.3	35.0	22.0	3.7	2.3	7.5
50 歳 代	199	83.9	44.2	46.7	29.6	8.0	1.5	4.0
60 歳 代	148	73.6	39.2	28.4	23.0	9.5	2.7	12.2
70～74歳	80	71.3	41.3	21.3	31.3	12.5	3.8	11.3
75歳以上	63	68.3	39.7	15.9	22.2	15.9	3.2	12.7

第7章 SDGs（持続可能な開発目標）【問32～問33】

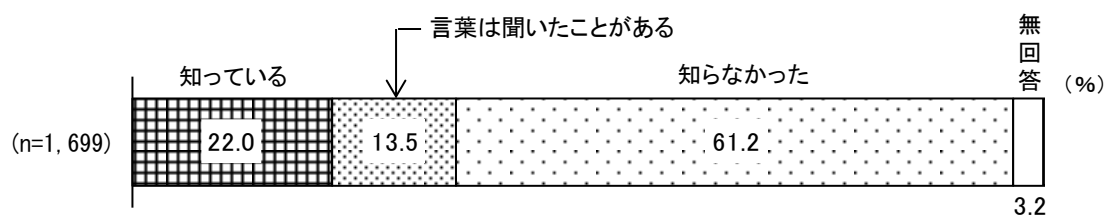
1 「SDGs」の認知度【問32】

【全体の状況】

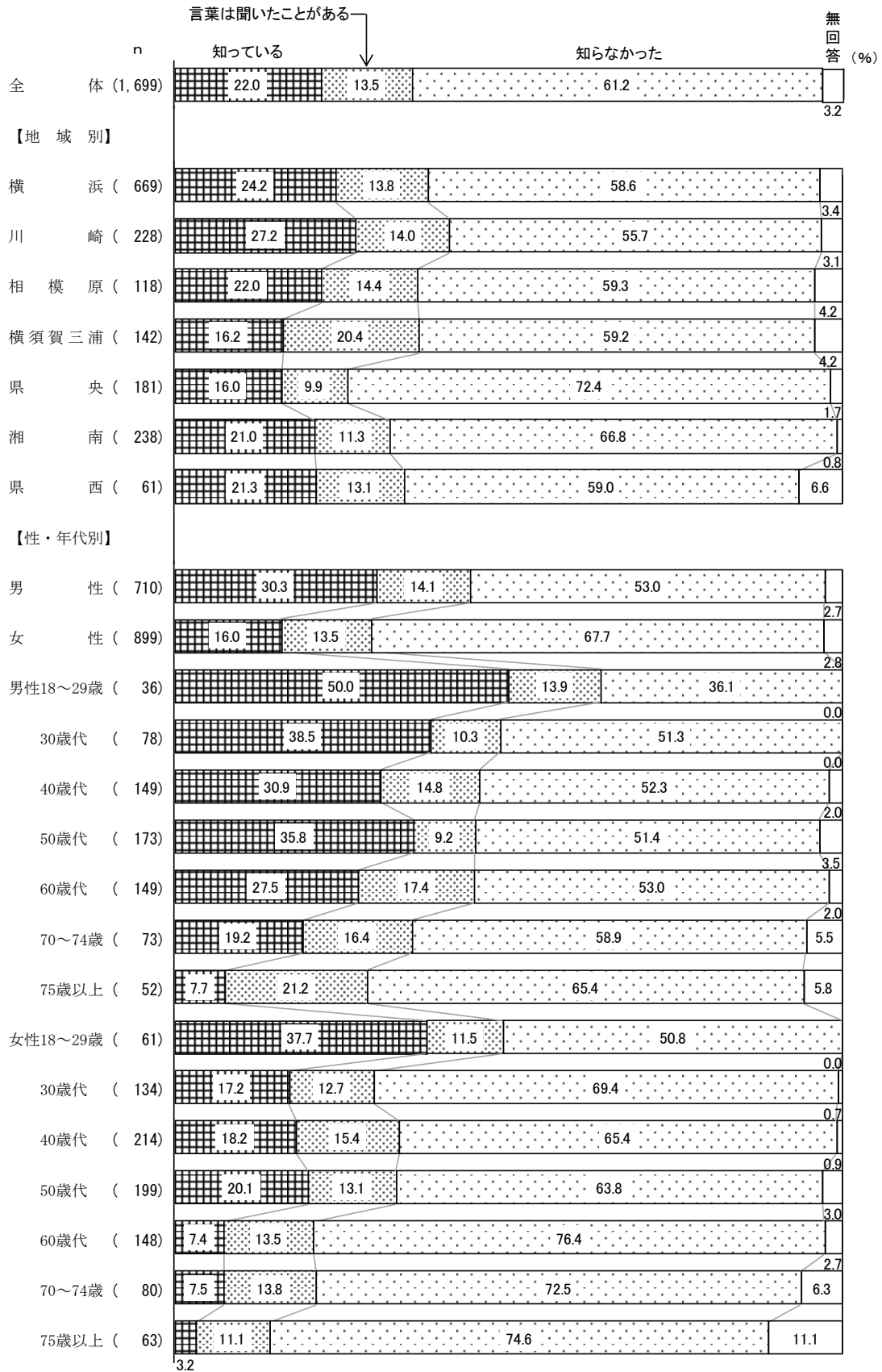
「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知っている」が22.0%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が13.5%であった。

一方、「知らなかった」が61.2%であった。（図表7-1-1）

図表7-1-1 「SDGs」の認知度



図表7-1-2 「SDGs」の認知度—地域別、性・年代別

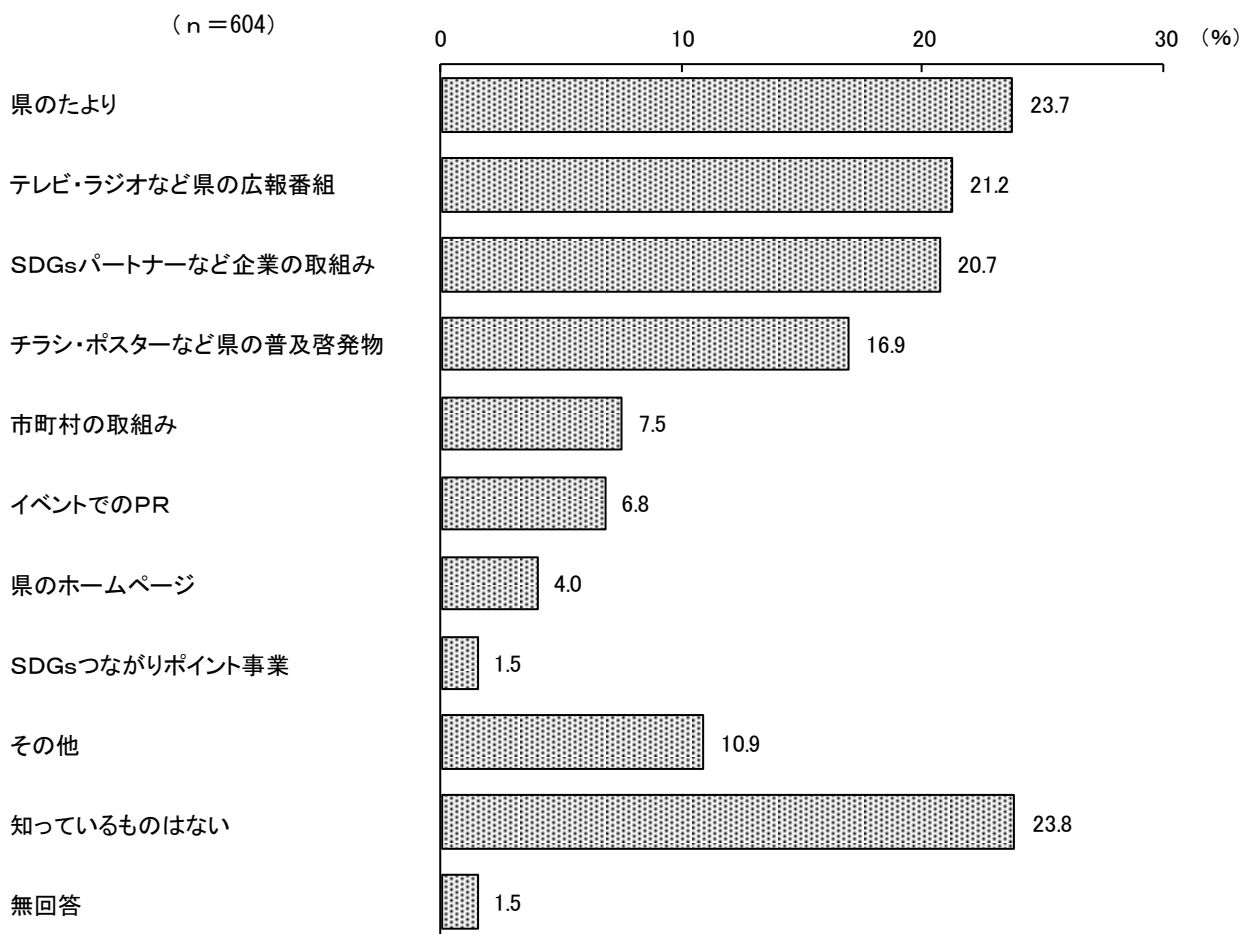


2 県のSDGs関連のイベントや普及啓発の取組みを知った媒体【問32-1】

【全体の状況】

SDGsの認知度（問32）で「知っている」または、「言葉は聞いたことがある」と回答した604人に、県のSDGs関連のイベントや、普及啓発の取組みを何で知ったかを複数回答で尋ねたところ、「県のたより」が23.7%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオなど県の広報番組」が21.2%であった。（図表7-2-1）

図表7-2-1 県のSDGs関連のイベントや普及啓発の取組みを知った媒体（複数回答）



図表7-2-2 県のSDGs関連のイベントや普及啓発の取組みを知った媒体（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

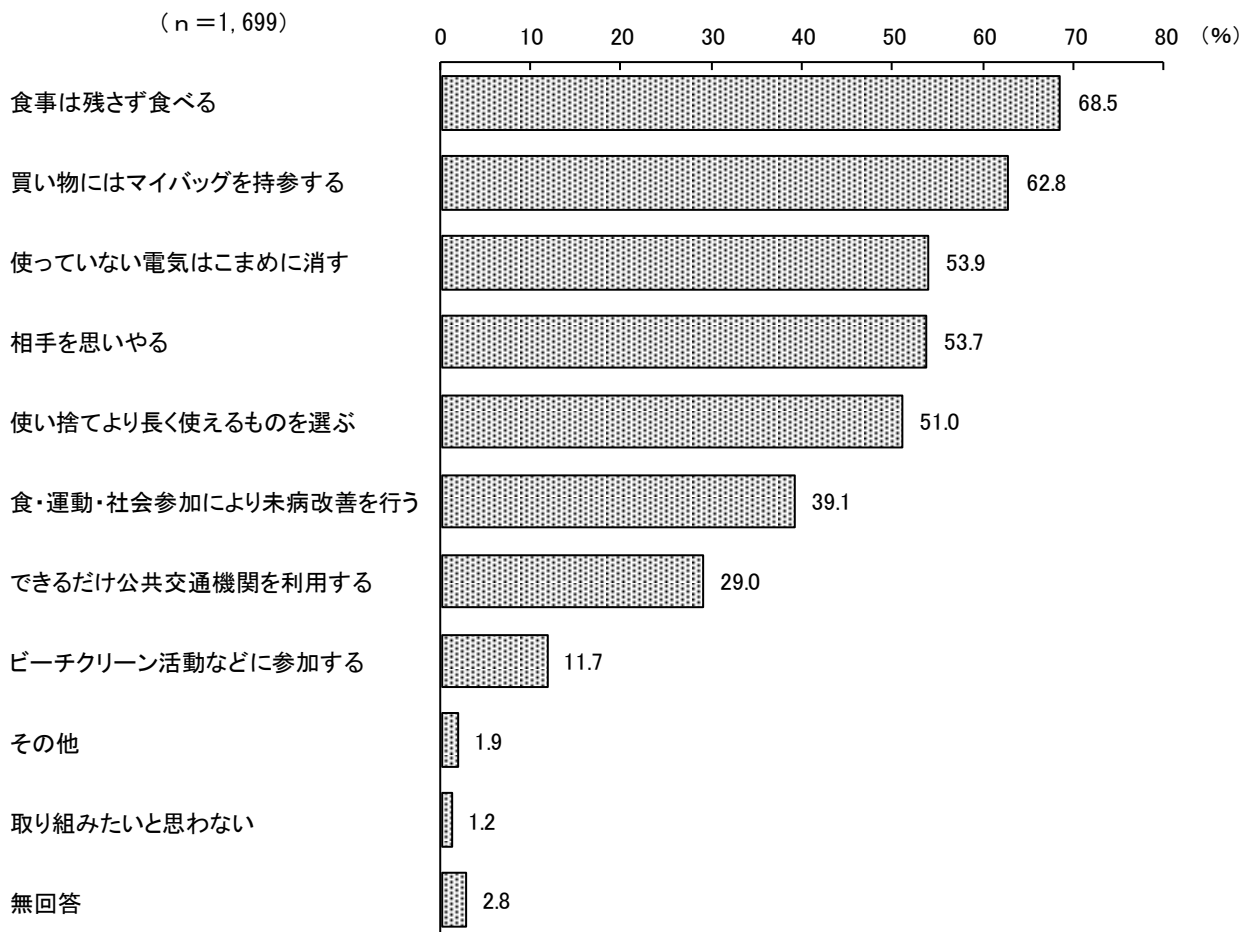
	n	県 の た よ り	テ レ ビ ・ ラ ジ オ な ど 県 の 広 報 番 組	S D G s パ ー ト ナ ー な ど 企 業 の 取 組 み	チ ラ シ ・ ポ ス タ ー な ど 県 の 普 及 啓 発 物	市 町 村 の 取 組 み	イ ベ ン ト で の P R	県 の ホ ー ム ペ ー ジ	S D G s つ な が り ポ イ ン ト 事 業	そ の 他	知 っ て い る も の は な い	無 回 答
全 体	604	23.7	21.2	20.7	16.9	7.5	6.8	4.0	1.5	10.9	23.8	1.5
【地 域 別】												
横 浜	254	24.0	18.9	23.6	12.2	5.1	4.7	2.8	1.6	11.0	24.8	0.8
川 崎	94	9.6	18.1	21.3	19.1	3.2	7.4	1.1	2.1	12.8	30.9	1.1
相 模 原	43	27.9	23.3	16.3	32.6	18.6	7.0	11.6	4.7	9.3	20.9	0.0
横 須 賀 三 浦	52	32.7	15.4	21.2	19.2	11.5	9.6	1.9	0.0	0.0	17.3	5.8
県 央	47	21.3	31.9	10.6	23.4	6.4	6.4	8.5	0.0	14.9	23.4	0.0
湘 南	77	28.6	23.4	19.5	15.6	9.1	13.0	6.5	1.3	15.6	22.1	2.6
県 西	21	28.6	38.1	23.8	14.3	14.3	0.0	4.8	0.0	0.0	19.0	0.0
【性・年代別】												
男 性	315	19.7	19.7	24.4	14.6	5.4	7.9	4.1	1.6	9.2	29.2	0.6
女 性	265	27.5	23.0	17.0	19.6	9.4	5.7	4.2	1.5	12.5	18.1	2.3
男性 18～29歳	23	4.3	13.0	30.4	8.7	8.7	0.0	8.7	4.3	17.4	30.4	0.0
30 歳 代	38	5.3	13.2	26.3	15.8	2.6	10.5	2.6	0.0	18.4	26.3	0.0
40 歳 代	68	17.6	17.6	25.0	8.8	2.9	7.4	4.4	0.0	10.3	26.5	0.0
50 歳 代	78	11.5	19.2	20.5	11.5	2.6	3.8	1.3	1.3	9.0	42.3	0.0
60 歳 代	67	22.4	22.4	25.4	20.9	4.5	13.4	6.0	1.5	6.0	28.4	1.5
70～74歳	26	50.0	26.9	26.9	19.2	11.5	0.0	3.8	3.8	0.0	15.4	0.0
75歳以上	15	66.7	33.3	20.0	26.7	26.7	26.7	6.7	6.7	0.0	6.7	6.7
女性 18～29歳	30	6.7	10.0	13.3	13.3	0.0	0.0	6.7	0.0	20.0	46.7	0.0
30 歳 代	40	15.0	22.5	17.5	27.5	12.5	5.0	2.5	0.0	7.5	22.5	2.5
40 歳 代	72	33.3	15.3	22.2	16.7	8.3	5.6	4.2	2.8	11.1	13.9	2.8
50 歳 代	66	25.8	25.8	19.7	21.2	13.6	7.6	7.6	0.0	15.2	16.7	3.0
60 歳 代	31	45.2	38.7	9.7	12.9	3.2	3.2	0.0	0.0	9.7	9.7	0.0
70～74歳	17	52.9	41.2	5.9	35.3	23.5	17.6	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0
75歳以上	9	11.1	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	22.2	11.1	11.1

3 SDGs達成に向け行いたい取組み【問33】

【全体の状況】

SDGs達成に向けて、行いたいと思う取組みを複数回答で尋ねたところ、「食事は残さず食べる」が68.5%で最も多く、次いで「買い物にはマイバッグを持参する」が62.8%であった。(図表7-3-1)

図表7-3-1 SDGs達成に向け行いたい取組み（複数回答）



図表7-3-2 SDGs達成に向け行いたい取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	食事は残さず食べる	買い物にはマイバッグを持参する	使っていない電気はこまめに消す	相手を思いやる	使い捨てより長く使えるものを選ぶ	食・運動・社会参加により未病改善を行う	できるだけ公共交通機関を利用する	ビーチクリーン活動などに参加する	その他	取り組みたいと思わない	無回答
全体	1,699	68.5	62.8	53.9	53.7	51.0	39.1	29.0	11.7	1.9	1.2	2.8
【地域別】												
横浜	669	68.9	61.0	51.3	53.1	48.6	38.4	29.1	8.2	1.5	1.3	3.1
川崎	228	68.9	61.8	51.3	52.2	51.8	39.5	36.8	12.3	2.2	1.3	2.2
相模原	118	66.1	62.7	55.1	50.8	50.8	43.2	22.9	10.2	2.5	0.0	4.2
横須賀三浦	142	71.8	64.8	54.9	59.2	55.6	38.0	31.0	22.5	2.8	0.7	2.1
県央	181	68.0	59.7	55.8	59.1	47.0	38.1	23.8	8.8	1.7	1.1	1.7
湘南	238	68.1	68.1	60.9	54.2	56.7	42.4	28.2	14.3	2.9	1.3	1.7
県西	61	67.2	73.8	55.7	45.9	52.5	32.8	19.7	19.7	0.0	3.3	0.0
【性・年代別】												
男性	710	64.6	56.5	48.3	49.0	44.9	36.2	28.0	10.1	2.8	2.1	2.8
女性	899	72.3	68.0	58.6	58.3	56.0	41.5	29.7	12.5	1.3	0.6	2.1
男性18～29歳	36	63.9	52.8	25.0	47.2	25.0	36.1	25.0	11.1	0.0	2.8	0.0
30歳代	78	75.6	48.7	50.0	66.7	52.6	41.0	30.8	14.1	2.6	0.0	1.3
40歳代	149	61.1	51.7	52.3	53.0	38.9	34.2	23.5	11.4	3.4	1.3	2.7
50歳代	173	65.3	48.6	41.6	52.0	43.4	33.5	21.4	13.3	4.0	4.6	2.9
60歳代	149	61.1	70.5	55.7	38.9	47.7	37.6	33.6	6.7	1.3	1.3	3.4
70～74歳	73	68.5	57.5	50.7	43.8	52.1	38.4	30.1	2.7	1.4	1.4	2.7
75歳以上	52	61.5	69.2	48.1	38.5	51.9	36.5	42.3	9.6	5.8	1.9	5.8
女性18～29歳	61	83.6	63.9	50.8	50.8	32.8	26.2	27.9	6.6	0.0	1.6	0.0
30歳代	134	78.4	61.9	56.7	61.2	58.2	45.5	20.9	13.4	0.0	0.0	0.0
40歳代	214	74.3	68.7	58.4	63.1	53.3	36.0	22.0	17.3	1.4	0.9	0.9
50歳代	199	74.9	67.8	65.8	61.3	57.3	46.7	32.7	13.6	3.0	0.5	2.0
60歳代	148	63.5	71.6	57.4	55.4	57.4	44.6	31.8	10.1	1.4	0.0	3.4
70～74歳	80	62.5	65.0	52.5	45.0	71.3	37.5	36.3	8.8	1.3	1.3	3.8
75歳以上	63	66.7	77.8	58.7	57.1	55.6	47.6	54.0	6.3	0.0	0.0	7.9

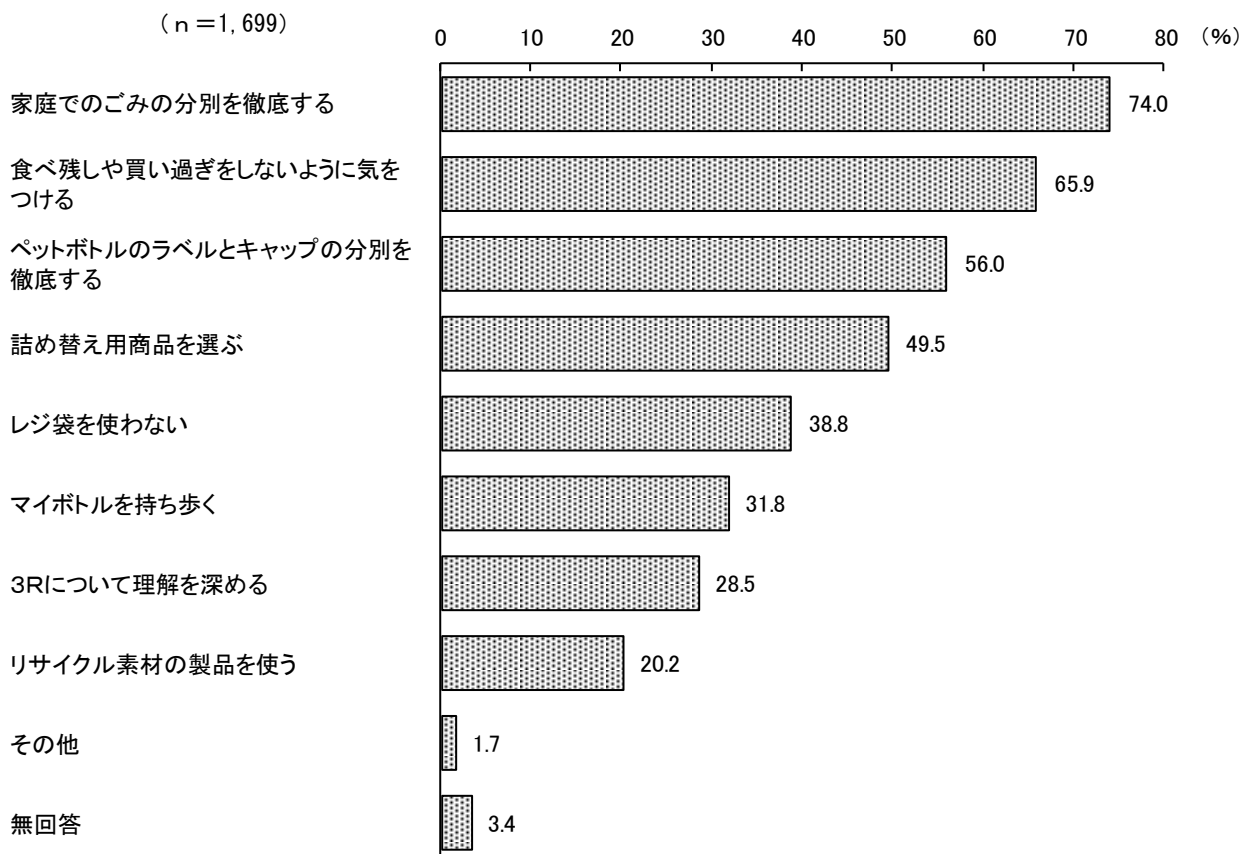
第8章 3R【問34～問35】

1 3Rを推進する上で、県民一人ひとりに取り組むべき行動【問34】

【全体の状況】

3Rを推進する上で、県民一人ひとりに取り組むべき行動を複数回答で尋ねたところ、「家庭でのごみの分別を徹底する」が74.0%で最も多く、次いで「食べ残しや買い過ぎをしないように気をつける」が65.9%であった。（図表8-1-1）

図表8-1-1 3Rを推進する上で、県民一人ひとりに取り組むべき行動（複数回答）



図表8-1-2 3Rを推進する上で、県民一人ひとりが取り組むべき行動（複数回答）
—地域別、性・年代別

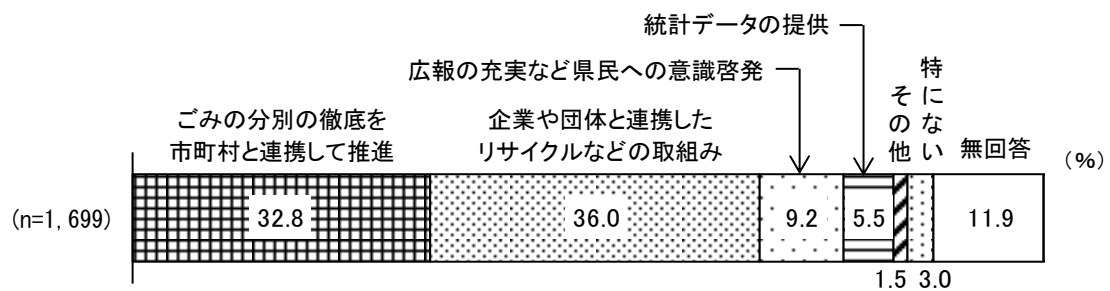
(%)											
	n	家庭でのごみの分別を徹底する	食べ残しや買い過ぎをしないように気をつける	ペットボトルのラベルとキャップの分別を徹底する	詰め替え用商品を選ぶ	レジ袋を使わない	マイボトルを持ち歩く	3Rについて理解を深める	リサイクル素材の製品を使う	その他	無回答
全 体	1,699	74.0	65.9	56.0	49.5	38.8	31.8	28.5	20.2	1.7	3.4
【地 域 別】											
横 浜	669	73.8	66.2	51.7	48.4	37.4	32.1	26.3	17.3	0.9	4.0
川 崎	228	68.9	66.2	56.1	49.1	39.0	28.1	28.9	20.6	1.8	3.5
相 模 原	118	78.8	61.0	52.5	52.5	36.4	33.1	28.0	12.7	3.4	5.1
横 須 賀 三 浦	142	72.5	71.1	60.6	47.2	38.7	33.8	26.1	19.7	0.0	2.1
県 央	181	76.8	68.5	64.6	45.9	39.2	28.7	28.2	18.2	3.3	1.7
湘 南	238	76.1	63.9	60.5	55.5	41.2	35.7	33.6	28.6	2.9	2.5
県 西	61	75.4	67.2	59.0	47.5	49.2	27.9	32.8	29.5	3.3	0.0
【性・年代別】											
男 性	710	71.7	61.4	52.1	40.8	35.2	22.8	20.7	16.1	2.7	3.8
女 性	899	76.3	70.6	59.6	56.3	41.5	38.8	34.5	22.8	1.0	2.7
男性18～29歳	36	61.1	47.2	41.7	25.0	33.3	11.1	13.9	8.3	2.8	2.8
30歳代	78	73.1	71.8	53.8	42.3	32.1	29.5	21.8	14.1	6.4	2.6
40歳代	149	67.8	59.7	45.6	35.6	22.1	24.8	16.1	10.1	2.0	2.7
50歳代	173	67.1	62.4	49.7	40.5	31.8	22.0	16.2	11.6	2.9	5.2
60歳代	149	74.5	58.4	56.4	46.3	47.0	24.8	26.2	26.2	1.3	4.7
70～74歳	73	82.2	57.5	58.9	43.8	37.0	12.3	27.4	16.4	1.4	1.4
75歳以上	52	80.8	71.2	61.5	46.2	53.8	26.9	26.9	26.9	3.8	5.8
女性18～29歳	61	63.9	72.1	47.5	31.1	24.6	31.1	8.2	4.9	1.6	1.6
30歳代	134	73.1	65.7	62.7	55.2	34.3	34.3	26.1	13.4	0.7	3.0
40歳代	214	74.3	78.0	59.3	53.7	38.3	38.8	32.2	20.1	0.5	1.9
50歳代	199	77.9	74.4	61.3	61.8	44.2	38.7	36.7	27.6	2.5	2.0
60歳代	148	77.0	65.5	60.8	64.2	43.9	39.2	39.2	27.7	0.0	4.1
70～74歳	80	82.5	60.0	56.3	53.8	46.3	43.8	47.5	30.0	1.3	3.8
75歳以上	63	87.3	68.3	61.9	58.7	63.5	49.2	50.8	33.3	0.0	3.2

2 県に期待する役割【問35】

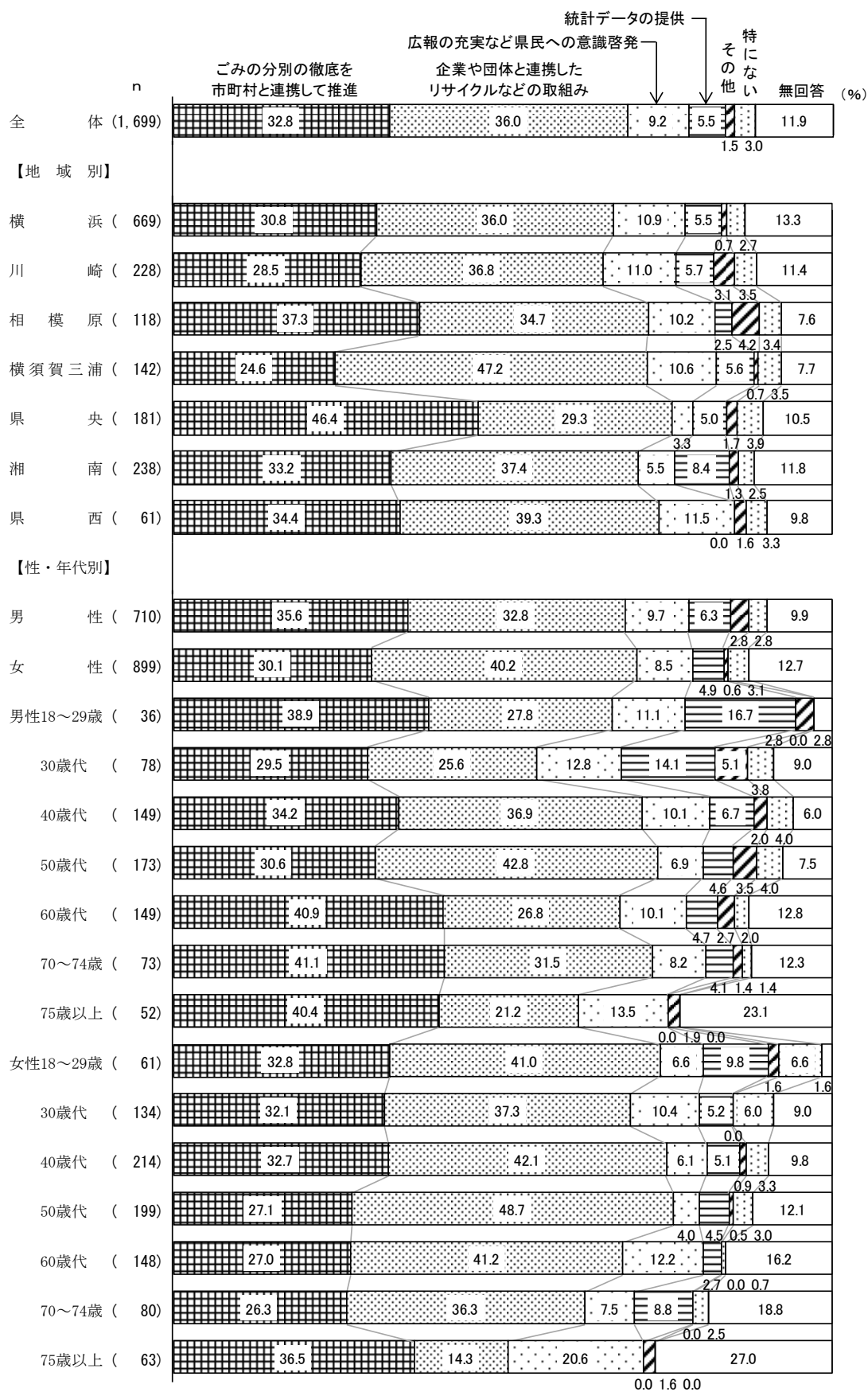
【全体の状況】

企業活動も含め社会全体でごみの3Rを進めるため、県に期待する役割を尋ねたところ、「企業や団体と連携したリサイクルなどの取組み」が36.0%で最も多く、次いで「ごみの分別の徹底を市町村と連携して推進」が32.8%であった。(図表8-2-1)

図表8-2-1 県に期待する役割



図表8-2-2 県に期待する役割—地域別、性・年代別



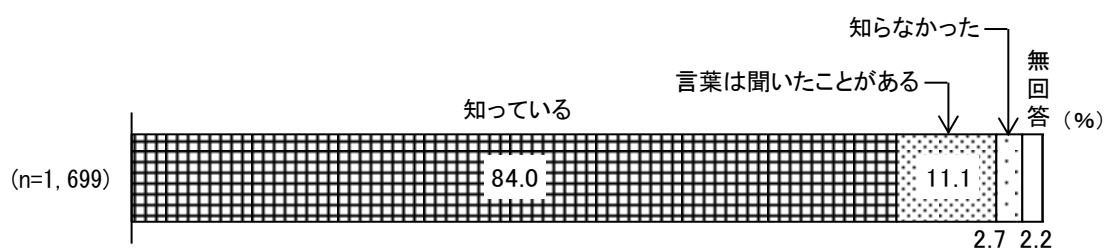
第9章 プラスチックごみ削減に向けて【問36～問38】

1 海洋プラスチックごみ問題の認知度【問36】

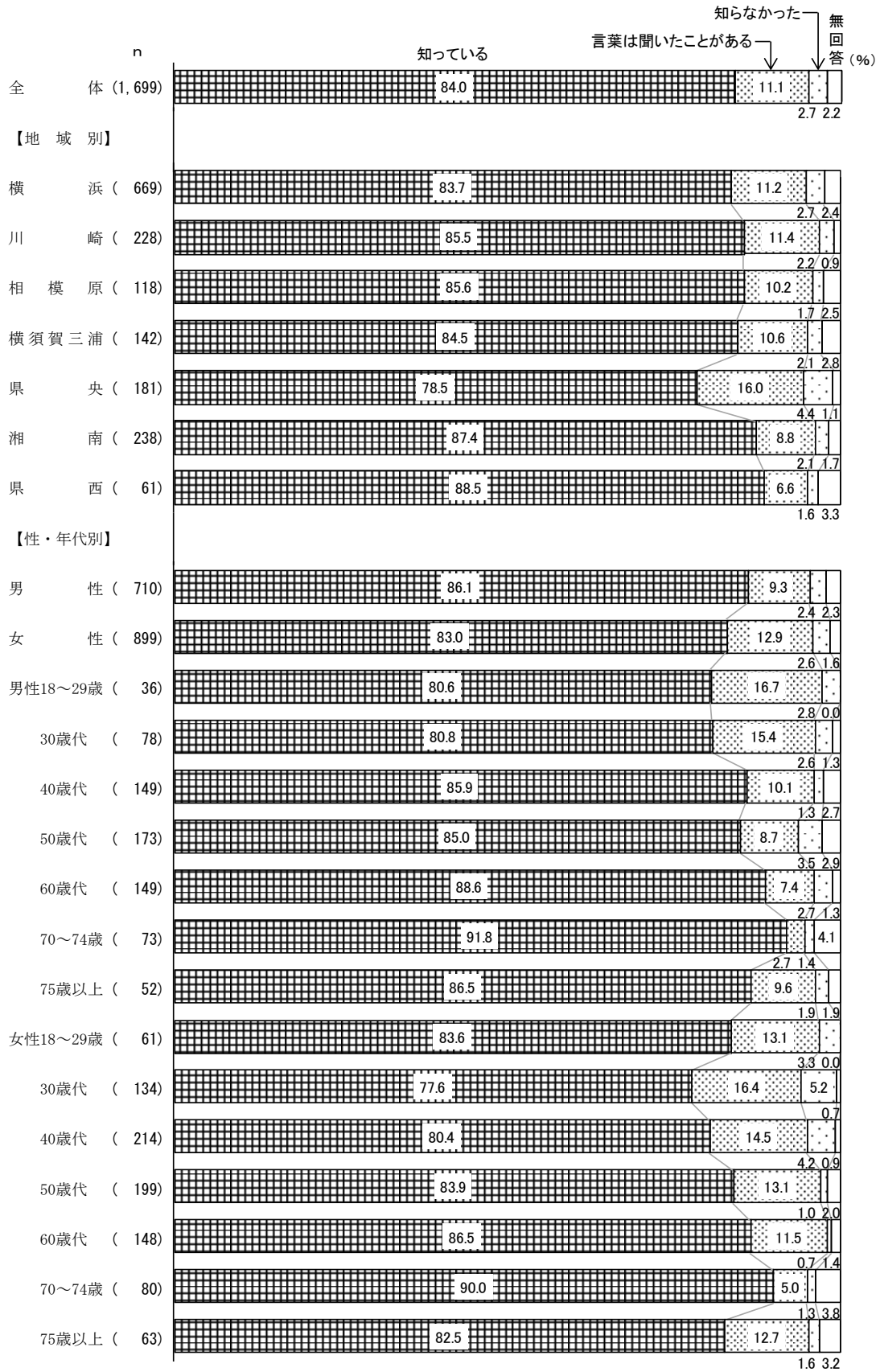
【全体の状況】

海洋プラスチックごみ問題を知っているか尋ねたところ、「知っている」が84.0%であった。一方、「知らなかった」が2.7%であった。(図表9-1-1)

図表9-1-1 海洋プラスチックごみ問題の認知度



図表9-1-2 海洋プラスチックごみ問題の認知度—地域別、性・年代別



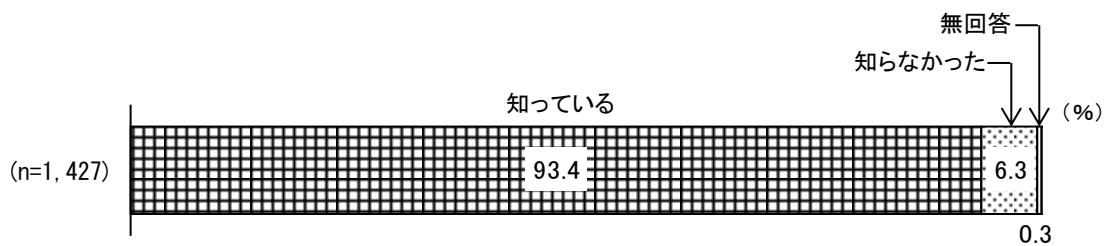
2 プラスチックごみが河川から海へ流れ込んでいることの認知度【問36-1】

【全体の状況】

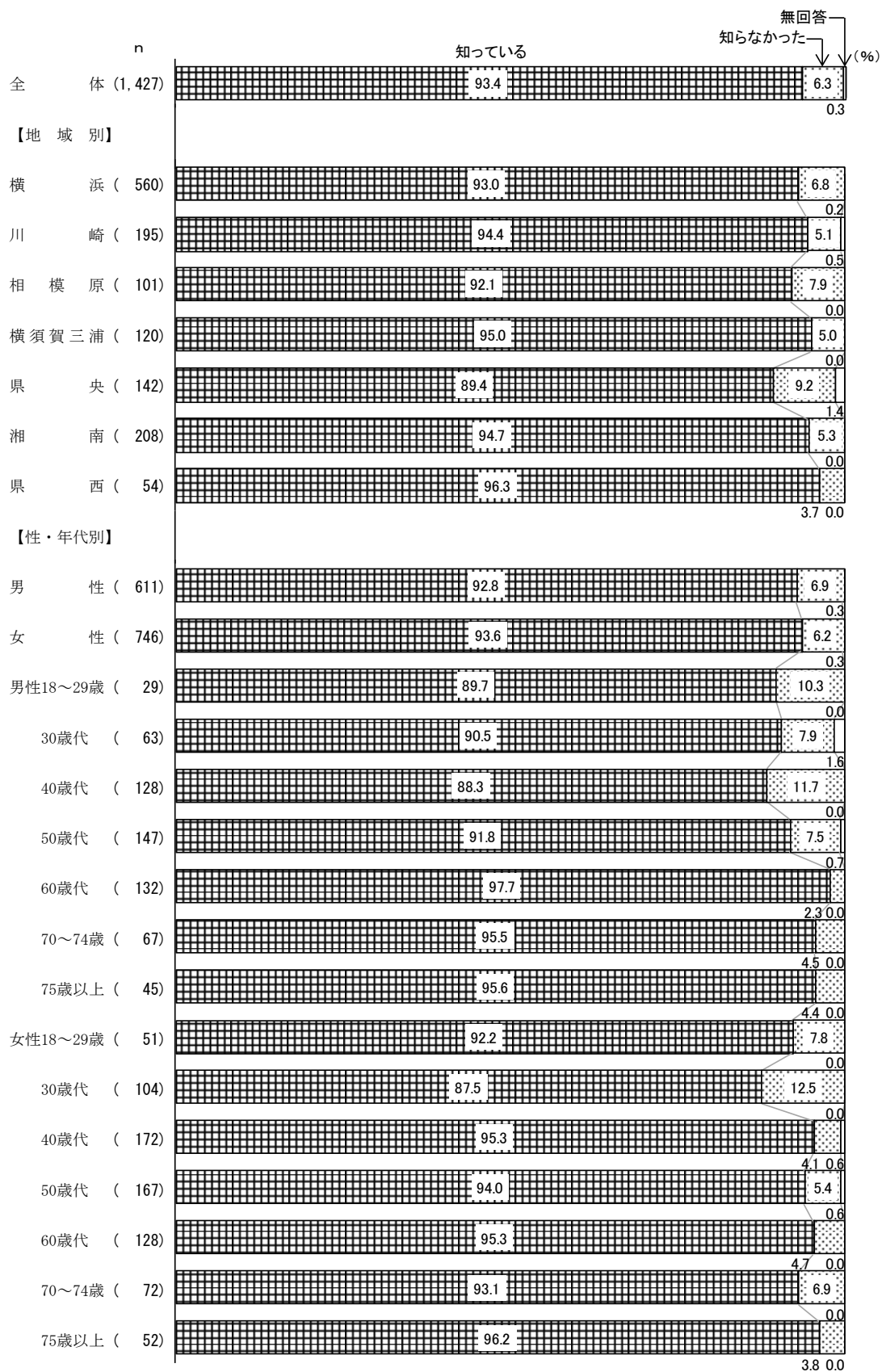
海洋プラスチックごみ問題の認知度（問36）で「知っている」と回答した1,427人に、まちで発生したプラスチックごみが、河川を通じ、海へ大量に流れ込んでいることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が93.4%であった。

一方、「知らなかった」が6.3%であった。（図表9-2-1）

図表9-2-1 プラスチックごみが河川から海へ流れ込んでいることの認知度



図表9-2-2 プラスチックごみが河川から海へ流れ込んでいることの認知度—地域別、性・年代別

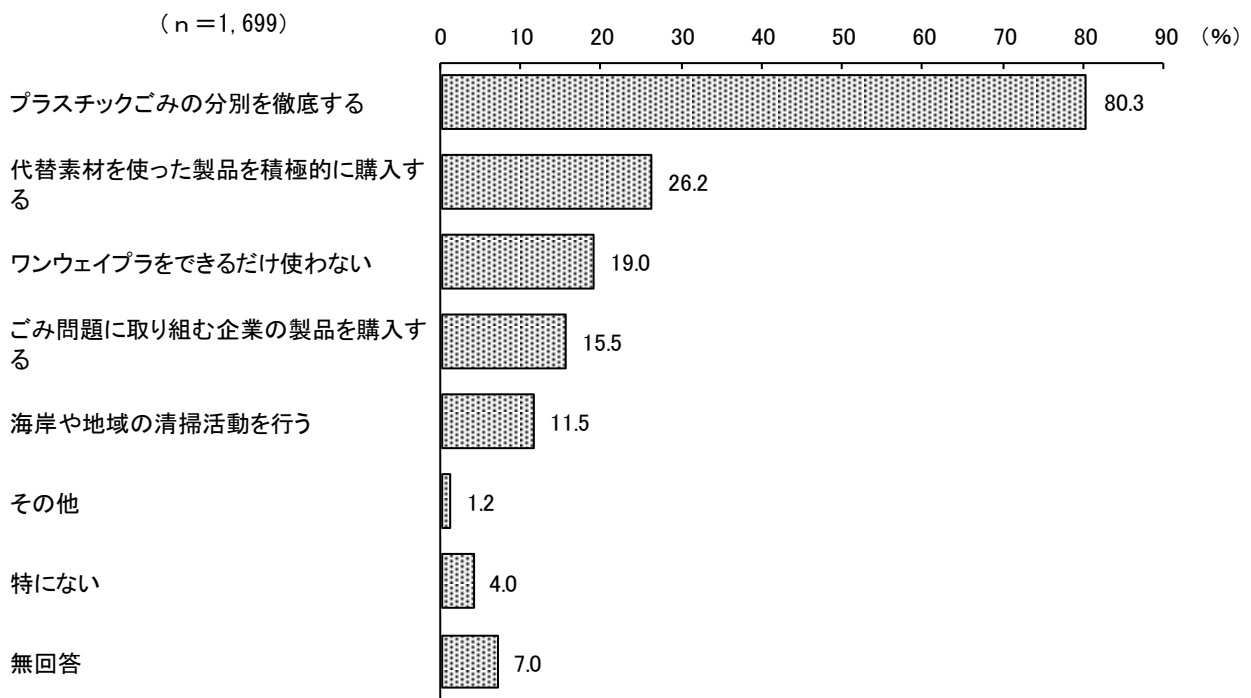


3 リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていること【問37】

【全体の状況】

リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていることについて複数回答で尋ねたところ、「プラスチックごみの分別を徹底する」が80.3%で最も多く、次いで「代替素材を使った製品を積極的に購入する」が26.2%であった。(図表9-3-1)

図表9-3-1 リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていること（複数回答）



図表9-3-2 リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていること（複数回答）

－地域別、性・年代別

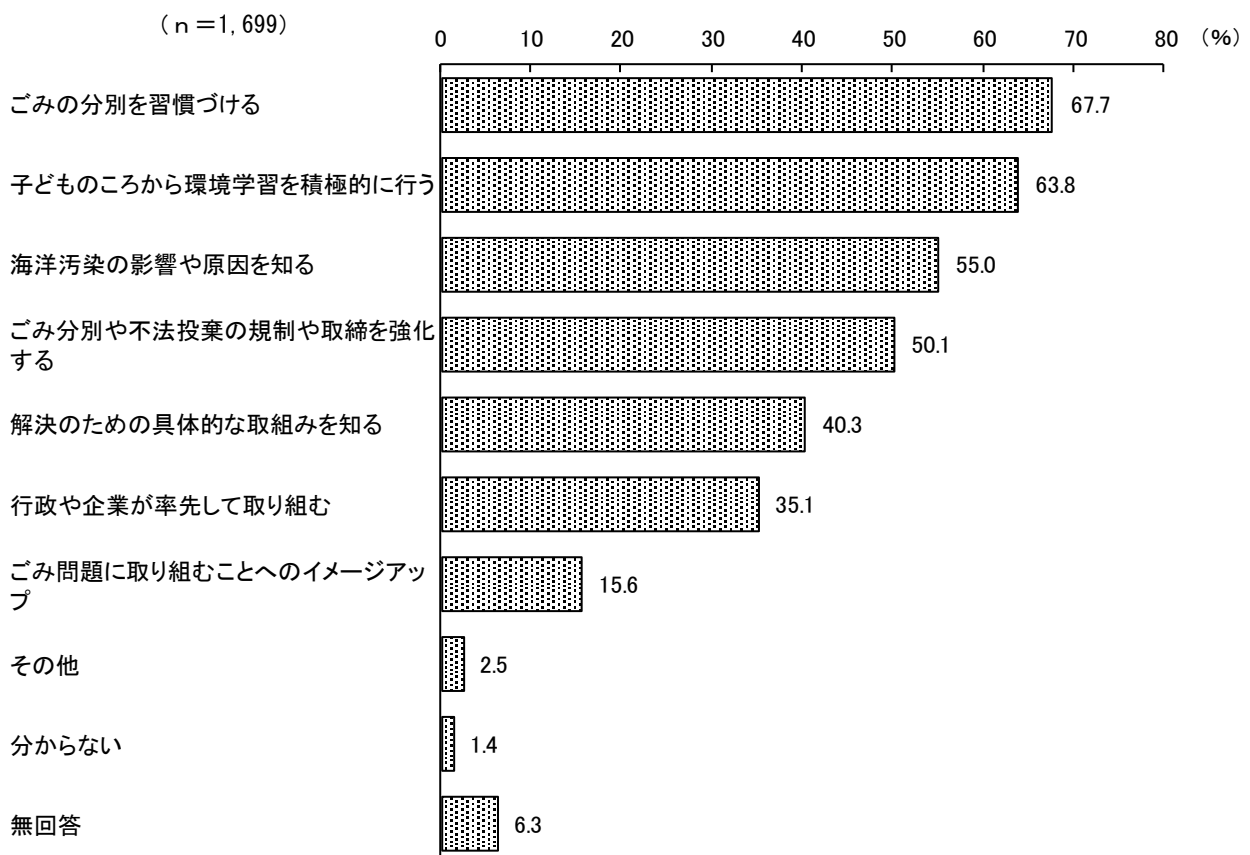
		(%)								
	n	プラスチックごみの分別を徹底する	代替素材を使った製品を積極的に購入する	ワンウェイプラをできるだけ使わない	ごみ問題に取り組む企業の製品を購入する	海岸や地域の清掃活動を行う	その他	特になし	無回答	
全体	1,699	80.3	26.2	19.0	15.5	11.5	1.2	4.0	7.0	
【地域別】										
横浜	669	79.4	25.1	18.2	16.9	9.7	0.7	4.8	7.2	
川崎	228	78.9	23.7	17.1	14.9	10.1	1.3	5.3	7.9	
相模原	118	84.7	28.0	23.7	20.3	10.2	1.7	1.7	6.8	
横須賀三浦	142	81.0	31.0	19.0	10.6	22.5	0.0	1.4	8.5	
県央	181	85.6	23.8	19.3	11.6	10.5	1.1	3.3	5.0	
湘南	238	77.3	29.8	19.7	15.1	10.9	3.8	4.6	6.7	
県西	61	78.7	29.5	23.0	9.8	19.7	0.0	4.9	4.9	
【性・年代別】										
男性	710	78.0	25.5	14.6	14.6	11.0	0.8	6.2	7.0	
女性	899	82.3	26.7	22.4	15.8	11.9	1.6	2.4	6.8	
男性18～29歳	36	66.7	11.1	8.3	5.6	11.1	0.0	16.7	8.3	
30歳代	78	73.1	17.9	10.3	15.4	6.4	0.0	6.4	6.4	
40歳代	149	70.5	15.4	8.1	10.7	10.1	0.0	10.1	10.7	
50歳代	173	77.5	23.1	8.7	14.5	12.1	1.2	6.4	6.4	
60歳代	149	85.9	34.9	20.8	12.8	9.4	1.3	3.4	6.0	
70～74歳	73	83.6	38.4	21.9	26.0	13.7	0.0	2.7	5.5	
75歳以上	52	86.5	38.5	36.5	21.2	17.3	3.8	0.0	3.8	
女性18～29歳	61	75.4	11.5	4.9	8.2	4.9	0.0	4.9	13.1	
30歳代	134	69.4	14.9	12.7	9.0	9.7	2.2	5.2	13.4	
40歳代	214	82.7	20.6	17.3	11.7	14.5	0.9	0.5	7.9	
50歳代	199	87.9	30.7	24.6	19.6	11.1	1.0	2.0	3.5	
60歳代	148	85.8	32.4	30.4	16.2	10.1	2.7	2.7	4.7	
70～74歳	80	82.5	43.8	35.0	21.3	15.0	3.8	2.5	3.8	
75歳以上	63	88.9	39.7	34.9	31.7	17.5	0.0	1.6	1.6	

4 海洋プラスチックごみ問題解決に向けて必要だと思う行動【問38】

【全体の状況】

海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて一人ひとりが行動するうえで、何が必要だと思うか複数回答で尋ねたところ、「ごみの分別を習慣づける」が67.7%で最も多く、次いで「子どものころから環境学習を積極的に行う」が63.8%であった。(図表9-4-1)

図表9-4-1 海洋プラスチックごみ問題解決に向けて必要だと思う行動（複数回答）



図表9-4-2 海洋プラスチックごみ問題解決に向けて必要だと思う行動（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

	n	ごみの分別を習慣づける	子どものころから環境学習を積極的に行う	海洋汚染の影響や原因を知る	ごみ分別や不法投棄の規制や取締りを強化する	解決のための具体的な取り組みを知る	行政や企業が率先して取り組む	ごみ問題に取り組むことへのイメージアツプ	その他	分からない	無回答
全体	1,699	67.7	63.8	55.0	50.1	40.3	35.1	15.6	2.5	1.4	6.3
【地域別】											
横浜	669	67.6	64.1	54.4	50.4	39.9	33.9	14.8	2.4	1.8	6.1
川崎	228	67.5	69.3	59.6	47.8	44.3	39.5	20.2	1.3	0.9	7.0
相模原	118	71.2	60.2	57.6	51.7	42.4	33.1	14.4	3.4	0.0	5.9
横須賀三浦	142	66.9	59.9	54.2	51.4	43.7	37.3	16.9	2.1	1.4	8.5
県央	181	67.4	56.4	48.6	50.8	32.0	30.9	14.4	3.3	1.1	5.0
湘南	238	67.2	66.4	53.4	48.3	42.4	37.8	13.4	3.8	0.8	6.3
県西	61	72.1	63.9	57.4	49.2	41.0	32.8	14.8	1.6	3.3	4.9
【性・年代別】											
男性	710	62.8	58.0	52.8	52.4	36.9	34.4	16.1	3.7	1.8	6.3
女性	899	72.3	68.9	56.2	48.3	43.9	36.3	15.0	1.6	0.9	6.1
男性18～29歳	36	61.1	41.7	58.3	38.9	38.9	25.0	22.2	0.0	0.0	8.3
30歳代	78	65.4	67.9	62.8	51.3	44.9	37.2	26.9	6.4	0.0	3.8
40歳代	149	64.4	58.4	51.0	43.0	36.2	30.9	12.8	2.0	1.3	10.1
50歳代	173	57.8	54.3	47.4	55.5	34.7	35.3	13.9	4.6	2.9	6.4
60歳代	149	65.8	61.7	52.3	56.4	41.6	36.2	13.4	3.4	3.4	4.7
70～74歳	73	60.3	53.4	54.8	57.5	28.8	41.1	19.2	1.4	0.0	5.5
75歳以上	52	67.3	61.5	55.8	61.5	30.8	28.8	15.4	7.7	1.9	3.8
女性18～29歳	61	54.1	41.0	37.7	44.3	41.0	26.2	21.3	0.0	3.3	11.5
30歳代	134	68.7	70.1	56.7	45.5	41.0	29.9	8.2	3.0	1.5	11.9
40歳代	214	74.3	69.6	54.7	39.7	40.7	34.1	13.1	0.5	1.4	6.1
50歳代	199	76.4	73.4	63.3	52.8	53.3	40.2	16.1	1.5	0.0	3.5
60歳代	148	77.7	73.0	48.6	46.6	41.9	36.5	13.5	1.4	0.7	4.7
70～74歳	80	66.3	67.5	66.3	60.0	43.8	41.3	18.8	2.5	0.0	2.5
75歳以上	63	73.0	68.3	60.3	61.9	39.7	47.6	25.4	3.2	0.0	4.8

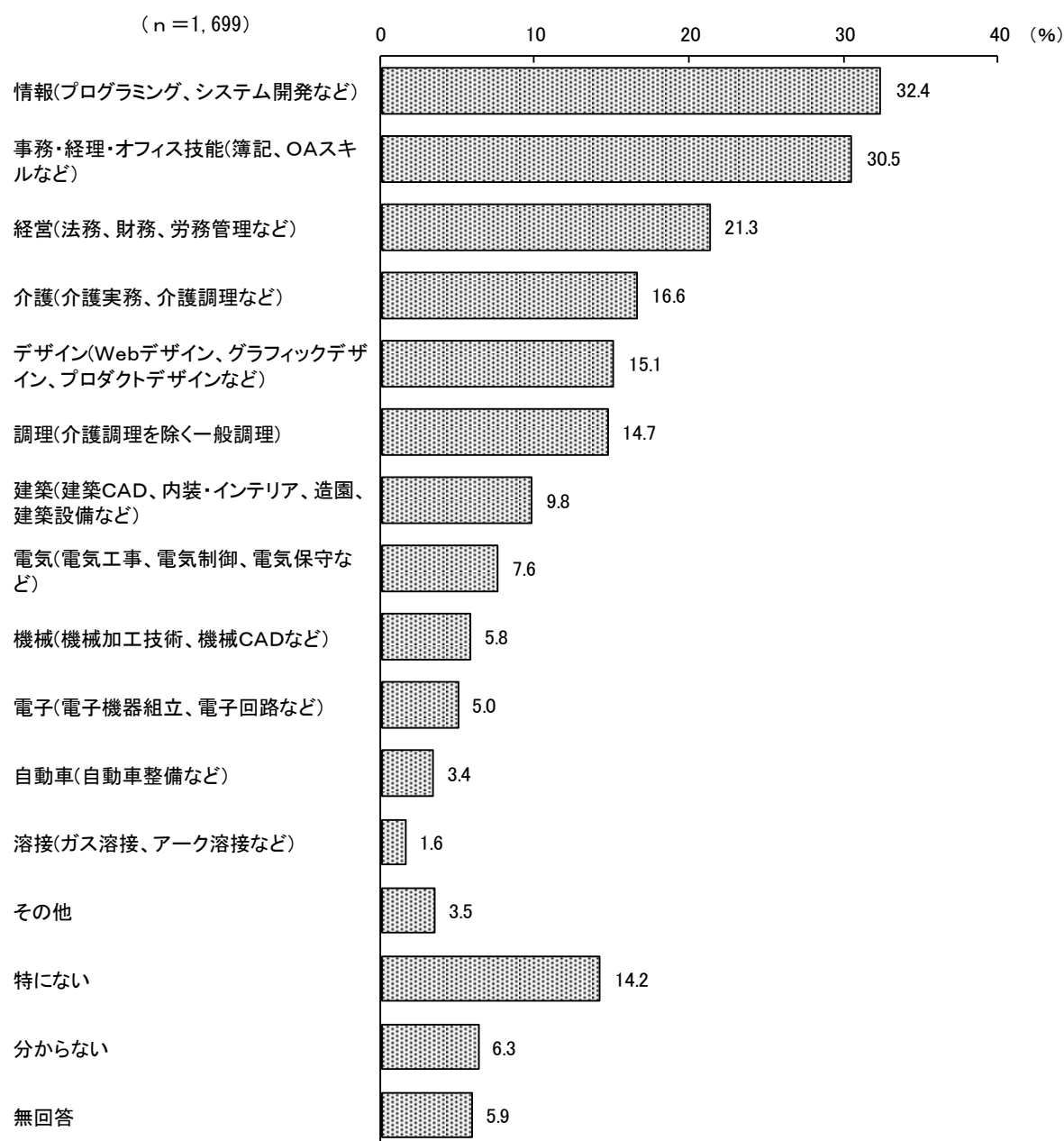
第10章 職業能力開発【問39～問44】

1 就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能【問39】

【全体の状況】

就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能について複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「情報（プログラミング、システム開発など）」が32.4%で最も多く、次いで「事務・経理・オフィス技能（簿記、OAスキルなど）」が30.5%であった。（図表10-1-1）

図表10-1-1 就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能（複数回答）



図表10-1-2 就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能（複数回答）
—地域別、性・年代別

(96)

	n	情報（プログラミング、システム開発など）	事務・経理・オフィス技能（簿記、OAスキルなど）	経営（法務、財務、労務管理など）	介護（介護実務、介護調理など）	デザイン（Webデザイン、グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど）	調理（介護調理を除く一般調理）	建築（建築CAD、内装・インテリア、造園、建築設備など）	電気（電気工事、電気制御、電気保守など）	機械（機械加工技術、機械CADなど）	電子（電子機器組立、電子回路など）	自動車（自動車整備など）	溶接（ガス溶接、アーク溶接など）	その他	特になし	分からない	無回答
全体	1,699	32.4	30.5	21.3	16.6	15.1	14.7	9.8	7.6	5.8	5.0	3.4	1.6	3.5	14.2	6.3	5.9
【地域別】																	
横浜	669	34.8	32.3	24.1	14.3	14.2	14.5	10.3	5.8	5.2	5.1	1.9	1.2	3.0	14.9	7.3	4.3
川崎	228	30.3	27.2	19.7	17.5	19.3	14.5	7.0	6.6	3.9	4.4	2.2	1.3	2.2	15.8	6.1	6.1
相模原	118	32.2	30.5	20.3	17.8	21.2	9.3	6.8	9.3	6.8	7.6	7.6	0.8	4.2	15.3	4.2	7.6
横須賀三浦	142	32.4	33.8	23.9	15.5	16.2	14.1	8.5	10.6	7.0	7.0	4.9	4.9	3.5	14.8	5.6	3.5
県央	181	33.1	31.5	19.3	16.6	16.6	15.5	12.7	11.6	9.4	2.8	3.9	1.7	3.3	9.9	7.2	8.3
湘南	238	30.7	28.2	19.3	20.2	12.2	14.7	11.8	6.7	5.5	4.6	3.8	1.7	6.7	13.0	5.5	6.3
県西	61	31.1	32.8	18.0	18.0	6.6	21.3	9.8	9.8	3.3	4.9	9.8	1.6	3.3	14.8	3.3	1.6
【性・年代別】																	
男性	710	39.3	23.1	28.2	11.4	13.4	11.8	12.1	14.2	10.0	8.6	6.8	2.4	4.1	13.8	5.1	3.9
女性	899	28.3	37.7	16.9	20.1	16.7	16.6	7.9	2.3	2.2	2.0	0.9	1.0	3.3	14.6	7.5	6.2
男性18～29歳	36	52.8	27.8	30.6	0.0	11.1	8.3	2.8	13.9	13.9	25.0	8.3	11.1	2.8	8.3	2.8	2.8
30歳代	78	60.3	38.5	51.3	3.8	21.8	6.4	3.8	16.7	14.1	7.7	9.0	2.6	2.6	2.6	1.3	5.1
40歳代	149	44.3	26.2	35.6	13.4	12.8	10.7	16.1	16.1	10.1	8.1	8.1	2.7	2.7	9.4	4.7	0.0
50歳代	173	37.6	18.5	28.3	13.9	19.1	16.8	12.1	15.6	8.7	9.2	8.7	2.3	4.0	13.3	6.4	0.6
60歳代	149	30.2	23.5	22.8	11.4	11.4	12.1	13.4	10.7	8.7	6.7	4.0	1.3	4.0	22.8	2.0	4.0
70～74歳	73	30.1	15.1	12.3	6.8	5.5	8.2	16.4	16.4	9.6	6.8	5.5	0.0	6.8	19.2	11.0	9.6
75歳以上	52	28.8	13.5	7.7	23.1	1.9	13.5	9.6	7.7	9.6	5.8	1.9	1.9	7.7	15.4	9.6	17.3
女性18～29歳	61	49.2	47.5	37.7	13.1	36.1	13.1	4.9	0.0	6.6	0.0	1.6	1.6	6.6	1.6	3.3	1.6
30歳代	134	38.1	45.5	19.4	15.7	25.4	26.9	10.4	2.2	3.0	3.0	0.0	0.0	3.0	6.7	2.2	5.2
40歳代	214	30.8	46.3	19.2	21.5	21.0	17.3	8.9	3.3	1.9	2.3	1.4	1.4	2.8	11.2	7.5	2.3
50歳代	199	25.6	41.2	19.1	22.1	16.6	15.1	6.5	2.0	1.0	2.5	0.5	0.5	4.0	17.6	7.0	2.0
60歳代	148	23.0	27.0	9.5	20.3	6.1	15.5	9.5	2.7	2.0	0.0	1.4	0.7	2.7	25.0	9.5	4.7
70～74歳	80	16.3	20.0	11.3	22.5	6.3	11.3	7.5	2.5	2.5	1.3	0.0	2.5	2.5	13.8	10.0	25.0
75歳以上	63	14.3	19.0	1.6	22.2	3.2	9.5	3.2	1.6	1.6	4.8	1.6	1.6	3.2	22.2	15.9	19.0

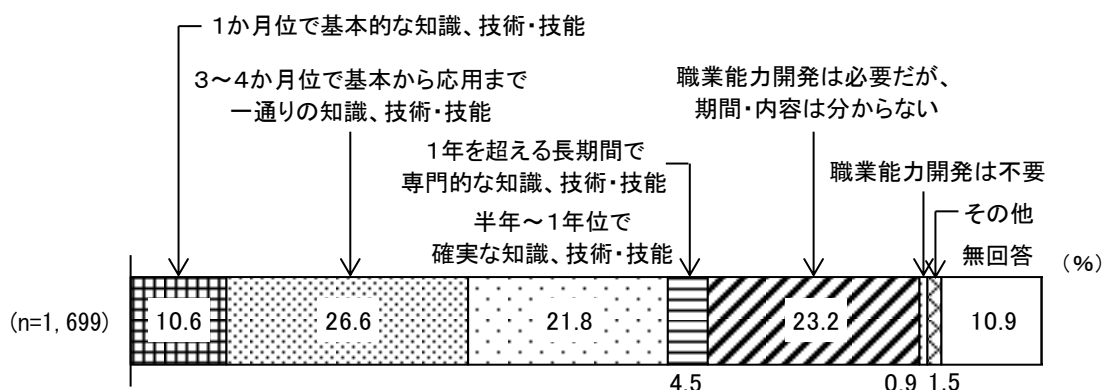
2 職業能力開発を行うことが望ましい期間と内容【問40】

【全体の状況】

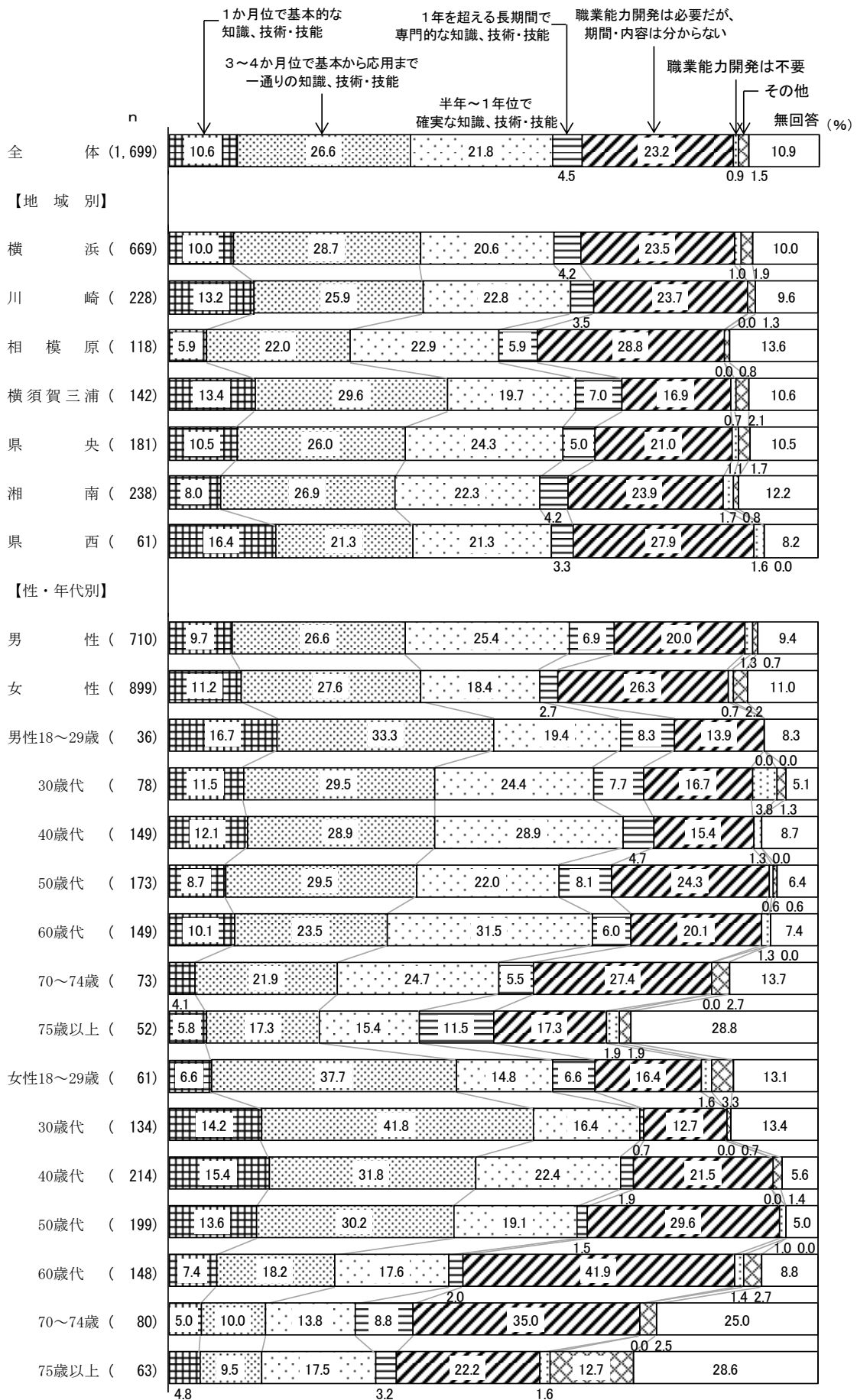
(再) 就職時、求職活動前にどのくらいの期間でどの程度職業能力開発を行うことが望ましいと思うか尋ねたところ、「3～4か月位で基本から応用まで一通りの知識、技術・技能」が26.6%で最も多く、次いで「職業能力開発は必要だが、期間・内容は分からない」が23.2%であった。

(図表10-2-1)

図表10-2-1 職業能力開発を行うことが望ましい期間と内容



図表10-2-2 職業能力開発を行うことが望ましい期間と内容—地域別、性・年代別

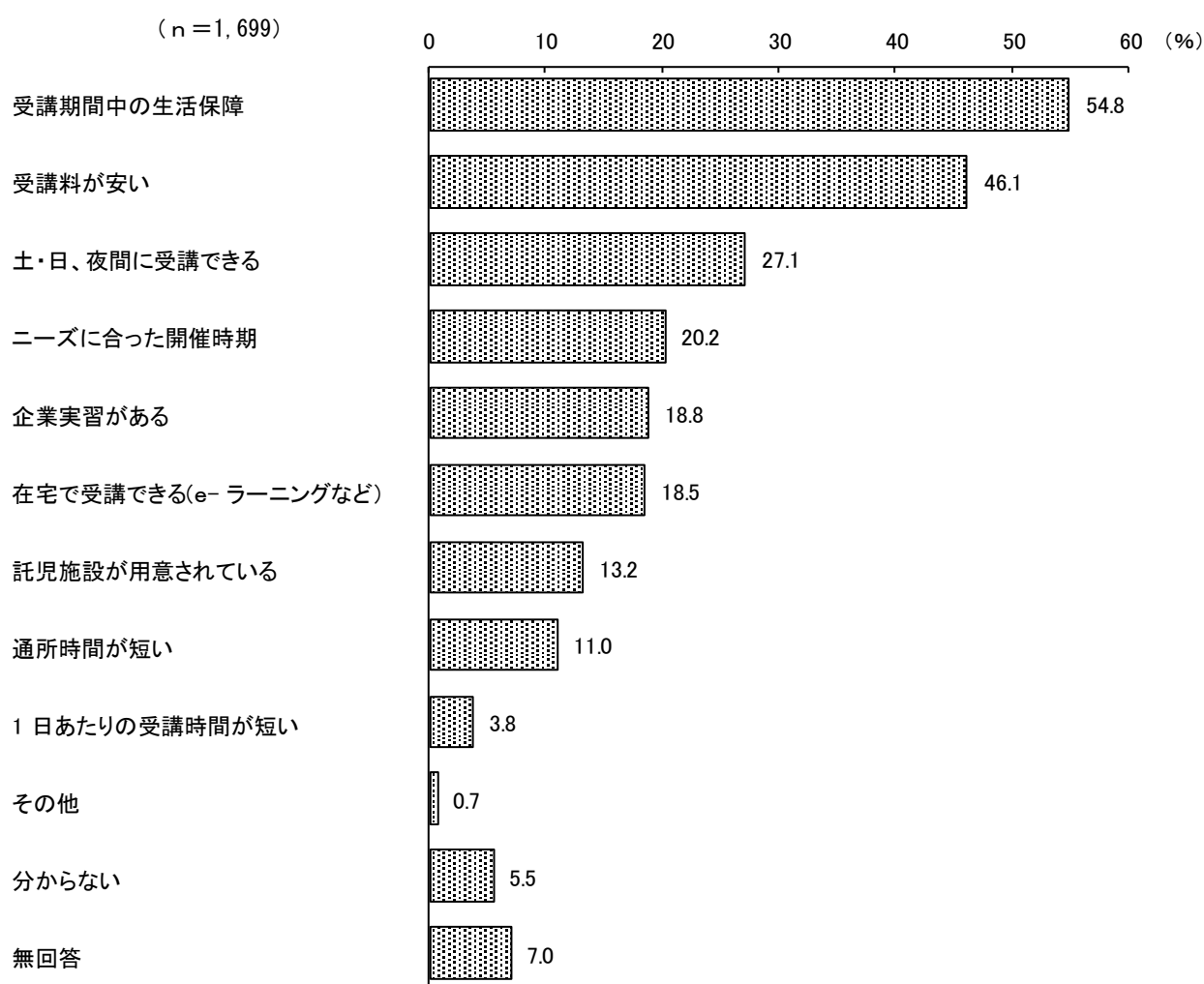


3 備わっているとよいと思う条件【問41】

【全体の状況】

(再) 就職するために職業能力開発を行う場合、どのような条件が備わっているとよいと思うか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「受講期間中の生活保障」が54.8%で最も多く、次いで「受講料が安い」が46.1%であった。（図表10-3-1）

図表10-3-1 備わっているとよいと思う条件（複数回答）



図表10-3-2 備わっているとよいと思う条件（複数回答）—地域別、性・年代別

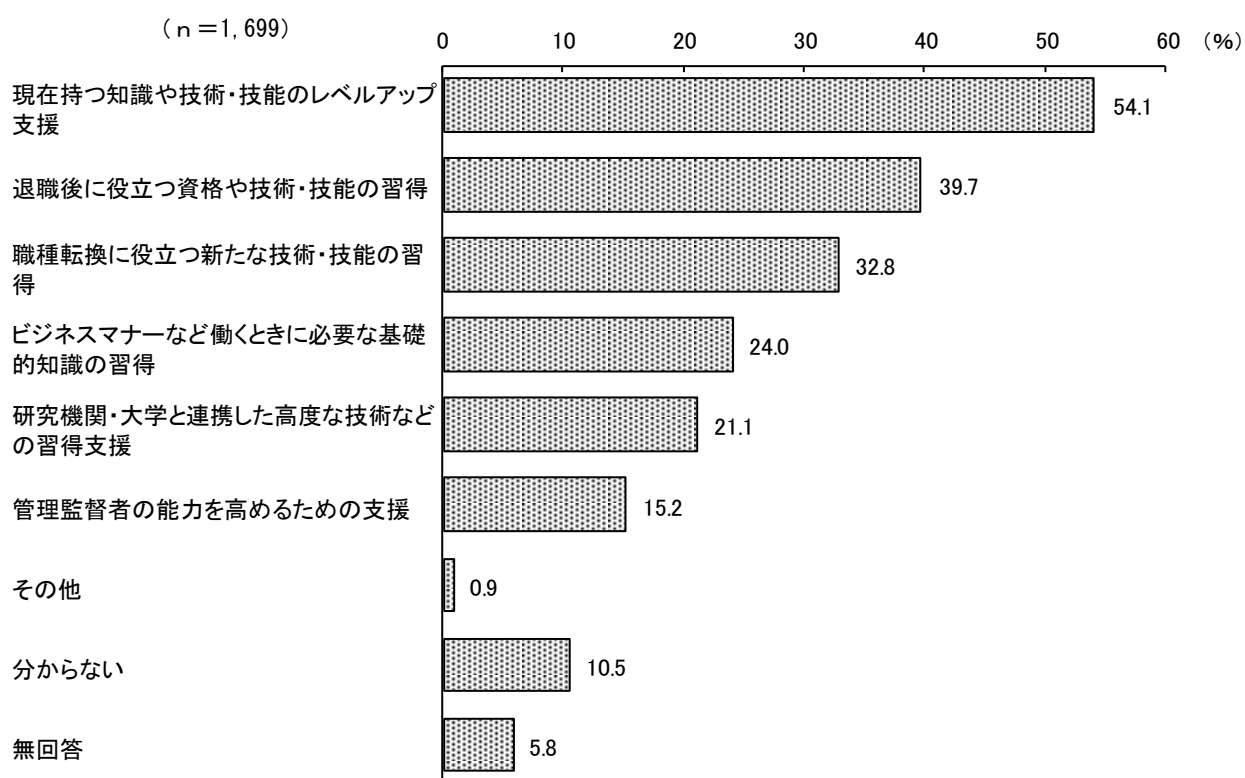
(%)													
	n	受講期間中の生活保障	受講料が安い	土・日、夜間に受講できる	ニーズに合った開催時期	企業実習がある	在宅で受講できる（e・ラーニングなど）	託児施設が用意されている	通所時間が短い	1日あたりの受講時間が短い	その他	分からない	無回答
全 体	1,699	54.8	46.1	27.1	20.2	18.8	18.5	13.2	11.0	3.8	0.7	5.5	7.0
【地 域 別】													
横 浜	669	53.4	46.9	28.1	17.8	19.0	18.5	12.7	10.5	4.8	0.9	6.4	5.8
川 崎	228	54.8	44.3	25.0	22.8	18.0	15.8	14.5	9.6	1.3	0.9	5.7	8.3
相 模 原	118	52.5	29.7	32.2	22.0	16.9	23.7	16.1	13.6	3.4	0.0	2.5	11.0
横 須 賀 三 浦	142	48.6	47.9	27.5	23.9	16.9	21.8	12.7	11.3	6.3	0.7	6.3	4.9
県 央	181	63.5	54.1	26.5	18.2	19.3	20.4	11.6	12.7	2.2	0.0	3.3	7.2
湘 南	238	59.7	48.3	24.8	22.3	23.9	14.3	14.3	11.3	3.8	0.4	4.6	6.7
県 西	61	47.5	42.6	31.1	26.2	13.1	19.7	13.1	13.1	3.3	1.6	8.2	1.6
【性・年代別】													
男 性	710	56.8	44.8	30.4	22.5	23.2	14.9	6.6	10.6	3.4	1.0	6.1	4.9
女 性	899	53.5	47.9	24.9	18.7	15.8	21.2	18.6	11.8	4.2	0.3	5.0	7.7
男性18～29歳	36	66.7	55.6	36.1	16.7	19.4	19.4	11.1	5.6	11.1	2.8	2.8	0.0
30歳代	78	53.8	43.6	30.8	19.2	32.1	14.1	11.5	7.7	1.3	2.6	3.8	3.8
40歳代	149	59.1	49.0	38.3	23.5	24.8	12.1	4.7	8.7	0.7	0.0	2.7	4.0
50歳代	173	60.7	48.0	31.8	23.1	22.5	10.4	5.8	12.7	2.3	0.6	6.4	3.5
60歳代	149	61.1	43.6	24.2	23.5	21.5	22.1	6.7	9.4	6.7	0.7	6.7	3.4
70～74歳	73	47.9	35.6	26.0	23.3	20.5	17.8	5.5	15.1	2.7	0.0	9.6	8.2
75歳以上	52	34.6	32.7	23.1	23.1	19.2	11.5	5.8	13.5	3.8	3.8	13.5	17.3
女性18～29歳	61	65.6	41.0	41.0	21.3	14.8	11.5	18.0	13.1	1.6	0.0	3.3	1.6
30歳代	134	64.2	49.3	32.8	17.9	8.2	24.6	31.3	9.0	3.0	0.0	0.7	5.2
40歳代	214	55.6	59.3	23.4	15.0	15.4	25.7	15.9	17.3	5.6	0.0	1.4	3.3
50歳代	199	58.3	50.8	29.1	19.6	19.6	22.6	13.1	11.6	6.5	1.0	2.5	4.5
60歳代	148	52.0	43.2	14.9	27.7	20.3	18.9	20.9	10.1	4.1	0.7	6.8	6.8
70～74歳	80	33.8	40.0	21.3	17.5	18.8	18.8	20.0	6.3	1.3	0.0	8.8	23.8
75歳以上	63	25.4	25.4	12.7	7.9	7.9	12.7	11.1	9.5	1.6	0.0	27.0	25.4

4 県が重点的に取り組むべきこと【問42】

【全体の状況】

在職者のための職業能力開発について、今後、県が重点的に取り組むべきことを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「現在持つ知識や技術・技能のレベルアップ支援」が54.1%で最も多く、次いで「退職後に役立つ資格や技術・技能の習得」が39.7%であった。（図表10-4-1）

図表10-4-1 県が重点的に取り組むべきこと（複数回答）



図表10-4-2 県が重点的に取り組むべきこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

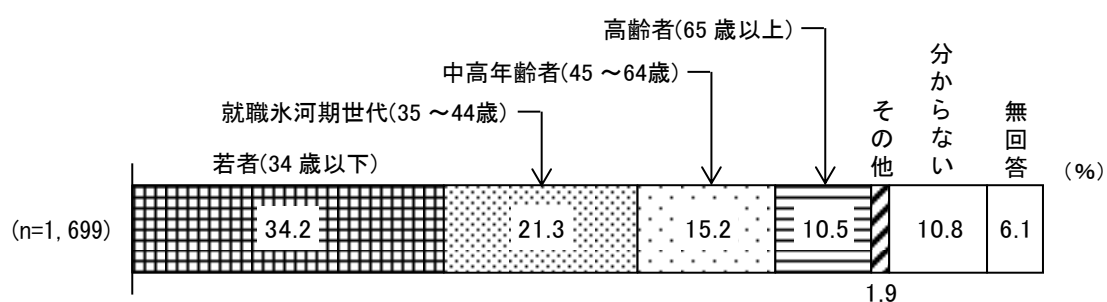
	n	現在持つ知識や技術・技能のレベルアップ支援	退職後に役立つ資格や技術・技能の習得	職種転換に役立つ新たな技術・技能の習得	ビジネスマナーなど働くときに必要な基礎的知識の習得	研究機関・大学と連携した高度な技術などの習得支援	管理監督者の能力を高めるための支援	その他	分からない	無回答
全体	1,699	54.1	39.7	32.8	24.0	21.1	15.2	0.9	10.5	5.8
【地域別】										
横浜	669	52.6	39.2	28.1	24.1	23.5	15.8	0.7	13.0	3.9
川崎	228	54.8	41.7	32.9	19.7	23.7	14.0	0.9	10.5	6.6
相模原	118	54.2	34.7	39.0	21.2	16.9	17.8	1.7	7.6	9.3
横須賀三浦	142	58.5	41.5	35.9	26.8	21.1	16.9	1.4	9.2	3.5
県央	181	58.6	44.2	38.1	28.7	16.6	11.0	0.6	7.2	5.5
湘南	238	54.6	40.8	37.8	23.1	19.7	15.1	1.3	8.8	7.6
県西	61	50.8	32.8	29.5	23.0	16.4	19.7	0.0	14.8	1.6
【性・年代別】										
男性	710	53.5	44.5	31.5	24.1	23.8	19.3	1.4	9.3	3.9
女性	899	55.6	36.6	34.0	23.8	19.1	12.5	0.6	11.9	5.8
男性18～29歳	36	58.3	27.8	41.7	27.8	38.9	27.8	0.0	8.3	0.0
30歳代	78	59.0	23.1	39.7	32.1	33.3	26.9	1.3	6.4	1.3
40歳代	149	55.7	44.3	32.9	24.2	28.2	20.1	2.0	8.1	0.0
50歳代	173	52.0	55.5	30.6	24.3	18.5	17.3	0.6	12.1	1.2
60歳代	149	53.7	50.3	34.9	22.1	20.1	15.4	1.3	8.1	4.7
70～74歳	73	49.3	45.2	19.2	19.2	23.3	19.2	1.4	11.0	9.6
75歳以上	52	46.2	34.6	19.2	21.2	15.4	17.3	3.8	9.6	21.2
女性18～29歳	61	60.7	21.3	32.8	37.7	29.5	13.1	0.0	9.8	0.0
30歳代	134	59.7	33.6	38.1	29.1	24.6	17.2	0.7	5.2	3.7
40歳代	214	53.7	36.4	34.6	27.1	19.2	15.4	0.0	13.6	1.9
50歳代	199	58.3	51.8	40.2	19.6	17.1	9.0	1.0	9.0	2.0
60歳代	148	52.0	31.8	31.1	19.6	16.2	9.5	0.7	14.9	8.1
70～74歳	80	57.5	27.5	28.8	20.0	13.8	15.0	0.0	13.8	18.8
75歳以上	63	46.0	33.3	19.0	15.9	17.5	6.3	1.6	22.2	19.0

5 重点的に取り組むべき世代【問43】

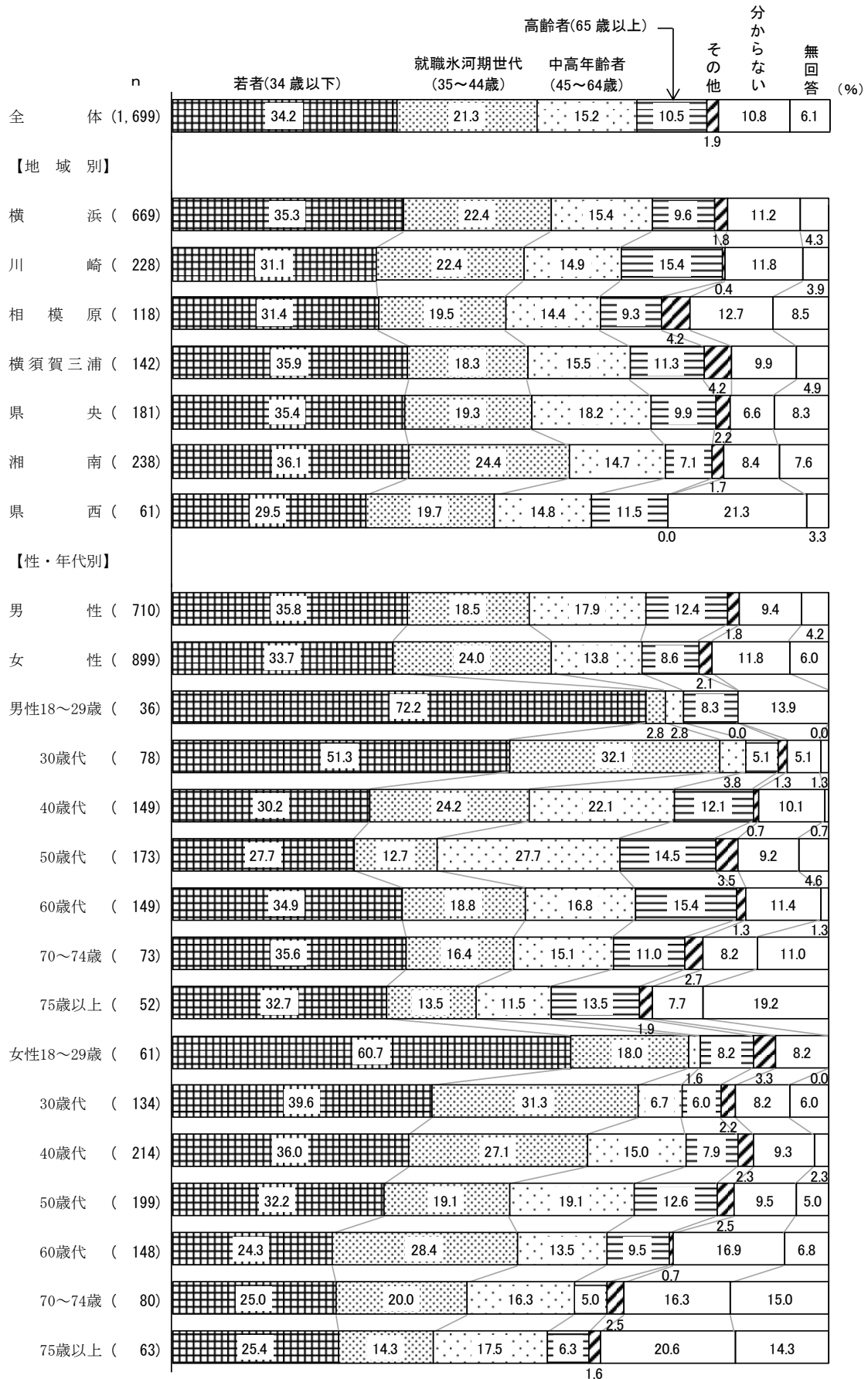
【全体の状況】

今後、県はどの世代の職業能力開発を重点的に取り組むべきかを尋ねたところ、「若者(34歳以下)」が34.2%で最も多く、次いで「就職氷河期世代(35～44歳)」が21.3%であった。(図表10-5-1)

図表10-5-1 重点的に取り組むべき世代



図表10-5-2 重点的に取り組むべき世代—地域別、性・年代別

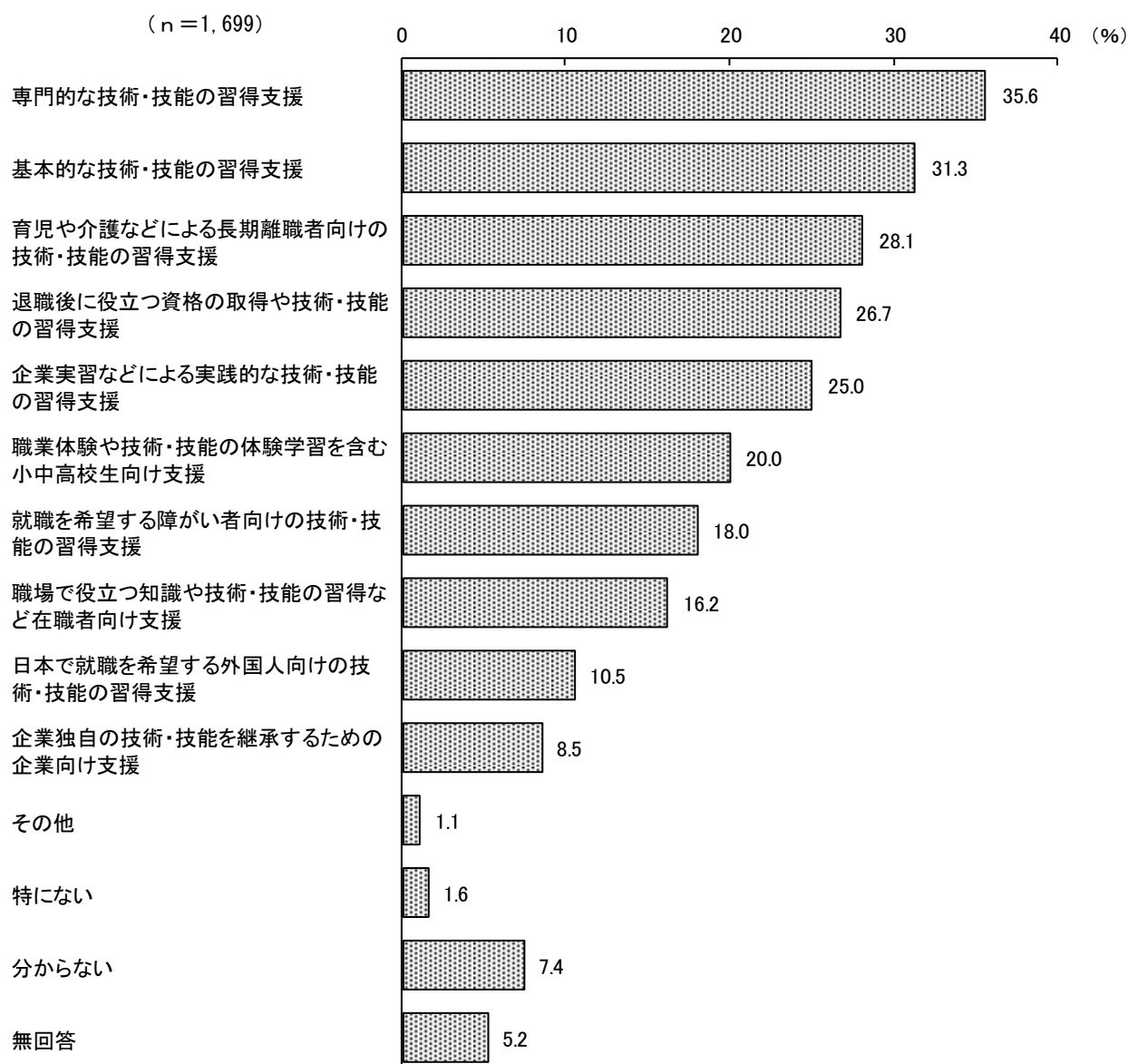


6 中心に進めていくべき職業能力開発【問44】

【全体の状況】

今後、県はどのような職業能力開発を中心に進めていくとよいかを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「専門的な技術・技能の習得支援」が35.6%で最も多く、次いで「基本的な技術・技能の習得支援」が31.3%であった。（図表10-6-1）

図表10-6-1 中心に進めていくべき職業能力開発（複数回答）



図表10-6-2 中心に進めていくべき職業能力開発（複数回答）－地域別、性・年代別

		(%)													
	n	専門的な技術・技能の習得支援	基本的な技術・技能の習得支援	育児や介護などによる長期離職者向けの技術・技能の習得支援	退職後に役立つ資格の取得や技術・技能の習得支援	企業実習などによる実践的な技術・技能の習得支援	職業体験や技術・技能の体験学習を含む小中高校生向け支援	就職を希望する障がい者向けの技術・技能の習得支援	職場などで役立つ知識や技術・技能の習得など	日本で就職を希望する外国人向けの技術・技能の習得支援	企業独自の技術・技能を継承するための企業向け支援	その他	特になし	分からない	無回答
全体	1,699	35.6	31.3	28.1	26.7	25.0	20.0	18.0	16.2	10.5	8.5	1.1	1.6	7.4	5.2
【地域別】															
横浜	669	35.4	29.6	28.4	26.5	24.1	19.1	16.9	15.1	12.7	8.8	0.9	1.5	9.0	4.0
川崎	228	32.0	32.0	28.1	29.8	20.6	18.9	15.4	15.8	7.5	9.2	0.9	0.4	10.1	4.4
相模原	118	33.9	23.7	29.7	23.7	27.1	22.9	26.3	14.4	5.1	6.8	2.5	0.8	7.6	9.3
横須賀三浦	142	40.1	32.4	31.0	27.5	31.7	22.5	16.9	15.5	14.1	7.0	2.1	5.6	3.5	2.1
県央	181	37.6	41.4	27.6	30.4	26.0	19.3	18.2	19.9	8.8	9.4	1.1	1.1	5.5	6.6
湘南	238	39.1	31.1	27.3	22.3	29.0	24.4	20.2	16.4	10.1	8.8	0.4	1.3	5.0	5.0
県西	61	34.4	31.1	27.9	31.1	19.7	13.1	18.0	18.0	11.5	6.6	0.0	3.3	8.2	1.6
【性・年代別】															
男性	710	41.8	34.6	19.0	29.6	28.5	16.2	18.7	18.2	13.1	9.9	1.4	2.0	5.6	3.5
女性	899	31.1	29.1	36.3	24.5	23.2	23.8	17.7	14.2	8.8	7.7	0.7	1.3	9.2	5.1
男性18～29歳	36	52.8	50.0	19.4	5.6	25.0	8.3	22.2	22.2	16.7	13.9	0.0	0.0	11.1	0.0
30歳代	78	52.6	43.6	23.1	11.5	29.5	20.5	17.9	19.2	15.4	16.7	2.6	2.6	0.0	1.3
40歳代	149	45.0	36.2	23.5	28.9	28.9	18.1	19.5	13.4	11.4	10.7	1.3	1.3	4.0	2.0
50歳代	173	38.7	31.2	17.9	37.6	29.5	12.7	17.3	21.4	13.9	8.1	1.7	2.3	7.5	1.7
60歳代	149	40.3	33.6	19.5	36.2	30.9	18.1	18.8	19.5	12.1	7.4	0.0	2.7	5.4	2.0
70～74歳	73	38.4	28.8	11.0	34.2	24.7	19.2	19.2	16.4	12.3	8.2	2.7	1.4	5.5	9.6
75歳以上	52	28.8	28.8	13.5	23.1	23.1	11.5	19.2	15.4	13.5	9.6	1.9	1.9	9.6	15.4
女性18～29歳	61	31.1	39.3	37.7	11.5	24.6	23.0	29.5	18.0	9.8	6.6	1.6	1.6	3.3	1.6
30歳代	134	33.6	38.8	50.7	19.4	15.7	28.4	24.6	14.2	11.2	5.2	2.2	1.5	6.0	2.2
40歳代	214	33.6	29.4	40.7	22.9	27.1	26.2	15.4	16.8	6.5	7.5	0.0	0.5	7.9	3.3
50歳代	199	32.2	26.6	35.2	33.2	26.6	24.6	17.1	12.6	11.6	9.5	0.5	1.5	7.0	1.5
60歳代	148	23.0	25.0	33.8	29.1	22.3	20.9	14.9	11.5	9.5	8.8	0.7	0.7	14.2	6.8
70～74歳	80	33.8	21.3	20.0	20.0	25.0	20.0	13.8	18.8	6.3	11.3	0.0	2.5	8.8	13.8
75歳以上	63	30.2	25.4	19.0	20.6	14.3	15.9	12.7	7.9	3.2	1.6	0.0	3.2	22.2	17.5

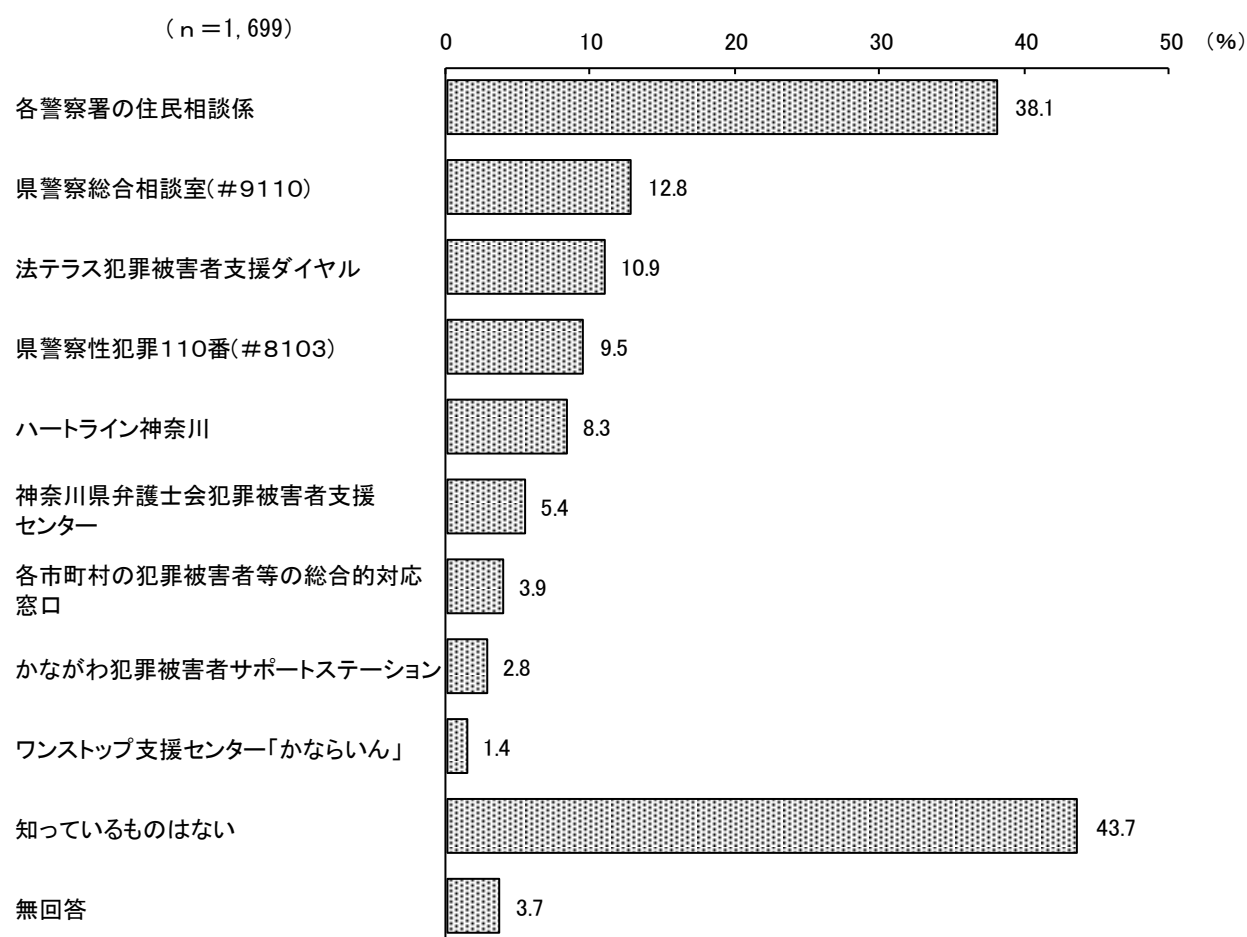
第11章 犯罪被害者等への支援【問45～問49】

1 知っている犯罪被害者等への支援に関する相談機関・窓口【問45】

【全体の状況】

犯罪被害者等への支援に関する相談機関・窓口について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「各警察署の住民相談係」が38.1%で最も多く、次いで「県警察総合相談室（#9110）」が12.8%であった。（図表11-1-1）

図表11-1-1 知っている犯罪被害者等への支援に関する相談機関・窓口（複数回答）



図表11-1-2 知っている犯罪被害者等への支援に関する相談機関・窓口（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

	n	各警察署の住民相談係	県警察総合相談室（#9110）	法テラス犯罪被害者支援ダイヤル	3）県警察性犯罪110番（#810）	ハートライン神奈川	神奈川県弁護士会犯罪被害者支援センター	各市町村の犯罪被害者等の総合的対応窓口	かながわ犯罪被害者サポートステーション	ワンストップ支援センター「かならいん」	知っているものはない	無回答
全体	1,699	38.1	12.8	10.9	9.5	8.3	5.4	3.9	2.8	1.4	43.7	3.7
【地域別】												
横浜	669	38.4	12.7	10.6	9.6	9.0	5.8	2.5	2.4	1.0	43.5	3.9
川崎	228	34.6	11.4	7.9	5.3	6.1	3.9	3.5	2.2	0.4	51.8	1.8
相模原	118	43.2	18.6	17.8	13.6	6.8	4.2	6.8	3.4	4.2	34.7	3.4
横須賀三浦	142	41.5	9.9	9.2	10.6	11.3	4.9	2.1	2.8	0.0	41.5	2.1
県央	181	37.6	11.6	13.8	8.8	6.6	5.5	6.1	3.9	1.1	47.5	3.9
湘南	238	36.1	13.9	13.0	10.1	10.9	6.7	6.7	3.4	1.3	42.4	3.4
県西	61	34.4	9.8	4.9	8.2	3.3	0.0	3.3	4.9	3.3	47.5	4.9
【性・年代別】												
男性	710	39.7	14.6	11.7	9.3	7.3	5.4	3.9	3.2	1.0	43.9	3.0
女性	899	36.8	11.1	11.0	9.2	9.5	4.8	4.0	2.7	1.4	44.5	3.3
男性18～29歳	36	30.6	16.7	13.9	5.6	11.1	0.0	2.8	8.3	0.0	55.6	0.0
30歳代	78	42.3	12.8	16.7	9.0	15.4	6.4	2.6	2.6	1.3	37.2	2.6
40歳代	149	30.2	13.4	12.8	8.7	5.4	4.7	4.0	3.4	2.0	54.4	0.7
50歳代	173	35.8	11.0	9.2	8.1	9.2	4.6	3.5	0.0	0.0	46.8	2.9
60歳代	149	48.3	16.1	14.8	8.7	6.0	6.0	3.4	4.7	0.7	36.9	4.7
70～74歳	73	42.5	17.8	6.8	9.6	4.1	6.8	5.5	2.7	2.7	41.1	4.1
75歳以上	52	53.8	23.1	5.8	19.2	0.0	7.7	7.7	7.7	0.0	30.8	5.8
女性18～29歳	61	32.8	9.8	9.8	14.8	16.4	3.3	1.6	3.3	3.3	47.5	0.0
30歳代	134	34.3	8.2	13.4	6.0	14.9	0.7	3.0	1.5	1.5	46.3	3.0
40歳代	214	31.8	4.2	14.0	5.6	9.8	1.4	3.3	2.3	1.4	52.3	1.4
50歳代	199	40.7	11.6	12.6	7.0	11.1	6.0	4.0	3.0	3.0	43.7	1.0
60歳代	148	41.9	12.8	8.8	11.5	8.1	6.8	4.7	2.0	0.0	39.9	4.1
70～74歳	80	40.0	25.0	5.0	18.8	0.0	11.3	7.5	6.3	0.0	33.8	11.3
75歳以上	63	34.9	19.0	4.8	12.7	0.0	9.5	4.8	1.6	0.0	38.1	9.5

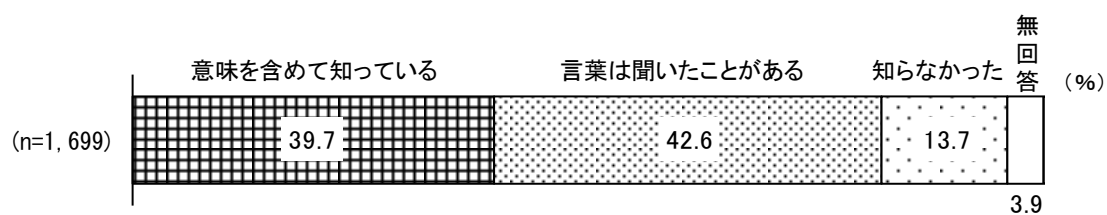
2 「二次被害」の認知度【問46】

【全体の状況】

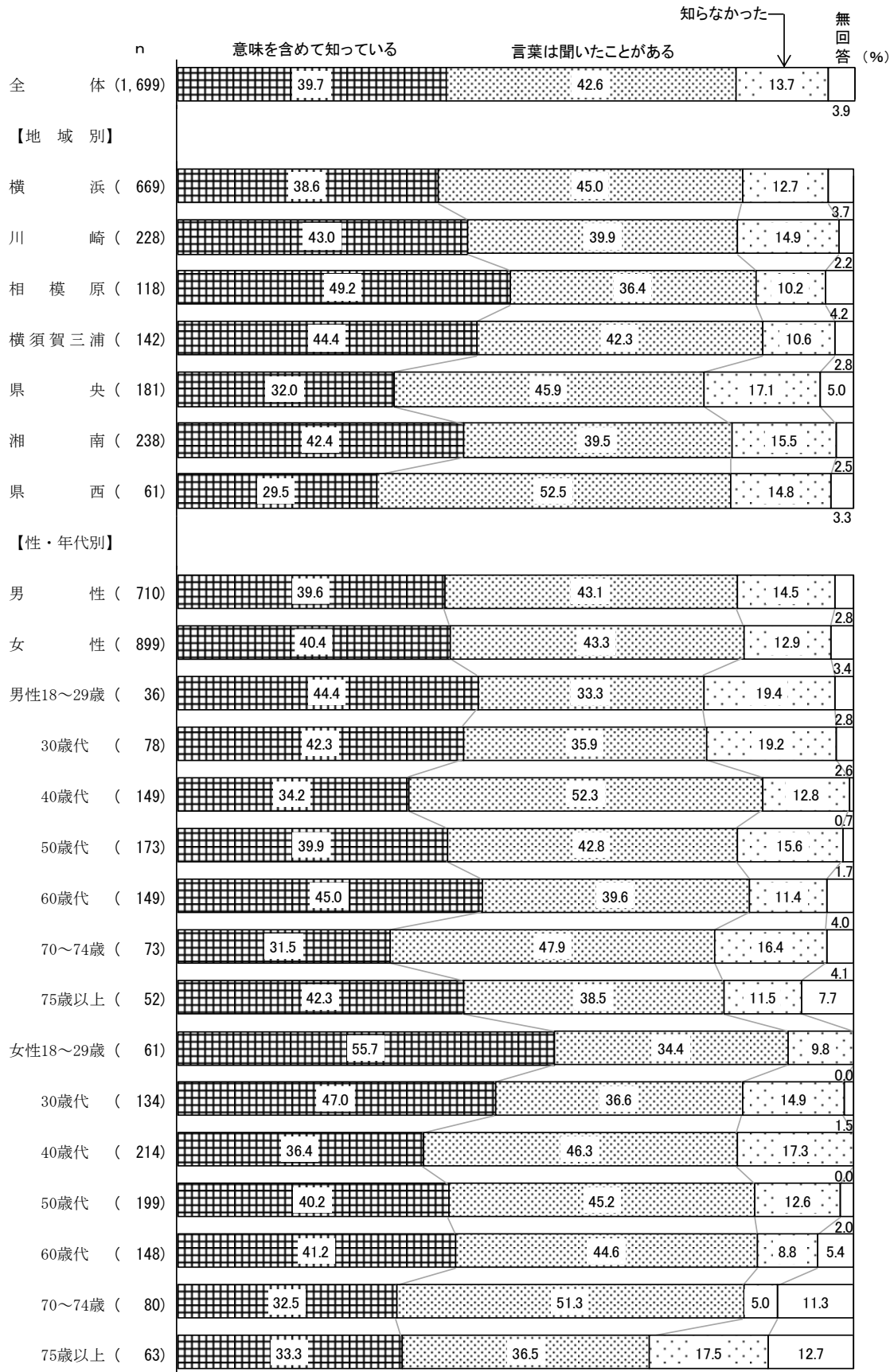
「二次被害」という言葉を知っているか尋ねたところ、「意味を含めて知っている」が39.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が42.6%であった。

一方、「知らなかった」が13.7%であった。(図表11-2-1)

図表11-2-1 「二次被害」の認知度



図表11-2-2 「二次被害」の認知度—地域別、性・年代別

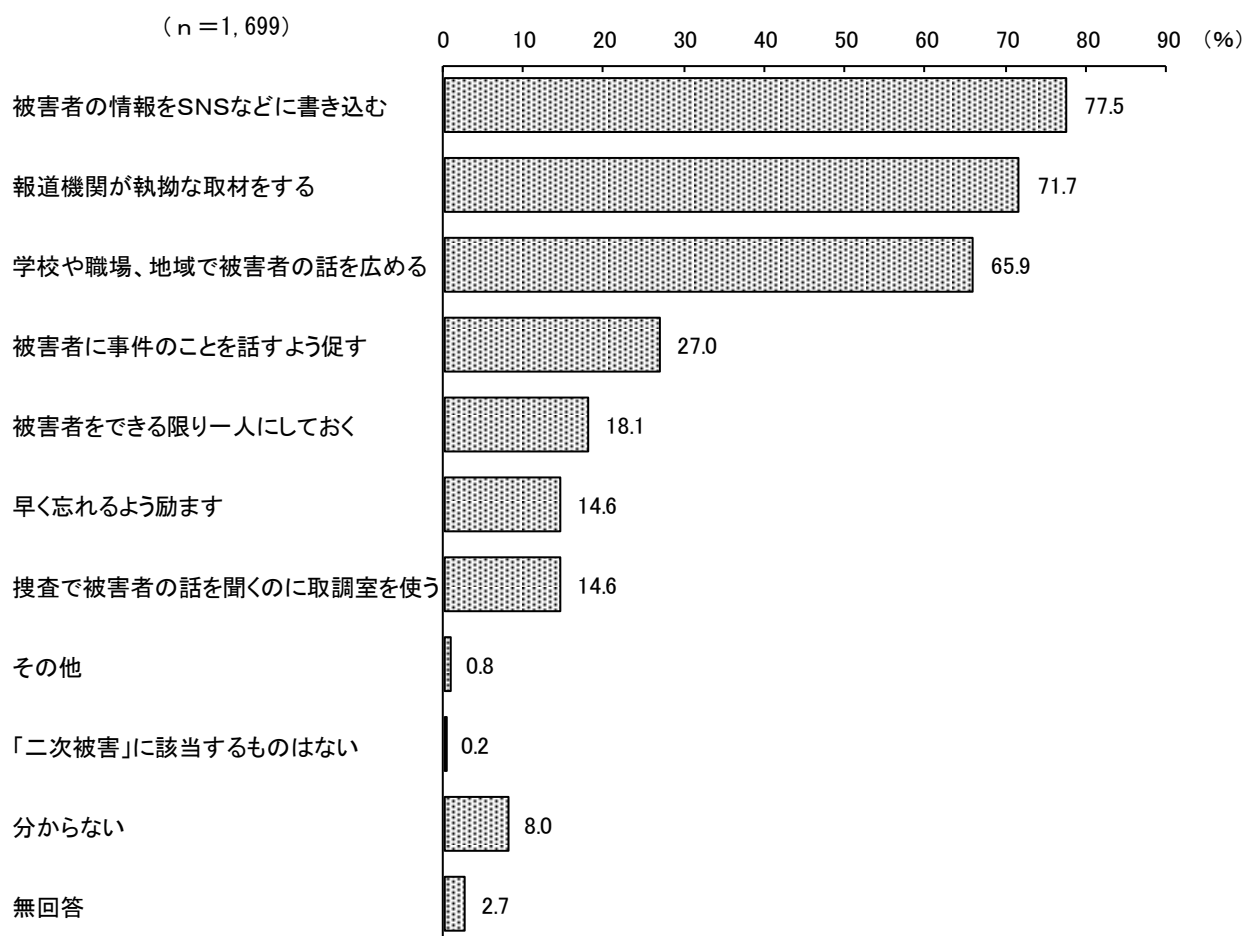


3 「二次被害」を生じさせる可能性が高いと思うもの【問47】

【全体の状況】

「二次被害」を生じさせる可能性が高いと思うものを複数回答で尋ねたところ、「被害者の情報をSNSなどに書き込む」が77.5%で最も多く、次いで「報道機関が執拗な取材をする」が71.7%であった。(図表11-3-1)

図表11-3-1 「二次被害」を生じさせる可能性が高いと思うもの（複数回答）



図表11-3-2 「二次被害」を生じさせる可能性が高いと思うもの（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

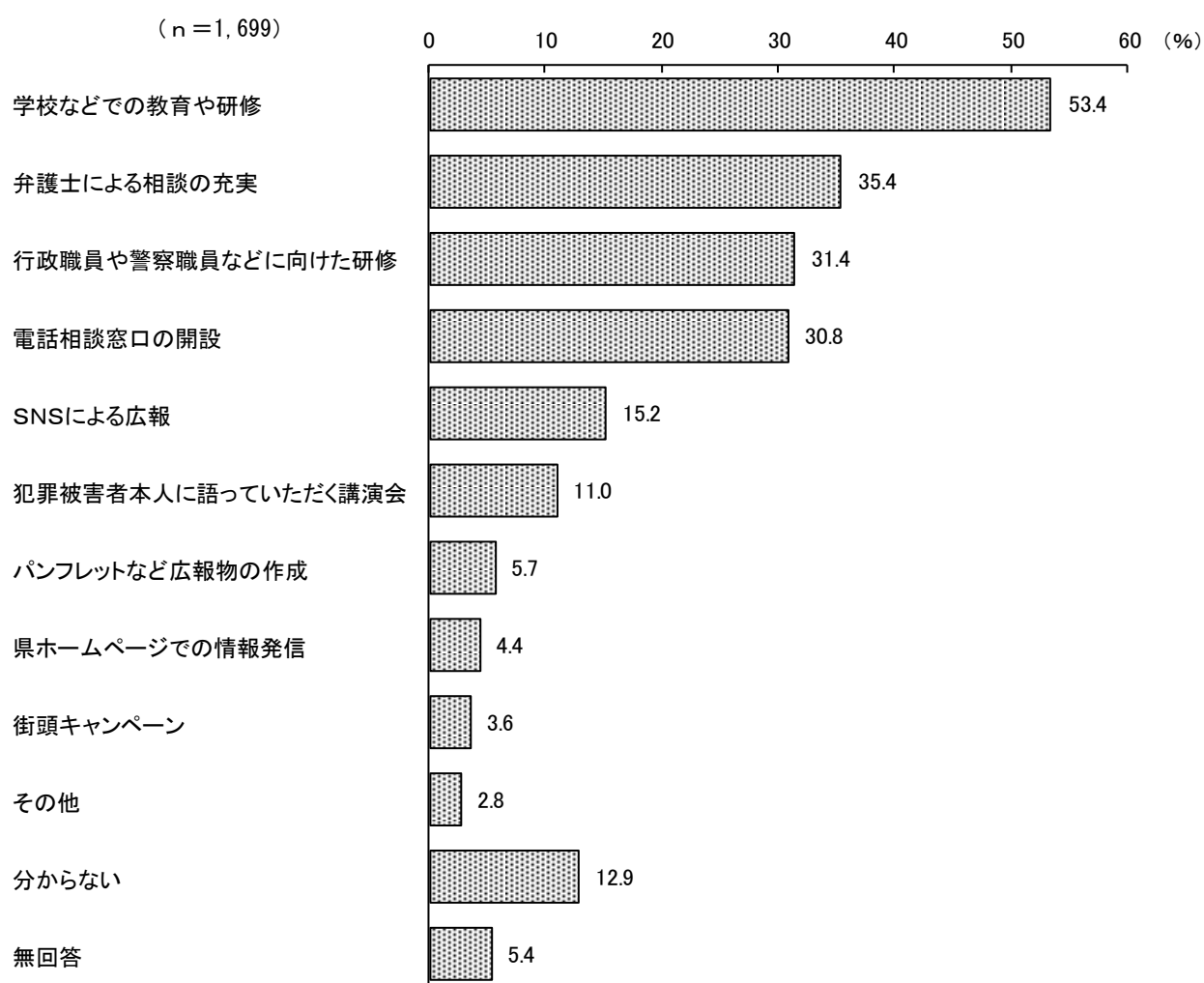
	n	被害者の情報をSNSなどに書き込む	報道機関が執拗な取材をする	学校や職場、地域で被害者の話を広める	被害者に事件のことを話すよう促す	被害者をできる限り一人にしておく	早く忘れるよう励ます	捜査で被害者の話を聞くのに取調室を使う	その他	「二次被害」に該当するものはない	分からない	無回答
全体	1,699	77.5	71.7	65.9	27.0	18.1	14.6	14.6	0.8	0.2	8.0	2.7
【地域別】												
横浜	669	76.7	71.3	64.7	27.5	17.5	12.6	14.8	0.6	0.3	9.4	2.5
川崎	228	81.6	72.4	70.6	25.0	21.5	12.7	12.3	1.3	0.0	6.6	0.4
相模原	118	80.5	76.3	70.3	29.7	19.5	19.5	20.3	0.0	0.0	4.2	3.4
横須賀三浦	142	76.1	73.9	65.5	28.2	21.1	19.7	17.6	1.4	0.7	7.7	1.4
県央	181	79.6	71.8	71.3	24.3	20.4	16.0	13.8	1.1	0.0	7.7	1.7
湘南	238	78.6	72.7	65.5	29.4	15.5	15.1	14.7	0.8	0.4	5.9	3.8
県西	61	77.0	67.2	59.0	21.3	8.2	16.4	6.6	0.0	0.0	14.8	1.6
【性・年代別】												
男性	710	75.9	70.4	62.1	23.9	15.8	13.9	12.7	1.0	0.3	8.2	1.7
女性	899	80.9	74.2	70.6	29.5	20.2	15.4	16.2	0.6	0.2	7.8	2.4
男性18～29歳	36	88.9	75.0	63.9	36.1	19.4	19.4	11.1	0.0	0.0	8.3	0.0
30歳代	78	82.1	83.3	67.9	34.6	19.2	16.7	17.9	2.6	0.0	2.6	1.3
40歳代	149	79.2	71.1	61.1	22.8	13.4	16.1	11.4	1.3	0.0	7.4	1.3
50歳代	173	77.5	70.5	61.3	23.1	16.2	9.2	12.1	1.2	0.6	7.5	1.2
60歳代	149	79.9	75.8	66.4	26.2	14.8	13.4	14.8	0.0	0.0	7.4	2.0
70～74歳	73	64.4	56.2	53.4	20.5	19.2	13.7	13.7	1.4	1.4	12.3	1.4
75歳以上	52	48.1	50.0	57.7	3.8	11.5	17.3	3.8	0.0	0.0	17.3	5.8
女性18～29歳	61	91.8	72.1	73.8	37.7	31.1	23.0	14.8	0.0	0.0	3.3	0.0
30歳代	134	88.8	79.9	82.8	35.8	24.6	18.7	14.9	0.0	0.0	3.0	1.5
40歳代	214	88.3	81.8	76.2	31.8	24.3	15.4	21.0	0.0	0.0	4.2	0.0
50歳代	199	89.4	82.4	73.9	30.2	16.1	15.1	14.1	1.0	0.5	5.0	0.5
60歳代	148	75.0	74.3	67.6	23.6	18.9	12.2	18.9	0.0	0.0	10.8	2.0
70～74歳	80	56.3	48.8	55.0	23.8	12.5	15.0	12.5	2.5	1.3	17.5	10.0
75歳以上	63	46.0	44.4	39.7	19.0	12.7	9.5	9.5	1.6	0.0	23.8	12.7

4 「二次被害」の防止に効果的だと思う取組み【問48】

【全体の状況】

「二次被害」を防止するために効果的だと思う取組みを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「学校などでの教育や研修」が53.4%で最も多く、次いで「弁護士による相談の充実」が35.4%であった。（図表11-4-1）

図表11-4-1 「二次被害」の防止に効果的だと思う取組み（複数回答）



図表11-4-2 「二次被害」の防止に効果的だと思う取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

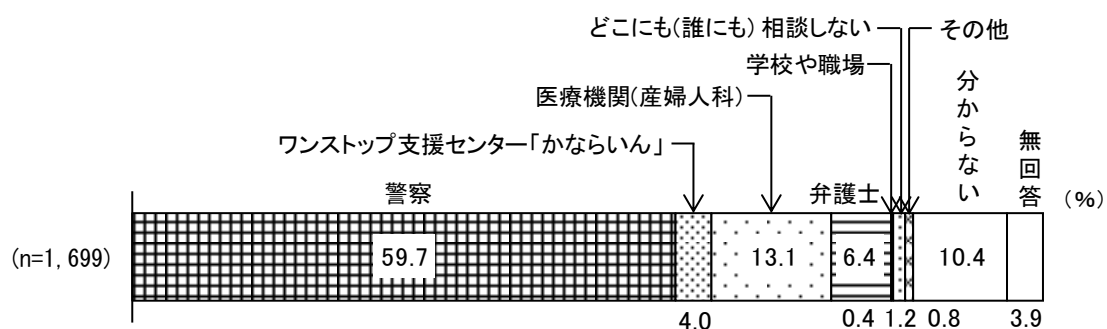
	n	学校などでの教育や研修	弁護士による相談の充実	行政職員や警察職員などに向けた研修	電話相談窓口の開設	SNSによる広報	犯罪被害者本人に語っていただく講演会	パンフレットなど広報物の作成	県ホームページでの情報発信	街頭キャンペーン	その他	分からない	無回答
全体	1,699	53.4	35.4	31.4	30.8	15.2	11.0	5.7	4.4	3.6	2.8	12.9	5.4
【地域別】													
横浜	669	52.0	35.6	29.1	31.1	16.3	11.5	4.9	4.5	3.7	3.1	13.9	4.3
川崎	228	53.5	40.4	36.0	30.7	15.8	11.0	7.5	2.6	4.8	3.1	12.3	3.1
相模原	118	59.3	34.7	33.9	32.2	16.9	6.8	5.1	6.8	5.1	0.0	10.2	6.8
横須賀三浦	142	48.6	26.8	33.1	32.4	14.1	12.0	2.8	7.7	0.7	2.1	16.2	7.0
県央	181	53.6	38.7	32.6	34.8	14.4	8.3	7.2	6.1	5.5	2.2	13.3	5.0
湘南	238	58.8	34.9	31.9	27.3	13.9	11.8	6.3	2.1	2.1	4.2	10.1	7.1
県西	61	62.3	39.3	29.5	32.8	16.4	8.2	9.8	0.0	1.6	1.6	14.8	1.6
【性・年代別】													
男性	710	56.3	36.6	30.1	30.0	14.9	11.3	6.9	5.5	3.8	4.2	12.4	3.1
女性	899	52.7	35.6	33.1	32.4	16.4	10.1	4.7	3.6	3.7	1.7	13.6	5.7
男性18～29歳	36	47.2	36.1	25.0	27.8	13.9	13.9	13.9	2.8	2.8	2.8	16.7	0.0
30歳代	78	61.5	32.1	37.2	25.6	24.4	15.4	2.6	1.3	2.6	12.8	6.4	2.6
40歳代	149	63.1	40.3	24.2	23.5	18.8	12.1	4.7	4.0	3.4	2.7	12.1	2.7
50歳代	173	56.1	41.6	30.1	31.2	14.5	11.0	3.5	2.9	6.9	5.8	12.7	1.2
60歳代	149	57.7	38.3	30.9	32.2	14.1	8.1	10.1	9.4	2.7	1.3	8.7	5.4
70～74歳	73	43.8	27.4	39.7	37.0	9.6	9.6	8.2	13.7	2.7	0.0	20.5	4.1
75歳以上	52	50.0	25.0	25.0	36.5	1.9	13.5	15.4	3.8	1.9	5.8	17.3	5.8
女性18～29歳	61	55.7	50.8	34.4	29.5	26.2	14.8	1.6	0.0	6.6	3.3	4.9	1.6
30歳代	134	56.7	35.1	30.6	26.9	24.6	17.9	6.7	3.7	3.7	1.5	10.4	3.0
40歳代	214	54.7	39.7	35.5	31.3	16.8	12.6	4.7	2.3	1.9	2.3	14.0	3.3
50歳代	199	60.8	31.7	36.2	33.2	22.1	7.5	4.5	4.5	5.0	2.0	13.1	2.5
60歳代	148	48.6	35.1	31.1	35.8	8.8	6.1	2.7	3.4	2.0	0.7	13.5	10.1
70～74歳	80	47.5	32.5	37.5	37.5	2.5	6.3	3.8	5.0	6.3	0.0	17.5	10.0
75歳以上	63	25.4	25.4	19.0	33.3	4.8	3.2	9.5	6.3	3.2	1.6	23.8	17.5

5 最初に相談する場所【問49】

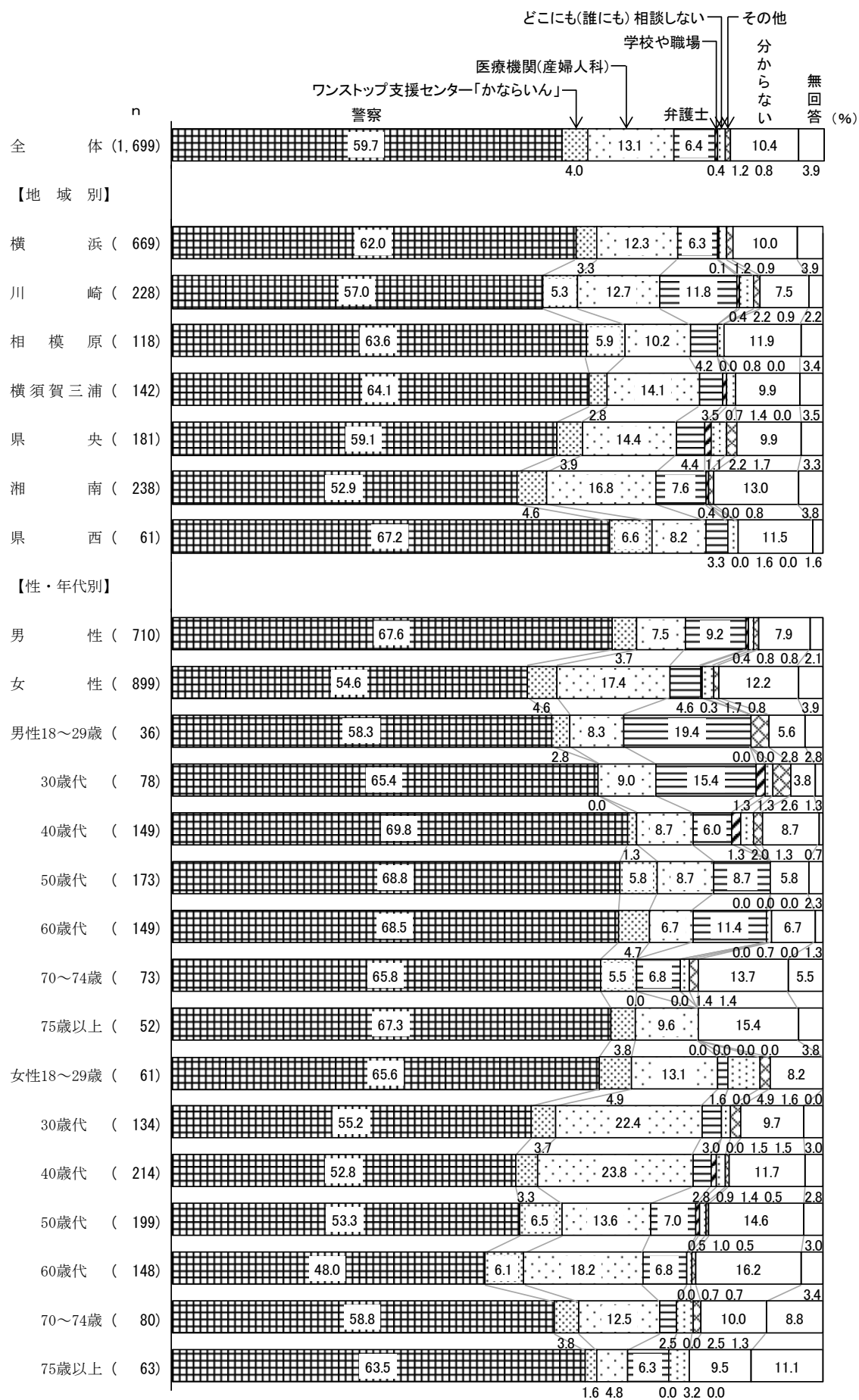
【全体の状況】

あなたやあなたの大切な人が性犯罪や性暴力の被害者となった場合、最初にどこに相談するかを尋ねたところ、「警察」が59.7%で最も多く、次いで「医療機関（産婦人科）」が13.1%であった。（図表11-5-1）

図表11-5-1 最初に相談する場所



図表11-5-2 最初に相談する場所—地域別、性・年代別



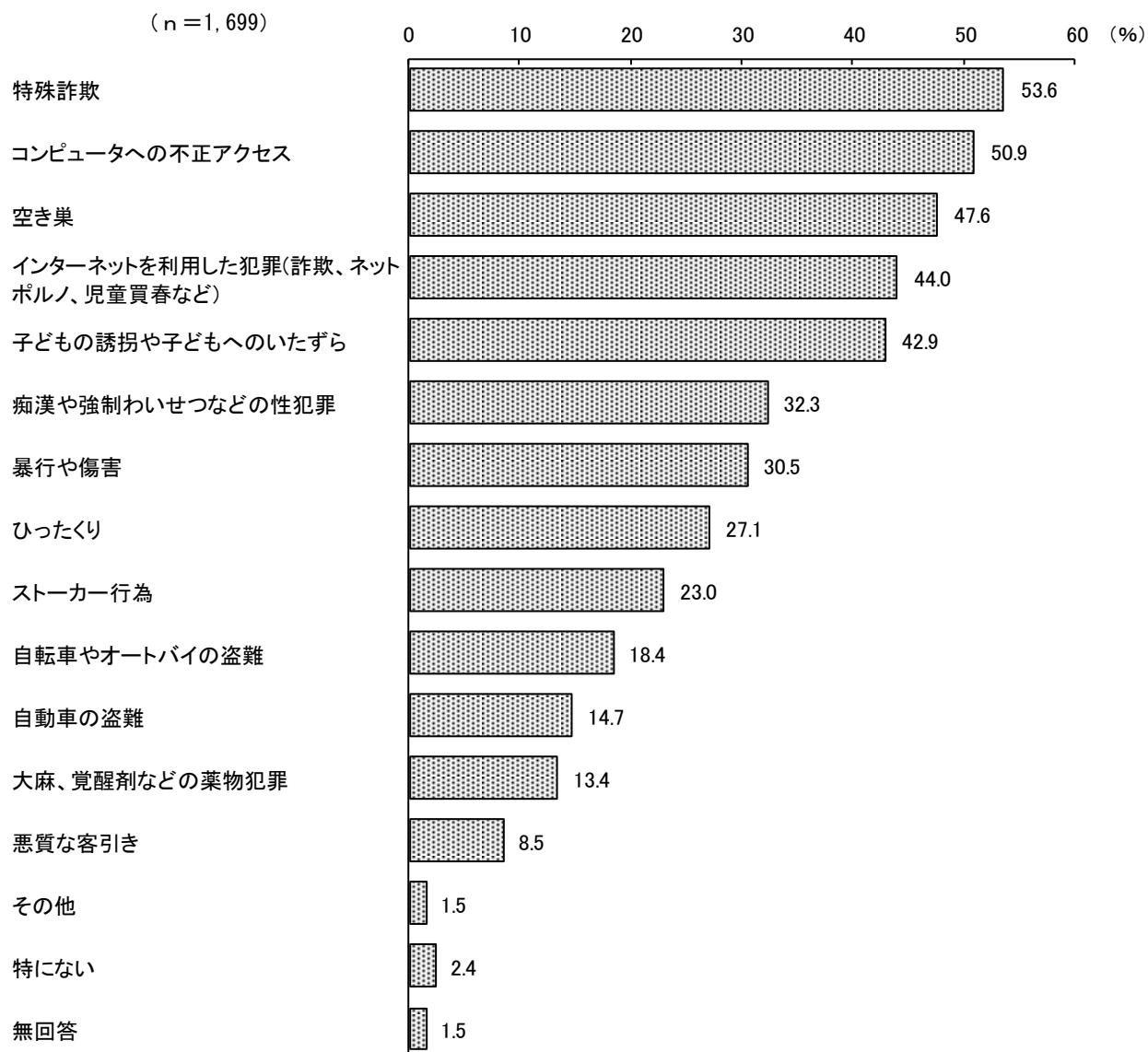
第12章 治安対策【問50～問54】

1 不安を感じる犯罪【問50】

【全体の状況】

不安を感じる身近な犯罪を複数回答で尋ねたところ、「特殊詐欺」が53.6%で最も多く、次いで「コンピュータへの不正アクセス」が50.9%であった。(図表12-1-1)

図表12-1-1 不安を感じる犯罪（複数回答）



図表12-1-2 不安に感じる犯罪（複数回答）－地域別、性・年代別

(96)

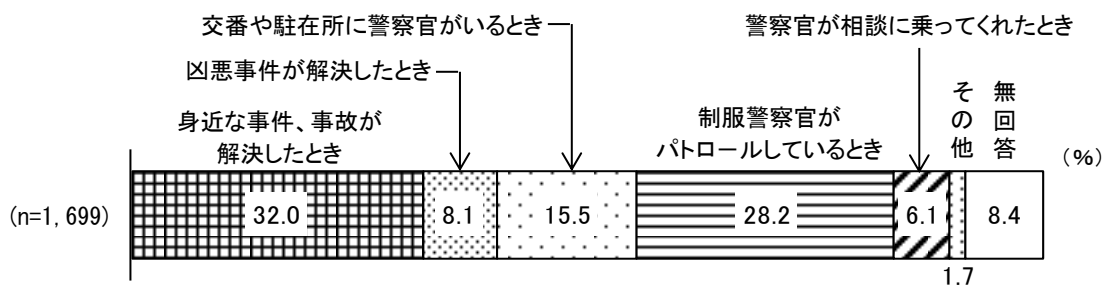
	n	特殊詐欺	コンピュータへの不正アクセス	空き巣	（詐欺、ネットホルなど） インターネットを利用した犯罪 （児童買春）	子どもの誘拐や子どもへのいたずら	痴漢や強制わいせつなどの性犯罪	暴行や傷害	ひったくり	ドライバー行為	自転車やオートバイの盗難	自動車の盗難	大麻、覚醒剤などの薬物犯罪	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
全体	1,699	53.6	50.9	47.6	44.0	42.9	32.3	30.5	27.1	23.0	18.4	14.7	13.4	8.5	1.5	2.4	1.5
【地域別】																	
横浜	669	51.1	53.5	45.7	44.4	40.8	30.5	31.4	25.3	21.5	16.6	12.6	13.0	9.9	1.2	2.8	1.6
川崎	228	51.3	46.5	47.8	39.9	42.1	36.0	31.6	30.3	23.2	17.5	11.8	13.2	9.2	1.3	3.1	0.0
相模原	118	58.5	50.8	50.0	46.6	44.1	42.4	30.5	34.7	28.8	22.0	14.4	14.4	6.8	0.8	0.8	1.7
横須賀三浦	142	54.2	51.4	42.3	45.1	51.4	33.1	31.0	28.2	28.9	19.7	16.9	15.5	9.9	2.1	2.8	2.1
県央	181	55.8	51.4	48.6	46.4	43.6	32.0	32.6	24.9	22.1	23.2	20.4	11.0	5.0	2.2	2.2	0.6
湘南	238	55.0	53.8	55.5	45.0	42.4	29.8	27.7	28.2	24.8	18.1	16.0	14.3	5.5	1.3	0.8	1.3
県西	61	63.9	41.0	41.0	39.3	49.2	39.3	23.0	19.7	14.8	14.8	16.4	11.5	11.5	1.6	3.3	0.0
【性・年代別】																	
男性	710	55.6	51.7	45.6	42.1	34.5	23.5	33.1	19.4	17.5	21.5	17.6	12.8	9.7	1.3	3.1	1.1
女性	899	52.2	52.2	49.5	46.3	50.3	40.5	28.7	32.7	27.7	15.6	12.0	13.3	7.1	1.2	1.8	1.0
男性18～29歳	36	30.6	41.7	36.1	38.9	16.7	22.2	19.4	13.9	2.8	33.3	16.7	5.6	25.0	5.6	0.0	0.0
30歳代	78	42.3	52.6	53.8	44.9	55.1	34.6	38.5	20.5	20.5	29.5	19.2	15.4	14.1	3.8	2.6	1.3
40歳代	149	55.0	53.0	45.6	43.6	51.7	30.2	29.5	17.4	16.8	24.8	22.1	13.4	11.4	0.7	2.7	0.0
50歳代	173	53.2	58.4	44.5	40.5	27.2	19.1	37.0	17.3	23.1	19.1	20.2	15.6	9.2	1.7	4.0	0.0
60歳代	149	61.7	54.4	36.2	48.3	24.2	19.5	34.2	16.8	14.8	18.1	10.7	8.7	5.4	0.0	3.4	1.3
70～74歳	73	74.0	39.7	49.3	34.2	32.9	17.8	32.9	21.9	16.4	12.3	11.0	19.2	8.2	0.0	2.7	4.1
75歳以上	52	59.6	40.4	65.4	34.6	23.1	23.1	28.8	38.5	15.4	23.1	23.1	5.8	3.8	0.0	3.8	3.8
女性18～29歳	61	36.1	54.1	34.4	54.1	52.5	73.8	41.0	31.1	49.2	18.0	9.8	8.2	18.0	0.0	3.3	0.0
30歳代	134	34.3	49.3	51.5	48.5	73.9	56.7	35.8	20.9	28.4	20.1	15.7	12.7	7.5	2.2	0.7	1.5
40歳代	214	40.2	54.2	46.3	52.3	60.7	41.6	27.6	28.0	24.8	15.0	11.2	9.3	5.6	0.9	3.3	0.0
50歳代	199	65.3	62.8	52.8	46.7	38.2	41.7	26.6	33.7	32.7	17.1	13.6	17.6	5.0	1.0	1.0	1.0
60歳代	148	64.2	52.0	50.0	47.3	37.8	28.4	28.4	35.1	23.0	11.5	11.5	12.2	8.1	1.4	0.7	0.7
70～74歳	80	66.3	43.8	53.8	31.3	43.8	18.8	22.5	48.8	18.8	12.5	10.0	21.3	8.8	0.0	2.5	2.5
75歳以上	63	58.7	27.0	54.0	28.6	38.1	22.2	20.6	46.0	22.2	14.3	7.9	12.7	3.2	3.2	1.6	3.2

2 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき【問51】

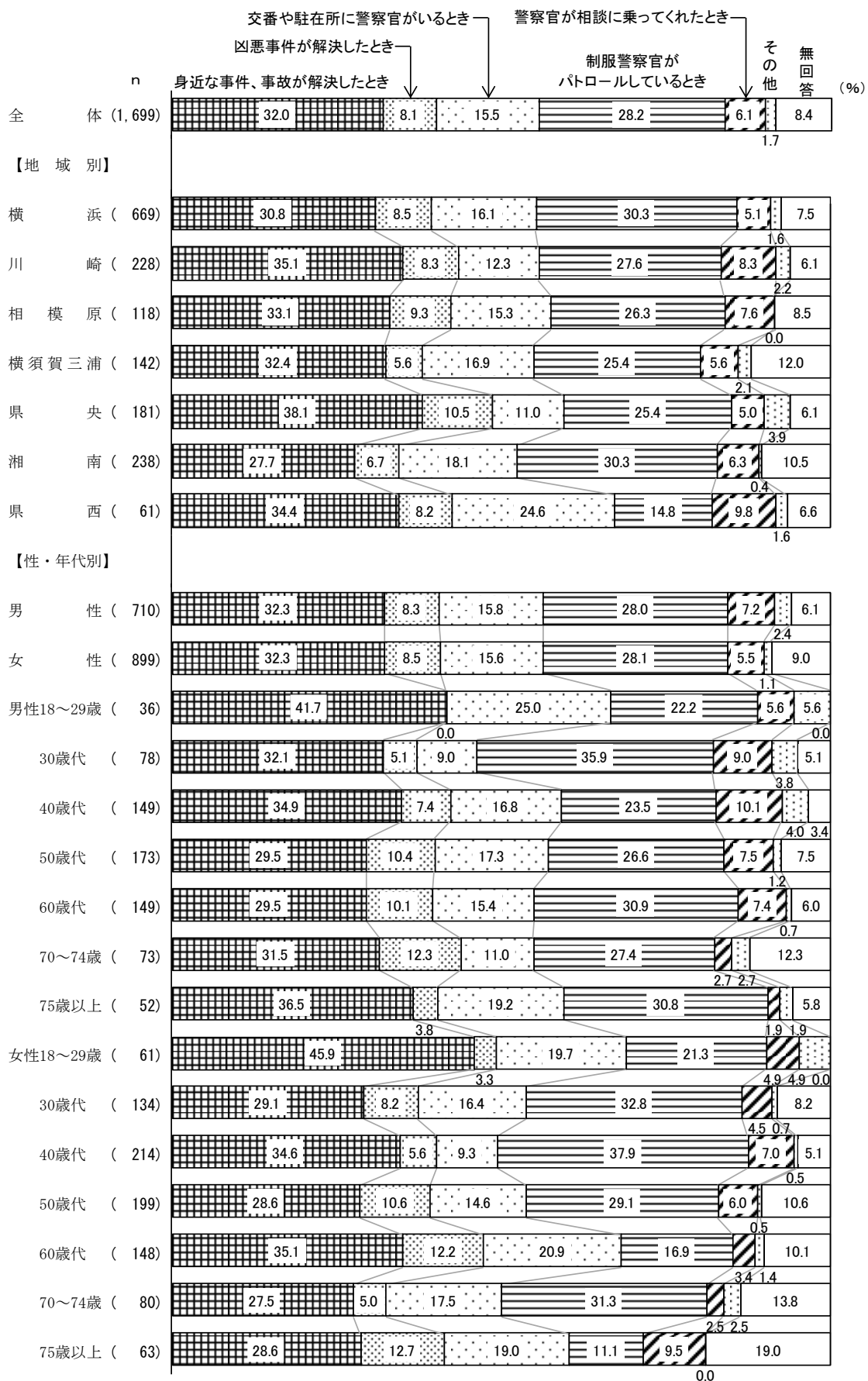
【全体の状況】

身近な治安に関して、最も安心感を抱くときはどのようなときか尋ねたところ、「身近な事件、事故が解決したとき」が32.0%で最も多く、次いで「制服警察官がパトロールしているとき」が28.2%であった。（図表12-2-1）

図表12-2-1 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき



図表12-2-2 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき—地域別、性・年代別

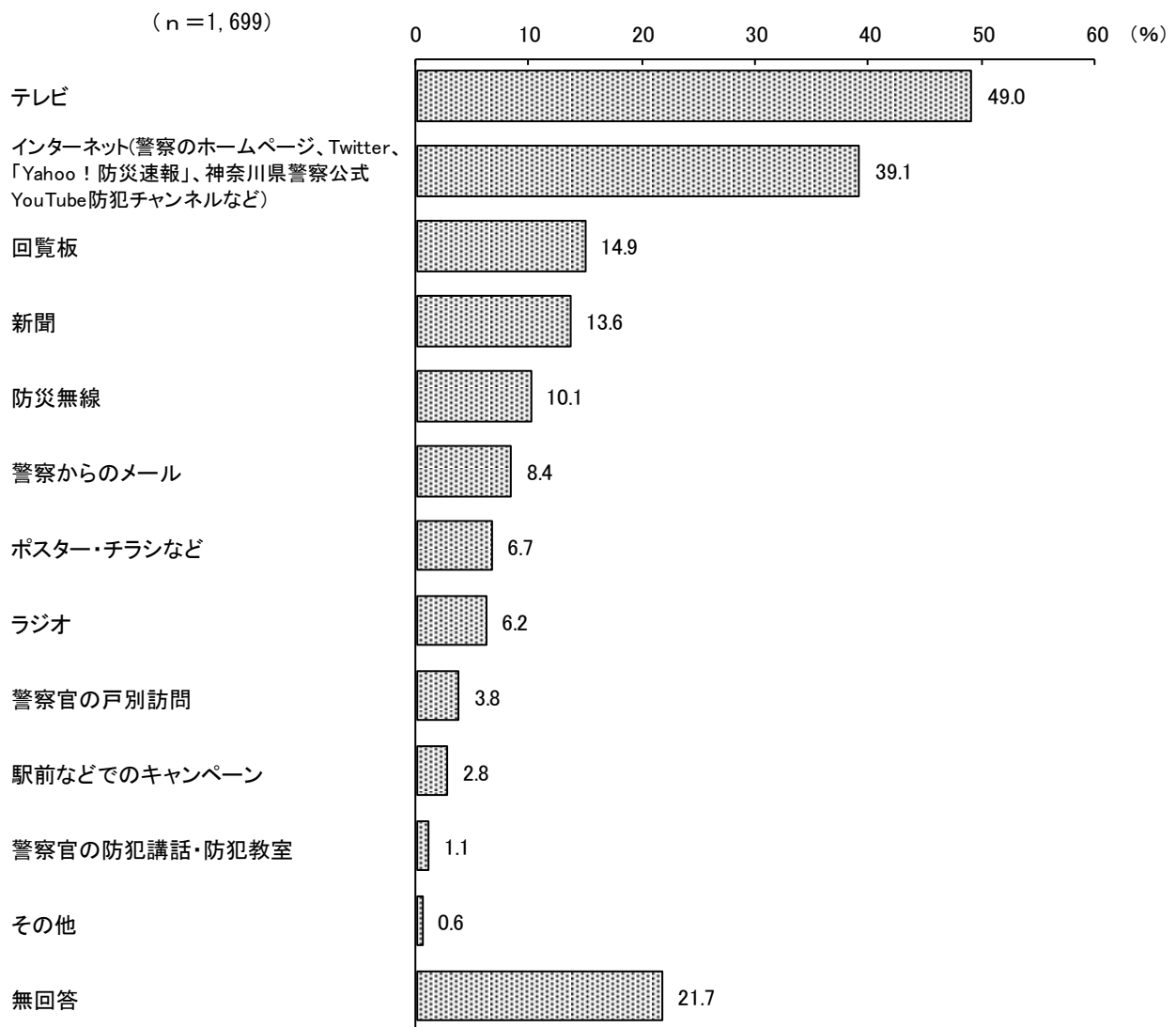


3 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法【問52】

【全体の状況】

地域の犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、得やすい方法を複数回答で尋ねたところ、「テレビ」が49.0%で最も多く、次いで「インターネット(警察のホームページ、Twitter、『Yahoo!防災速報』、神奈川県警察公式YouTube防犯チャンネルなど)」が39.1%であった。(図表12-3-1)

図表12-3-1 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法（複数回答）



図表12-3-2 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法（複数回答）—地域別、性・年代別

(96)

	n	テレビ	インターネット（警察のホームページ、Twitter、「Yahoo!防災速報」、神奈川県警察公式YouTubeチャンネルなど）	回覧板	新聞	防災無線	警察からのメール	ポスター・チラシなど	ラジオ	警察官の戸別訪問	駅前などでのキャンペーン	警察官の防犯講話・防犯教室	その他	無回答
全体	1,699	49.0	39.1	14.9	13.6	10.1	8.4	6.7	6.2	3.8	2.8	1.1	0.6	21.7
【地域別】														
横浜	669	52.0	41.0	14.9	14.5	2.4	7.8	6.3	7.2	5.4	4.5	1.0	0.0	20.6
川崎	228	50.4	42.1	7.9	15.4	6.1	7.5	9.6	4.8	2.6	2.2	1.3	0.0	18.0
相模原	118	53.4	44.1	7.6	14.4	19.5	5.9	4.2	7.6	1.7	1.7	0.0	0.8	23.7
横須賀三浦	142	45.1	39.4	16.9	16.2	11.3	9.9	4.2	7.7	4.2	4.2	1.4	0.7	23.9
県央	181	45.9	39.2	12.7	11.6	22.1	13.8	7.7	5.5	2.2	0.6	0.6	0.6	21.5
湘南	238	43.7	35.7	21.4	10.1	16.4	7.6	7.1	5.9	2.9	1.7	0.4	1.3	24.4
県西	61	37.7	27.9	26.2	6.6	29.5	11.5	3.3	1.6	1.6	0.0	6.6	3.3	19.7
【性・年代別】														
男性	710	45.5	42.0	12.8	13.8	9.2	8.9	6.2	7.2	4.6	2.5	1.0	0.4	21.8
女性	899	51.9	38.7	16.2	13.0	10.8	8.2	6.9	5.6	3.0	3.3	1.2	0.6	20.8
男性18～29歳	36	55.6	52.8	8.3	8.3	0.0	0.0	2.8	8.3	0.0	2.8	0.0	0.0	11.1
30歳代	78	39.7	57.7	7.7	2.6	6.4	9.0	7.7	5.1	5.1	5.1	2.6	0.0	19.2
40歳代	149	43.0	57.7	10.1	7.4	8.7	14.8	4.0	10.1	5.4	1.3	1.3	0.7	14.1
50歳代	173	46.8	46.2	11.0	10.4	9.2	11.0	5.8	8.1	5.2	4.0	0.6	0.6	18.5
60歳代	149	45.0	32.2	14.1	20.1	9.4	6.7	6.7	7.4	5.4	1.3	0.7	0.0	29.5
70～74歳	73	53.4	21.9	17.8	26.0	13.7	4.1	8.2	4.1	1.4	1.4	1.4	0.0	30.1
75歳以上	52	40.4	7.7	26.9	28.8	13.5	3.8	9.6	1.9	5.8	1.9	0.0	1.9	32.7
女性18～29歳	61	60.7	67.2	1.6	4.9	6.6	8.2	6.6	1.6	1.6	13.1	0.0	0.0	9.8
30歳代	134	49.3	50.0	14.2	8.2	8.2	3.7	10.4	7.5	3.0	6.0	0.7	0.7	17.9
40歳代	214	48.6	46.7	17.3	8.4	13.1	15.9	6.1	4.7	0.9	1.9	1.4	0.0	17.3
50歳代	199	49.7	44.7	13.6	12.1	9.5	9.5	6.0	4.5	3.0	3.5	0.5	0.5	22.6
60歳代	148	55.4	25.0	27.0	17.6	13.5	5.4	6.1	6.8	4.1	1.4	2.7	2.0	21.6
70～74歳	80	57.5	10.0	21.3	26.3	10.0	1.3	3.8	7.5	3.8	0.0	2.5	0.0	27.5
75歳以上	63	52.4	9.5	7.9	22.2	11.1	3.2	11.1	6.3	7.9	1.6	0.0	0.0	33.3

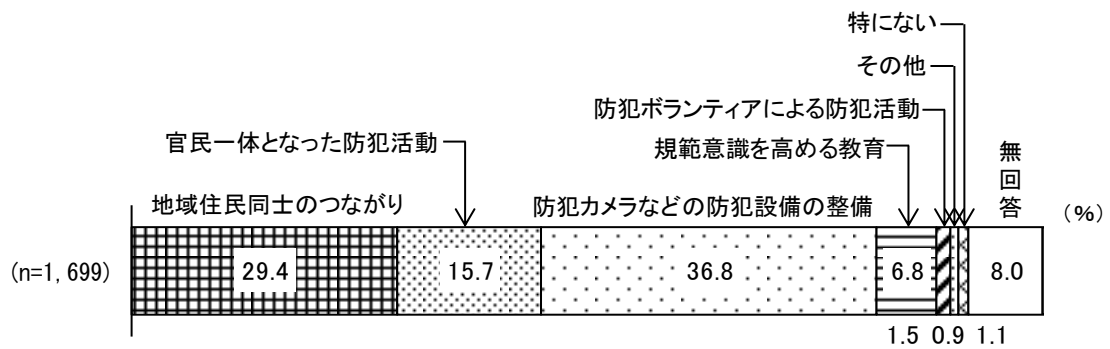
4 犯罪がなく安心してくらすために最も重要だと思うもの【問53】

【全体の状況】

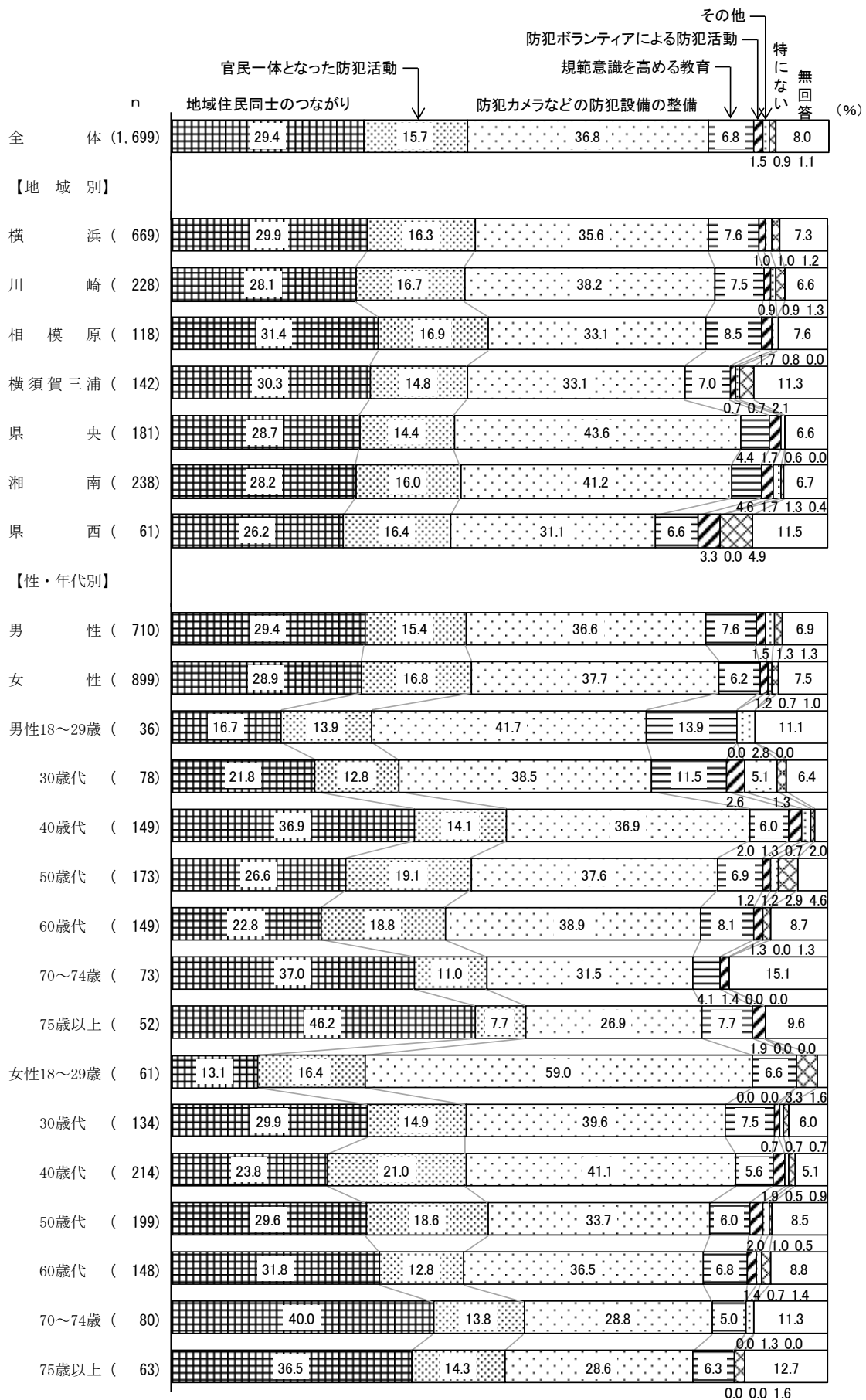
犯罪がなく、より安心してくらすために最も重要だと思うものを尋ねたところ、「防犯カメラなどの防犯設備の整備」が36.8%で最も多く、次いで「地域住民同士のつながり」が29.4%であった。

(図表12-4-1)

図表12-4-1 犯罪がなく安心してくらすために最も重要だと思うもの



図表12-4-2 犯罪がなく安心してくらすために最も重要だと思うもの—地域別、性・年代別

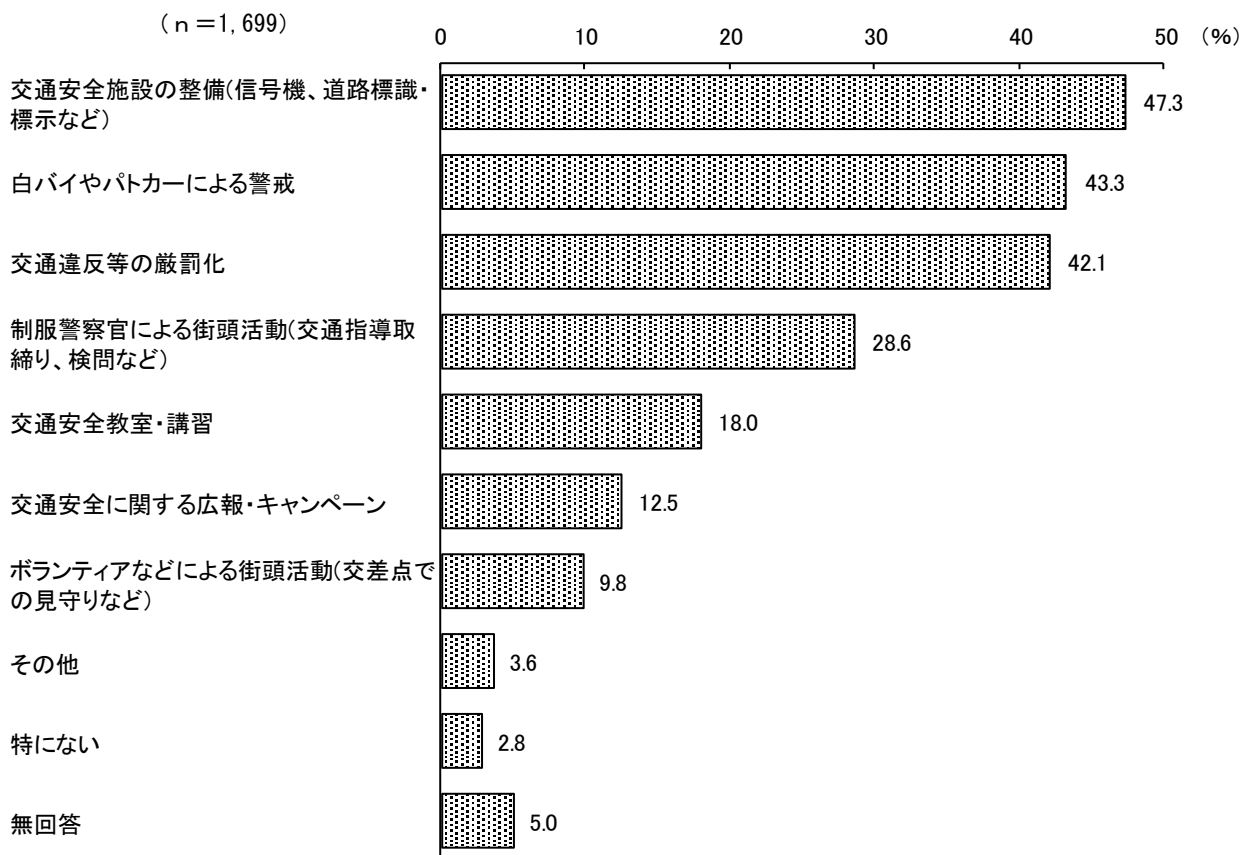


5 交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの【問54】

【全体の状況】

交通事故のない社会を目指すために重要だと思うものを複数回答で尋ねたところ、「交通安全施設の整備（信号機、道路標識・標示など）」が47.3%で最も多く、次いで「白バイやパトカーによる警戒」が43.3%であった。（図表12-5-1）

図表12-5-1 交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの（複数回答）



図表12-5-2 交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

	n	交通安全施設の整備（信号機、道路標識・標示など）	白バイやパトカーによる警戒	交通違反等の厳罰化	制服警察官による街頭活動（交通指導取締り、検問など）	交通安全教室・講習	交通安全に関する広報・キャンペーン	ポランテアなどによる街頭活動（交差点での見守りなど）	その他	特になし	無回答
全体	1,699	47.3	43.3	42.1	28.6	18.0	12.5	9.8	3.6	2.8	5.0
【地域別】											
横浜	669	48.4	44.8	43.6	28.0	19.7	13.2	8.5	3.6	3.3	1.6
川崎	228	47.8	43.4	52.2	30.7	12.7	14.5	11.0	5.3	2.6	2.6
相模原	118	45.8	46.6	40.7	33.9	18.6	14.4	14.4	3.4	0.8	0.8
横須賀三浦	142	44.4	48.6	41.5	31.0	14.8	9.2	10.6	1.4	4.2	2.1
県央	181	53.0	40.9	39.2	33.7	22.1	14.4	13.3	5.0	0.0	1.1
湘南	238	52.9	45.0	43.3	27.3	20.2	12.2	8.8	3.8	3.8	2.5
県西	61	45.9	47.5	34.4	29.5	23.0	11.5	11.5	3.3	3.3	0.0
【性・年代別】											
男性	710	46.9	43.9	43.2	29.6	20.7	11.8	9.6	5.8	3.4	0.8
女性	899	50.4	45.6	44.3	29.8	17.1	14.2	10.9	2.3	2.2	2.2
男性18～29歳	36	41.7	47.2	36.1	25.0	19.4	2.8	8.3	8.3	8.3	0.0
30歳代	78	46.2	47.4	42.3	32.1	6.4	10.3	10.3	9.0	5.1	0.0
40歳代	149	42.3	42.3	45.0	26.2	22.1	7.4	6.0	6.0	2.7	0.7
50歳代	173	45.1	43.9	45.7	22.5	18.5	7.5	8.1	6.4	5.8	1.2
60歳代	149	49.0	43.6	43.0	29.5	28.2	18.1	8.1	4.0	2.0	1.3
70～74歳	73	52.1	41.1	45.2	38.4	20.5	17.8	15.1	4.1	0.0	1.4
75歳以上	52	57.7	46.2	34.6	50.0	25.0	21.2	21.2	3.8	0.0	0.0
女性18～29歳	61	47.5	57.4	45.9	27.9	14.8	11.5	4.9	1.6	4.9	0.0
30歳代	134	49.3	52.2	49.3	27.6	16.4	11.2	12.7	3.0	1.5	1.5
40歳代	214	46.3	43.0	44.9	31.3	15.0	8.4	15.0	2.8	2.8	1.4
50歳代	199	50.3	45.2	44.7	30.2	18.1	19.1	6.0	3.0	2.0	1.5
60歳代	148	51.4	48.0	39.9	30.4	18.9	10.1	8.1	2.0	1.4	2.0
70～74歳	80	55.0	42.5	41.3	23.8	23.8	23.8	15.0	1.3	1.3	7.5
75歳以上	63	61.9	28.6	42.9	36.5	12.7	25.4	15.9	0.0	3.2	4.8

第13章 ねんりんピックかながわ【問55～問59】

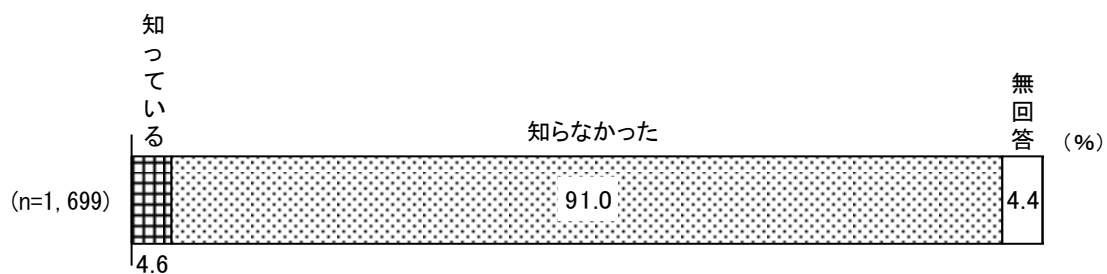
1 ねんりんピックかながわの開催の認知度【問55】

【全体の状況】

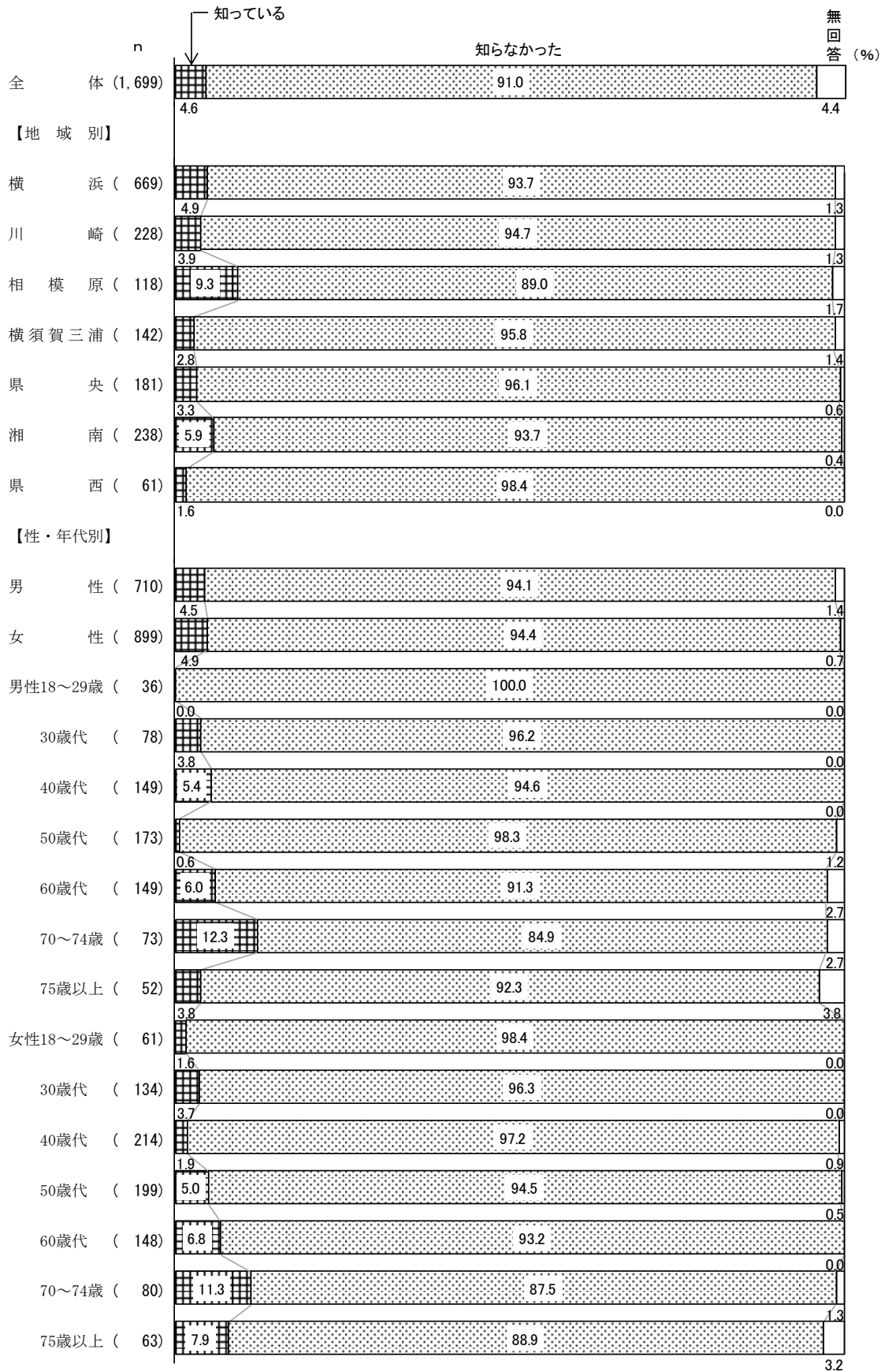
ねんりんピックが2022年に神奈川県内で初めて開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が4.6%であった。

一方、「知らなかった」が91.0%であった。(図表13-1-1)

図表13-1-1 ねんりんピックかながわの開催の認知度



図表13-1-2 ねんりんピックかながわの開催の認知度—地域別、性・年代別

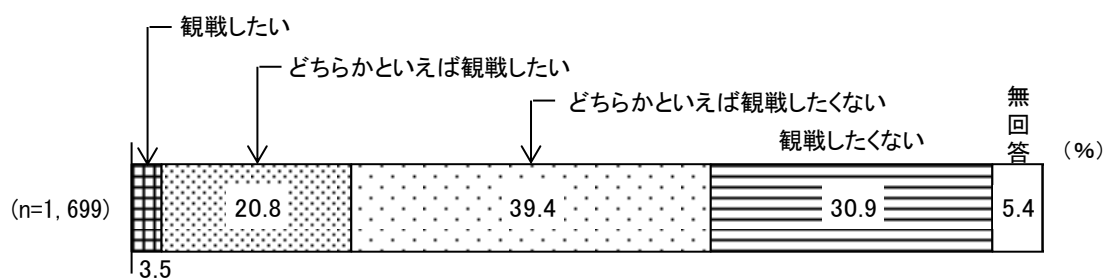


2 「ねんりんピックかながわ」の観戦意向【問56】

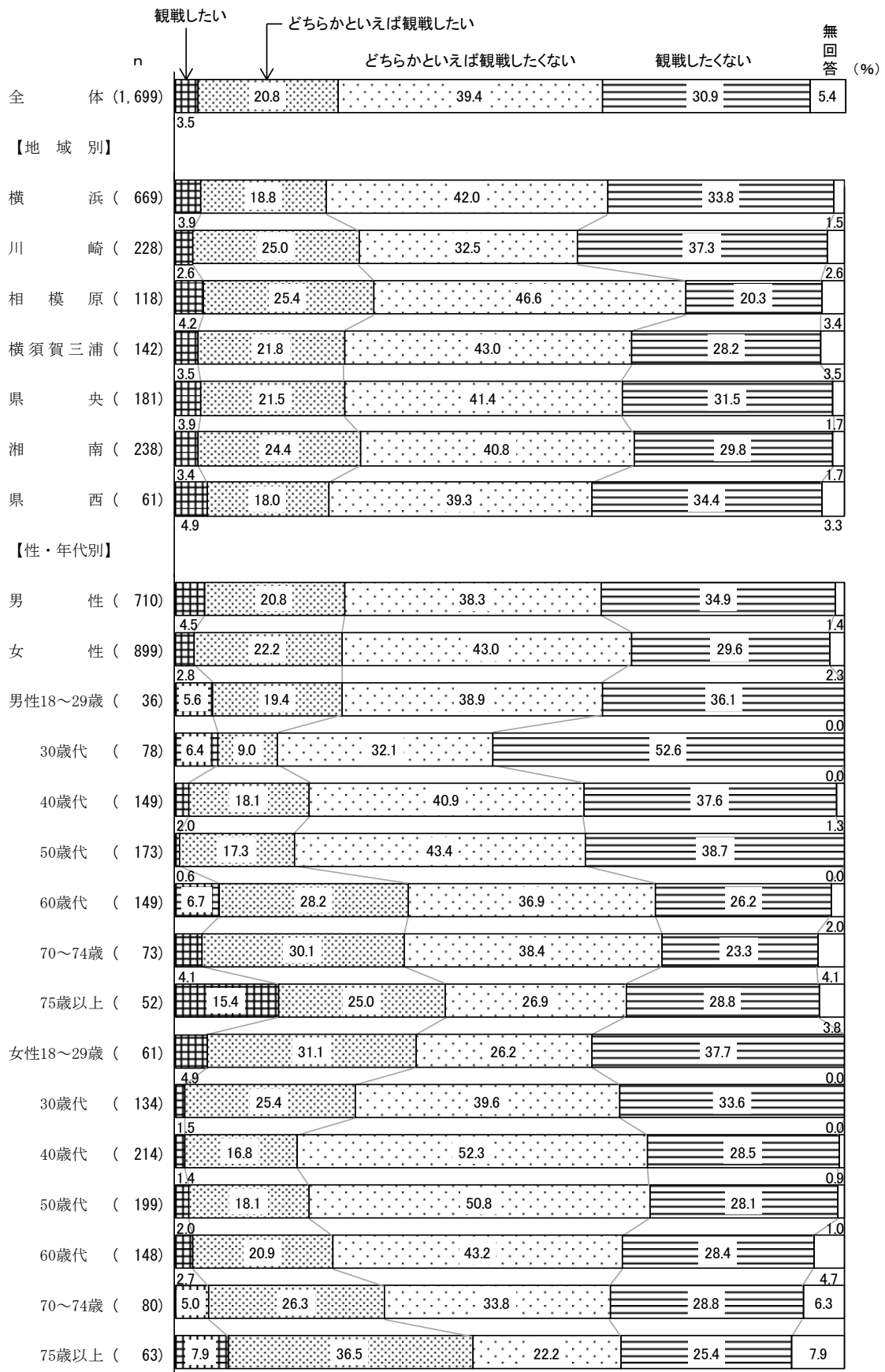
【全体の状況】

「ねんりんピックかながわ」において、競技を観戦したいと思うか尋ねたところ、「どちらかといえば観戦したくない」が39.4%で最も多く、次いで「観戦したくない」が30.9%であった。(図表13-2-1)

図表13-2-1 「ねんりんピックかながわ」の観戦意向



図表13-2-2 「ねんりんピックかながわ」の観戦意向—地域別、性・年代別



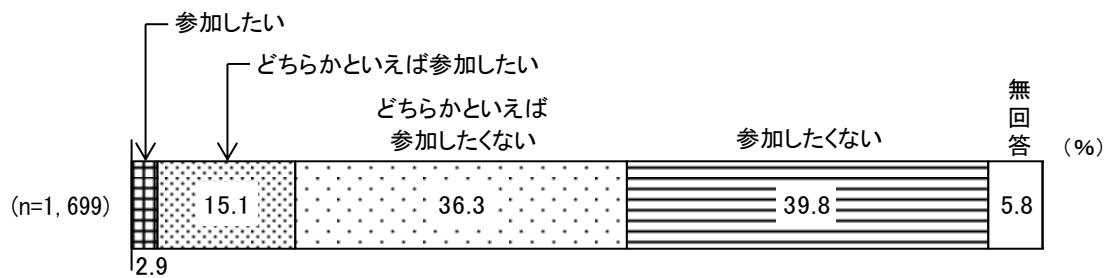
3 「ねんりんピックかながわ」のイベント参加意向【問57】

【全体の状況】

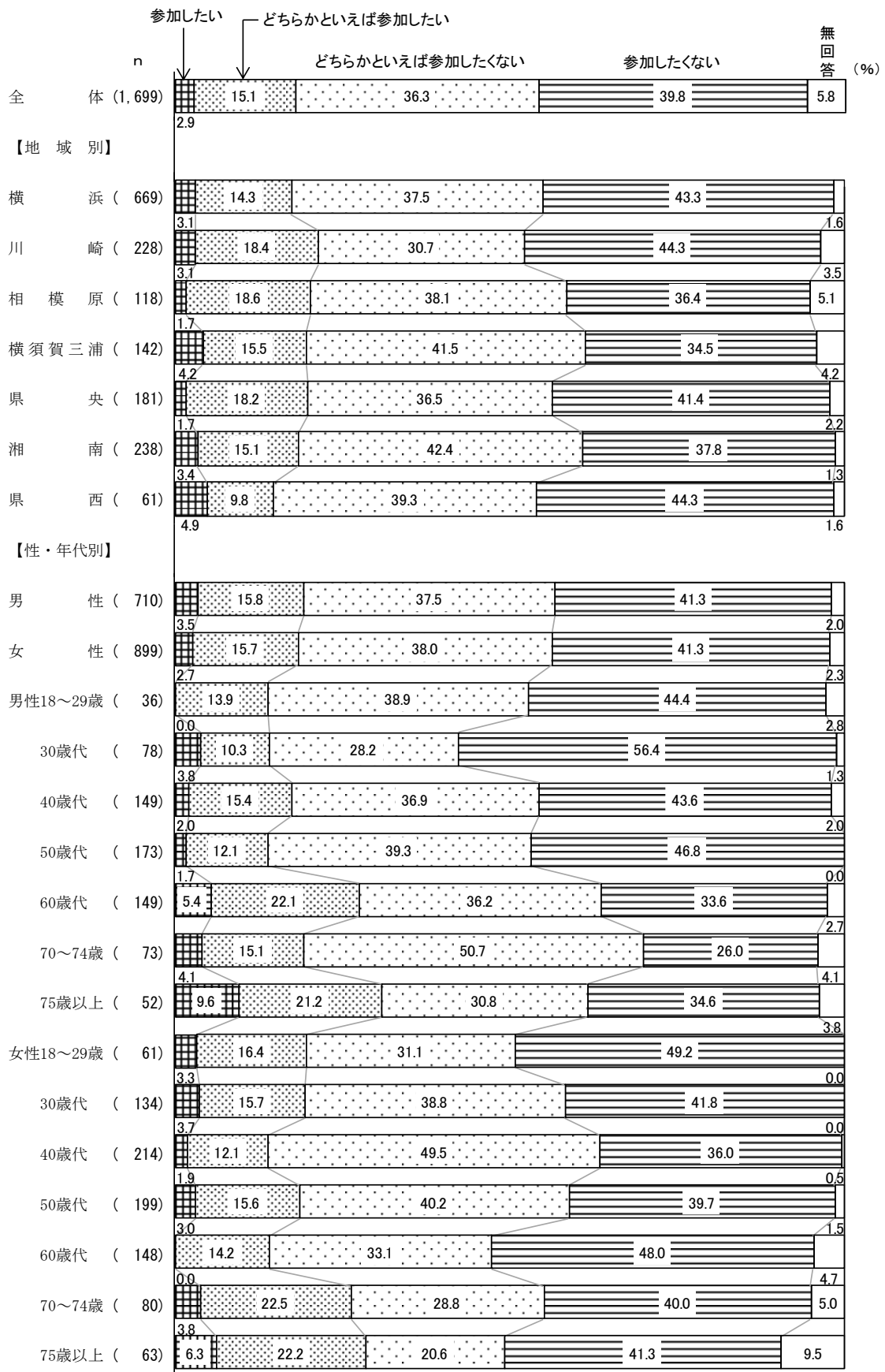
「ねんりんピックかながわ」において、イベントに参加したいと思うか尋ねたところ、「参加したくない」が39.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば参加したくない」が36.3%であった。

(図表13-3-1)

図表13-3-1 「ねんりんピックかながわ」のイベント参加意向



図表13-3-2 「ねんりんピックかながわ」のイベント参加意向—地域別、性・年代別

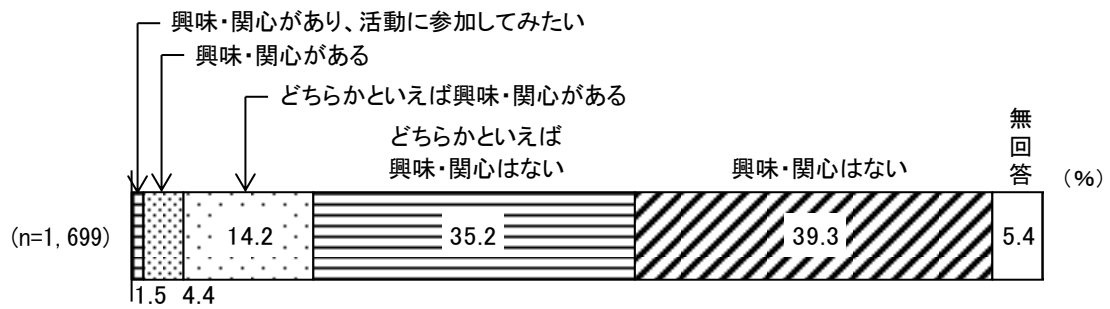


4 ボランティア活動への興味・関心【問58】

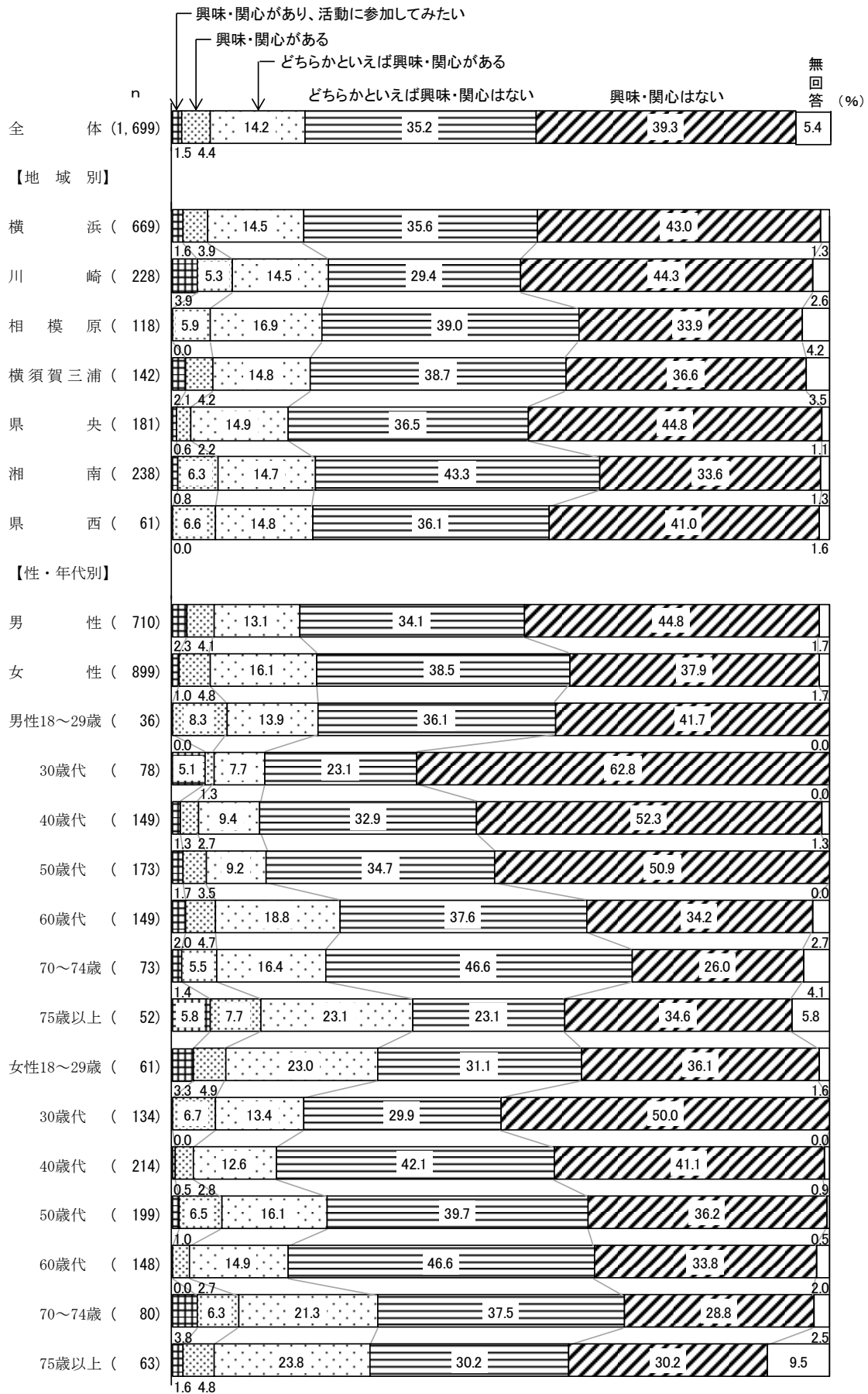
【全体の状況】

「ねんりんピックかながわ」において、ボランティア活動に興味・関心があるか尋ねたところ、「興味・関心はない」が39.3%で最も多く、次いで「どちらかといえば興味・関心はない」が35.2%であった。（図表13-4-1）

図表13-4-1 ボランティア活動への興味・関心



図表13-4-2 ボランティア活動への興味・関心—地域別、性・年代別

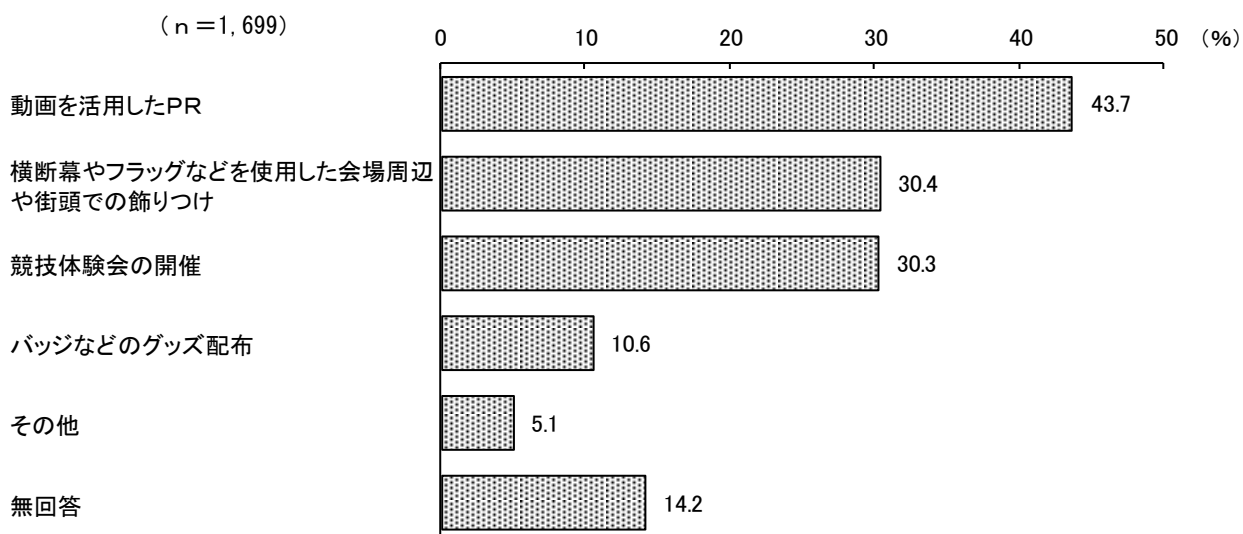


5 「ねんりんピックかながわ」を盛り上げていくために有効な方法【問59】

【全体の状況】

「ねんりんピックかながわ」を盛り上げていくためにどのような方法が有効だと思うか複数回答（2つまで選択可）で尋ねたところ、「動画を活用したPR」が43.7%で最も多く、次いで「横断幕やフラッグなどを使用した会場周辺や街頭での飾りつけ」が30.4%であった。（図表13-5-1）

図表13-5-1 「ねんりんピックかながわ」を盛り上げていくために有効な方法（複数回答）



図表13-5-2 「ねんりんピックかながわ」を盛り上げていくために有効な方法（複数回答）

ー地域別、性・年代別

(%)

	n	動画を 活用した PR	横断幕や 会場周辺 やフラッグ や街頭で の飾りつけ を使用した	競技体験会 の開催	バッジなど のグッズ 配布	その他	無回答
全 体	1,699	43.7	30.4	30.3	10.6	5.1	14.2
【地 域 別】							
横 浜	669	45.9	31.1	31.4	10.2	5.7	10.3
川 崎	228	43.9	32.0	28.9	11.8	5.7	11.8
相 模 原	118	40.7	32.2	33.1	16.9	3.4	14.4
横 須 賀 三 浦	142	48.6	25.4	38.0	8.5	4.2	11.3
県 央	181	50.8	30.4	29.8	8.8	5.5	8.8
湘 南	238	41.6	36.6	29.8	13.4	5.5	11.8
県 西	61	44.3	31.1	31.1	8.2	3.3	11.5
【性・年代別】							
男 性	710	45.1	29.7	32.1	11.0	6.6	11.3
女 性	899	45.9	33.4	30.9	10.9	4.2	10.2
男性18～29歳	36	36.1	30.6	30.6	16.7	2.8	11.1
30歳代	78	43.6	30.8	28.2	15.4	9.0	15.4
40歳代	149	46.3	33.6	31.5	10.1	7.4	6.0
50歳代	173	44.5	28.3	33.5	10.4	9.2	8.1
60歳代	149	55.7	26.8	33.6	10.1	2.7	11.4
70～74歳	73	43.8	26.0	27.4	6.8	6.8	15.1
75歳以上	52	23.1	34.6	38.5	13.5	5.8	25.0
女性18～29歳	61	49.2	41.0	31.1	14.8	4.9	3.3
30歳代	134	47.0	38.8	37.3	11.2	1.5	5.2
40歳代	214	44.9	29.4	33.6	10.7	5.6	5.6
50歳代	199	52.8	41.7	33.7	8.0	3.0	4.5
60歳代	148	50.0	25.0	26.4	7.4	4.1	16.2
70～74歳	80	32.5	30.0	26.3	15.0	3.8	26.3
75歳以上	63	30.2	25.4	15.9	19.0	9.5	27.0

第 V 部 調査票と単純集計結果

調査期間 令和2年9月11日～10月5日
 標本設計数 3,000 有効回収数(率) 1,699 (56.6%)
 * 「n」は、質問に対する回答者数の総数を表す。
 「-」は、回答者が皆無であることを示す。
 ※比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、
 合計が100%にならないことがある。

令和2年度(2020年) 神奈川県『県民ニーズ調査』(第1回課題調査)

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

【アンケートのテーマ】

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 食・食育 | 8 3R |
| 2 食の安全・安心 | 9 プラスチックごみ削減に向けて |
| 3 神奈川県の農林水産業 | 10 職業能力開発 |
| 4 とともに生きる社会かながわ | 11 犯罪被害者等への支援 |
| 5 男女共同参画 | 12 治安対策 |
| 6 神奈川県の人権 | 13 ねんりんピックかながわ |
| 7 SDGs(持続可能な開発目標) | |

◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、封筒のあて名のご本人様にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前、ご住所の記入は不要です。
- お答えは、直接、この調査票のあてはまる番号を○で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

- ▼ **ご記入いただいた調査票は、同封の返送用封筒に入れ、10月5日(月)まで**にご投函ください。(切手は不要です。お名前やご住所の記入も必要ありません。)
- ▼ **インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。**

【お問合せ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

- **問合せフォーム** (10月5日までの期間限定)
 県民ニーズ調査HP (<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)
 の下部に掲載している「令和2年度調査対象者」向けお問い合わせフォーム
 から送信してください。
- **電話 (045)210-1111 (内線3672~3676)**
 ※ 受付時間：月～金 8:30～17:15(土日祝日は閉庁)

食・食育

問1 「食育」※に関心がありますか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 関心がある	37.0	4 関心がない	4.4
2 どちらかといえば関心がある	37.3	5 分からない	4.6
3 どちらかといえば関心がない	12.7		(無回答 4.1)

※食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。

【複数人でお住まいの方のみお答えください】

問2 朝食・夕食を同居の方と一緒に食べていますか。 (○はそれぞれ1つずつ)

【朝食】 (n=1,452) (%)

1 ほとんど毎日	47.4	3 週に2～3日	14.5	5 ほとんど食べない	22.9
2 週に4～5日	4.5	4 週に1日程度	7.4		(無回答 3.4)

【夕食】 (n=1,452) (%)

1 ほとんど毎日	63.4	3 週に2～3日	13.8	5 ほとんど食べない	6.3
2 週に4～5日	9.6	4 週に1日程度	3.3		(無回答 3.6)

【一人暮らしの方のみお答えください】

問3 昼食・夕食を仲間や友人など、複数で一緒に食べていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

【昼食】 (n=209) (%)

1 ほとんど毎日	7.7	3 週に2～3日	10.0	5 ほとんど食べない	54.5
2 週に4～5日	9.1	4 週に1日程度	8.6		(無回答 10.0)

【夕食】 (n=209) (%)

1 ほとんど毎日	6.2	3 週に2～3日	6.7	5 ほとんど食べない	62.2
2 週に4～5日	2.9	4 週に1日程度	12.9		(無回答 9.1)

【全員の方がお答えください】

問4 歯と口の健康を保つために気をつけていることは何ですか。 (○はいくつでも)

(n=1,699) (%)

1 歯みがきをしている	95.1	6 かかりつけ歯科医を決めている	50.6
2 鏡を見て歯と歯肉のチェックをしている	24.1	7 年に1回以上、歯科検診を受けている	37.2
3 糸つきようじや歯間ブラシを使っている	53.6	8 その他	1.6
4 食べ物をよく噛むように意識している	21.7	9 特にない	1.6
5 顔や舌の体操(「健口体操」など)をしている	5.9		(無回答 1.9)

問5 いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など食事のマナーを正しくできていると思いますか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 できていると思う	32.3	4 できていないと思う	7.7
2 どちらかといえばできていると思う	44.7	5 分からない	3.1
3 どちらかといえばできていないと思う	10.4		(無回答 1.9)

問6 主食・主菜・副菜を組み合わせた健康的な食事内容を心がけていますか。 (○は1つ)
(n=1,699) (%)

1 心がけている	75.5	2 心がけていない	14.1	3 分からない	8.2
(無回答 2.2)					

問7 就寝前2時間以内に食事をとらないよう気をつけていますか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 気をつけている	60.2	2 気をつけていない	34.2	3 分からない	3.6
(無回答 2.0)					

問8 ゆっくりよく噛んで食べていますか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 食べている	14.4	4 食べていない	10.4
2 どちらかといえば食べている	39.1	5 分からない	2.9
3 どちらかといえば食べていない	31.2	(無回答 2.1)	

問9 食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけていますか。 (○は1つ)
(n=1,699) (%)

1 気をつけている	51.8	3 あまり気をつけていない	5.0
2 ある程度気をつけている	39.8	4 分からない	0.6
(無回答 2.8)			

食の安全・安心

問10 食品を購入する際に、確認している表示内容がありますか。(○はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 期限表示(消費期限や賞味期限)	89.4	5 食品添加物(保存料や着色料など)	35.3
2 原産地や原産国	67.9	6 保存方法	32.1
3 アレルギー表示	8.8	7 遺伝子組換え食品に関する事項	25.1
4 原材料名	28.5	8 その他	1.9
(無回答 2.8)			

問11 食中毒を予防する上で重要なことがらについて、知っていることを選んでください。
(○はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 食品を購入したら寄り道せずに帰宅する	48.1
2 食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する	91.5
3 調理や食事前によく手を洗う	79.1
4 生肉や生魚を扱った調理器具は、使用後に消毒する	49.6
5 調理した食品はすぐに食べるようにし、残った食品は速やかに適切な温度で保存する	72.7
6 生肉は、食中毒を起こす細菌がついていることがあるので、よく加熱する	74.0
(無回答 2.1)	

問12 食品を安全に食べるために、必要な知識(例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど)を持っていると思いますか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 持っていると思う	40.4	3 あまり持っていないと思う	8.2	5 分からない	1.9
2 ある程度持っていると思う	46.6	4 持っていないと思う	1.1	(無回答 1.8)	

神奈川県の農林水産業

問 13 県の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」※の取組みを重要だと思いますか。

(○は1つ) (n=1,699) (%)

1 重要だ	45.3	4 重要ではない	1.6
2 どちらかといえば重要だ	40.1	5 分からない	9.0
3 どちらかといえば重要ではない	2.7		(無回答 1.2)

※「地産地消」とは、地域の需要に即した生産を行い、その産物を地域で消費するための取組みのことをいいます。

問 14 農林水産物を購入する際に、何を重視しますか。(○は3つまで) (n=1,699) (%)

1 鮮度	81.5	4 栄養	9.2	7 価格	59.4
2 外観	8.6	5 安全性	43.3	8 ブランド(知名度)	2.1
3 味	24.1	6 産地	26.4	9 その他	0.1

(無回答 7.2)

問 15 「かながわブランド」という言葉の意味を知っていますか。(○は1つ) (n=1,699) (%)

1 知っている	21.0	2 言葉は聞いたことがある	40.3	3 知らなかった	37.4
---------	------	---------------	------	----------	------

(無回答 1.4)

県と生産者団体で構成する「かながわブランド振興協議会」では、組織的な生産・出荷基準によって品質を確保するなどの要件を満たした農林水産物やその加工品を「かながわブランド」として登録しています。

問 16 県の農業に特にどのような役割を期待しますか。(○は1つ) (n=1,699) (%)

1 食料の安定供給	19.8	6 美しい風景や文化の継承	2.3
2 安全・安心な食料の供給	47.7	7 働く場の提供	1.9
3 価格の安い食料の供給	9.5	8 その他	0.6
4 災害時の避難場所など安全な空間の提供	1.7	9 分からない	1.7
5 自然や土とふれあう場・学習の場の提供	2.8		(無回答 12.0)

問 17 今後、県の農業をどのようにしたらよいと思いますか。(○は1つ) (n=1,699) (%)

1 県が農業を振興すべき	71.9	4 その他	2.8
2 外国や他の都道府県にまかせればよい	0.8	5 分からない	17.1
3 市場競争に強い農業者だけが続ければよい	5.9		(無回答 1.6)

ともに生きる社会かながわ

県では、ともに生きる社会かながわの実現をめざし、2016年10月にともに生きる社会かながわ憲章を定めました。

ともに生きる社会かながわ憲章

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます



問 18 ともに生きる社会かながわ憲章を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 知っている	6.1	2 言葉は聞いたことがある	16.8	3 知らなかった	75.6
(無回答 1.5)					

【問 18 で「1 知っている」または「2 言葉は聞いたことがある」とお答えの方に】

問 18-1 ともに生きる社会かながわ憲章を何で知りましたか。 (○はいくつでも) (n=389) (%)

1 ポスター・チラシなど	44.2	6 新聞	11.3
2 県・市町村の広報誌(県のたよりなど)	57.8	7 ミニコミ誌・タウン誌	8.7
3 県からの送付物(納税通知など)	7.7	8 職場・学校	10.3
4 ホームページ	5.4	9 地域のイベント・お祭り	2.8
5 SNS※	0.8	10 その他	2.6

※SNSには、例えばLINE、Instagram、Twitterなどがあります。 (無回答 1.5)

【全員の方がお答えください】

問 19 身近で障がい者と接する機会がありますか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 ある	31.7	4 以前はあったが今はない	13.0
2 あまりない	39.9	5 分からない	1.1
3 以前も今もまったくない	12.9	(無回答 1.4)	

問 20 5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思いますか。 (○は1つ)(n=1,699)%

1 増えたと思う	13.4	4 どちらかといえば増えていないと思う	6.1
2 どちらかといえば増えたと思う	31.5	5 増えていないと思う	9.6
3 どちらともいえない	24.0	6 分からない	14.2
(無回答 1.3)			

問 21 障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。 (○は1つ)(n=1,699)%

1 あると思う	39.3	3 あまりないと思う	9.7	5 分からない	6.3
2 少しはあると思う	40.7	4 ないと思う	2.7	6 その他	0.1
(無回答 1.3)					

問 22 手話について学ぶとしたら、どのような方法で学びたいですか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 手話講習会	28.1	4 本・DVD	6.1	7 学びたいとは思わない	10.4
2 手話サークル	8.5	5 テレビ番組	8.1	8 その他	0.2
3 インターネット	17.9	6 学校教育	7.5	9 分からない	8.9
(無回答 4.4)					

問 23 「ともに生きる社会かながわ」の実現のため、障がいの程度にかかわらず、あらゆる人が文化芸術活動を楽しむためには、どのような取組みが有効だと思いますか。(〇はいくつでも) (n=1,699)

1 障がい者のみが参加・出演するイベント等の開催	4.4
2 障がい者に限らず、あらゆる人が参加・出演できるイベント等の開催	68.2
3 自宅や病院等から鑑賞できる公演の開催	27.9
4 鑑賞しやすい環境の整備(字幕表示や車椅子席の設置等)	56.5
5 その他	1.1
6 分からない	5.9

(無回答 2.8)

男女共同参画

問 24 夫婦共に働く家庭では、育休※はどちらが取得した方がよいと思いますか。(〇は1つ)
(n=1,699) (%)

1 夫のみ	0.1	5 どちらも取得しない方がよい	1.4
2 妻のみ	6.7	6 どちらともいえない	13.2
3 同時期に取得した方がよい	27.7		(無回答 4.9)
4 交互に取得した方がよい	46.1		

※育休とは、「育児・介護休業法」に基づき子どもが1歳(一定の場合最長2歳)に達するまで申出により取得できる「育児休業」のほか、育児のために企業等が独自に定めた「育児休暇」などを含みます。

【問 24 で 1～4 のいずれかをお答えの方に】

問 24-1 育休はどのくらいの期間取得したらよいと思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)
【妻について】 (n=1,368) (%)

1 5日未満	0.1	5 3か月以上6か月未満	8.5	9 24か月以上	6.0
2 5日以上2週間未満	0.7	6 6か月以上12か月未満	16.7	10 分からない	7.5
3 2週間以上1か月未満	3.4	7 12か月以上18か月未満	12.2		
4 1か月以上3か月未満	7.0	8 18か月以上24か月未満	9.6		(無回答 28.3)

【夫について】 (n=1,368) (%)

1 5日未満	2.1	5 3か月以上6か月未満	14.9	9 24か月以上	2.0
2 5日以上2週間未満	6.4	6 6か月以上12か月未満	10.3	10 分からない	9.0
3 2週間以上1か月未満	11.6	7 12か月以上18か月未満	3.2		
4 1か月以上3か月未満	20.5	8 18か月以上24か月未満	2.3		(無回答 17.5)

【全員の方がお答えください】

問 25 夫婦の一方が無職(専業主婦・夫)の家庭では、育休を取得した方がよいと思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

【妻が無職(専業主婦)の場合、夫について】 (n=1,699) (%)

1 取得した方がよい	56.3	2 取得しない方がよい	11.2	3 どちらともいえない	29.4
					(無回答 3.2)

【夫が無職(専業主夫)の場合、妻について】 (n=1,699) (%)

1 取得した方がよい	62.0	2 取得しない方がよい	8.2	3 どちらともいえない	25.5
					(無回答 4.3)

問 26 制度上は男女共に育休を取得できるにもかかわらず、男性の育休取得が進まない原因は何だと思いますか。 (○は3つまで) (n=1,699) (%)

1 仕事の代替要員がない	38.7	5 収入が減る	40.4
2 取得できる雰囲気職場にない	66.5	6 固定的性別役割分担意識※が社会に根強い	21.8
3 取得すると昇進・昇給に悪影響が出る	26.7	7 自分が取得する必要がないと思う人が多い	16.5
4 前例が少ない	25.9	8 その他	2.0

(無回答 5.7)

※固定的性別役割分担意識とは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」というような性別によって固定的に役割を分けて考えることです。

問 27 男性が積極的に育児にかかわるために、どんなことが必要だと思いますか。 (○は3つまで) (n=1,699) (%)

1 定時退社の奨励	23.9	6 育児に役立つ商品やサービス	3.1
2 フレックスタイム制※や時差出勤の活用	24.5	7 夫婦や家族間でのコミュニケーション	24.9
3 在宅勤務の活用	29.7	8 育児の講座や情報提供	4.9
4 男性の育児に対する職場の理解	59.4	9 男性の意識改革	42.3
5 休暇制度の充実	26.4	10 その他	2.7

(無回答 5.2)

※フレックスタイム制とは、一定の期間についてあらかじめ定めた総労働時間の範囲内で、労働者が日々の始業・終業時刻、労働時間を自ら決めることのできる制度です。

神奈川県の人権

問 28 今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 そう思う	40.6	2 そう思わない	19.2	3 どちらともいえない	36.6
--------	------	----------	------	-------------	------

(無回答 3.6)

問 29 普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題は何ですか。 (○はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 子どもの人権	28.1	6 同和問題	3.2	11 特になし	9.2
2 女性の人権	26.5	7 インターネットにおける人権問題	44.3		
3 障がい者の人権	30.6	8 性的マイノリティの人権	19.6		
4 高齢者の人権	18.6	9 医療従事者・患者などの人権	31.7		
5 外国人の人権	22.1	10 その他	3.1		

(無回答 7.4)

問 30 人権課題を解消するために、力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。 (○はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 学校などにおける人権教育	71.0	4 差別的表現などの規制	36.9
2 冊子の配布やイベントによる啓発活動	14.9	5 その他	4.9
3 相談体制の充実	41.1		

(無回答 8.5)

問 31 人権教育・啓発活動のうち、力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。 (○はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 学校、企業での研修	76.2	4 各種イベントでの啓発	24.1
2 リーフレットの作成・配布	8.6	5 ラジオ・テレビ広告	36.6
3 インターネット(ホームページやSNS)を活用した啓発	34.3	6 その他	2.2

(無回答 9.3)

SDGs (持続可能な開発目標)

問 32 SDGs (エス・ディー・ジーズ) という言葉を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 知っている	22.0	3 知らなかった	61.2
2 言葉は聞いたことがある	13.5		(無回答 3.2)



SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、2015年9月にすべての国連加盟国が全会一致で採択した2030年までに持続可能な世界(将来の世代のための環境や資源を壊さず、今の生活をより良い状態にすること)を実現するための開発目標です。

【問 32 で「1 知っている」または「2 言葉は聞いたことがある」とお答えの方に】

問 32-1 県のSDGs 関連のイベントや、普及啓発の取組みを何で知りましたか。

(○はいくつでも) (n=604) (%)

1 県のたより	23.7	6 市町村の取組み	7.5
2 県のホームページ	4.0	7 SDGs パートナーなど企業の取組み	20.7
3 テレビ・ラジオなど県の広報番組	21.2	8 SDGs つながりポイント事業	1.5
4 イベントでのPR	6.8	9 その他	10.9
5 チラシ・ポスターなど県の普及啓発物	16.9	10 知っているものはない	23.8

(無回答 1.5)

【全員の方がお答えください】

問 33 SDGs 達成に向けて、日常生活で取り組めることがたくさんありますが、どのような取組みを行いたいと思いますか。

(○はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 食事は残さず食べる	68.5	6 相手を思いやる	53.7
2 食・運動・社会参加により未病改善を行う	39.1	7 使い捨てより長く使えるものを選ぶ	51.0
3 使っていない電気はこまめに消す	53.9	8 ビーチクリーン活動などに参加する	11.7
4 買い物にはマイバッグを持参する	62.8	9 その他	1.9
5 できるだけ公共交通機関を利用する	29.0	10 取り組みたいと思わない	1.2

(無回答 2.8)

3R

問 34 3R※を推進する上で、県民一人ひとりが取り組むべき行動は何だと思いますか。 (○はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 ペットボトルのラベルとキャップの分別を徹底する	56.0	6 詰め替え用商品を選ぶ	49.5
2 家庭でのごみの分別を徹底する	74.0	7 リサイクル素材の製品※を使う	20.2
3 レジ袋を使わない	38.8	8 3R について理解を深める	28.5
4 食べ残しや買い過ぎをしないように気をつける	65.9	9 その他	1.7
5 マイボトルを持ち歩く	31.8		(無回答 3.4)

※3Rとは、リデュース(排出抑制)・リユース(再利用)・リサイクル(再生利用)のことです。

※リサイクル素材の製品とは、環境への配慮がされた素材を使用した製品のことで、例えば、エコマークなどが付いた製品が挙げられます。

問 35 企業活動も含め社会全体でごみの3Rを進めるため、県に期待する役割は何ですか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 ごみの分別の徹底を市町村と連携して推進	32.8	4 統計データの提供	5.5
2 企業や団体と連携したリサイクルなどの取組み	36.0	5 その他	1.5
3 広報の充実など県民への意識啓発	9.2	6 特にない	3.0

(無回答 11.9)

プラスチックごみ削減に向けて

問 36 海洋プラスチックごみ問題を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,699) (%)

1 知っている	84.0	3 知らなかった	2.7
2 言葉は聞いたことがある	11.1		(無回答 2.2)

海洋プラスチックごみ問題とは、海洋に流出したプラスチックごみが長期間にわたり環境中にとどまることで、生態系、生活環境、漁業、観光等への悪影響が懸念される問題です。全世界で年間数百万トンを超えるプラスチックが海洋に流出していると推計されています。

【問 36 で「1 知っている」とお答えの方に】

問 36-1 まちで発生したプラスチックごみが、河川を通じ、海へ大量に流れ込んでいることを知っていますか。 (○は1つ) (n=1,427) (%)

1 知っている	93.4	2 知らなかった	6.3	(無回答 0.3)
---------	------	----------	-----	-----------

【全員の方がお答えください】

問 37 リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていることはありますか。 (○はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 プラスチックごみの分別を徹底する	80.3	5 海岸や地域の清掃活動を行う	11.5
2 ワンウェイプラ※をできるだけ使わない	19.0	6 その他	1.2
3 代替素材※を使った製品を積極的に購入する	26.2	7 特になし	4.0
4 ごみ問題に取り組む企業の製品を購入する	15.5		(無回答 7.0)

※ワンウェイプラとは、レジ袋、食品トレイなどの使い捨てプラスチックのことです。分別できないワンウェイプラが増え、リサイクルされる割合が変わらなければプラスチックごみが増えることになります。

※代替素材には、紙や木材のほか、微生物の働きで分解する生分解性プラ、植物や微生物由来の物質で作るバイオマスプラがあり、環境負荷が小さいといわれています。

問 38 海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて一人ひとりが行動するうえで、何が重要だと思えますか。 (○はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 海洋汚染の影響や原因を知る	55.0	6 ごみ問題に取り組むことへのイメージアップ	15.6
2 解決のための具体的な取組みを知る	40.3	7 行政や企業が率先して取り組む	35.1
3 ごみ分別や不法投棄の規制や取締を強化する	50.1	8 その他	2.5
4 子どものころから環境学習を積極的に行う	63.8	9 分からない	1.4
5 ごみの分別を習慣づける	67.7		(無回答 6.3)

職業能力開発

問 39 就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能は何ですか。(〇は3つまで)
(n=1,699) (%)

1 機械(機械加工技術、機械CADなど)	5.8
2 溶接(ガス溶接、アーク溶接など)	1.6
3 自動車(自動車整備など)	3.4
4 電気(電気工事、電気制御、電気保守など)	7.6
5 電子(電子機器組立、電子回路など)	5.0
6 情報(プログラミング、システム開発など)	32.4
7 建築(建築CAD、内装・インテリア、造園、建築設備など)	9.8
8 デザイン(Webデザイン、グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど)	15.1
9 介護(介護実務、介護調理など)	16.6
10 調理(介護調理を除く一般調理)	14.7
11 経営(法務、財務、労務管理など)	21.3
12 事務・経理・オフィス技能(簿記、OAスキルなど)	30.5
13 その他	3.5
14 特になし	14.2
15 分からない	6.3

(無回答 5.9)

問 40 (再)就職時、求職活動前にどのくらいの期間でどの程度職業能力開発を行うことが望ましいと思いますか。(〇は1つ) (n=1,699) (%)

1 1か月位で基本的な知識、技術・技能	10.6
2 3～4か月位で基本から応用まで一通りの知識、技術・技能	26.6
3 半年～1年位で確実な知識、技術・技能	21.8
4 1年を超える長期間で専門的な知識、技術・技能	4.5
5 職業能力開発は必要だが、期間・内容は分からない	23.2
6 職業能力開発は不要	0.9
7 その他	1.5

(無回答 10.9)

問 41 (再)就職するために職業能力開発を行う場合、どのような条件が備わっているとよいと思いますか。(〇は3つまで) (n=1,699) (%)

1 受講期間中の生活保障	54.8	7 ニーズに合った開催時期	20.2
2 受講料が安い	46.1	8 土・日、夜間に受講できる	27.1
3 1日あたりの受講時間が短い	3.8	9 企業実習がある	18.8
4 通所時間が短い	11.0	10 その他	0.7
5 在宅で受講できる(e-ラーニング※など)	18.5	11 分からない	5.5
6 託児施設が用意されている	13.2		

(無回答 7.0)

※e-ラーニングとは、パソコンなどの情報機器やインターネットを活用した学習のことです。

問 42 在職者のための職業能力開発について、今後、県が重点的に取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。 (〇は3つまで) (n=1,699) (%)

1 現在持つ知識や技術・技能のレベルアップ支援	54.1
2 研究機関・大学と連携した高度な技術などの習得支援	21.1
3 ビジスマナーなど働くときに必要な基礎的知識の習得	24.0
4 管理監督者の能力を高めるための支援	15.2
5 職種転換※に役立つ新たな技術・技能の習得	32.8
6 退職後に役立つ資格や技術・技能の習得	39.7
7 その他	0.9
8 分からない	10.5

(無回答 5.8)

※**職種転換**とは、同一企業内で労働者をこれまでの職種とは異なる職種へ配置を換える人事異動のことです。

問 43 今後、県はどの世代の職業能力開発を重点的に取り組むべきだと思いますか。 (〇は1つ) (n=1,699) (%)

1 若者(34歳以下)	34.2	4 高齢者(65歳以上)	10.5
2 就職氷河期世代※(35~44歳)	21.3	5 その他	1.9
3 中高年齢者(45~64歳)	15.2	6 分からない	10.8

(無回答 6.1)

※**就職氷河期世代**とは、概ね1993年~2004年の期間に学校を卒業し、いわゆるバブル崩壊の影響で企業の業績が悪化し、就職が困難となった期間に就職活動を強いられた世代のことをいいます。

問 44 今後、県はどのような職業能力開発を中心に進めていくとよいと思いますか。 (〇は3つまで) (n=1,699) (%)

1 基本的な技術・技能の習得支援	31.3
2 専門的な技術・技能の習得支援	35.6
3 企業実習などによる実践的な技術・技能の習得支援	25.0
4 育児や介護などによる長期離職者向けの技術・技能の習得支援	28.1
5 就職を希望する障がい者向けの技術・技能の習得支援	18.0
6 日本で就職を希望する外国人向けの技術・技能の習得支援	10.5
7 職場で役立つ知識や技術・技能の習得など在职者向け支援	16.2
8 退職後に役立つ資格の取得や技術・技能の習得支援	26.7
9 企業独自の技術・技能を継承するための企業向け支援	8.5
10 職業体験や技術・技能の体験学習を含む小中高生向け支援	20.0
11 その他	1.1
12 特になし	1.6
13 分からない	7.4

(無回答 5.2)

犯罪被害者等への支援

問 45 犯罪被害者等への支援に関する相談機関・窓口について、知っているものを選んでください。

(〇はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 各警察署の住民相談係	38.1	7 法テラス犯罪被害者支援ダイヤル	10.9
2 県警察総合相談室 (#9110)	12.8	8 神奈川県弁護士会犯罪被害者支援センター	5.4
3 県警察性犯罪110番 (#8103)	9.5	9 各市町村の犯罪被害者等の総合的対応窓口	3.9
4 かながわ犯罪被害者サポートステーション	2.8	10 知っているものはない	43.7
5 ワンストップ支援センター「かならいん」	1.4		(無回答 3.7)
6 ハートライン神奈川	8.3		

問 46 「二次被害」という言葉を知っていますか。 (〇は1つ) (n=1,699) (%)

1 意味を含めて知っている	39.7	3 知らなかった	13.7
2 言葉は聞いたことがある	42.6		(無回答 3.9)

「二次被害」とは、犯罪等で直接的に受けた一次被害の後に、周囲からの理解に欠ける言動や配慮に欠ける対応、さらには、ひぼうちゆうしょう誹謗中傷等によって生じる、精神的な苦痛、身体の不調、プライバシーの侵害などをいいます。

問 47 「二次被害」を生じさせる可能性が高いと思うものはどれですか。

(〇はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 早く忘れるよう励ます	14.6	6 被害者に事件のことを話すよう促す	27.0
2 被害者をできる限り一人にしておく	18.1	7 報道機関が執拗な取材をする	71.7
3 学校や職場、地域で被害者の話を広める	65.9	8 その他	0.8
4 被害者の情報をSNSなどに書き込む	77.5	9 「二次被害」に該当するものはない	0.2
5 捜査で被害者の話を聞くのに取調室を使う	14.6	10 分からない	8.0
			(無回答 2.7)

問 48 「二次被害」を防止するために効果的だと思う取組みは何ですか。

(〇は3つまで) (n=1,699) (%)

1 犯罪被害者本人に語っていただく講演会	11.0	7 街頭キャンペーン	3.6
2 学校などでの教育や研修	53.4	8 弁護士による相談の充実	35.4
3 行政職員や警察職員などに向けた研修	31.4	9 電話相談窓口の開設	30.8
4 パンフレットなど広報物の作成	5.7	10 その他	2.8
5 県ホームページでの情報発信	4.4	11 分からない	12.9
6 SNSによる広報	15.2		(無回答 5.4)

問 49 あなたやあなたの大切な人が性犯罪や性暴力の被害者となった場合、最初にどこへ相談しようと思いますか。 (〇は1つ) (n=1,699) (%)

1 警察	59.7	5 学校や職場	0.4
2 ワンストップ支援センター「かならいん」	4.0	6 どこにも(誰にも)相談しない	1.2
3 医療機関(産婦人科)	13.1	7 その他	0.8
4 弁護士	6.4	8 分からない	10.4
			(無回答 3.9)

治安対策

問 50 不安に感じる身近な犯罪は何ですか。

(〇はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 ひったくり	27.1	9 自転車やオートバイの盗難	18.4
2 特殊詐欺	53.6	10 自動車の盗難	14.7
3 悪質な客引き	8.5	11 コンピュータへの不正アクセス	50.9
4 空き巣	47.6	12 インターネットを利用した犯罪 (詐欺、ネットポルノ、児童買春など)	44.0
5 子どもの誘拐や子どもへのいたづら	42.9	13 大麻、覚醒剤などの薬物犯罪	13.4
6 痴漢や強制わいせつなどの性犯罪	32.3	14 その他	1.5
7 ストーカー行為	23.0	15 特にない	2.4
8 暴行や傷害	30.5		(無回答 1.5)

問 51 身近な治安に関して、最も安心感を抱くときはどのようなときですか。(〇は1つ) (n=1,699) (%)

1 身近な事件、事故が解決したとき	32.0	4 制服警察官がパトロールしているとき	28.2
2 凶悪事件が解決したとき	8.1	5 警察官が相談に乗ってくれたとき	6.1
3 交番や駐在所に警察官がいるとき	15.5	6 その他	1.7
			(無回答 8.4)

問 52 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、得やすいのはどのような方法ですか。

(〇はいくつでも) (n=1,699) (%)

1 テレビ	49.0	8 インターネット(警察のホームページ、Twitter、 「Yahoo!防災速報」、神奈川県警察公式 YouTube 防犯 チャンネルなど)	39.1
2 ラジオ	6.2	9 警察からのメール	8.4
3 新聞	13.6	10 警察官の防犯講話・防犯教室	1.1
4 ポスター・チラシなど	6.7	11 警察官の戸別訪問	3.8
5 回覧板	14.9	12 その他	0.6
6 防災無線	10.1		(無回答 21.7)
7 駅前などでのキャンペーン	2.8		

問 53 犯罪がなく、より安心してくらすために最も重要だと思うものは何ですか。

(〇は1つ) (n=1,699) (%)

1 地域住民同士のつながり	29.4	5 防犯ボランティアによる防犯活動	1.5
2 官民一体となった防犯活動	15.7	6 その他	0.9
3 防犯カメラなどの防犯設備の整備	36.8	7 特にない	1.1
4 規範意識を高める教育	6.8		(無回答 8.0)

問 54 交通事故のない社会を目指すために、重要だと思うものは何ですか。

(〇は3つまで) (n=1,699) (%)

1 白バイやパトカーによる警戒	43.3
2 交通安全施設の整備(信号機、道路標識・標示など)	47.3
3 制服警察官による街頭活動(交通指導取締り、検問など)	28.6
4 交通違反等の厳罰化	42.1
5 交通安全教室・講習	18.0
6 交通安全に関する広報・キャンペーン	12.5
7 ボランティアなどによる街頭活動(交差点での見守りなど)	9.8
8 その他	3.6
9 特にない	2.8

(無回答 5.0)

ねんりんピックかながわ

問 55 第34回全国健康福祉祭(ねんりんピックかながわ)は、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市などの主催で、2022年に神奈川県内で初めて開催しますが、このことを知っていますか。(〇は1つ)

(n=1,699) (%)

1 知っている	4.6	2 知らなかった	91.0	(無回答 4.4)
---------	-----	----------	------	-----------

全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、主に60歳以上の高齢者を中心とする国民の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与するため、1988年から毎年各都道府県持ち回りで開催されています。

問 56 「ねんりんピックかながわ」において、競技を観戦したいと思いますか。

(〇は1つ) (n=1,699) (%)

1 観戦したい	3.5	3 どちらかといえば観戦したくない	39.4
2 どちらかといえば観戦したい	20.8	4 観戦したくない	30.9

(無回答 5.4)

ねんりんピックかながわでは、卓球、テニス、水泳など32種目を県内26市町で開催します。また、その他の市町村でも協賛イベント等が開催されます。

・会場地、開催種目について詳しく知りたい場合は、下記のHPを御覧ください。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0805/nenrin/game.html>

問 57 「ねんりんピックかながわ」において、イベントに参加したいと思いますか。

(〇は1つ) (n=1,699) (%)

1 参加したい	2.9	3 どちらかといえば参加したくない	36.3
2 どちらかといえば参加したい	15.1	4 参加したくない	39.8

(無回答 5.8)

ねんりんピックかながわでは、健康・運動に関することや、食生活についての紹介・指導を行う「健康フェア」、高齢者が創作した美術品を展示する「美術展」、高齢者の健康・生きがいに関する「シンポジウム」等、健康や福祉に関する多彩なイベントを開催します。

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(同居、別居は問いません。)

(○はあてはまるものすべて) (n=1,699) (%)

1 小学校入学前	9.9	5 短大、専門学校等在学中	1.5	9 その他	1.6
2 小学校在学中	13.1	6 大学、大学院等在学中	7.3	10 子どもはいない	28.6
3 中学校在学中	8.6	7 学校教育終了[未婚]	23.3		
4 高校在学中	8.1	8 学校教育終了[既婚]	24.1		(無回答 2.5)

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つ) (n=1,699) (%)

1 一人暮らし(単身世帯)	12.3	4 祖父母と親と子の世帯(3世代世帯)	6.4
2 夫婦のみ(1世代世帯)	25.7	5 その他の世帯	3.6
3 親と子の世帯(2世代世帯)	49.7		(無回答 2.2)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。

また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,699) (%)

(n=1,163) (%)

1 自営業主	6.9	ア～ウから 1つ選んで ください。	ア 農林水産業	0.8
2 家族従業者 (家業手伝い)	1.3		イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営)	5.4
3 勤め (フルタイム)	41.4	エ～ケから 1つ選んで ください。	ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	5.1
4 勤め (パートタイム)	18.5		エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	7.8
5 内職	0.3		オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など)	19.3
6 主婦・主夫 (勤めていない)	14.1		カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	23.3
7 学生	0.9		キ 教育職(教諭、保育士など)	5.6
8 無職	13.4		ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など)	8.7
9 その他	0.4		ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員)	20.2
	(無回答 2.8)			(無回答 3.8)

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、10月5日(月)までにご投函ください。(切手は不要です。)

なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

173人(10.2%)から自由意見が寄せられました。